

総務省

「我が国における 青少年のインターネット利用に係る フィルタリングに関する調査」

報告書

2021年4月

総務省

「我が国における
青少年のインターネット利用に係る
フィルタリングに関する調査」

2021年4月

[委託先] 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター



目次

本編	9
1. はじめに	10
1. 1. 本調査研究の目的.....	10
1. 2. 本研究で主に明らかにすること	10
1. 3. 調査研究手法.....	12
1. 3. 1. 文献調査.....	13
1. 3. 2. アンケート調査分析.....	13
1. 3. 3. 実験的調査.....	17
1. 3. 4. 保護者インタビュー調査.....	19
1. 3. 5. 有識者ヒアリング調査.....	21
2. 基礎データ：青少年のスマートフォン利用状況.....	23
2. 1. 青少年のスマートフォン利用状況.....	23
2. 2. 青少年はスマートフォンで何をしているか.....	25
2. 3. 青少年のスマートフォンの通信事業者・機種.....	27
3. フィルタリングサービス・その他施策の利用状況.....	29
3. 1. フィルタリングサービス利用状況.....	29
3. 2. フィルタリングサービスで利用している機能・カスタマイズ設定状況.....	36
3. 3. フィルタリングサービスの解除状況.....	41
3. 4. フィルタリングサービスを利用しないのはなぜか、何を期待するか.....	48
3. 5. フィルタリングサービスに対する評価.....	51
3. 6. フィルタリングサービス以外の施策の利用・実施状況.....	54
4. 「インターネットの問題に関する知識・危険性認知」「フィルタリングサービスの知識・有効性認知」と実際のフィルタリングサービスの利用状況.....	60
4. 1. インターネットの問題に関する知識・危険性認知やフィルタリングサービスの知識・有効性認知の状況.....	60
4. 2. 知識や危険性・有効性の認知とフィルタリングサービス利用行動の関係.....	67
4. 3. 知識・問題意識による保護者の4分類.....	70
4. 3. 1. クラスタ分析による分類方法.....	70
4. 3. 2. 保護者の4分類の特徴.....	72
4. 4. 保護者の4分類とフィルタリングサービス利用行動の関係.....	74
5. インターネットの問題について見聞きした経験・トラブルに遭った経験	80
5. 1. フィルタリングサービスやインターネットの問題について見聞きした経験	80
5. 2. インターネットを利用して遭ったトラブル.....	86
5. 3. 経験とフィルタリングサービス利用行動の関係.....	89

6. フィルタリングサービス利用行動に何が影響を与えているか.....	97
6. 1. 分析方法	97
6. 2. 分析結果	100
7. 実験的調査による情報提供効果の検証.....	112
7. 1. 資料閲覧後のフィルタリングサービス利用意向.....	112
7. 2. フィルタリングサービスを利用しようと思った理由・利用しようと思わなかった理由	116
8. 保護者インタビュー分析.....	120
8. 1. 青少年とスマートフォン.....	120
8. 2. 保護者とペアレンタルコントロール.....	124
8. 3. フィルタリング.....	128
8. 4. より良い青少年のスマートフォン利用と保護者のニーズ.....	140
8. 5. 保護者インタビュー個別データ（全 21 件）.....	148
8. 5. A【男児・フィルタリング未導入・中学生】.....	148
8. 5. B【男児・フィルタリング未導入・高校生】.....	152
8. 5. C【男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）】.....	155
8. 5. D【男児・フィルタリング解除・小学校高学年】.....	158
8. 5. E【男児・フィルタリング解除・中学生】.....	163
8. 5. F【男児・フィルタリング解除・高校生】.....	167
8. 5. G【男児・フィルタリング導入中・未就学児（共用）】.....	171
8. 5. H【男児・フィルタリング導入中・小学校高学年】.....	175
8. 5. I【男児・フィルタリング導入中・中学生】.....	180
8. 5. J【男児・フィルタリング導入中・高校生】.....	184
8. 5. a【女児・フィルタリング未導入・中学生】.....	188
8. 5. b【女児・フィルタリング未導入・高校生】.....	191
8. 5. c【女児・フィルタリング解除・未就学児（共用）】.....	195
8. 5. d【女児・フィルタリング解除・小学校高学年】.....	199
8. 5. e【女児・フィルタリング解除・中学生】.....	203
8. 5. f【女児・フィルタリング解除・高校生】.....	207
8. 5. g【女児・フィルタリング導入中・小学校低学年】.....	211
8. 5. h【女児・フィルタリング導入中・小学校高学年】.....	215
8. 5. i【女児・フィルタリング導入中・中学生】.....	219
8. 5. j【女児・フィルタリング導入中・高校生】.....	223
8. 5. k【女児・フィルタリング導入中・中学生】.....	226
9. 調査研究結果から得られる政策的含意.....	230
9. 1. フィルタリングサービスの利用率は低く、継続的な利用促進のための取組が必要	

.....	230
9. 2. インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスに関する情報と各問題に対する有効性を啓発することが重要。	230
9. 3. フィルタリングサービスのカスタマイズ設定について啓発すると同時に、カスタマイズしやすい設計とする取組が必要。	231
9. 4. フィルタリングサービスの機能の中でも特に「アプリ利用制限」「利用時間管理・利用状況通知」を啓発することが重要。	232
9. 5. フィルタリングサービスについて、青少年の利用実態に踏まえた設計にする取組が必要。：特に中学生以上.....	232
9. 6. 高校生におけるインターネットの危険性も啓発することが重要。	233
9. 7. 特に、低年齢層の子供を持つ保護者向けには、スマートフォン購入時にフィルタリングサービスの案内をすることが重要。	233
9. 8. フィルタリングサービス普及と同時に、保護者には「リテラシーの向上」を、子供には「自身で危険性を判断できるようになる」教育や情報・サービス展開を行うことが重要	234
付録	235
A 1. アンケート調査票.....	236
A 2. 実験的調査における提供資料・追跡調査票.....	258
A 2. 1. 提供資料.....	258
A 2. 1. 1. 資料A.....	258
A 2. 1. 2. 資料B.....	259
A 2. 2. 追跡調査票.....	260
A 3. 保護者インタビュー調査票.....	267

本編

1. はじめに

1. 1. 本調査研究の目的

青少年におけるスマートフォンの普及は大きく進展しており、SNS を利用して犯罪の被害に遭う児童・生徒の数も高止まりするなど、スマートフォンの普及に伴うトラブルも増加している。

そのような中、総務省では、青少年インターネット環境整備法に基づき青少年におけるフィルタリングの利用の普及促進を行っている。普及促進施策の一環として、総務省の「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」において、青少年への携帯電話の販売又は契約変更時における、フィルタリングサービスへの加入及び店頭等で有効化（設定）を実施した割合の公表を求める等、携帯電話事業者の更なる取組を促した。

その結果、大手 4 社（NTT ドコモ・KDDI・SoftBank・楽天モバイル）の加入率は 75%（2020 年 9 月）まで向上（2019 年 9 月時点：NTT ドコモ・KDDI・SoftBank の加入率が 57%）した。しかしながら、内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、フィルタリングの利用率は 4 割程度（2019 年度 37.4%）と低い。

こうした状況の下、フィルタリング利用の普及とともに継続的な利用を実現することは、平成 30 年 2 月に施行された改正青少年インターネット環境整備法の着実な履行等の観点からも重要である。

以上を踏まえ、本調査では、我が国におけるフィルタリングに関する実態について調査・分析を行い、有識者ヒアリングを踏まえて、今後の効果的なフィルタリングの利用促進に係る政策の論拠を得る。

1. 2. 本研究で主に明らかにすること

本調査研究では、A～Y を含む①～④を明らかにすることで、我が国におけるフィルタリングに関する実態を詳細に解明する。尚、本研究で対象とするのはスマートフォンのフィルタリングサービス¹である。

¹ 本調査におけるフィルタリングサービスとは、以下を指す。これらはアンケート調査時に回答者にも提示した。「スクリーンタイム（iOS のフィルタリング機能）」「スクリーンタイムのファミリー共有（iOS のフィルタリング機能）」「Digital Wellbeing（Android OS のフィルタリング機能）」「ファミリーリンク（Android OS のフィルタリング機能）」「NTT ドコ

- ① インターネットの利用に関わる有害情報に対する保護者の認識について
 - ② 有害情報を遮断するツールであるフィルタリングに対する保護者の認識について
 - ③ インターネットの利用等について、学校において指導等している場合の保護者に対する効果について
 - ④ フィルタリングの利用を促進するための効果的な方策について
- A) 保護者はインターネットの利用に関わる様々な有害情報について、それぞれどの程度知識を持っているか。
 - B) 保護者はインターネットの利用に関わる様々な有害情報について、どのように問題意識を持っているか。
 - C) 上記の知識や問題意識は、青少年の学年によってどのように変化するか
 - D) 保護者のフィルタリングサービス利用（利用している人・利用していたが現在利用していない人・利用したことがない人）の実態、並びに保護者のペアレンタルコントロール実施状況
 - E) フィルタリングサービス利用やペアレンタルコントロールを実施していない保護者は、なぜしていないのか（保護者による主観的評価） また、フィルタリングサービスを利用していない理由は、「利用していたが現在利用していない人」と「利用したことがない人」でどのように異なるのか
 - F) 有害情報を遮断するツールであるフィルタリングサービスについて、保護者はどの程度認知して知識を持っているか
 - G) 有害情報を遮断するツールであるフィルタリングサービスの必要性を、保護者はどのくらい感じているのか
 - H) フィルタリングサービスにどのような機能、付加価値があれば保護者は利用したいと思うのか
 - I) 上記 D～H が、青少年の学年によってどのように変化するか
 - J) 2. の調査結果と合わせて作成される保護者の4分類（「問題意識を有していない、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有している、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有していない、かつ、対策の知識あり」「問題意識を有している、かつ、対策の知識あり」）の各グループに、どれくらいの割合の保護者が該当するか
 - K) 4分類に該当する保護者の割合は、青少年の学年によってどのように変化するか
 - L) 保護者のフィルタリングサービス利用状況やペアレンタルコントロール実施状況は、保護者の4分類によってどのように異なるか
 - M) フィルタリングサービス利用やペアレンタルコントロールを実施していない理由が、保護者の4分類によってどのように異なるか

モ、KDDI、SoftBank の提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」「その他のフィルタリングサービス（「i-フィルター」「スマモリ」等）。

- N) インターネットの利用等について学校において指導を受けた保護者、青少年の割合
- O) 上記 N が青少年の学年によってどのように変化するか
- P) インターネットの利用に関わる有害情報に対する保護者の知識・問題意識と、フィルタリングサービスに関しての保護者の知識・必要性の感じ方は、それぞれ保護者の学校における指導を受けた経験有無と青少年の学校における指導を受けた経験有無でどれくらい変わるか
- Q) 保護者の 4 分類に該当する保護者の割合は、保護者の学校における指導を受けた経験有無と青少年の学校における指導を受けた経験有無によってどのように変化するか
- R) 保護者の学校における指導を受けた経験と青少年における指導を受けた経験は、フィルタリングサービス利用確率を何%増加させるか
- S) インターネットの利用に関わる有害情報に対する保護者の認識や、フィルタリングサービスに対する保護者の認識が向上することで、フィルタリングサービス利用確率は何%変化するのか
- T) 上記 S について、特にどのような知識・認識を有していると、フィルタリングサービス利用に前向きになるのか
- U) これまでのトラブル経験や契約時の勧誘など、経験がフィルタリングサービス利用行動にどのような影響を与えているか
- V) ペアレンタルコントロールの実施状況が、フィルタリングサービス利用行動にどのような影響を与えているか
- W) 実際に情報を提供することで、保護者のフィルタリングサービス利用意向がどの程度変化するか
- X) 上記 W は提供情報別にどのように異なるか（フィルタリングサービス利用を促進するための効果的な情報提供とは何か）
- Y) 全てのエビデンスを踏まえたうえでの、フィルタリングサービスの利用を促進するための効果的な方策とは何か

また、調査研究結果から、主に以下のような観点で方策を検討する。

- (ア) どのような情報を提供すると保護者のフィルタリングサービス利用が効果的に進むのか また、利用をやめるのを防ぐことができるのか
- (イ) 情報提供以外の方策も含んで、どのような方策が効果的なのか
- (ウ) 誰（保護者／青少年）を対象とした啓発活動が効果的か、それにはどのような情報を含むとよいか
- (エ) どのような属性・環境の保護者に方策を講じるのが特に効果的か

1. 3. 調査研究手法

アンケート調査と実験的手法、有識者ヒアリング調査等を取り入れた、次の 5 つを執り行

う。ただし、調査を行う際は幅広く行い、回答者の性別・年齢等の属性が偏らないよう主管理と協議した上で十分考慮する。

1. 3. 1. 文献調査

総務省「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」の議事録・配布資料や、内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」の議事録・配布資料、その他の報告書や学術研究を含む国内外の文献調査から、以下を明らかにする。尚、()内の番号は、2. 2. に記載した①～④のどれに対応しているかを示している。

- 「インターネットの利用に関わる有害情報に対する保護者の認識」について調査する際の、適切な設問項目とは何か (①)
- 「有害情報を遮断するツールであるフィルタリングサービスに対する保護者の認識」及び「フィルタリングサービス以外の対策としてのペアレンタルコントロール²」について調査する際の、適切な設問項目とは何か (②)
- 上記2点から「問題意識を有していない、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有している、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有していない、かつ、対策の知識あり」「問題意識を有している、かつ、対策の知識あり」の4つに保護者を分類した際に、それぞれの分類においてフィルタリングサービスを利用していない理由として何が考えられるか (①, ②)
- インターネットの利用等について、学校において誰を対象にどのような指導が実施されているか (③)
- フィルタリングサービス利用行動にどのような要素が影響を与えていると考えられるか (④)

1. 3. 2. アンケート調査分析

青少年保護者を対象としたアンケート調査分析を実施する。このアンケート調査は、青少年と同居している保護者を対象とする、Web アンケート調査である。サンプルの収集にあたっては、青少年の属性に偏りが出ないように割り付けを行ったうえで、6,500名以上のサンプルサイズを確保できるようにする。割り付けについては、末子年齢が未就学児(5歳・6歳)と小学1年生～高校3年生で、1学年ずつ均等に割り付ける。アンケート調査のシステ

² 本調査での「ペアレンタルコントロール」の定義は、総務省「第11回青少年の安心・安全なインターネット環境整備に関するタスクフォース」の資料「ペアレンタルコントロールに関する調査の結果報告」(一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会)の以下の定義に準ずる。:「子供のネット利用について「システム上での管理」や「ルール」を設けて管理・防止しようとしていること」

ム構築に当たっては、セキュリティ等の機能を含める。

調査対象としたのは、調査会社並びに提携会社の保有する、20歳～69歳の登録モニタである。調査はインターネットで行う。まずはスクリーニング調査を実施し、以下の条件に合う保護者を抽出した。

- 子供と同居しており、且つ、末子の属性が未就学児（5歳・6歳）、小学1年生～高校3年生のいずれかである。
- 末子がスマートフォンを利用している。ただし、利用とは「そのお子様専用のものを持っており、それを利用している」「兄弟姉妹で共用のものを持っており、それを利用している」「親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、親が見ている前でのみ利用している」「親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、一人で利用することがある」「その他の形態で利用している」のいずれかの該当することを指す。
- 回答者が末子のスマートフォンについてフィルタリングサービスを利用しているか分かっており、且つ、そのスマートフォンがインターネットに接続できる状態である。

調査時期は2021年1月28日～2月3日である。データクリーニング前の取得数は7,084人で、データクリーニング後に6,500人となった。データクリーニングの基準は、「ストレート回答（マトリクス設問で全て同じ選択肢を選んでいる）」「回答の矛盾（スクリーニング調査で末子がスマートフォンを利用していると回答しているにもかかわらず、本調査でスマートフォンを利用していないといった回答をしている）」である。

実際のサンプルサイズは以下のとおり。

図表 1.1 サンプルサイズ

	男	女	合計
未就学（5～6歳）	250	250	500
小学1年生	250	250	500
小学2年生	250	250	500
小学3年生	250	250	500
小学4年生	250	250	500
小学5年生	250	250	500
小学6年生	250	250	500
中学1年生	250	250	500
中学2年生	250	250	500
中学3年生	250	250	500
高校1年生	250	250	500
高校2年生	250	250	500
高校3年生	250	250	500
合計	3250	3250	6500

ただし、スクリーニングの段階で各学年（未就学含む）に応じて均等割り付けを行っているため、実社会に比べて歪んだサンプルの分布となっている。つまり、本研究では「スマートフォンを利用している末子を持つ保護者」を対象としているわけだが、図表 1.1 のような割り付けは実際の末子のスマートフォン利用率と大きく異なる。これは第 2 章で改めて触れるが、例えば未就学児（5～6 歳）のスマートフォン利用率は男子が 31.7%、女子が 28.3% に対し、高校 3 年生では男子が 95.2%、女子が 97.7%である。

これをそのままに分析を行うと、未就学児の説明力が過剰に高くなってしまう。極端な例を挙げると、未就学児（5～6 歳）の男子でアプリ A の利用率が 20%、高校 3 年生の男子でアプリ A の利用率が 100%だった時、図表 1.1 のサンプル割り付けでそのまま平均値を算出すると、未就学児（5～6 歳）男子と高校 3 年生男子のスマートフォン利用者の 60%がアプリ A を利用していると導出される。しかし利用率を考えると、実際には未就学児（5～6 歳）男子と高校 3 年生男子のスマートフォン利用者の約 80%がアプリ A を利用しているはずである。

このように誤った結果を導くのを防ぐため、実際の分析に当たっては各学年・性別におけるスマートフォン利用率に応じたウェイトバックを行った。

アンケート調査項目は、上記文献調査結果を踏まえ①～④に関連した項目である。実際のアンケート調査票は付録 A. 1. を参照されたい。

得られたデータについては、フィルタリングサービス利用状況、インターネットの利用に関わる有害情報に対する保護者の認識、フィルタリングサービスに対する保護者の認識、ペアレンタルコントロール実施状況、フィルタリングサービスをなぜ利用しているか・していないか、保護者と青少年双方について学校において指導を受けた経験等の基本統計量を算出して、まず青少年保護者の傾向をつかむ。

さらに、保護者の 4 分類（インターネットの利用に関わる有害情報について「問題意識を有していない、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有している、かつ、対策の知識なし」「問題意識を有していない、かつ、対策の知識あり」「問題意識を有している、かつ、対策の知識あり」）に沿って整理を行う。

続けて、様々な変数を軸としたクロス分析を行う。分析としては、例えば以下のようなものが考えられる。

- 保護者の 4 分類ごとのフィルタリングサービス利用状況、保護者の 4 分類ごとのペアレンタルコントロール実施状況
- 保護者の 4 分類ごとのフィルタリングサービスを利用していない理由、利用している理由
- 青少年の学年ごとの有害情報に対する保護者の認識、青少年の学年ごとのフィルタリ

ングサービスに対する保護者の認識、青少年の学年ごとの保護者の 4 分類それぞれの割合

- 青少年の学年ごとのフィルタリングサービス利用状況、青少年の学年ごとのペアレンタルコントロール実施状況
- 青少年の学年ごとのフィルタリングサービスを利用していない理由、利用している理由
- 学校での指導の有無別の有害情報に対する保護者の認識、学校での指導の有無別のフィルタリングサービスに対する保護者の認識、学校での指導の有無別の保護者の 4 分類それぞれの割合
- 学校での指導の有無別のフィルタリングサービス利用状況、学校での指導の有無別のペアレンタルコントロール実施状況
- 学校での指導の有無別のフィルタリングサービスを利用していない理由、利用している理由

さらに、内閣府「平成 28 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」や、総務省「第 11 回青少年の安心・安全なインターネット環境整備に関するタスクフォース」で提示された、安心ネットづくり促進協議会「ペアレンタルコントロールに関する調査の結果報告」では、フィルタリングサービス利用やペアレンタルコントロールの実施について次のように指摘されている。

有害情報やフィルタリングサービスに対する保護者の認識だけでは説明のつかない部分もあり、「多くの保護者はネット利用リスクに関心を持っているが、ペアコン実施有無は外的・内的要因で複雑に実施／非実施と分かれている」「フィルタリングサービス認知度、インターネット上の危険性の認識等が大きく異ならないにも関わらず、フィルタリングサービスの使用に差異が生じる」。

そのような場合には、フィルタリングサービス利用行動に影響を与える要素群を用いた多変量解析を実施し、どの要素がどのくらい影響を与えているのか定量的に検証するのが望ましい。そこで、数学的なフィルタリングサービス利用行動決定要因モデルを用いた多変量解析を実施する。変数としては、文献調査「フィルタリングサービス利用行動にどのような要素が影響を与えているか (④)」で仮説として導出されたものを用いる。

多変量解析の利点には、例えば以下のようなものが挙げられる。

- 「なぜフィルタリングサービスを利用しないか (利用するか)」という点について、保護者の主観評価ではなく、データに基づく客観的な検証が可能となる。
- 統計的検証をしないクロス分析では、傾向をつかむことはできるものの、明らかになった差が統計的に有意かどうか (偶然かどうか) を確認できない。多変量解析では統計的

検証を実施し、本当に差があるか、効果があるかを確認できる。

- クロス分析では交絡因子に配慮できない。多変量解析をして変数に交絡因子となり得る属性を様々入れることで、保護者の認識などが純粋にフィルタリングサービス利用行動にどのような影響を与えているか明らかにできる。
- 効果が定量的に算出される。例えば、「有害情報に対する保護者の認識」が1ポイント増えると、フィルタリングサービス利用確率がX%増加する、といった結果が得られる。
- 上記の効果が横比較可能になる。例えば、「有害情報に対する保護者の認識」「フィルタリングサービスに対する保護者の認識」「保護者と子供の関係」が有意に正の影響を与えていた時、標準化係数を比較することで、どの要素が最もフィルタリングサービス利用行動に影響を与えているか把握することができる。
- 「有害情報に対する保護者の認識」や「フィルタリングサービスに対する保護者の認識」について細かい分析を行えば、特にどのような情報を認識していれば、フィルタリングサービス利用に繋がるのかも明らかになる。
- 以上のことから、多変量解析を行うアンケートにおいても、根拠に基づいた最も効果的な対策を検討・提案することができるようになる。

1. 3. 3. 実験的調査

アンケート調査分析結果を踏まえ、1,002名のフィルタリングサービスを利用していない保護者を対象に、大規模実証実験を行い、インターネットの利用に関わる有害情報やフィルタリングサービス等に関する情報を提供する。そのうえで、追跡アンケート調査を行い、その後の保護者の有害情報に関する認識・行動等やフィルタリングサービスの利用実態等についての変化や影響について調査し、その結果を分析することにより、解明する。

仕様書よりも人数を10倍と大幅に増やしているのは、少人数に対し講義などで単一の情報を全員に提供しても、次のような問題が発生することが考えられるためである。第一に、そこに参加する人はそれなりに当該問題に関心のある層である可能性がある（セレクションバイアス）。第二に、どの情報を提供するのがより効果的か、横比較をしたうえでの検証ができない。第三に、対象者の行動変容が、提供した情報によるものなのか、講義の質によるものなのか判断できない。

情報の提供に当たっては、A4で2種類の資料を作成し、使用する。本資料の作成にあたっては、実験という性質を踏まえた構成にするよう工夫をし、有識者の監修を受けたうえでデザイナーによる提供資料の制作を行って、「保護者が容易に理解できる」ものを提供するようにする。実際に提供した内容については付録A2. 1. を参照されたい。

この実験的調査の対象は、アンケート調査対象者の中でフィルタリングサービスを利用していない人から1,002名とする。1,002名は次のように3つのグループに分ける。

1. 資料 A を提供するグループ : 334 名
2. 資料 B を提供するグループ : 334 名
3. 資料 A と B 両方を提供するグループ : 334 名

3つのグループに分けることで、提供する資料による効果の違いも分析する。また、対象の選定にあたっては、フィルタリングサービス利用状況に偏りが生じないようにする。つまり、6,500名を対象とするアンケート調査において、「フィルタリングサービスを利用していたが解除した人」「フィルタリングサービスを利用していない人」の出現比率に合わせて抽出する。具体的には、調査において前者が746名、後者が3,269名だったため、フィルタリングサービスを利用していたが解除した人が各グループで62名となるように抽出した。

追跡調査では、提供した情報をよく読んだうえで、フィルタリングサービスを利用しようと思ったか、思わない場合は何が障害になっているか等を調査する。得られたデータを統計的に分析することで、どの情報を提供すると定量的にどの程度フィルタリング利用が進むか、また、それは青少年の学年や、元々のフィルタリングサービス利用状況、によってどのように異なるか明らかにする。詳しい調査票は付録A 2. 2. を参照されたい。

また、インターネット調査で資料を見せてその効果を見るため、回答者が提供された情報をよく読んでいるか別途確認しないと、読み飛ばしている可能性がある。そこで、提供した資料に関するクイズを5問出題し、その中から正しい情報3つを選択できた者を対象とした。

ただし、サンプルサイズの都合上1回で正解した者のみを対象とすることは出来なかったため、不正解者には3回まで読み返すページを表示したのち、再度クイズへ回答してもらった。3つのグループそれぞれにおける正解回数のサンプルサイズは以下図表1.2のとおり。尚、この回答回数による傾向の大きな違いは見られなかった³。

図表 1.2 各グループと回答回数のサンプルサイズ

グループ	資料	1回	2回	3回
グループ1	資料A	207	127	
グループ2	資料B	302	32	
グループ3	資料A+B	206	116	12

³ 例えば、資料を見たのちに「フィルタリングサービスを利用しようと思った」人の割合（平均値）は、回答回数1回の人で38.0%、2回の人で39.2%、3回の人で75.0%であり、全体では38.8%であった。3回の人だけ非常に高いが、サンプルサイズが12であり、外れ値に平均値が引っ張られているためである。また、仮に大きなバイアスがあったとしても、サンプルサイズが小さいため分析全体に及ぼす影響は小さいと考えられる。

追跡調査の実施期間は 2021 年 2 月 25 日～2 月 28 日である。アンケート調査から約 1 か月経っているため、この間にフィルタリングサービスを利用した人をサンプルから除外するためにスクリーニングをした。

1. 3. 4. 保護者インタビュー調査

5 歳～18 歳の末子を持つ保護者 20 名以上を対象として実施する。

インタビューは半構造化面接法（Web 等によるものを含む）で行い、フィルタリングを利用しない理由や、利用の障害となっている点、やめてしまった理由、ペアレンタルコントロールの状況などを質問する。この調査により、保護者一人一人がなぜフィルタリングを利用していないのか、利用をやめてしまったか等の点について、マクロ的な傾向だけでなく、保護者の生の意見を深く知ることができる。アンケート調査分析ではわからない詳細な意見も収集可能であり、ここから、フィルタリングの利用を促進する上での問題点等を解明できる。次の 4 段階で実施する。

1. 選定：調査会社および機縁法を通じて 20 名（以上）を集める。
2. 実施：共通ヒアリング項目に基づき、保護者を対象にオンライン（zoom）でインタビューを行う。1 回あたり 1 時間半程度。
3. 分析：前述の共通項目のヒアリングおよび、インタビューで引き出されるインタラクティブヒアリングを通じて、フィルタリングを利用している・または利用したがやめたという保護者をメインのターゲットとし、「重要ポイントの抽出」および「ストーリーの抽出」を行う。
4. まとめ：上記のプロセスによって導き出された、「重要ポイントの抽出」および「ストーリーの抽出」を踏まえ、「フィルタリングを継続して利用してもらうためのポイント」を描き出す。

対象は、内閣府『青少年のインターネット利用環境実態調査』による区分け、および現在普及している通信会社から展開されているサービスの種類を踏まえ、(1) 子の性別、(2) 子の年代、(3) フィルタリング導入の状況、(4) 専用または共用状況、以上 4 つの属性で設定している。内訳は次の図表 1.3 の通りである。なお、(4) については「専有」している機器を基本の対象に実施するが、既存の調査から、「未就学児」および「小学生低学年」については、「共用利用」の場合を含むとする（*がついている児童）。

図表 1.3 保護者インタビュー調査のターゲットマトリクスと予定実施数
(*は共用を含む場合とする)

子の性別	男児			女児		
	未導入	解除	導入中	未導入	解除	導入中
未就学児	—	—	1*	—	1*	—
小学校低学年	—	1*	—	—	—	1*
小学校高学年	—	1	1	—	1	1
中学生	1	1	1	1	1	1
高校生	1	1	1	1	1	1

また、(1) 子の性別、(2) 子の年代、(3) フィルタリング導入の状況、(4) 専用または共用状況、の4つの属性ごとの分布は以下のとおりである。

- (1) . 子の性別： 男児 10名、女児 10名の1:1のバランスをとる
- (2) . 子の年代： 未就学児ならびに小学低学年（5歳～小学校3年生）4名、小学高学年4名、中学生6名、高校生6名
- (3) . フィルタリング導入の状況： フィルタリングを最初から導入していない（未導入）：4名、フィルタリングをやめた（やめた）：8名、フィルタリングを導入している（導入中）：8名
- (4) . 専用または共用状況： 専用 16名以上

上記の設定に基づき、調査会社を通じて 5000名対象とした web アンケートから抽出された候補数は図表 1.4 の通りであり、全候補数は 210名となった。

図表 1.4 保護者インタビュー調査のターゲットマトリクスと候補者数
() は全体のうち共用している人数)

子の性別	男児			女児		
	未導入	解除	導入中	未導入	解除	導入中
未就学児	8 (8)	0	4 (1)	7 (7)	1 (1)	1
小学校低学年	12 (11)	4 (3)	5 (3)	8 (6)	1 (1)	4 (1)
小学校高学年	13 (11)	8 (2)	11 (1)	10 (4)	4 (1)	11
中学生	10 (3)	3	14	6 (1)	5	9
高校生	12	8	15	15	4	14

対象マトリクスの中で「高校生／男児／フィルタリング導入中」「中学生／男児／フィルタリング導入中」「中学生／女児／フィルタリング導入中」の3件は機縁法にて対象者を決定した。また、それ以外については「異なる性別の兄弟姉妹がいる」保護者に優先的に声か

けし決定した。「中学生／女兒／フィルタリング解除」についてのみ2名の実施となっている。実施者数は図表 1.5 の通りである。

図表 1.5 保護者インタビュー調査のターゲットマトリクスと実施者数 (*は共用)

子の性別 フィルタリング	男児			女兒		
	未導入	解除	導入中	未導入	解除	導入中
未就学児	—	—	1*	—	1*	—
小学校低学年	—	1*	—	—	—	1
小学校高学年	—	1	1	—	1	1
中学生	1	1	1	1	1	2
高校生	1	1	1	1	1	1

図表 1.5 で設定したマトリクスに基づき、調査票（付録参照）に基づき A（専用または共用）ならびに B（フィルタリングの利用状況：未導入または解除または導入中）からそれぞれ1つずつ当てはまるものを選択、組み合わせて質問項目として設定し、インタビューを行う。

1. 3. 5. 有識者ヒアリング調査

青少年のインターネット利用やフィルタリングサービスに関する有識者 5 名以上に対して、調査前後において2回以上、ヒアリングを実施する。ヒアリングについては、有識者会議を開催し、全ての有識者が参加する意見交換によって実施する。

調査前においては、効果的な調査結果を得るための調査項目や調査手法等の意見を聴取する。聴取内容は迅速に整理し、適宜アンケート調査項目に効果的に取り入れる。

調査後においては、調査結果の分析・解釈、ヒアリング結果を踏まえ、フィルタリングサービスの利用を促進するための効果的な方策等に関する意見を聴取する。

最終的には、有識者ヒアリングで聴取した意見をとりまとめ、インターネットの利用に関わる有害情報やフィルタリングサービスに対する保護者の認識を踏まえたフィルタリングサービスの利用を促進するための方策等、今後の効果的なフィルタリングサービスの利用普及に係る政策の参考にするために、現状を整理する。

本有識者会議の参加者は以下のとおりである。

<委員>

- － 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
- － 鈴木 朋子 ITライター・スマホ安全アドバイザー

- 曾我部 真裕 京都大学大学院法学研究科 教授
- 田中 辰雄 慶應義塾大学経済学部 教授
- 松岡 英治 安心ネットづくり促進協議会 部長
- 森 亮二 英知法律事務所 弁護士

<オブザーバー>

- 萩原 一博 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課 課長補佐
- 掛林 美智 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課
インターネット利用環境整備係長
- 田中 沙也加 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課

<国際大学グローバル・コミュニケーション・センター>

- 山口 真一 国際大学 GLOCOM 准教授・主任研究員
- 渡辺 智暁 国際大学 GLOCOM 教授・主幹研究員・研究部長
- 青木 志保子 国際大学 GLOCOM 主任研究員
- 菊地 映輝 国際大学 GLOCOM 講師・研究員

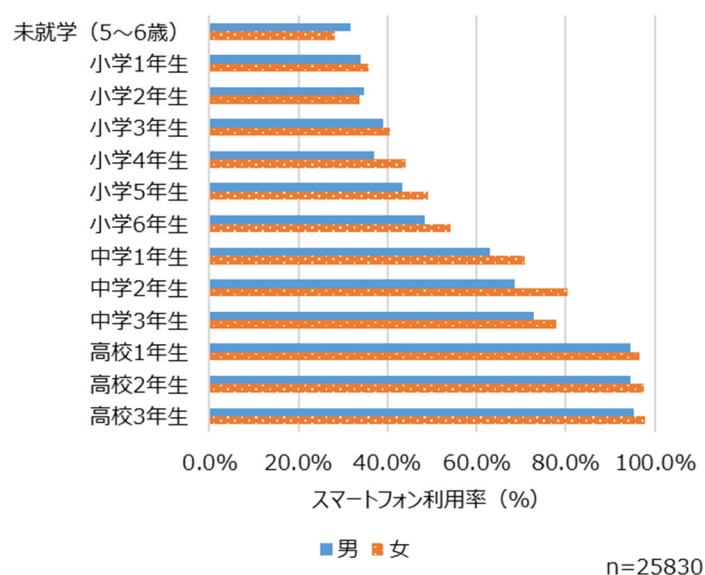
2. 基礎データ：青少年のスマートフォン利用状況

本章では、青少年のスマートフォン利用状況がどのようになっているか、基礎データを見ていく。

2. 1. 青少年のスマートフォン利用状況

まず、スクリーニング調査において未就学（5～6歳）～高校3年生までで、スマートフォン利用率がどのようになっているか示したものが図表 2.1 である。尚、ここでいう利用とは、「そのお子様専用のものを持っており、それを利用している」「兄弟姉妹で共用のものを持っており、それを利用している」「親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、親が見ている前でのみ利用している」「親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、一人で利用することがある」「その他の形態で利用している」のいずれかの該当することを指す。

図表 2.1 を見ると、未就学（5～6歳）ではおよそ 30% しかないスマートフォン利用率が、高校3年生では 95% を超えていることが分かる。また、中学1年生、高校1年生といった節目で大きく変化する。以降、本研究では 1. 3. 2. に記したとおり、このスマートフォン利用率に応じたウェイトバックをしたうえで分析を行い、社会の状況に近い結果を得ることとする。

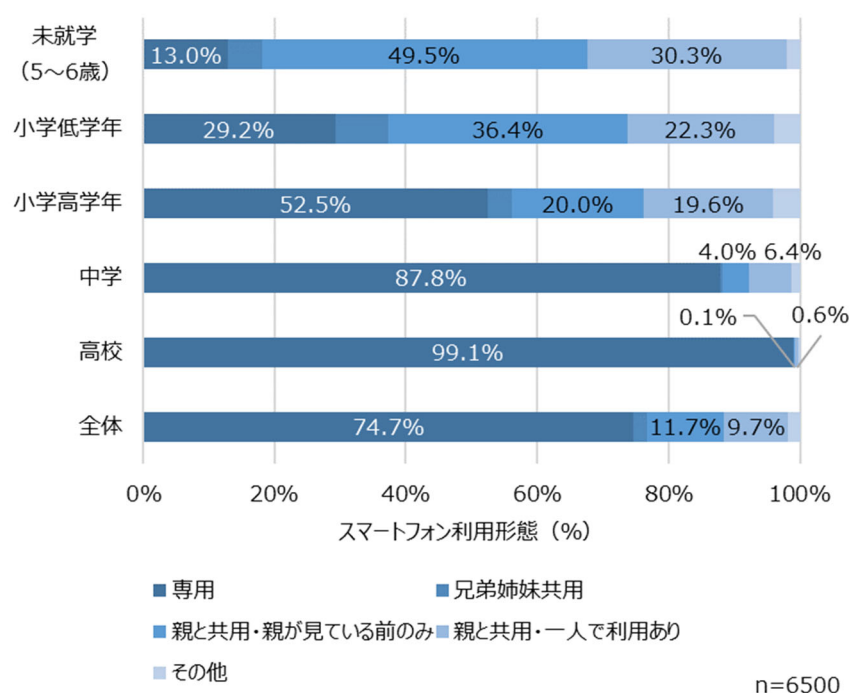


図表 2.1 青少年のスマートフォン利用率（学年/年齢・性別別）

続けて、スマートフォン利用者について利用形態を調査した結果が図表 2.2 である。青少

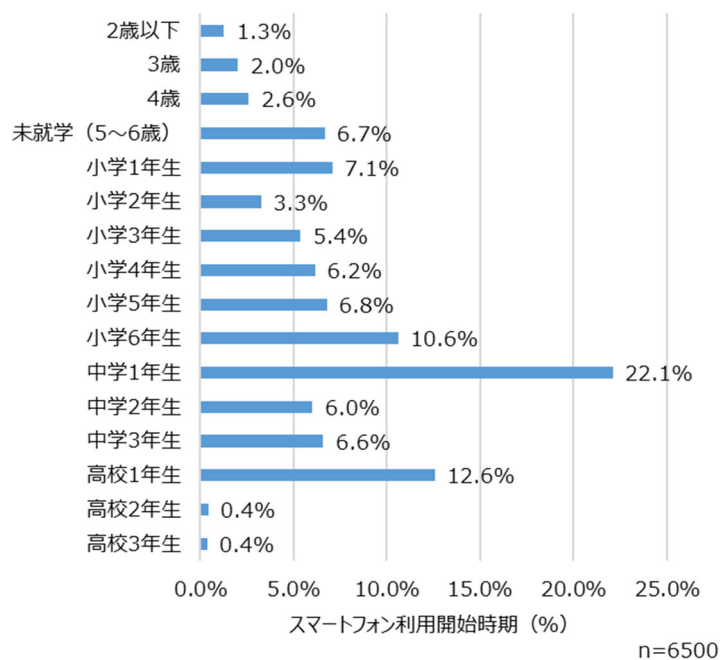
年の年齢によって「専用」率が単調増加し、その一方で「親と共用」が単調減少していくのが分かる（これらにはデータラベルを付けている）。特に中学生になって専用になる青少年が多く、中学生の専用率平均値は 87.8%である。未就学（5～6 歳）では親と共用が最も多く、親が見ている前のみと一人で利用ありを合計すると 80.2%となる。しかしこれは高校生になるとわずか 0.7%である。

全体では 74.7%が専用で利用しており、青少年でも多くは自分専用のスマートフォンを利用していることが確認された。



図表 2.2 青少年のスマートフォン利用形態（年齢別）

図表 2.3 はそのスマートフォンをいつから使い始めたかを示したものである。図 2.3 を見ると、「小学 1 年生」「中学 1 年生」「高校 1 年生」といった入学時期や、その直前である「未就学（5～6 歳）」「小学 6 年生」から利用していることが分かる。また、最も多いのは中学 1 年生からというケースであった。



図表 2.3 青少年のスマートフォン利用開始時期 (学年/年齢別)

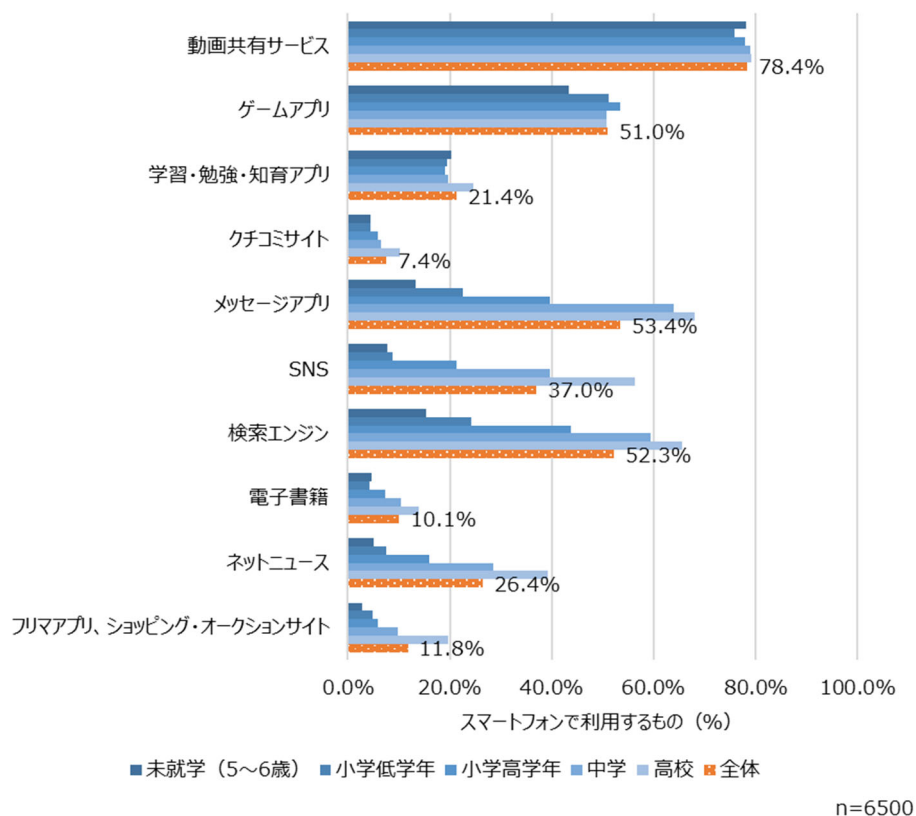
2. 2. 青少年はスマートフォンで何をしているか

青少年がスマートフォンでどのようなサービスを利用しているか調査した結果が図表 2.4 である。

まず全体的な傾向を見ると、「動画共有サービス」が 78.4% でトップであり、「メッセージアプリ」(53.4%)、「検索エンジン」(52.3%)、「ゲームアプリ」(51.0%) と続く。少ないのは「クチコミサイト」(7.4%)、「電子書籍」(10.1%)、「フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト」(11.8%) であり、青少年が自身の利用しているスマートフォンで買い物をするようなケースは少ないと考えられる。

次に、年齢別に見ると、「動画共有サービス」や「ゲームアプリ」、「学習・勉強・知育アプリ」は比較的年齢による差がなく、未就学 (5~6 歳) のスマートフォン利用者も利用している。その一方で、「メッセージアプリ」、「SNS」、「検索エンジン」、「ネットニュース」、「電子書籍」、「ネットニュース」、「フリマアプリ、ショッピングサイト・オークションサイト」は年齢による差が大きく、年齢が若いほど利用率がかなり低くなる。特にその傾向が強いのが「メッセージアプリ」、「SNS」、「検索エンジン」である。これらはいずれもキャリアの提供するフィルタリングサービス (あんしんフィルター) では年齢が上のモードでないといふ利用できないということや、リテラシー教育などで幅広く「メッセージアプリ」や「SNS」の危険性について啓発しているため、フィルタリングサービスを利用していない人も自動的に年齢の低い青少年に利用させていないと考えられる。検索エンジンも例えば SoftBank

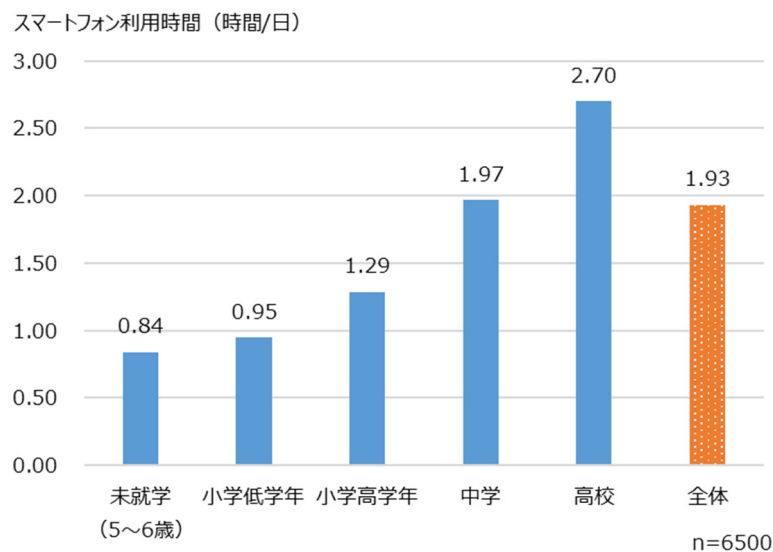
のあんしんフィルターでは、Google が 17+⁴以上の強度設定にすると利用できない等の制限があることが影響していると考えられる。



図表 2.4 青少年がスマートフォンで利用しているサービス (年齢別)

図表 2.5 は青少年が 1 日当たりスマートフォンをどれくらい利用しているか調査した結果である。全体では 1.93 時間と約 2 時間利用していることが分かるが、これは青少年の年齢によって大きく異なり、年齢が高くなるにつれて利用時間がのびる。未就学 (5~6 歳) や小学低学年では 1 時間以下である一方で、中学生から急速に増加して 1.97 時間、高校生は 2.70 時間となる。

⁴ iOS の場合。Android の場合は全てのレベルで利用不可。



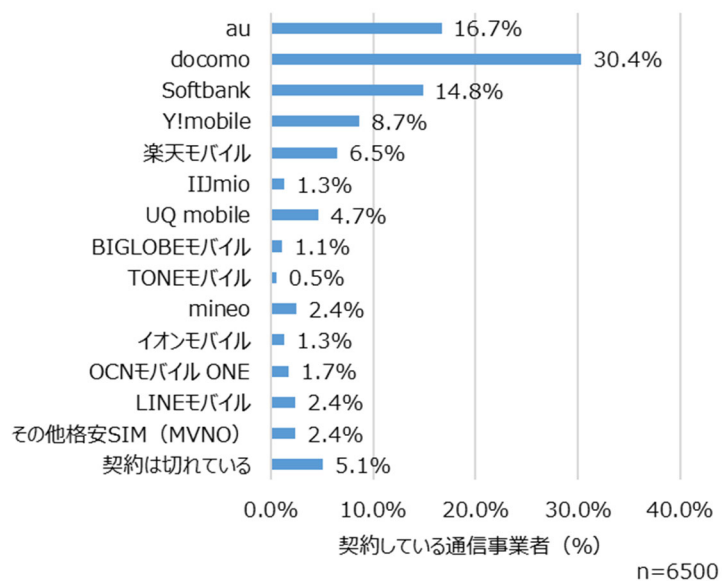
図表 2.5 青少年のスマートフォン利用時間（年齢別）

2. 3. 青少年のスマートフォンの通信事業者・機種

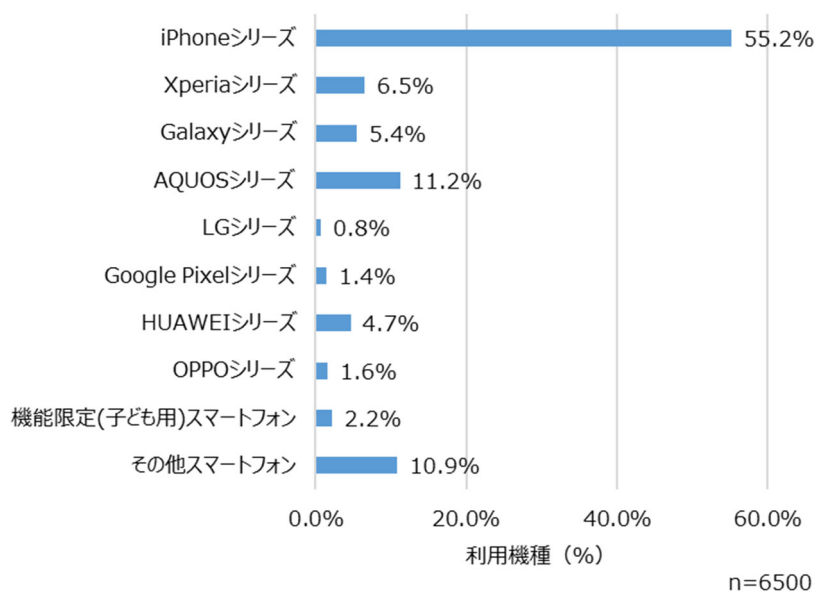
フィルタリングサービスと密接に関わる、青少年が利用しているスマートフォンの通信事業者及び機種について結果を示したのが図表 2.6 と図表 2.7 である。

まず、通信事業者（図表 2.6）については「au」「docomo」「SoftBank」の契約だけで 60% を占めていることが分かる。そして、「Y!mobile」が 8.7%、「楽天モバイル」が 6.5%、「UQ mobile」が 4.7%と続く。尚、「契約は切れている」がサンプルに含まれるのは、自宅の Wi-Fi でインターネットに接続するケースがあるためである（「未子のスマートフォンはインターネットに接続していない」という人は調査対象外）。

続けて機種（図表 2.7）では、「iPhone」シリーズが圧倒的に多く、スマートフォンを利用している青少年の内 55.2%が iPhone を利用している。ただし、他のスマートフォンの OS がほぼ 100%Android であることを考えると、OS のシェアは iOS : Android=55.2 : 44.8 となる。本研究では、残りの機種を利用している場合は全て OS が Android であると仮定する。



図表 2.6 青少年のスマートフォンの通信事業者



図表 2.7 青少年のスマートフォンの機種

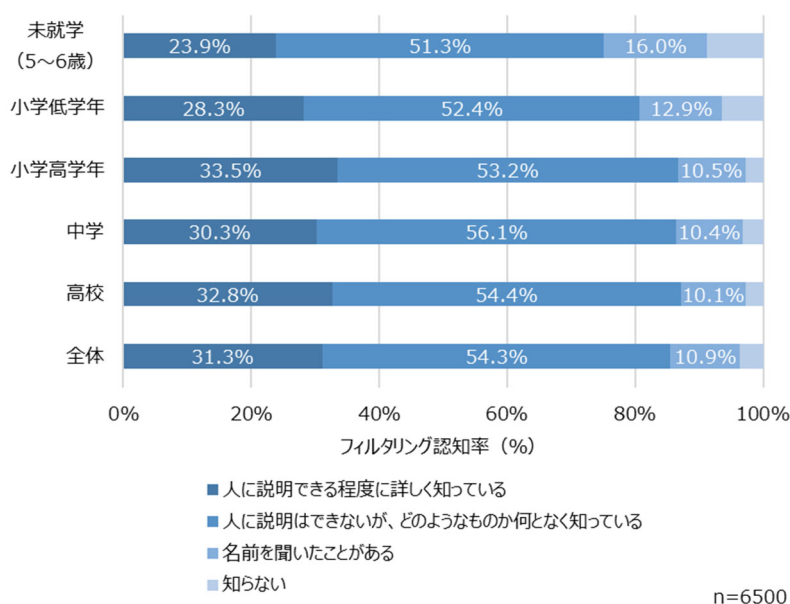
3. フィルタリングサービス・その他施策の利用状況

本章では、青少年のフィルタリングサービス利用状況を見るだけでなく、その他のペアレンタルコントロールサービスの利用状況や、保護者とのルールについての統計を確認する。また、フィルタリングサービスを解除した理由、最初から利用していない理由、どのような機能があれば利用したいと思うか等について、保護者の主観的評価を明らかにする。

3. 1. フィルタリングサービス利用状況

本節では、スマートフォンのフィルタリングサービスの利用状況を明らかにする。まず、保護者がどれだけフィルタリングサービスを認知しているか示したものが図表 3.1⁵である。

図表 3.1 を見ると、「知らない」と回答した人はほとんどおらず、最も少ない未就学（5～6歳）においても90%以上が少なくとも聞いたことがあることが確認される。青少年の年齢が高くなるにつれて認知率が向上するのは、子供を育てていく中で周りやインターネット、通信事業者の受付等でフィルタリングサービスの情報を得るようになるためと考えられる。未就学（5～6歳）で少ないのは、利用しているスマートフォンが親と共用で、購入時には青少年に使わせるつもりがなかったケースがあることも影響しているだろう。

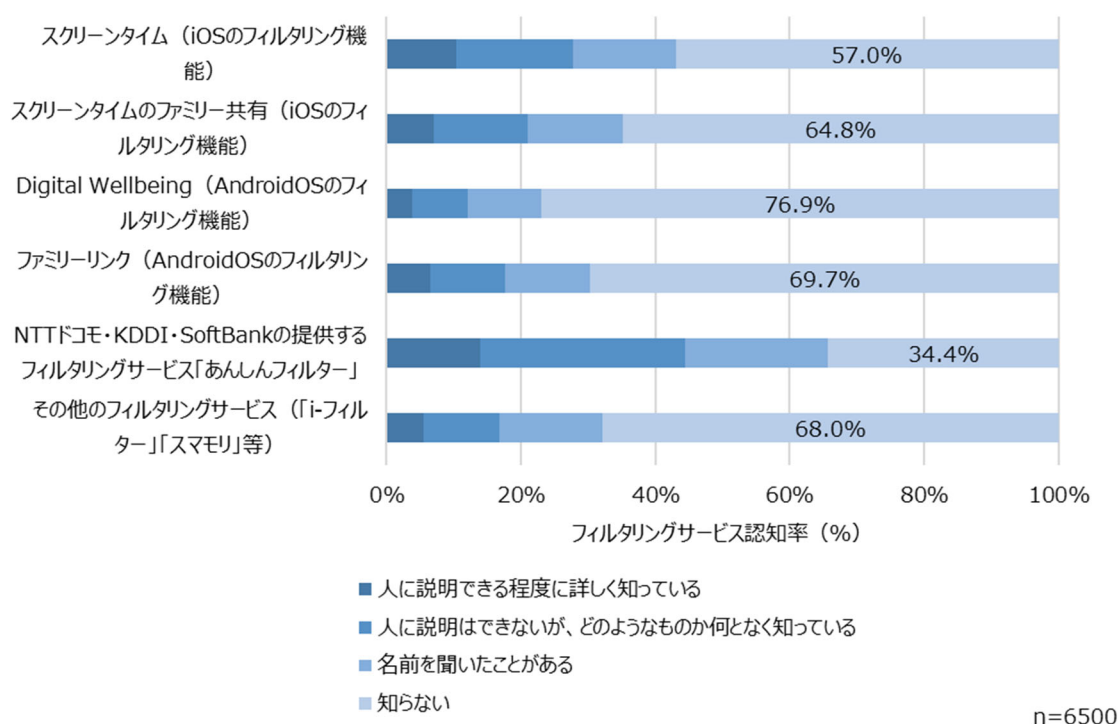


図表 3.1 保護者のフィルタリングサービス認知状況（年齢別）

⁵ 設問作成に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和2年4月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai-html/index.html>

続けて、その認知状況をフィルタリングサービスごとに見たものが図表 3.2、「名前を聞いたことがある」以上を「認知」として認知率を青少年の学校/年齢別に見たものが図表 3.3 である。ただし、各サービスの分母は、そのフィルタリングサービスの潜在的利用者となっている。つまり、「スクリーンタイム」「スクリーンタイムのファミリー共有」であれば青少年が iPhone を利用している人、「Digital Wellbeing」「ファミリーリンク」であれば青少年が Android を利用している人、「あんしんフィルター」であれば青少年が NTT ドコモ、KDDI、SoftBank、Y!mobile、UQ mobile のいずれかを利用している人、「その他」であれば全員となっている。

まず、図表 3.2 からは、図表 3.1 と異なり、個別具体的なフィルタリングサービスについては「知らない」人が少なくなることが分かる。知らない人が最も少ないのは「あんしんフィルター」で 34.4%であるが、最も多い「Digital Wellbeing」では 76.9%が知らない。また、比較的新しい Digital Wellbeing 以外でも、例えば iOS の「スクリーンタイム」を 57.0%が知らない等、まだ多くの保護者が知っているとは言い難い状況といえる。



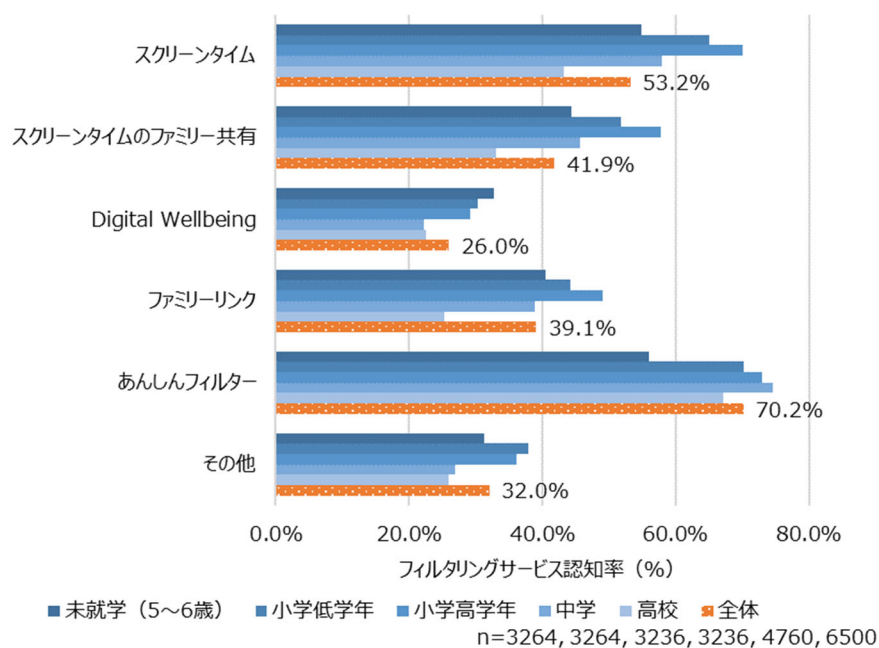
図表 3.2 保護者の各フィルタリングサービス認知状況

※ただし分母は各サービスの対象機種・通信事業者を利用している人である。例えば、スクリーンタイムであれば iPhone ユーザーが分母となる。

次に、図表 3.3 からは、青少年の年齢によっていくつか特徴があることが分かる。第一に、「Digital Wellbeing」を除く全てのフィルタリングサービスについて、小学校高学年や中学生

の保護者で最も認知率が高いような、山型の分布となっている。図表 3.1 では青少年の年齢が上がるほどフィルタリングサービス認知率が上がるような傾向が見られたが、個別サービス事例については、むしろ高校生保護者は低めに出ている。これは後述するように、高校生ではフィルタリングサービス導入率が低く、そのために個別のフィルタリングサービスの知識はそこまで持っていないのだと考えられる。

第二に、「あんしんフィルター」については高校生保護者の方が未就学児（5～6歳）保護者よりも認知率が高い一方で、スクリーンタイム等スマートフォン付属のフィルタリングサービスや、その他のフィルタリングサービスでは、未就学児（5～6歳）の方が高い点である。また、そのようなサービスは高校生保護者の認知率が極端に低い。この要因としては、高校生保護者がフィルタリングサービス導入を検討した時期（青少年が小学生や中学生だった時期）には、あんしんフィルターが主流だったことに起因すると考えられる。いずれにせよ、今の未就学児（5～6歳）～小学校高学年までの保護者は、スマートフォンのフィルタリングサービスに親和性が高いといえる。



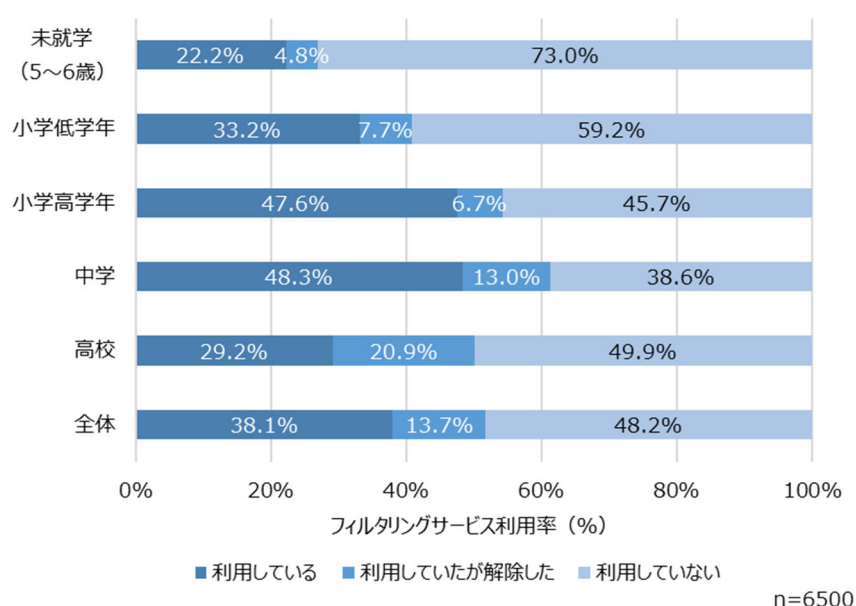
図表 3.3 保護者の各フィルタリングサービス認知状況（年齢別）

※ただし分母は各サービスの対象機種・通信事業者を利用している人である。例えば、スクリーンタイムであれば iPhone ユーザーが分母となる。

さて、実際にフィルタリングサービスをどれくらい導入しているか調査した結果が図表

3.4⁶である。図表 3.4 を見ると、全体では 38.1%が利用している一方で、13.7%が解除しており、48.2%が一度も利用していないことが分かる。平成 30 年に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正された。これにより通信事業者には、携帯電話インターネット接続サービスの使用者が青少年である場合、原則としてフィルタリングサービスを提供する義務が課せられている。しかし、改正から 3 年経った今でも未だに大半の人は利用していない状況といえる。

青少年の年齢による差異を確認すると、未就学（5～6 歳）から中学生までは単調増加の一方で、高校生になると利用率は激減する。最も利用率が高いのは中学生で 48.3%が利用している。また、中学生から解除率が増加し、中学生では 13.0%、高校生では 20.9%となる。中学生以降は解除する動きが活発になることが分かる。

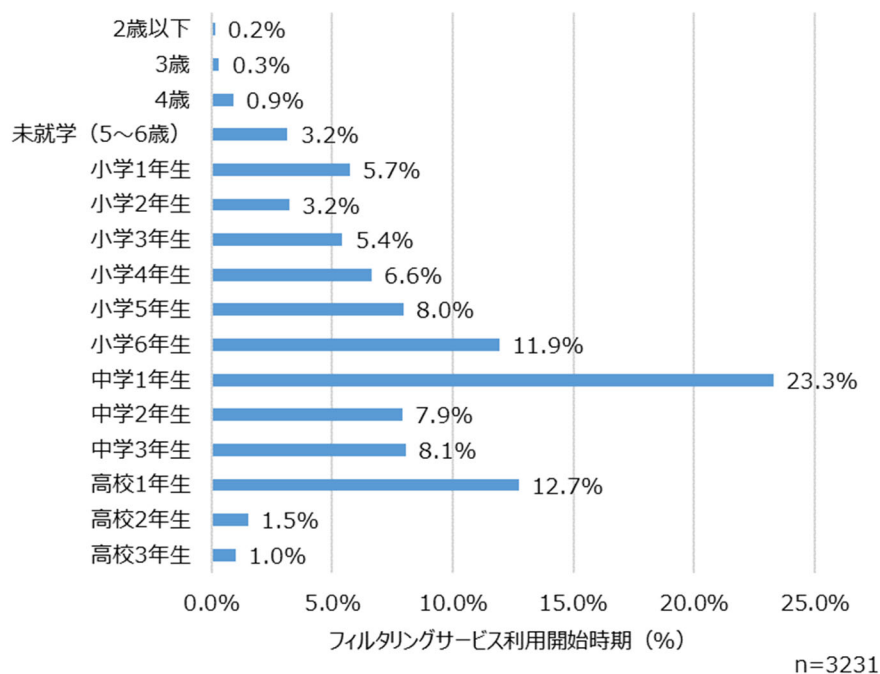


図表 3.4 フィルタリングサービス利用率（年齢別）

このフィルタリングサービスについて、青少年がいくつの時に利用したのか調査した結果が図表 3.5 である。図表 3.5 からは、小学 1 年生、中学 1 年生、高校 1 年生といった節目の時に導入する人が多いことが確認される。最も多いのは中学 1 年生であり、23.3%はその時に利用を開始していた。尚、分母はフィルタリングサービスを利用している人と、フィル

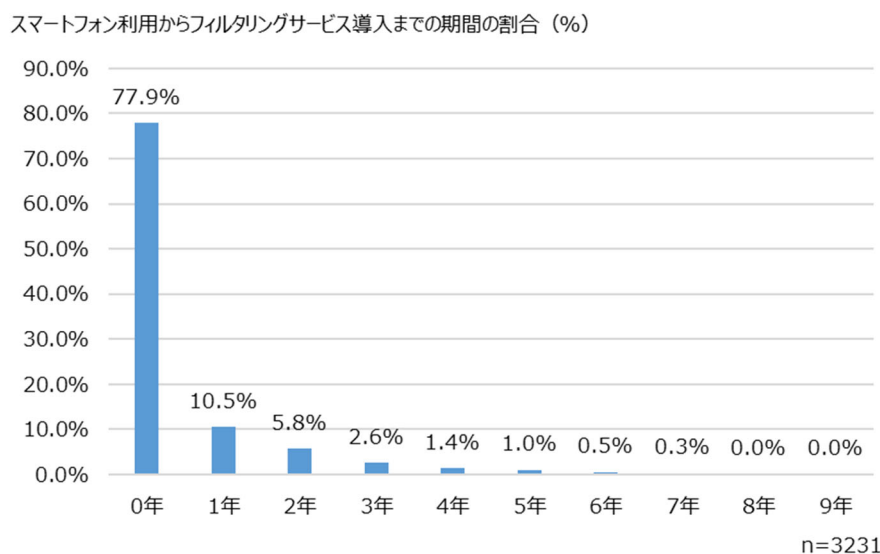
⁶ 利用状況を尋ねるにあたり以下を参照している。：千葉直子，関良明，堀川裕介，& 橋元良明. (2014). 青少年の安全なインターネット利用を実現する家庭の取組みに関する考察. *情報処理学会論文誌*, 55(1), 311-324.
教育現場の ICT 安全安心対策事業 0 歳児からの IT 機器利用と保護者の情報モラル報告書，一般社団法人日本教育情報化振興会，平成 30 年 3 月，
<http://www2.japet.or.jp/file/ParentsMoral.pdf>

タリングサービスを利用していたが解除した人である。



図表 3.5 フィルタリングサービスを利用し始めた時期 (学年/年齢別)

これを青少年がスマートフォンを利用してからの期間について分析したものが図表 3.6 である。図表 3.6 を見ると、77.9%の人が、青少年がスマートフォンを利用したのと同時にフィルタリングサービスを利用していることが分かる。時点で1年 (10.5%)、2年 (5.8%) となる。



図表 3.6 青少年がスマートフォンを利用し始めてからフィルタリングサービスを利用するまでの期間

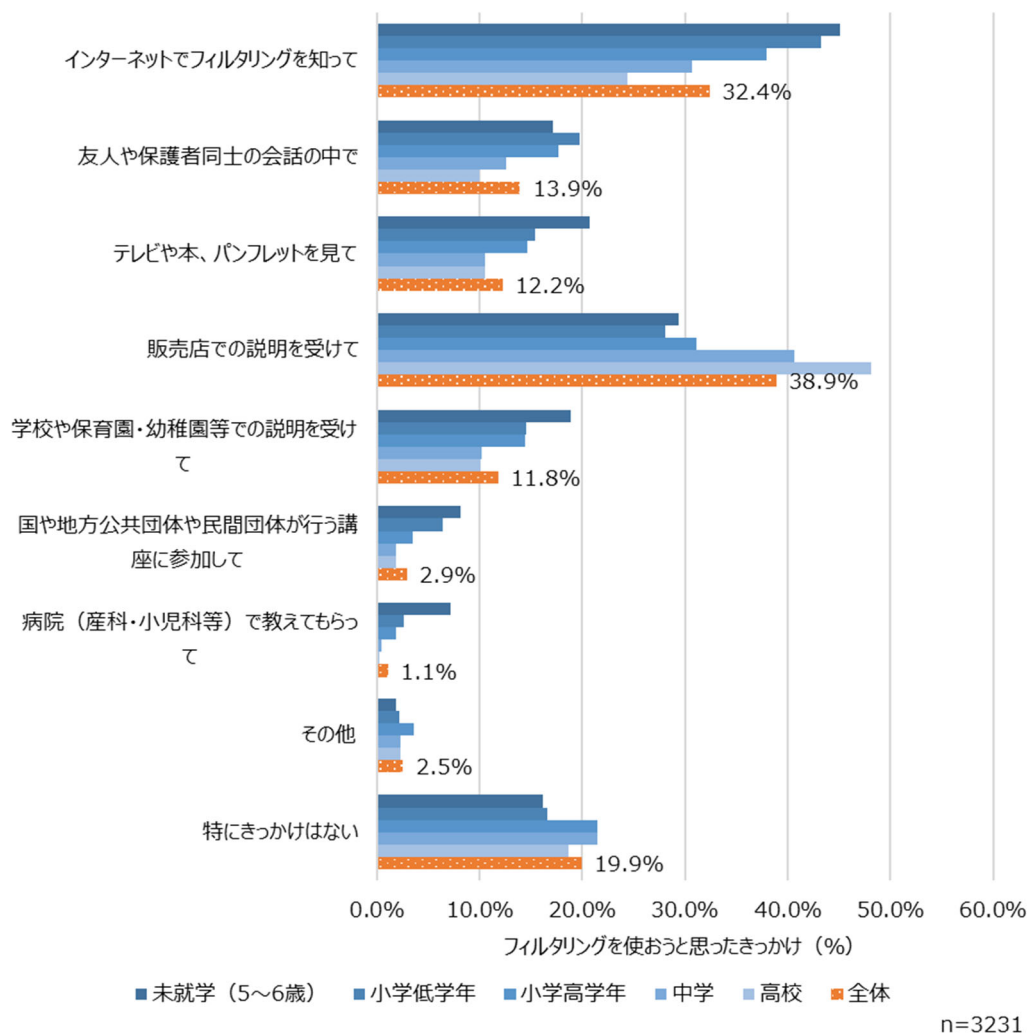
このようにフィルタリングサービスを利用したきっかけについては、図表 3.7⁷のようになる。全体で見ると、「販売店での説明を受けて」(38.9%)と「インターネットでフィルタリングを知って」(32.4%)の2つが非常に高い。「学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて」は11.8%に留まる。

しかしこれを青少年の年齢別に見ると、傾向がかなり異なることが分かる。「インターネットでフィルタリングを知って」「友人や保護者同士の会話の中で」「テレビや本、パンフレットを見て」「学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて」「国や地方公共団体や民間団体が行う講座に参加して」等のケースでは、概ね青少年の年齢が低い方がきっかけとしての割合が高いことが分かる。特に、未就学(5~6歳)でフィルタリングサービスを利用している人の45.1%がインターネットで知って利用を始めている。ところが、「販売店での説明を受けて」に限っては高校生が最も多く、48.1%となっている。

その要因の1つとして、親との共用が多い未就学(5~6歳)から小学高学年においては、購入時は青少年が利用することを想定しておらず、販売店での説明を受けなかったことが考えられる(図表 2.1)。実際、第5章で触れるが、これらの年齢の場合は「購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった」という人が多い。例えば、未就学(5~6歳)については、「説明または資料があった」が13.6%に対し、「購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった」が24.2%であることが分かっている。

⁷ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」, 令和2年4月, <https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai.html/index.html>

これが高校生になると、前者が 48.9%、後者が 4.9%である。青少年の利用でなくても販売店で子供がいるか確認して紹介したり、学校や保育園での啓発を強化したりするなど、未就学の保護者にも情報が行き渡るようにすることが必要と考えられる。



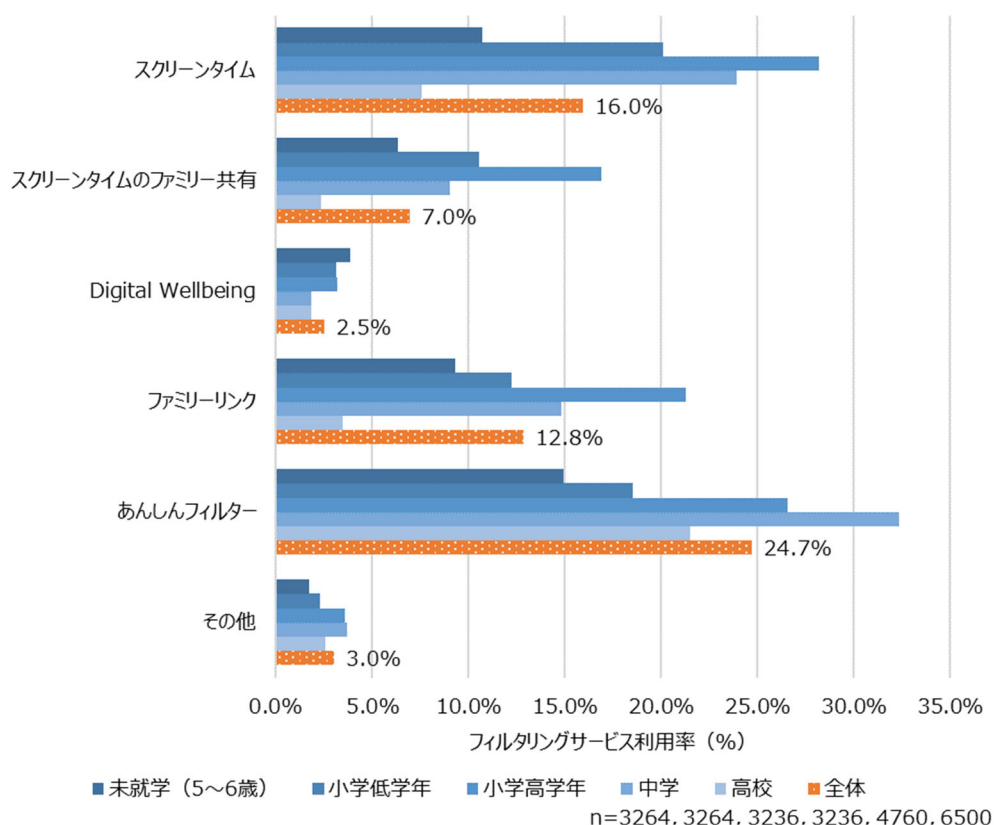
図表 3.7 保護者がフィルタリングサービスを導入したきっかけ (年齢別)

さらに、フィルタリングサービス利用率を各サービスについて見たものが図表 3.8 である。ただし、各サービスの分母は、そのフィルタリングサービスの潜在的利用者となっている。つまり、「スクリーンタイム」「スクリーンタイムのファミリー共有」であれば青少年が iPhone を利用している人、「Digital Wellbeing」「ファミリーリンク」であれば青少年が Android を利用している人、「あんしんフィルター」であれば青少年が NTT ドコモ、KDDI、SoftBank、Y!mobile、UQ mobile のいずれかを利用している人、「その他」であれば全員となっている。

全体の傾向を見ると、「あんしんフィルター」が 26.1%で最も高く、次いで「スクリーンタイム」(16.0%)、「ファミリーリンク」(12.8%)と続く。Digital Wellbeing は新しいサービ

スであることもあってか、利用者が非常に少ない。

また、青少年の年齢別の傾向を見ると、概ね図表 3.4 のフィルタリングサービス利用傾向と似ている。ただし、「あんしんフィルター」は中学生、高校生の利用率が高い一方で、「スクリーンタイム」「スクリーンタイムのファミリー共有」「ファミリーリンク」は小学高学年の利用率が最も高く、高校生の利用率が極端に低い。この傾向は図表 3.3 の認知状況でも見られたものである。ただし、「Digital Wellbeing」については未就学（5～6歳）での利用率が最も高い。



図表 3.8 各フィルタリングサービス利用率 (年齢別)

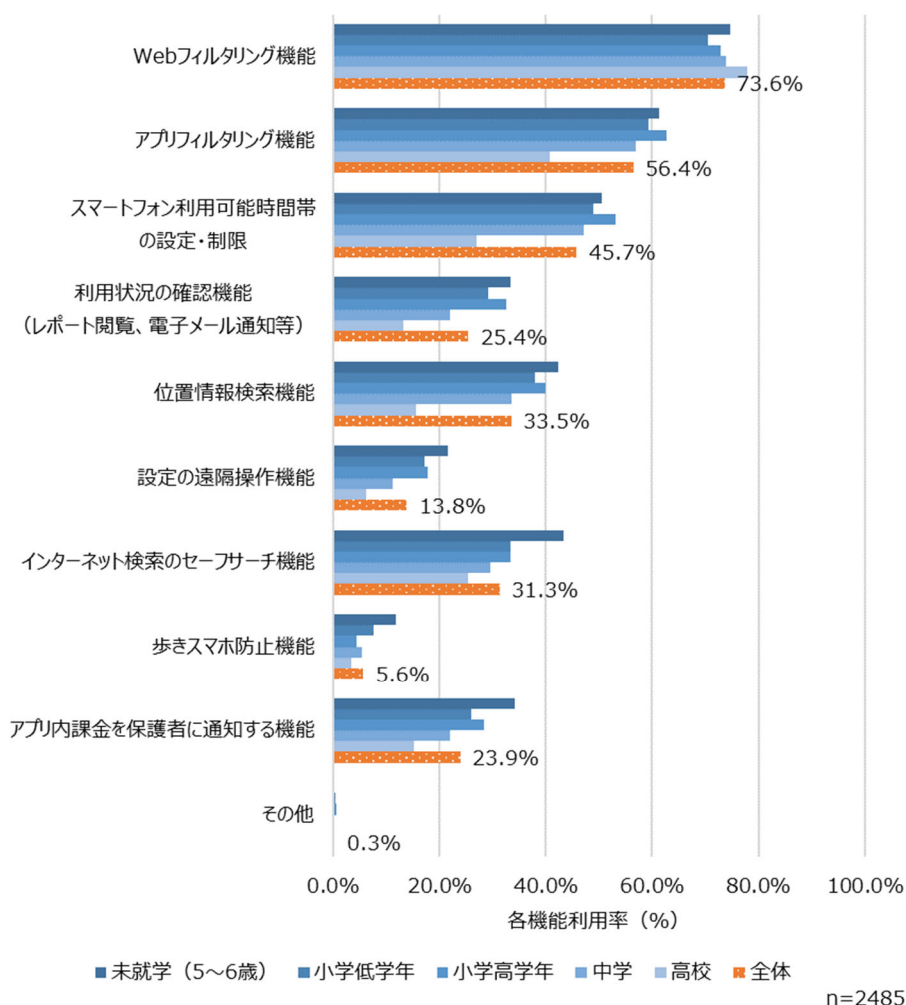
※ただし分母は各サービスの対象機種・通信事業者を利用している人である。例えば、スクリーンタイムであれば iPhone ユーザーが分母となる。

3. 2. フィルタリングサービスで利用している機能・カスタマイズ設定状況

では、利用者の中でどの機能が使われているのだろうか。機能ごとの利用率を示したものが図表 3.9 である。分母はフィルタリングサービスを利用している人となっている。

全体的には「Web フィルタリング機能」が 73.6%と最も多く、「アプリフィルタリング機能」(56.4%)、「スマートフォン利用可能時間帯の設定・制限」(45.7%)と続く。この辺りのサービスのニーズが高いといえる。また、青少年の年齢別では、多くの機能について高校生

が最も利用率が低く、青少年の年齢が低いほど利用率が高い。ただし、「Web フィルタリング機能」のみ全年齢で利用率が高く、高校生の利用率が最も高くなっている。青少年の年齢問わずニーズの高い機能と考えられる。

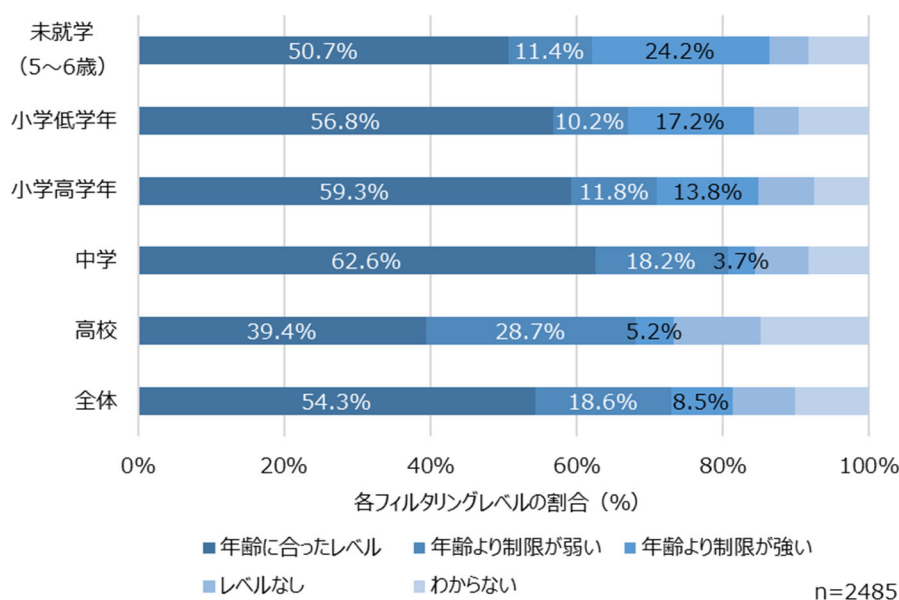


図表 3.9 フィルタリングサービスで利用している機能 (年齢別)

図表 3.10⁸はフィルタリングサービス利用者について、レベルをどのように設定しているか調査した結果である。全体的に 54.3%の人が「年齢に合ったレベル」で利用しているが、青少年の年齢によって傾向が大きく異なることが分かる。年齢が低い場合は「年齢より制限が強い」場合が多いが、中学生までは徐々に「年齢に合ったレベル」の割合が増加していく。しかし高校生になると「年齢に合ったレベル」の人は激減し、代わって「年齢より制限が弱い」人が非常に多くなる。そもそも高校生ではフィルタリングサービス利用率が低いことと

⁸ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和 2 年 4 月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai-html/index.html>

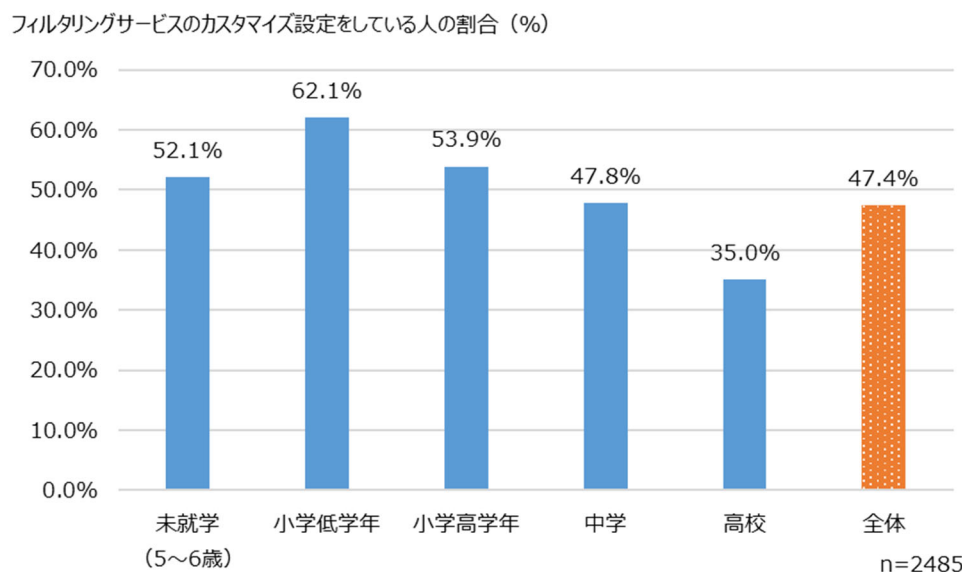
合わせると、子供の要請に応じて制限を弱くしたり、利用をやめたりしていることが予想される。



図表 3.10 フィルタリングサービスのレベル (年齢別)

さて、フィルタリングサービスのカスタマイズ設定の利用状況を調査した結果が図表 3.11 である。ただし調査に当たっては、「なおカスタマイズとは、フィルタリング強度の設定や個別アプリの使用許可、個別サイトの閲覧許可等を指します。」と注意書きしている。

図表 3.11 からは、フィルタリングサービス利用者の約半分に当たる 47.4%が何らかのカスタマイズ設定をしていることが分かる。最も多いのは小学低学年 (62.1%) である一方で、ここでも高校生は少なく 35.0%に留まる。



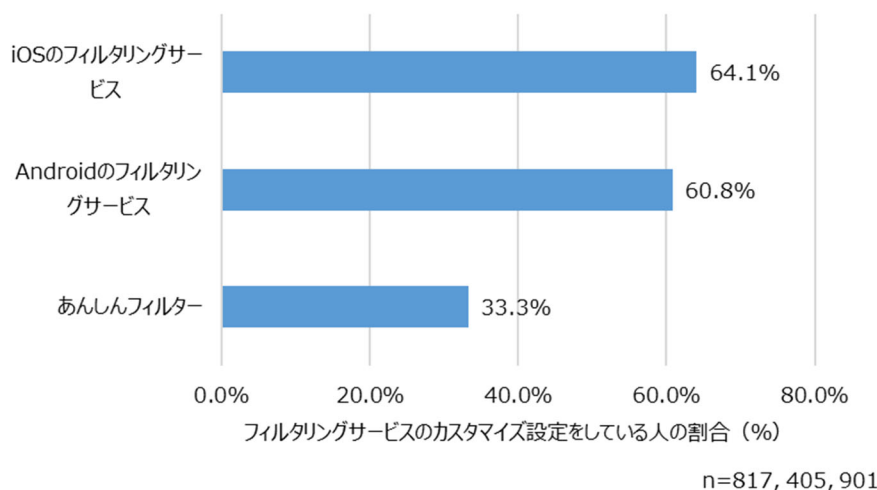
図表 3.11 フィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしている人の割合 (年齢別)

さらに、利用しているフィルタリングサービスによるカスタマイズ設定の違いを見るために、「iOS のフィルタリングサービス」「Android のフィルタリングサービス」「あんしんフィルター」の3種類利用別にカスタマイズ設定の利用率を分析したものが図表 3.12 である。ただし、各分類に対応する人は以下のとおりである。

- iOS のフィルタリングサービス：「スクリーンタイム」「スクリーンタイムのファミリー共有」のいずれか1つ以上を利用して、且つ、他のフィルタリングサービスを利用していない人。
- Android のフィルタリングサービス：「Digital Wellbeing」「ファミリーリンク」のいずれか1つ以上を利用して、且つ、他のフィルタリングサービスを利用していない人。
- あんしんフィルター：「あんしんフィルター」を利用して、且つ、他のフィルタリングサービスを利用していない人。

図表 3.12 からは、OS のフィルタリングサービスはよくカスタマイズされている一方で、あんしんフィルターのカスタマイズ設定率は低い (33.3%) ことが分かる。実際、保護者インタビュー調査においても、あんしんフィルターを解除した人の多くがカスタマイズ設定の存在を知らない、あるいは検討すらしていない状態で「不便だから」という理由で解除していたケースが多かった。後述の図表 3.16 の解除理由で、1位が「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」(31.3%)、2位が「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」(29.2%) であることから明らかにおり、カスタマイズ設定を知っていること・使っていることは、フィルタリングサービス解除防止に繋がると予想される。特にあんしんフィルターにおいては、よりカスタマイズしやすい(気づきやす

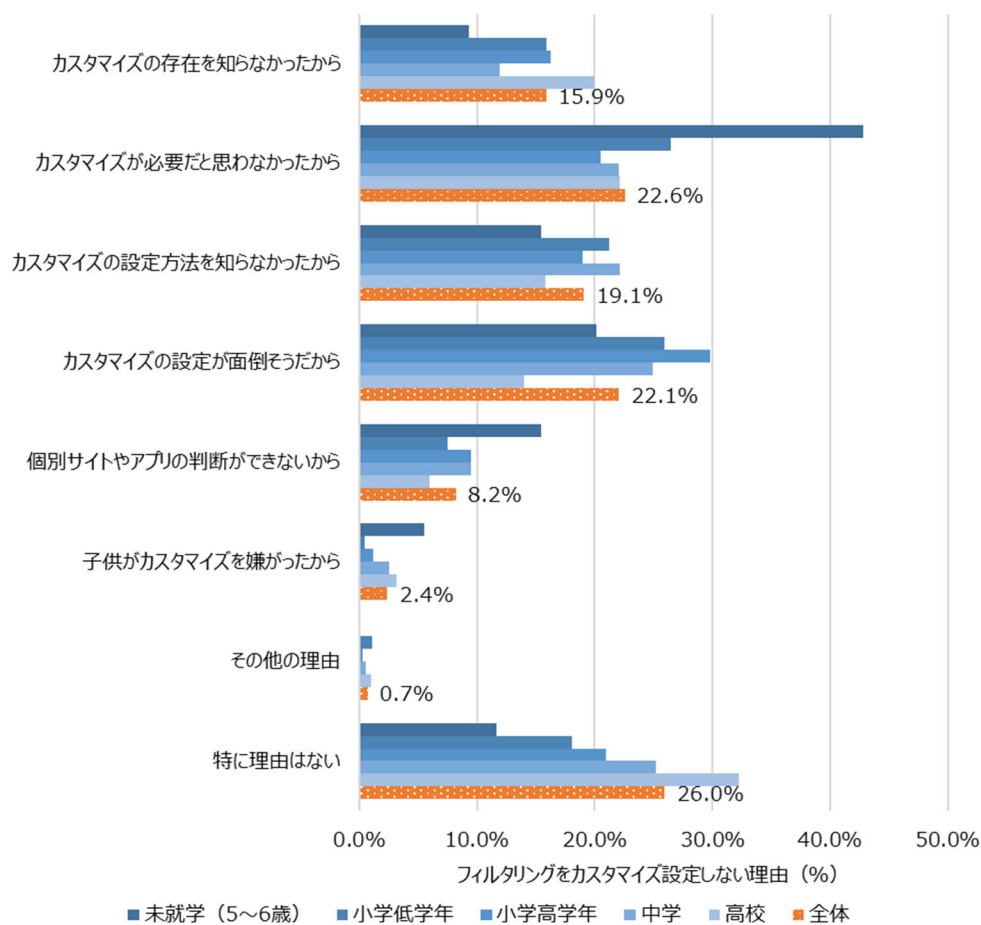
い) 設計にすると同時に、カスタマイズ設定について店頭で説明する等の工夫が求められる。



図表 3.12 フィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしている人の割合 (フィルタリングサービス別)

続けてカスタマイズ設定をしていない人の理由を見ると (図表 3.13)、理由を挙げた人中で多いのが「カスタマイズが必要だと思わなかったから」(22.6%)、「カスタマイズの設定が面倒そうだから」(22.1%)で、続いて「カスタマイズの設定方法を知らなかったから」(19.1%)、「カスタマイズの存在を知らなかったから」(15.9%)である。必要だと思わなかったからは置いておいても、設定が面倒そうや設定方法や存在を知らないといった理由で設定していない人も多い。これは、カスタマイズ設定についてさらに啓発することで、より快適にフィルタリングサービスを利用できる人が増える可能性を示唆している。

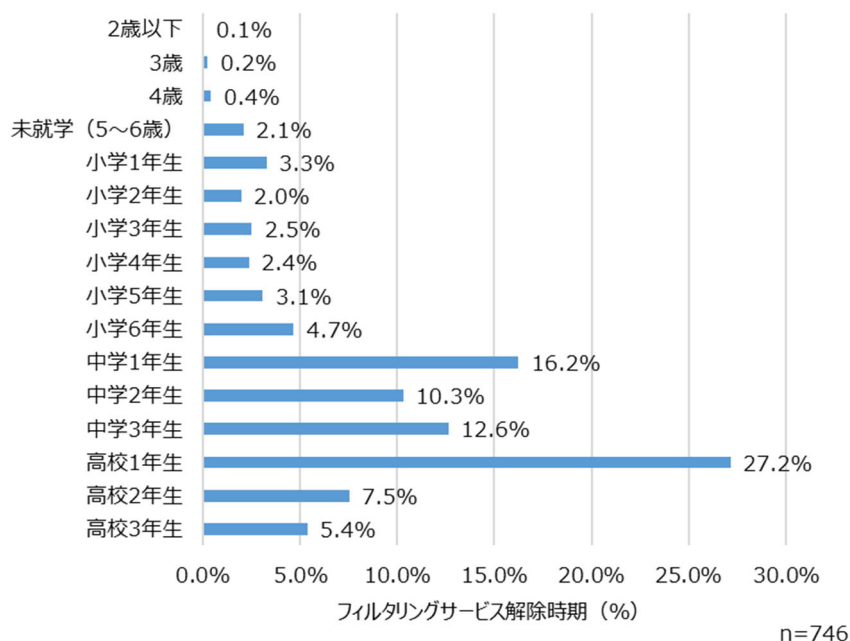
青少年の年齢別では、未就学 (5~6 歳) だと「カスタマイズが必要だと思わなかったから」が多い。図表 3.10 で「年齢に合ったレベル」や「年齢より制限が強い」が多かったように、強い制限が必要と考えている人が多いことが要因と考えられる。一方、高校生では「カスタマイズの存在を知らなかった」が多い傾向にあった。



図表 3.13 保護者がフィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしない理由 (年齢別)

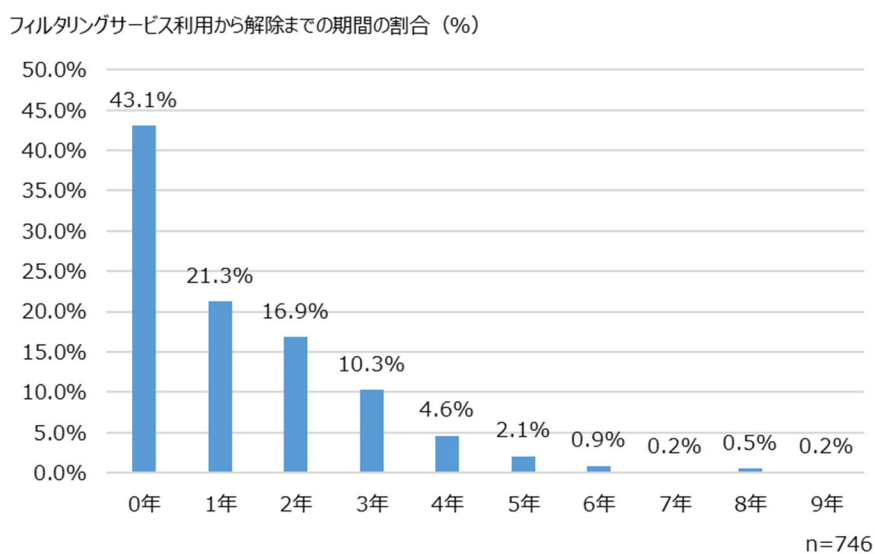
3. 3. フィルタリングサービスの解除状況

本節では、フィルタリングサービスを解除した人の傾向を確認する。図表 3.14 は、フィルタリングサービスを解除した人について、どれくらいの時期に解除したのか調査した結果である。図表 3.14 を見ると、多くの人が中学 1 年生や高校 1 年生といった節目の年に解除していることが分かる。最も多いのは高校 1 年生で 27.2% である。子供が様々なサービスを使いたくなる時期、また、子供専用のスマートフォンになる時期 (図表 2.2) にフィルタリングサービスを解除していると考えられる。



図表 3.14 フィルタリングサービスを解除した時期 (学年/年齢別)

また、図表 3.15 はフィルタリングサービスを利用開始してから解除するまでの期間を分析したものである。図表 3.15 からは、多くの人 (43.1%) がフィルタリングサービスを利用して1年も経たずに解除していることが分かる。年数が増えるにつれて割合は減り、2年以内に解除している人だけで 80%以上を占める。解除する人の中で多くの方は利用を開始してからすぐ解除しているといえる。



図表 3.15 フィルタリングサービス利用から解除するまでの期間

続けて、解除した人について、解除した理由を調査した結果が図表 3.16⁹である。まず全体的な傾向を見ると、1 位が「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」(31.3%)、2 位が「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」(29.2%)となっており、子供にとって何らかの不便があったために解除したことが分かる。

実際にはフィルタリングサービスではアプリ毎の設定が柔軟にできる。しかし、「フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいため」は 8.0%しかおらず、少ない。つまり、カスタマイズ設定を検討するまでもなく、フィルタリングサービスそのものを解除していると予想される。そのため、カスタマイズ設定について啓発が進めば、これらの理由で解除することがある程度防げると考えられる。

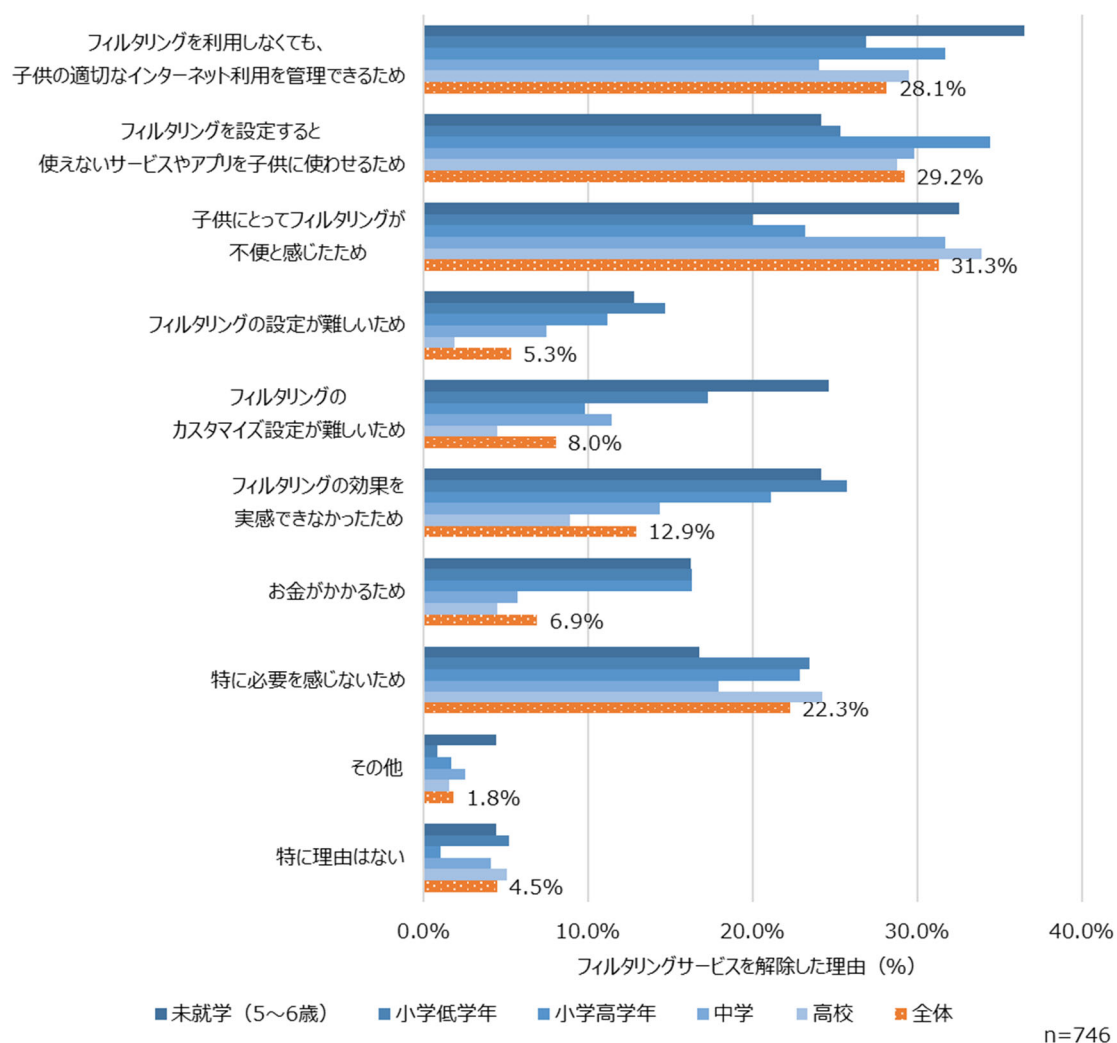
また、3 番目に多かったのは「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」(28.1%)であった。しかしながら、3. 6. で見られるように、フィルタリングサービスを利用していない人は他のペアレンタルコントロール機能の利用や、親子でのルール作りもしていない傾向にある。そのため、子供の適切なインターネット利用を管理できているかは疑問が残るところであり、保護者自身が自分の子供の適切なインターネット利用は管理できていると、漠然と考えているだけという可能性がある。

全体的に「お金がかかるため」という人は少なく、多くのフィルタリングサービスが無料で使えることから、費用がハードルになっている人は多くないといえる。

次に、青少年の年齢別の違いを見ると、最も理由として多かった「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」では、未就学(5~6 歳)と高校生で高い結果となった。高校生はこれまで見てきたとおりフィルタリングサービスを解除している人が多いことから、子供の要望が高まっていく中で不便を感じる人が増えていることが予想される。その一方で未就学(5~6 歳)まで高いのは興味深い点であるが、1つ考えられるのは、未就学用のフィルタリングサービスは極めて制限が強いため、保護者がこれでは不便すぎると感じた可能性がある。

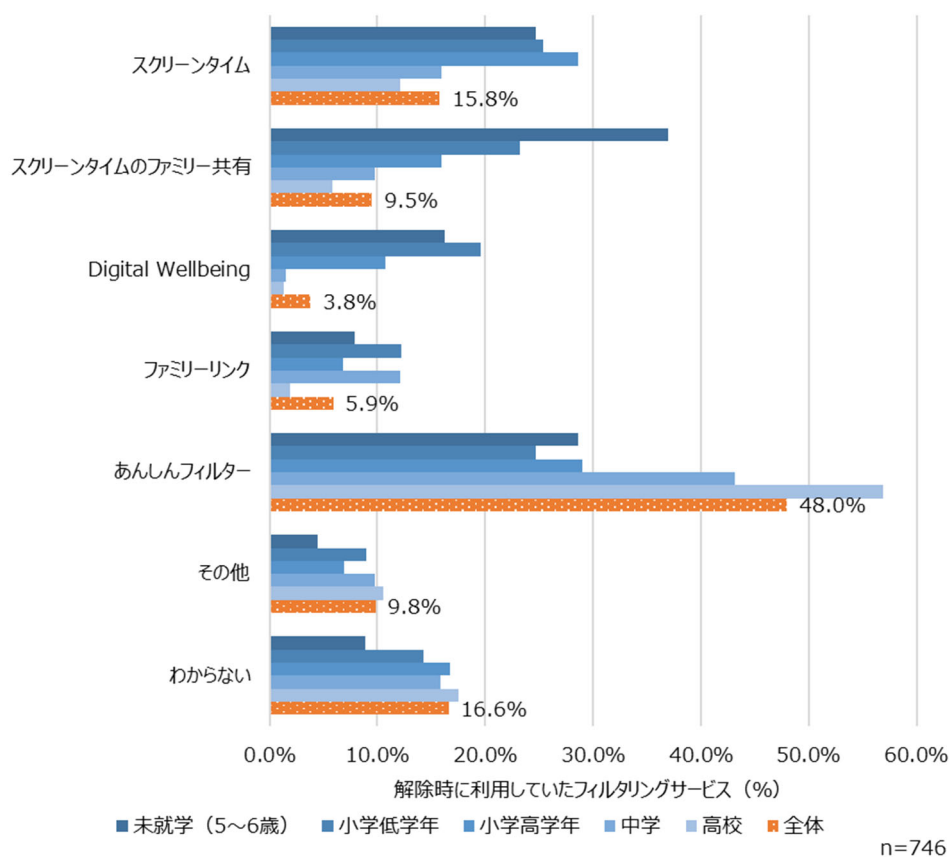
また、「フィルタリングの設定が難しいため」「フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいため」は青少年の年齢が低い人ほど多い傾向にあった。まだフィルタリングサービスに慣れていない保護者が多いことや、購入時には青少年が利用する予定がなくて店頭で説明を受けていないこと等が影響を与えていると思われる。年齢の低い青少年を持つ保護者に、重点的にカスタマイズ設定について啓発することが効果的と考えられる。

⁹ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」, 平成 30 年 3 月, https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai_html/index.html



図表 3.16 フィルタリングサービスを解除した理由 (年齢別)

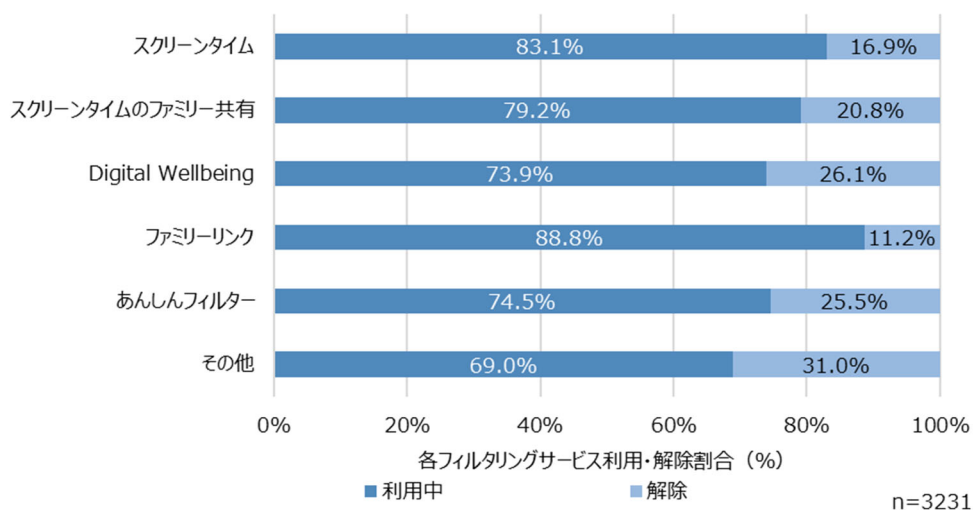
図表 3.17 は、解除前に利用していたフィルタリングサービスについて調査した結果である。全体的には「あんしんフィルター」48.0%で最も多く、次点「スクリーンタイム」の15.8%と大きな差がある。これは「あんしんフィルター」の利用者が多いためであり、「あんしんフィルター」の解除率の高さを示すものではないことは留意されたい。



図表 3.17 フィルタリングサービスを解除する前に利用していたもの (年齢別)

解除率については、図表 3.18 にまとめている。これは、現在も各フィルタリングサービスを利用している人と、各フィルタリングサービスを解除した人の人数を比較したものである。図表 3.18 を見ると、最も解除率が高いのが「その他」(31.0%) であることが分かる。ここに含まれるものは「i-フィルター」「スマモリ」といったものであり、多くの場合有料で利用している (一部の MVNO 事業者は無料で提供している)。有料であるために解除率が高いと推察される。

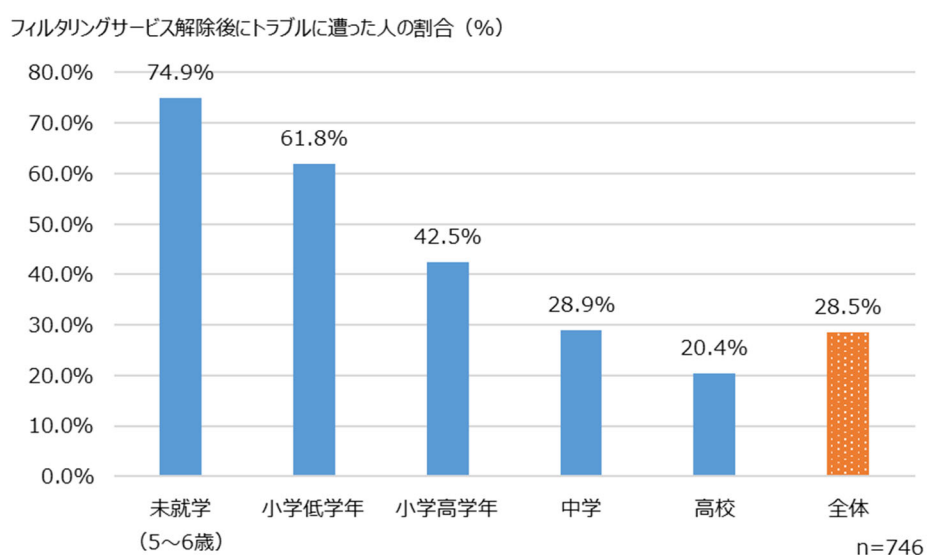
「その他」を除くと「Digital Wellbeing」(26.1%) と「あんしんフィルター」(25.5%) の解除率が高い。「あんしんフィルター」で使えないアプリ・サービスが多いために解除したという声は後述するインタビュー調査でも多く聞かれた声であり、解除率が高くなったと考えられる。「Digital Wellbeing」の解除率が高い理由は想像の域を出ないが、「ファミリーリンク」の解除率が非常に低いことと併せて考えると、青少年のアプリ利用時間を管理出来たり、位置情報を確認出来たりする「ファミリーリンク」で十分と考えた可能性がある。



図表 3.18 各フィルタリングサービスの利用・解除割合

※ただし、分母は各フィルタリングサービスを利用したことのある人である。

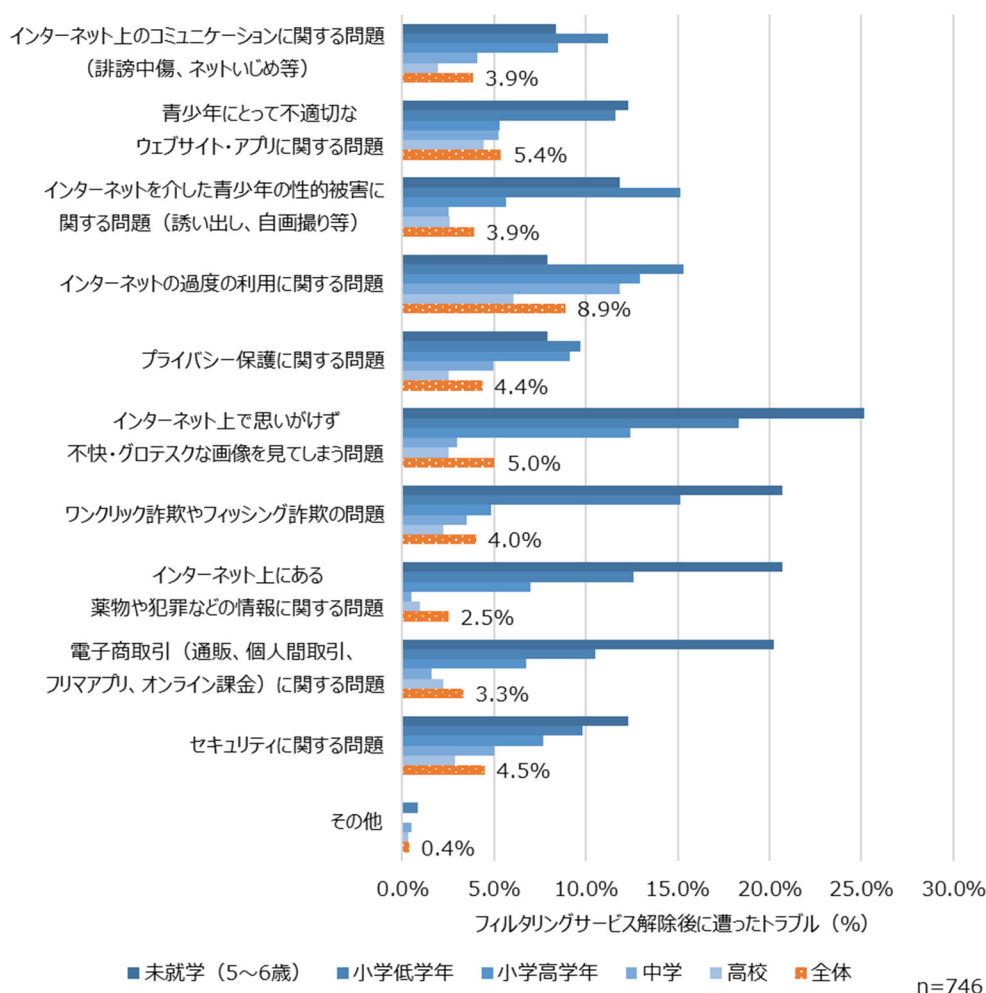
図表 3.19 はフィルタリングサービスを解除した後にトラブルに遭った人の割合である。全体では 28.5%と 4 人に 1 人程度であるが、青少年の年齢別に見ると年齢が低いほど顕著にトラブルに遭うようになっており、未就学（5～6 歳）に至っては 74.9%（4 人に 3 人程度）がトラブルに遭っていることが分かる。図表 3.4 が示す通り未就学（5～6 歳）のフィルタリングサービス利用率は低い、トラブルリスクが低いわけではないことが分かる（むしろ高いといえるだろう）。



図表 3.19 フィルタリングサービス解除後にトラブルに遭った人の割合（年齢別）

そのトラブルについて内容を調査した結果が図表 3.20¹⁰となる。全体では、「インターネットの過度の利用に関する問題」が高く 8.9%の人が解除後に遭遇している。フィルタリングサービスで利用を管理できなくなったことが影響している可能性がある。

トラブルに遭った人の割合が高かった低年齢層については、「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見てしまう問題」「ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題」「インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題」「電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）に関する問題」が軒並み高い。これらの問題はどちらかというと中高生で起こっていると予想していたが、むしろインターネットに不慣れな低年齢層でこそ多く遭遇していることが分かる。



図表 3.20 フィルタリングサービス解除後に遭ったトラブルの内容 (年齢別)

¹⁰ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，平成 30 年 3 月，https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai_html/index.html

3. 4. フィルタリングサービスを利用しないのはなぜか、何を期待するか

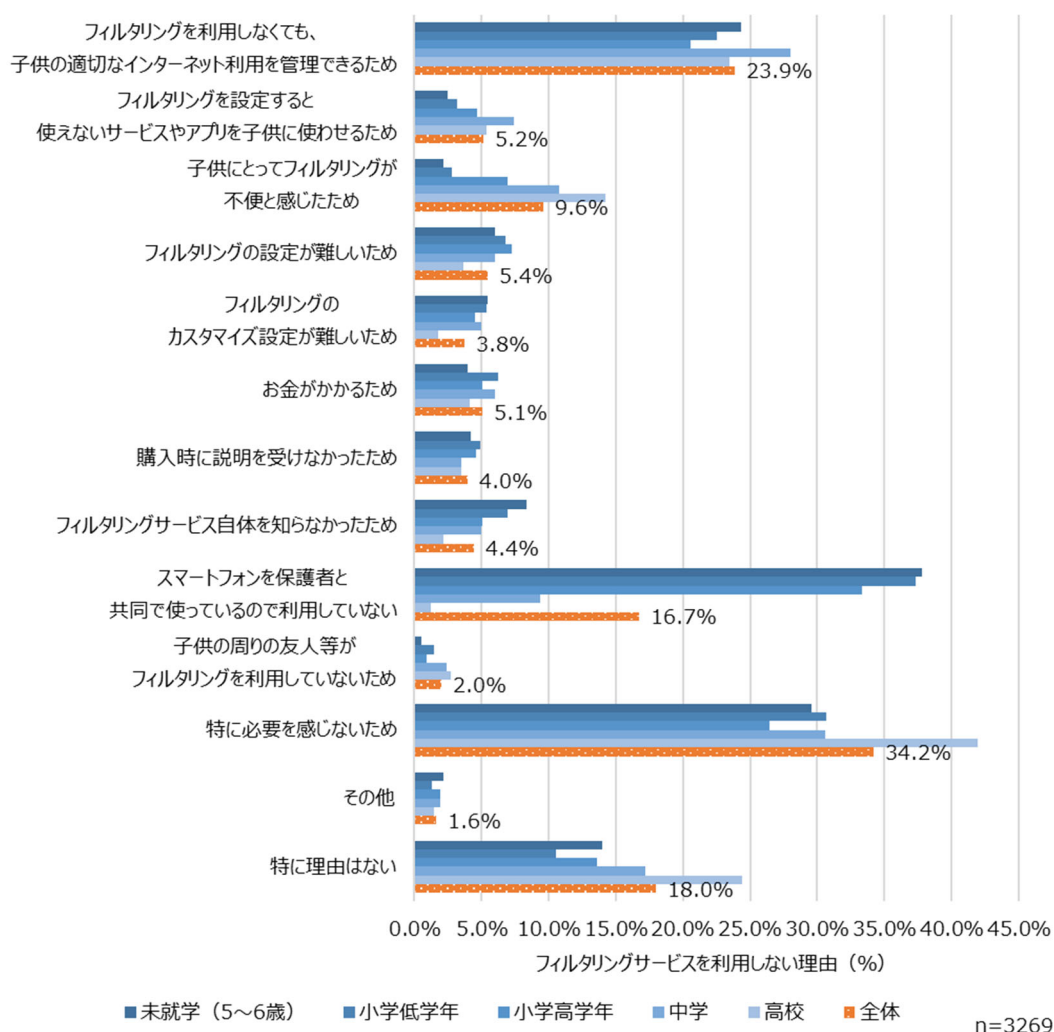
続けて、フィルタリングサービスを利用していない人（利用したことのない人）はなぜ利用しないのかを調査した結果が図表 3.21¹¹である。まず、全体の傾向を確認すると、最も多いのが「特に必要を感じないため」（34.2%）で、3位が「特に理由はない」（18.0%）である。このことから、多くの利用していない人が、明確な理由はなく必要ないと感じていることが分かる。その割合は解除理由を調査した図表 3.16 に比べても高い。このような人には、インターネットの問題が子供にもたらす危険性やフィルタリングサービスの効果に関する啓発によって、情報をインプットすることが有効と考えられる。

また、2位は「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」（23.9%）であった。これは解除理由を調査した図表 3.16 でも見られた傾向であり、子供を適切に管理できると思うことがフィルタリングサービス非利用に繋がっていることが分かる。

青少年の年齢別では、項目によってかなり傾向がはっきりしている。最も多かった「特に必要を感じないため」や、3位の「特に理由はない」では、高校生が突出して多い。これは子供が成長して必要がないと考える保護者が増えるためと考えられる。他方で、高校生が自画撮りや誘い出しといった被害に遭うことも少なくないため、事実誤認に基づいて安全（必要ない）と考えている可能性がある。一方で、2位だった「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」は全年齢で高い傾向にあった。

また、「スマートフォンを保護者と共同で使っているので利用していない」は顕著に未就学（5～6歳）から小学（高学年）までで多い傾向にある。フィルタリングサービスを親と共用のスマートフォンに導入すると、保護者自身の利用の際にいちいち解除する手間などが発生するので利用していない人が多いと考えられる。しかしながら、親と共同で利用していたとしても、有害情報へのアクセスや過剰な利用、支払い等が発生する可能性は専用機の場合と変わらない。このような場合でもフィルタリングサービスを利用するよう啓発していく必要がある。

¹¹ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，平成 30 年 3 月，https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai_html/index.html



図表 3.21 フィルタリングサービスを利用しない理由 (年齢別)

次に、フィルタリングサービスを利用していたが解除した人と、利用していない人について、どのような機能があれば利用したいと思うか調査したものが図表 3.22、図表 3.23¹²である。

まず、図表 3.22 で全体的な傾向を確認すると、最も多いのは「無料で利用できる」(47.9%)であり、2位が「子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる」

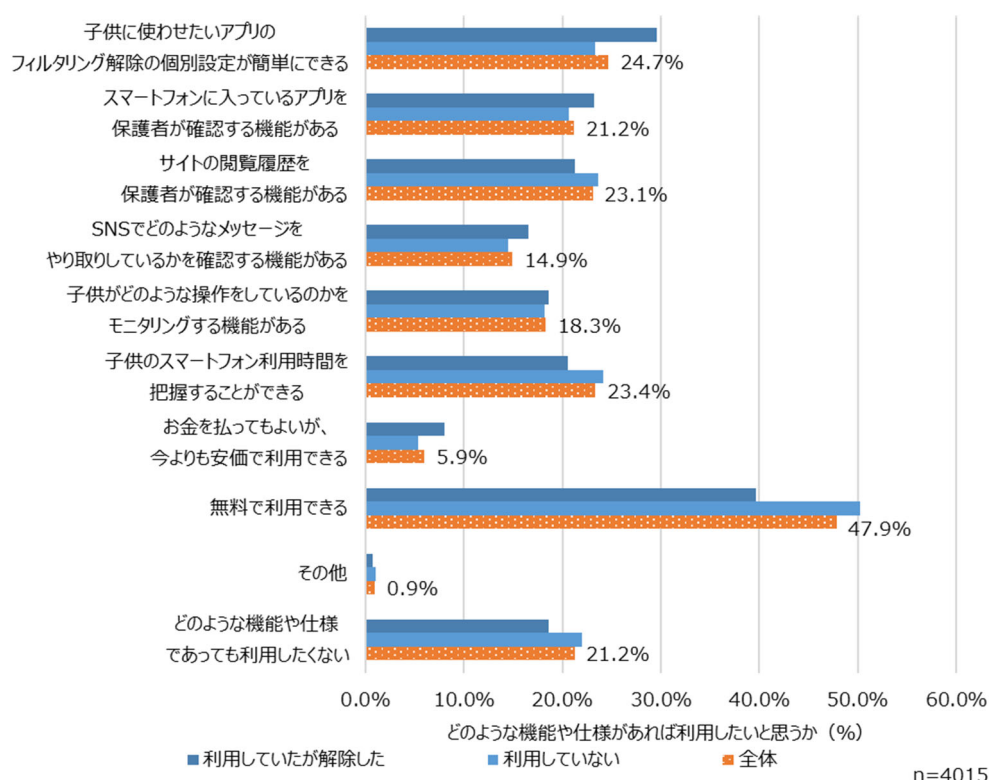
¹² 設問設計に当たり、以下の文献の中から不満の大きかった項目や、子供のスマートフォンの利用に関して保護者がしていることを参照した。
内閣府「平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」、平成 30 年 3 月、https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai_html/index.html
教育現場の ICT 安全安心対策事業 0 歳児からの IT 機器利用と保護者の情報モラル報告書、一般社団法人日本教育情報化振興会、平成 30 年 3 月、<http://www2.japet.or.jp/file/ParentsMoral.pdf>

(24.7%)、3位が「子供のスマートフォン利用時間を把握することができる」(23.4%)となった。2位、3位の機能は各フィルタリングサービスですでに実現している内容であり、内容を簡潔に啓発することが利用促進につながる可能性がある。ただし、2位以下は「お金を払ってもよいが、今よりも安価で利用できる」以外横ばいの傾向である。

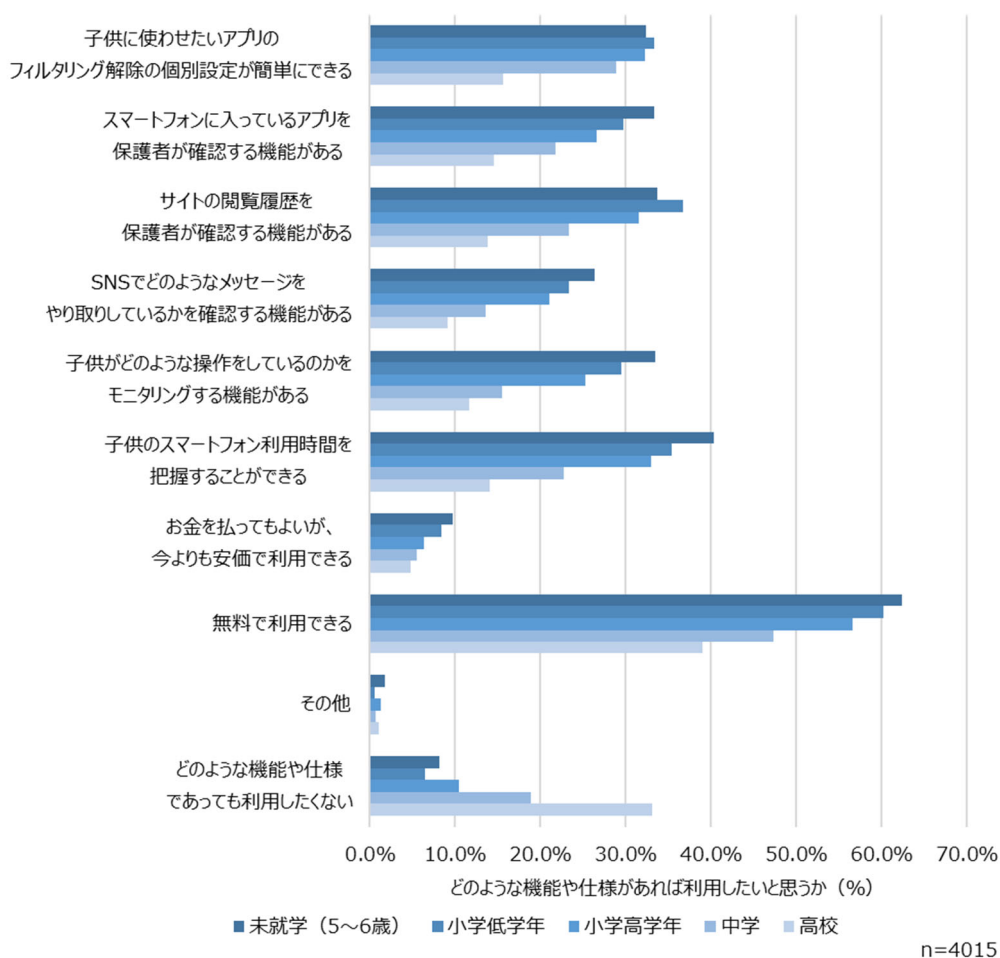
そして、フィルタリングサービスの利用状況による違いはほとんどなかった。

次に、図表 3.23 で青少年の年齢による違いを見ると、全体的に年齢が低い場合の方が利用したいと思う人が多いことが分かる。高校生については、そもそもフィルタリングサービス利用率が低いこと(図表 3.4)も含め、利用したいと思わない保護者が多く、それが反映されているといえる。しかしながら、最も利用率が低いのは未就学(5~6歳)であり、中学生の利用率は決して低くなかったことを考えると、ほぼ単調減少になるのは興味深い。

1つ理由として考えられるのは、未就学(5~6歳)の保護者はフィルタリングレベルを強めにしている(図表 3.10)一方で、フィルタリングサービス認知率(図表 3.1)は低めで、販売店での説明もあまり受けていない(図表 3.7)。そのため機能に詳しくなく、このような機能があれば利用したいと思うことが多いと推測される。つまり、特に青少年保護者へのフィルタリングサービスの効果・設定方法の啓発は効果があると考えられる。



図表 3.22 フィルタリングサービスにどのような機能があれば利用したいと思うか (利用状況別)



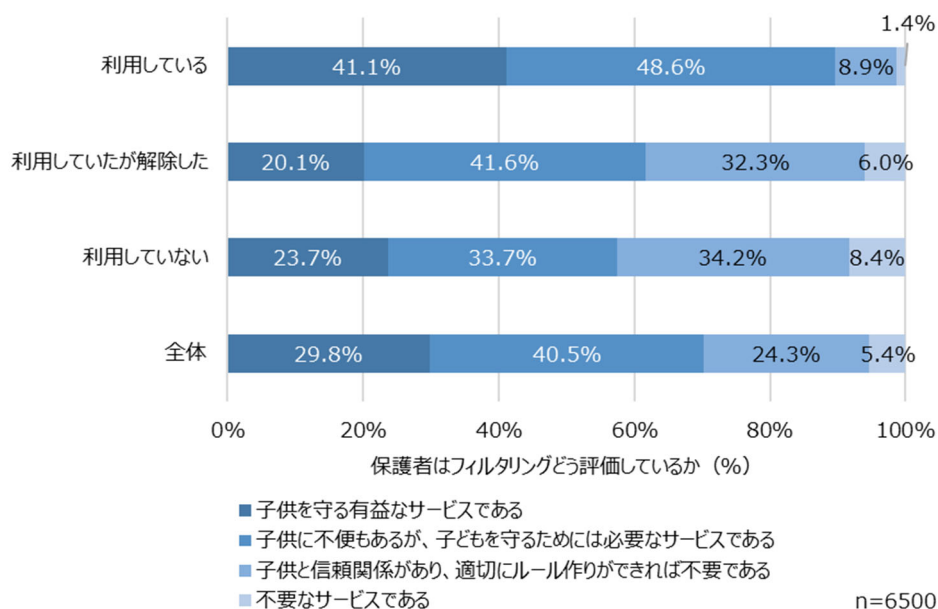
図表 3.23 フィルタリングサービスにどのような機能があれば利用したいと思うか
(年齢別)

3. 5. フィルタリングサービスに対する評価

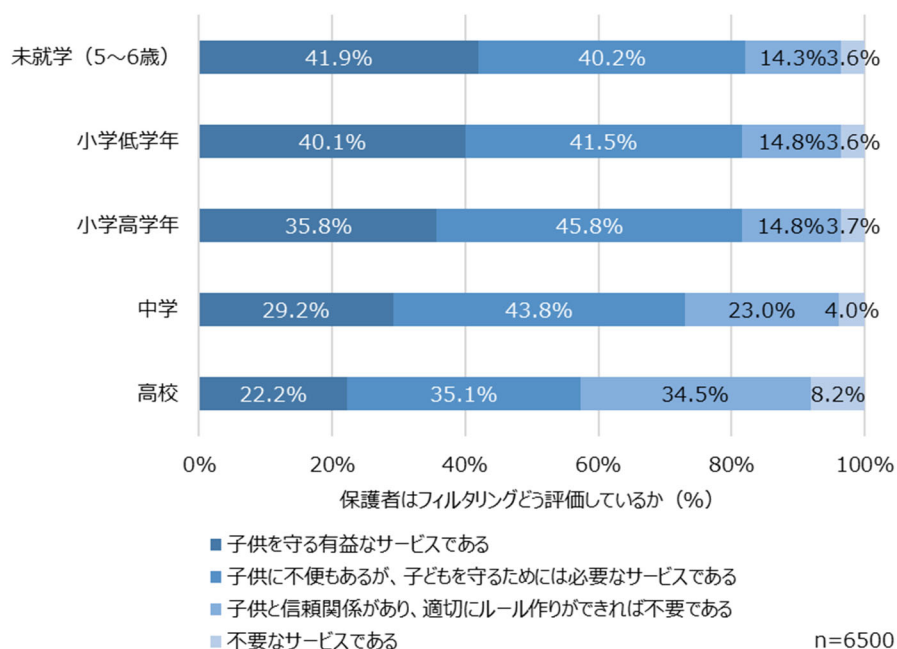
これらフィルタリングサービスについて保護者はどのように評価しているのかを調査した結果が図表 3.24 と図表 3.25 である。まず、図表 3.24 を見ると、「子供を守る有益なサービスである」(29.8%)と「子供に不便もあるが、子供を守るためには必要なサービスである」(40.5%)を合わせて 70%の人はその効果を肯定的に評価していることが分かる。ただし、「子供と信頼関係があり、適切にルール作りができれば不要である」も 24.3%と少なくない割合で存在する。また、フィルタリングサービスを利用しているかどうかで傾向は全く異なり、利用していたが解除した人では 40%弱が、利用していない人では 40%以上が不要と考えている。

また、青少年の年齢別に見た図表 3.25 では、年齢が高くなると有益と考える人が減り、特に中学生以上だと不要と考える人が顕著に増えることが分かる。高校生保護者の 34.5%が「子供と信頼関係があり、適切にルール作りができれば不要である」と考え、8.2%が「不要

なサービスである」と考えていた。しかし実際には、これまでも度々記述しているように、個人間取引の詐欺、架空請求、誘い出しなど、高校生が被害に遭うケースも少なくない。高校生でもインターネット利用に危険性があることを啓発することが重要と思われる。



図表 3.24 保護者はフィルタリングサービスをどのように評価しているか (利用状況別)



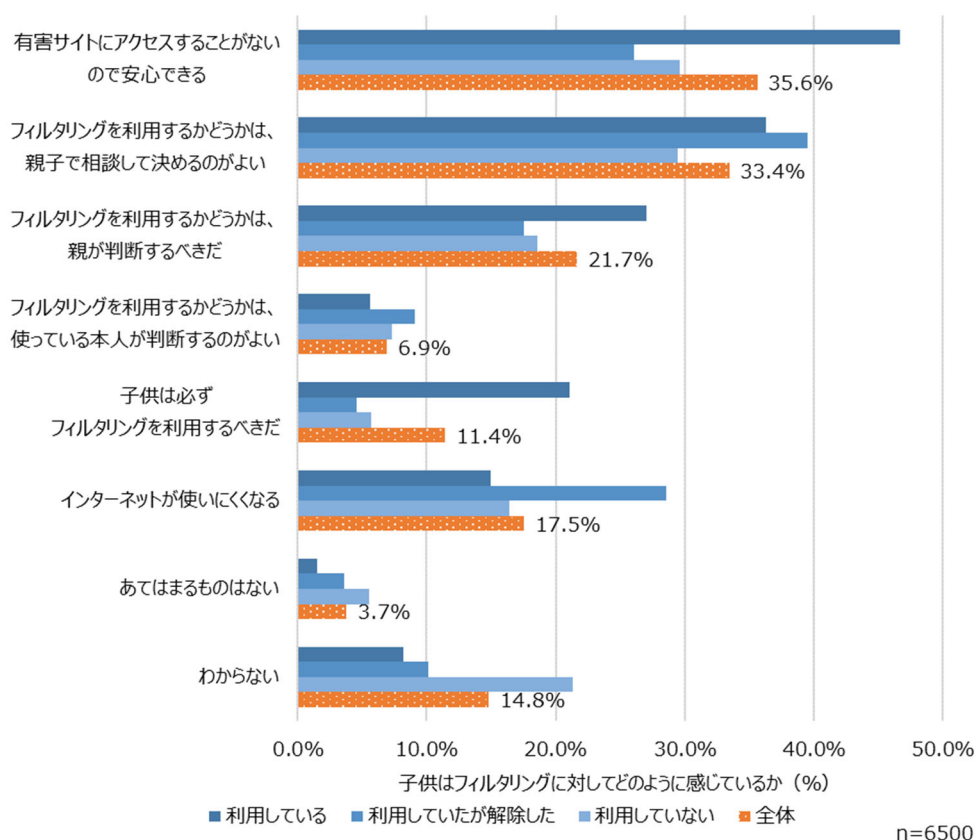
図表 3.25 保護者はフィルタリングサービスをどのように評価しているか (年齢別)

続けて、フィルタリングサービスに対して青少年がどのように考えているか調査したの

が図表 3.26、図表 3.27¹³である。ただし、これらは保護者による回答（保護者が青少年の考えを代わりに答えているもの）であることに注意されたい。

まず、図表 3.26 で全体の傾向を見ると、「有害サイトにアクセスすることがないので安心できる」(35.6%)、「フィルタリングを利用するかどうかは、親子で相談して決めるのがよい」(33.4%)が多い。一方で、「フィルタリングを利用するかどうかは、使っている本人が判断するのがよい」は 6.9%と、ほとんどいなかった。ただし、「インターネットが使いにくくなる」は 17.5%で 4 位となっている。

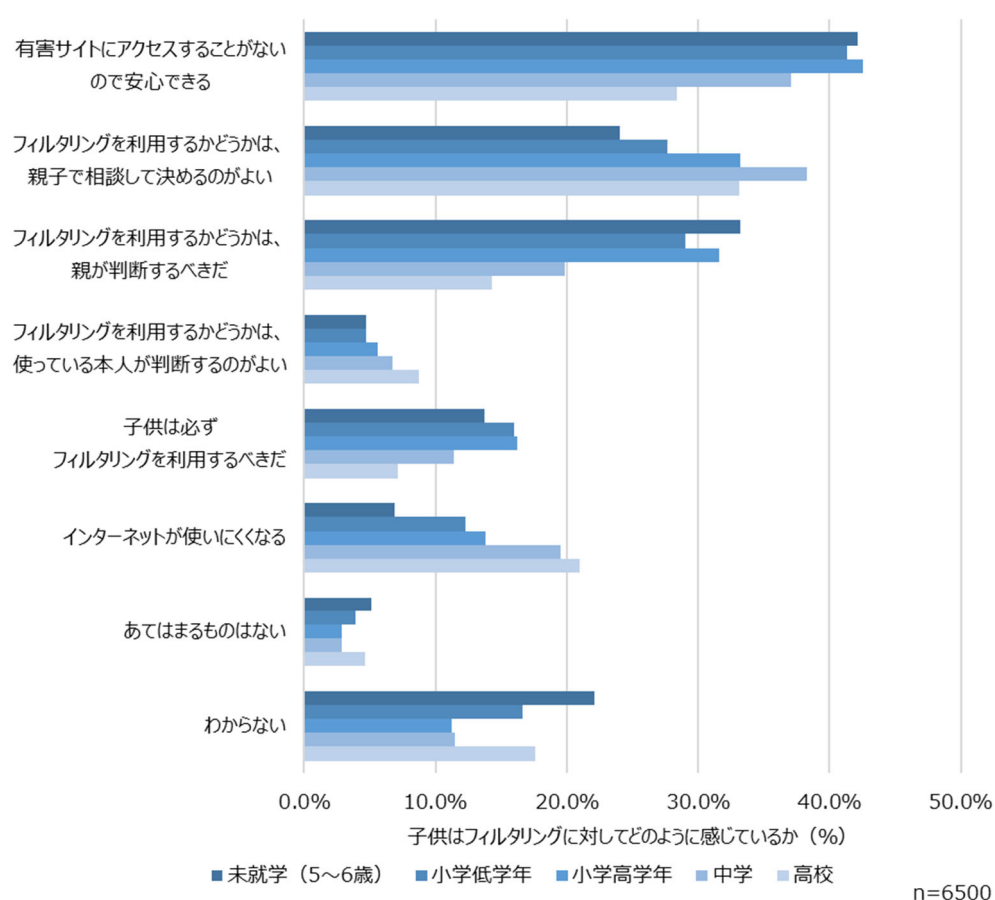
また、フィルタリングサービスの利用状況によって顕著に違いが見られ、「有害サイトにアクセスすることがないので安心できる」は利用している人で非常に多い。そして、「インターネットが使いにくくなる」は利用していたが解除した人で多く、実際にそのような意見を青少年から聞いて解除したであろうことが予想される。



図表 3.26 青少年はフィルタリングサービスをどのように評価しているか（利用状況別）

¹³ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「平成 23 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，平成 23 年 10 月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h23/net-jittai/html/index.html>より抜粋

図表 3.27 で青少年の年齢別の傾向を見ると、「有害サイトにアクセスすることがないので安心できる」は中学生以降少なくなり、これがフィルタリングサービス利用状況に影響を与えていることが予想される。また、「フィルタリングを利用するかどうかは、親子で相談して決めるのがよい」は年齢が高くなると多くなり、「フィルタリングを利用するかどうかは、親が判断するべきだ」は少なくなっている（特に中学生以降）。「インターネットが使いにくくなる」も年齢が高くなるにつれて多くなっていることから、子供が成長と共にインターネットで様々なことをやりたくなる中で、保護者に不便を訴えることが多くなっている状況が良くわかる。



図表 3.27 青少年はフィルタリングサービスをどのように評価しているか (年齢別)

3. 6. フィルタリングサービス以外の施策の利用・実施状況

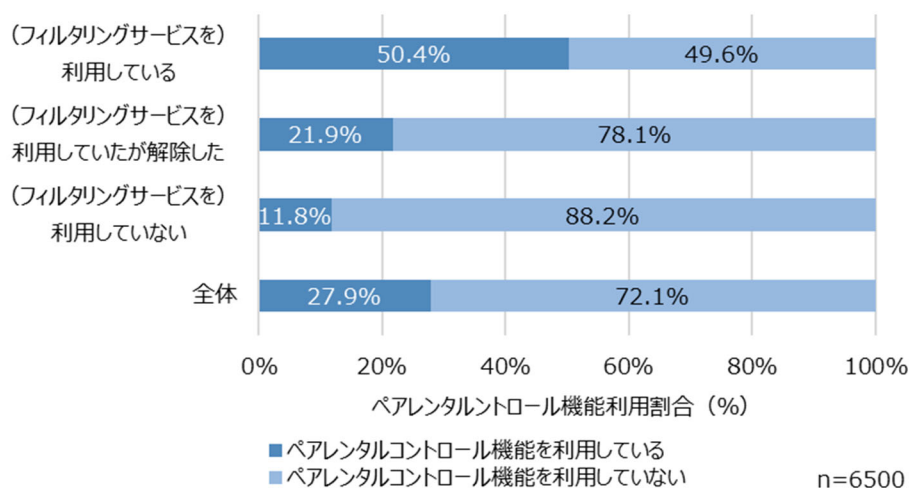
本章最後に、フィルタリングサービス以外の施策について利用・実施状況を見る。調査す

るのは、ペアレンタルコントロール機能¹⁴の利用と、家庭内のルールの有無である。

まず、フィルタリングサービス以外の何らかのペアレンタルコントロール機能を利用しているか調査した結果が図表 3.28、図表 3.29 である。ただし、ペアレンタルコントロール機能の導入として、「アプリ内の設定をしている」「SNS の利用監視サービス (Filli 等) を導入している」「時間管理アプリや機能を導入している」「その他のペアレンタルコントロール機能を導入している」を挙げている。

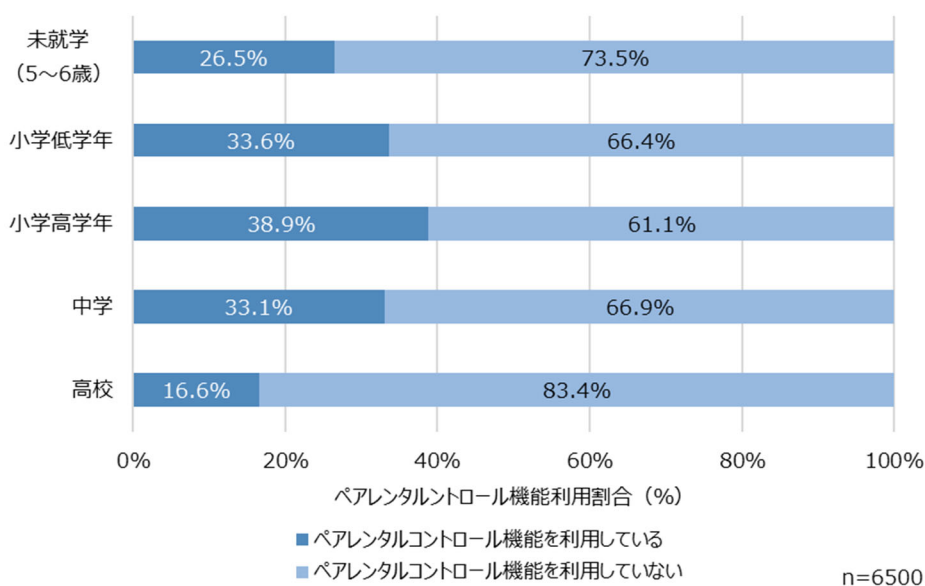
図表 3.28 を見ると、全体で 27.9%の人が利用しているが、これはフィルタリングサービス利用状況によって大きく異なり、フィルタリングサービスを利用している人では 50.4%なのに対して、利用していたが解除した人では 21.9%、利用していない人では 11.8%となっている。つまり、「フィルタリングサービス以外の何かを導入しているから、フィルタリングサービスを導入していない」という動きはほとんど見られない。フィルタリングサービスを利用している人はその他の施策も実施しており、利用していない人はその他の施策も実施していないという状況が浮き彫りになった。

また、青少年の年齢別の傾向を見た図表 3.29 では、利用している人の割合が、小学高学年をピークとした山型となっていることが分かる。これは、フィルタリングサービスの利用率を示した図表 3.4 の形に似ている（ただし、図表 3.4 ではピークは中学生であった）。これも、フィルタリングサービスを利用している人はその他の機能も利用していないということが影響していると考えられる。



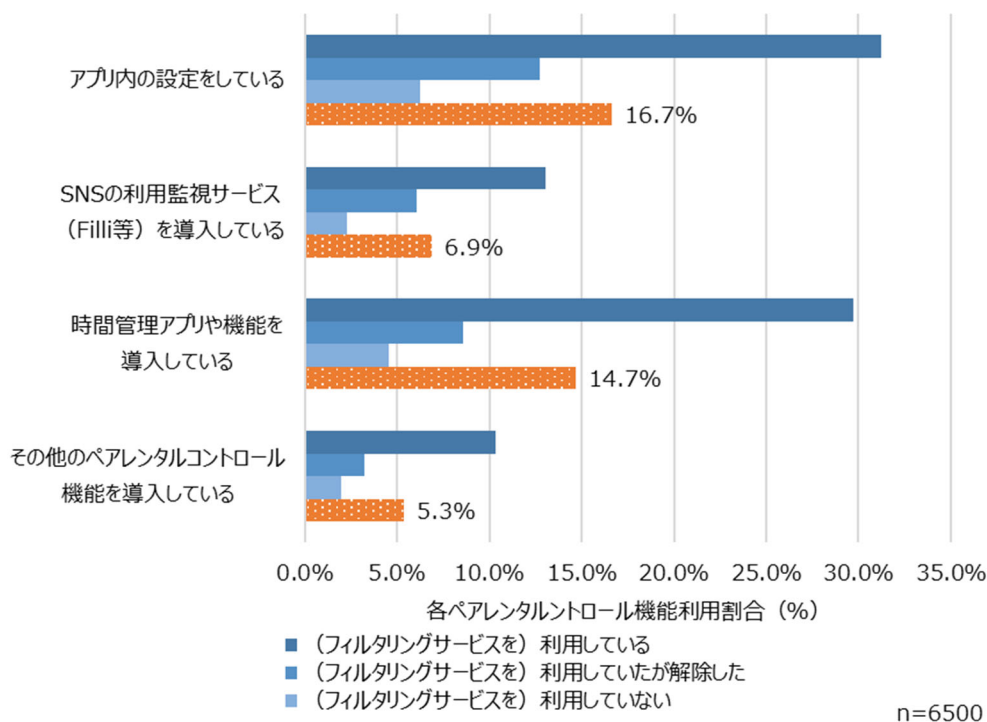
図表 3.28 ペアレンタルコントロール機能の利用状況 (利用状況別)

¹⁴ 本調査研究におけるペアレンタルコントロール機能とは、保護者が子供の使う端末の機能を制限できる機能である。具体的には、図表 3.30 の 4 つの機能「アプリ内の設定」「SNS の利用監視サービス (Filli 等)」「時間管理アプリや機能」「その他のペアレンタルコントロール機能」を指し、この 4 つを指すことはアンケート調査回答者に明示している。

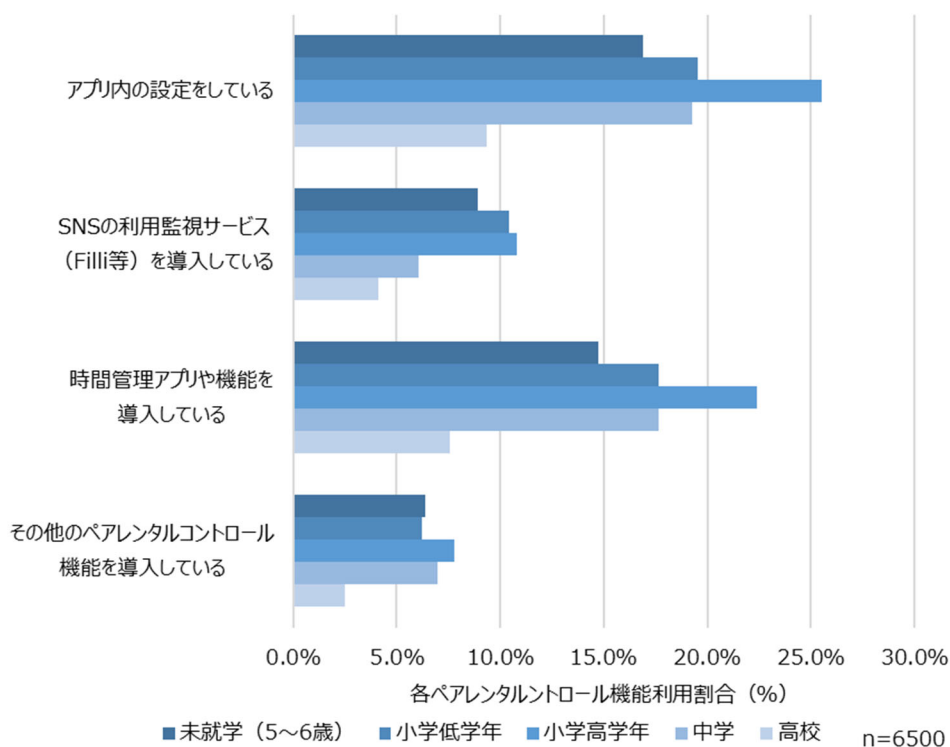


図表 3.29 ペアレンタルコントロール機能の利用状況 (年齢別)

また、個別の機能内容について調査した結果が図表 3.30、図表 3.31 である。全体的には「アプリ内の設定をしている (16.7%)」と「時間管理アプリや機能を導入している」(14.7%)が多く、SNS の利用監視サービスはあまり利用されていない。フィルタリングサービス利用状況別、青少年の年齢別の傾向は図表 3.28、図表 3.29 の形と酷似しており、機能ごとに傾向の際は無いといえる。



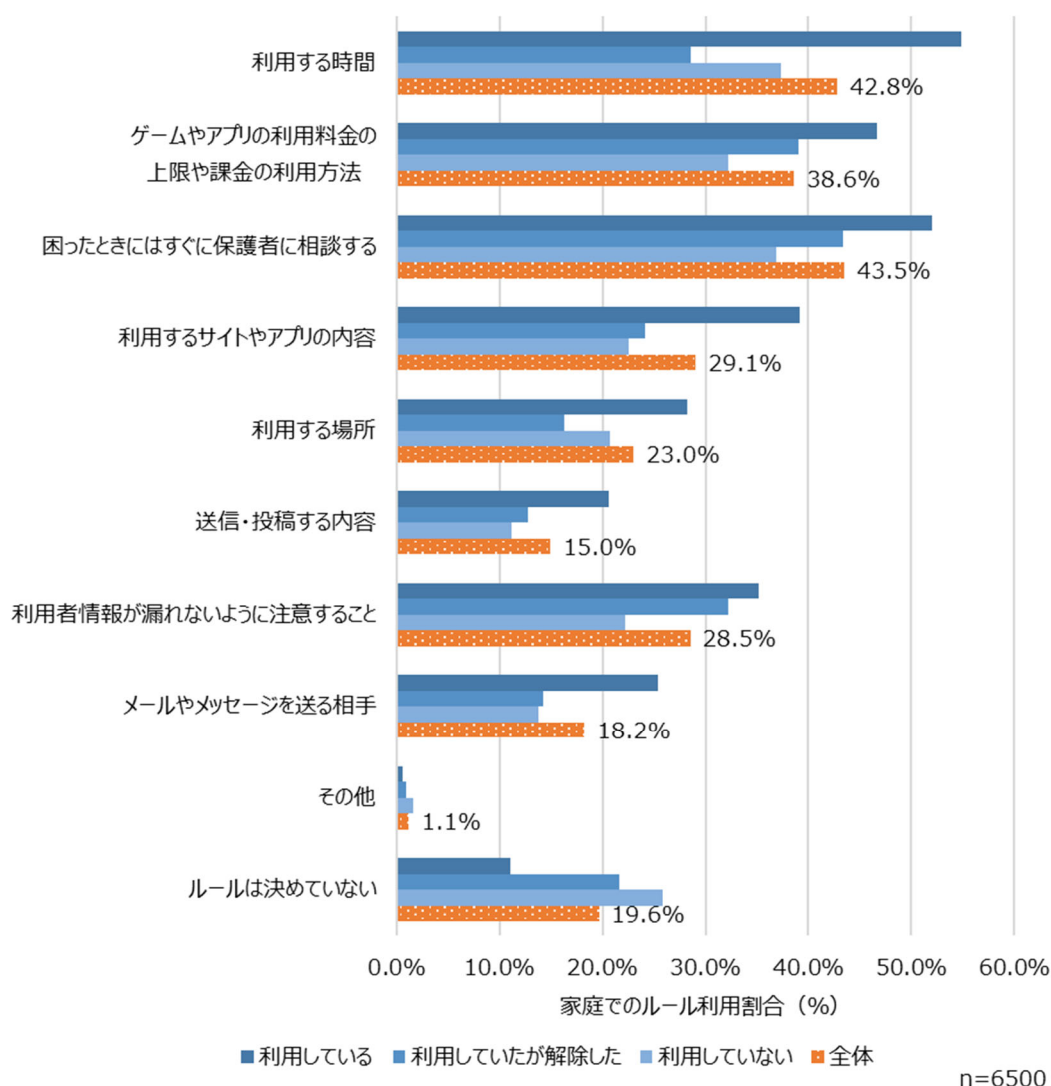
図表 3.30 各ペアレンタルコントロール機能の利用状況 (利用状況別)



図表 3.31 各ペアレンタルコントロール機能の利用状況 (年齢別)

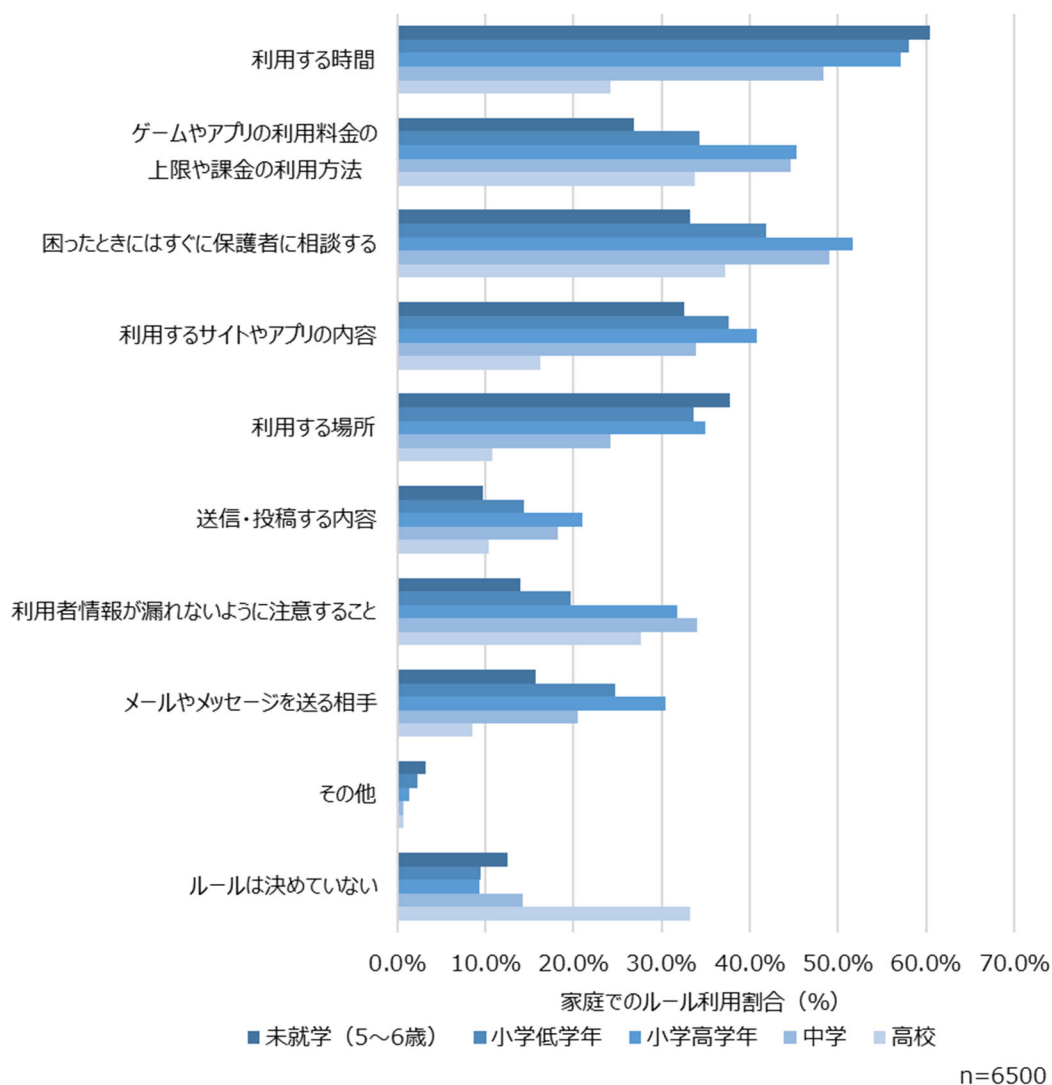
さらに、家庭内でのスマートフォンの使い方のルールについて調査した結果が図表 3.32 と図表 3.33 である。まず、図表 3.32 で全体の傾向を見ると、「ルールは決めていない」人は 19.6%しかおらず、80%以上の人は何らかのルールを決めていることが分かる。最も多いのが「困ったときはすぐに保護者に相談する」(43.5%)で、2位が「(スマートフォンを) 利用する時間」(42.8%)、3位が「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法」(38.6%)となっている。保護者との連携や、利用時間・利用金額に関してルールが決められている場合が多い。最も少ないのは「送信・投稿する内容」(15.0%)であり、SNS やメッセージアプリでのやり取りは、プライベートな内容に踏み込むこともあり、ルールが決められていないことが分かる。ただし、SNS でのやり取りから問題が発生することも多いので、ここでのルール作りの重要性も啓発する必要があると考えられる。

フィルタリングサービス利用状況による違いを見ると、「その他」以外の全てのルールについて、フィルタリングサービス利用者の方がルールを決めていることが分かる。ペアレンタルコントロール機能と同様に、フィルタリングサービスを利用している人の方がそもそも青少年保護に関する意識が高く、その他の施策も実施していることが分かる。逆にいうと、フィルタリングサービスを利用していない人は何の施策もとっていないなかったり、ルールも少なかったりするといえるため、危険性を啓発するなど、何らかの方法で青少年保護への意識を高めてもらうことが大切といえる。



図表 3.32 家庭でのルール実施状況（利用状況別）

次に、青少年の年齢別の図表 3.33 を確認すると、「利用する時間」「利用する場所」は未就学（5～6 歳）から小学（高学年）でルールとして決められていることが多いことが分かる。これらはいずれも利用にあたる大枠の部分であり、低年齢層では全体的なルールが多く、年齢が上がるにつれて細かいルールが決められていくと考えられる。また、多くのものは小学（高学年）や中学でルールとして決めている人が多い山型の分布となっており、これも図表 3.4 のフィルタリングサービス利用率と似ている。図表 3.32 と同様に、フィルタリングサービスを利用している人はルールも積極的に決めていたためと考えられる。



図表 3.33 家庭でのルール実施状況 (年齢別)

4. 「インターネットの問題に関する知識・危険性認知」「フィルタリングサービスの知識・有効性認知」と実際のフィルタリングサービスの利用状況

本章では、保護者がインターネットの問題やフィルタリングサービスに対してどれほど知識を持っているか、インターネットの問題に関する危険性やフィルタリングサービスの有効性をどれほど認知しているかを見ていく。また、それらがフィルタリングサービス利用行動とどのように関連しているかも確認する。

4. 1. インターネットの問題に関する知識・危険性認知やフィルタリングサービスの知識・有効性認知の状況

本節では、インターネットの問題やフィルタリングサービスに関する保護者の知識や、子供への危険性認知、フィルタリングサービスの有効性認知についての調査結果を示す。

まず、インターネットの問題に関する「インターネット上のコミュニケーションに関する問題（誹謗中傷、ネットいじめ等）」といった各項目について、「1点：全く知らない」～「6点：非常によく知っている」の6件法で知識を調査した結果が図表 4.1¹⁵となる。

図表 4.1 を見ると、全体的に約 4.5 と知っている人が多いことが分かる。本調査研究の有識者会議でも「インターネットの問題について全く知らない保護者は少ない」という指摘があったが、それと整合性の取れる結果である。

個別に見ると「インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題」が 4.43 で最も低く、「インターネット上のコミュニケーションに関する問題」が 4.65 で最も高い。これは、保護者にとって身近かどうかの影響を与えていると考えられる。ただし、全体を通して 4.43 から 4.65 の間に入っているということは差が小さく、項目による知識の差異はほとんどないといえるだろう。

また、図表 4.2 では、各項目の平均値をとったものを青少年の年齢別に見ている。最も高いのは小学高学年（4.60）、最も低いのは高校生（4.52）となっているが、差が小さいことが

¹⁵ 設問設計に当たり以下を参照している。：

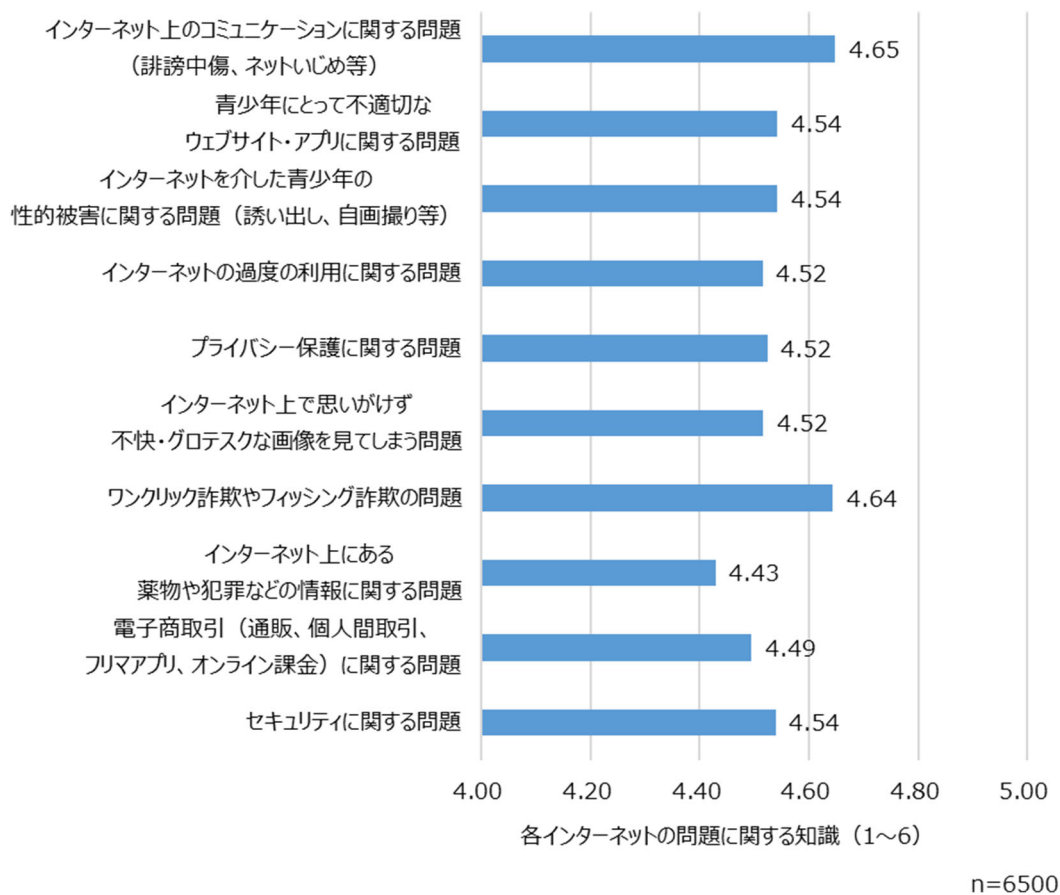
内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和 2 年 4 月，

<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai-html/index.html>

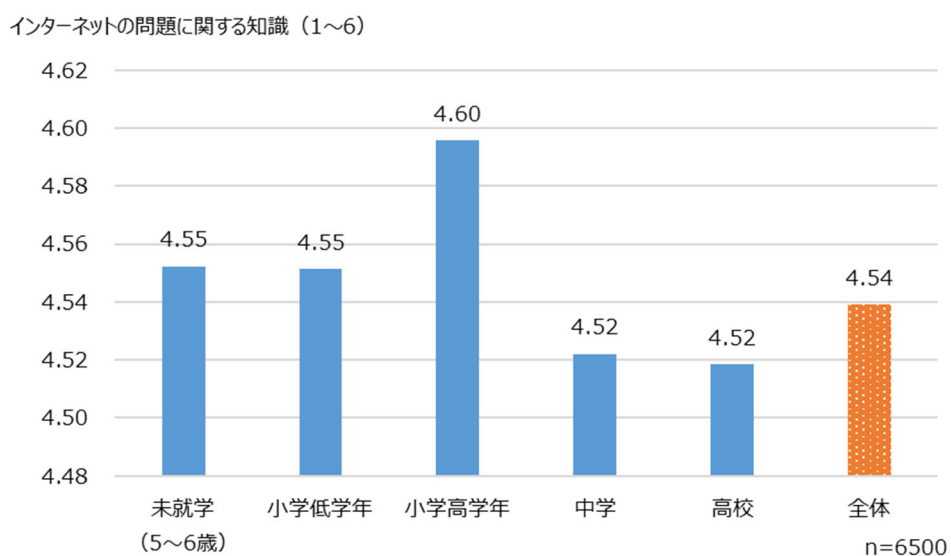
青少年のインターネット・携帯電話利用に関するアンケート，慶應義塾大学 & デジタルアーツ株式会社，2010.1.26，

https://www.daj.jp/company/release/common/data/2010/reference_r012601_2010.pdf

分かる。



図表 4.1 各インターネットの問題に関する知識



図表 4.2 インターネットの問題に関する知識 (年齢別)

次に、フィルタリングサービスの各知識について、項目ごとに正答率を見たものが図表 4.3、総合的な点数を青少年の年齢別に見たものが図表 4.4¹⁶である。調査に当たっては、フィルタリングサービスの機能について 10 問出題し、正しいものを 5 つ選択してもらうクイズ形式で調査した。選択肢は以下ようになっており、1、2、3、7、10 が正解である。正解した数をそのまま知識の点数とした。

1. フィルタリング専用ブラウザでインターネットにアクセスする際に有害情報を遮断することができる
2. スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる
3. スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる
4. 許可したアプリケーションからアクセスするインターネット上の有害情報を遮断することができる
5. 子供の居場所を確認することはできない
6. フィルタリングで規制されたアプリケーションは、どんなものであっても、後から利用できるように変更することはできない
7. フィルタリングの対象年齢の設定は子供の学齢に合わせて、複数のレベルで設定することができる
8. フィルタリング設定は遠隔では変更できないので、子供のスマートフォンから直接変更する必要がある
9. 有害サイトやアプリケーションの利用制限はできるが、使い過ぎを防ぐ利用時間の制限はできない
10. 学齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる

まず図表 4.3 を見ると、正答率はおおよそ 70%であり、最も高いのが「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」(76.8%) で最も低いのが「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」(65.0%) であることが分かる。フィルタリングサービスが制限をかけるものであることは多くの保護者が知っている一方で、管理が可能なことは比較的知っている人が少ないといえる。

¹⁶ 設問設計に当たり以下を参照している。:

保護者のみなさまへ | もっとグッドネット - 安心ネットづくり促進協議会,

<https://www.good-net.jp/safe-internet/503/>

あんしんフィルター for au, <https://www.au.com/mobile/service/anshin-filter/>

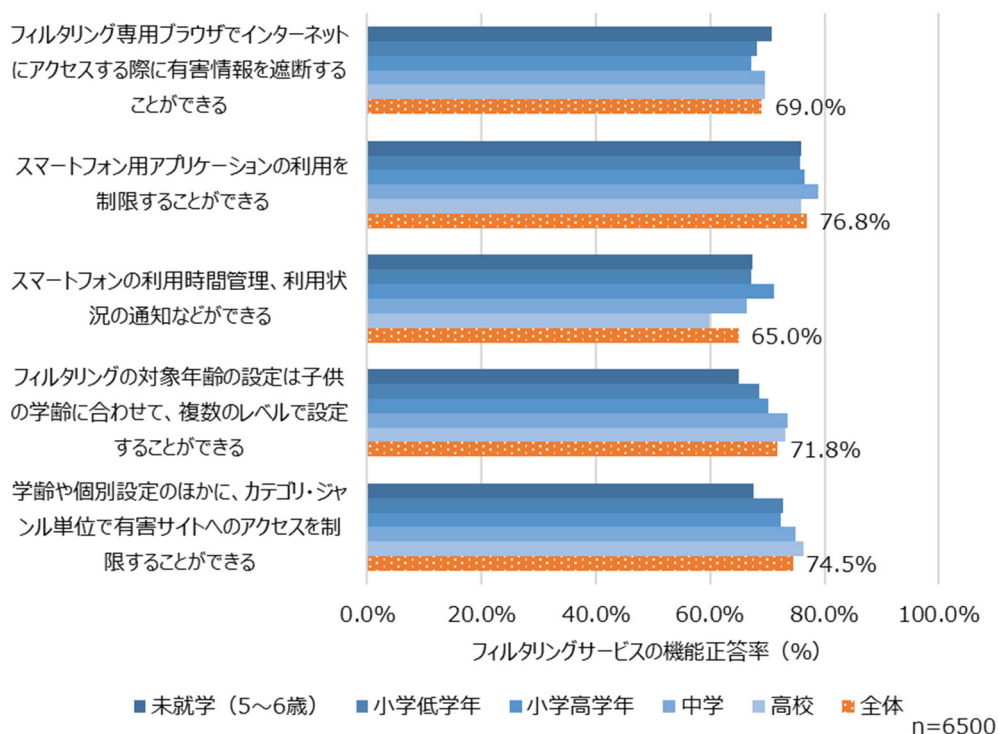
フィルタリングとは？仕組みやメリット、設定方法について徹底解説, Cyber security.com,

2019.7.3, <https://cybersecurity-jp.com/security-measures/32076>

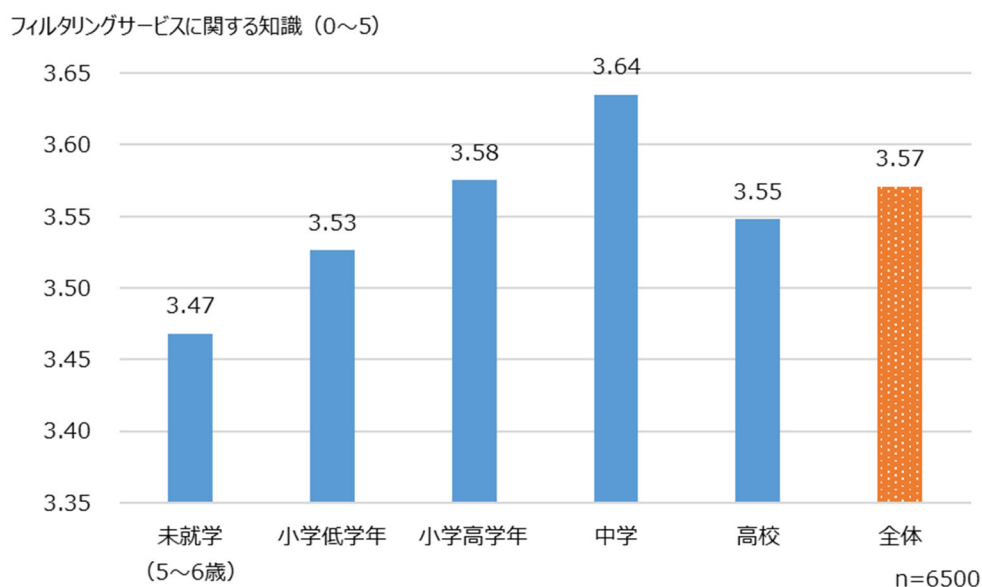
子どもスマホあんしん講座, netstar, view-source:<https://www.netstar-inc.com/sp/faq.html>

フィルタリングの誤解【1】 「危険じゃないサイトまでブロックする」って言うけど、それ本当？, Digital Arts, 2016.5.12, https://www.daj.jp/cs/newswatch/160512_01/

また、点数を図表 4.4 で確認すると、平均して 3.57 点（0 点～5 点満点）であり、中学生保護者で最も正答率が高く（3.64 点）、未就学（5～6 歳）保護者で最も低い（3.47 点）事が分かる。ただし、この差は大きくない。



図表 4.3 各フィルタリングサービスの機能に関する知識（年齢別）

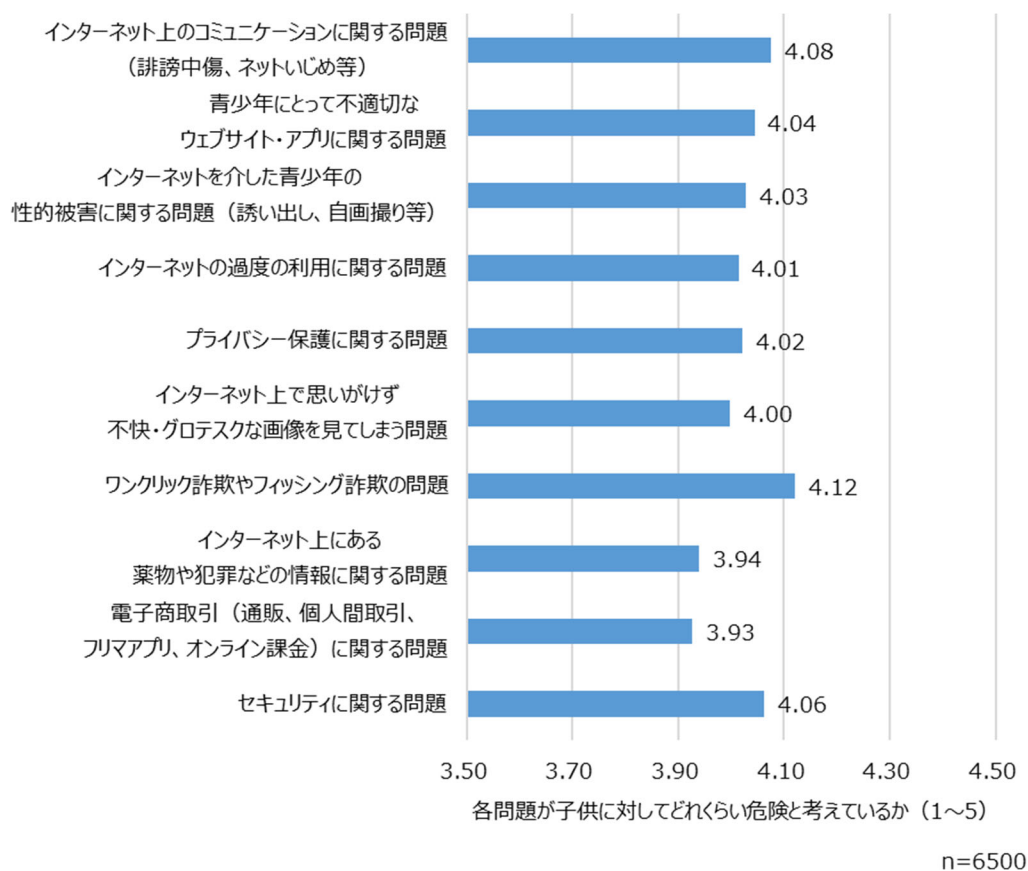


図表 4.4 フィルタリングサービスの機能に関する知識（年齢別）

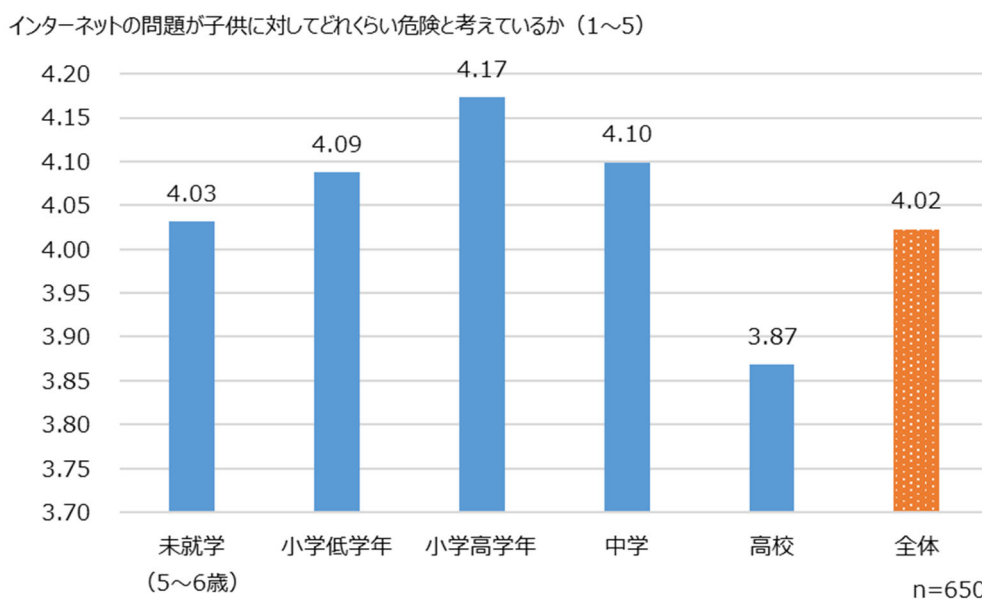
そして、図表 4.1 で取り扱った項目について、それが自分の子供にとってどれくらい危険か調査した結果が図表 4.5、項目の平均値である危険度認知度が青少年の年齢別にどのように異なるか見たものが図表 4.6 である。調査に当たっては、「1 点：危険だと考えていない」～「5 点：危険だと考えている」の 5 件法で調査している。

まず、図表 4.5 からは、「電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）に関する問題」（3.93）」が最も低く、「ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題」（4.12）が最も高いものの、項目間での差はほとんどないことが分かる。

続けて図表 4.6 を見ると、全体で 4.02 と危険と考えている人が多いことが分かり、また、小学高学年（4.17）が最も高く、高校生（3.87）が最も低い。これも年齢により大きな差があるとは言い難いものの、図表 4.2 に比べると明らかに年齢による違いが出ている（さらに、図表 4.2 は 6 点満点、図表 4.5 は 5 点満点である）。つまり、インターネットの問題に関する知識に比べ、それが子供に危険かどうかという危険性認知度は、青少年の年齢によって差が大きいといえる。特に高校生保護者は、インターネットの問題が自分の子供には危険でないといえるといえる。



図表 4.5 各インターネットの問題が子供にどれくらい危険と考えているか

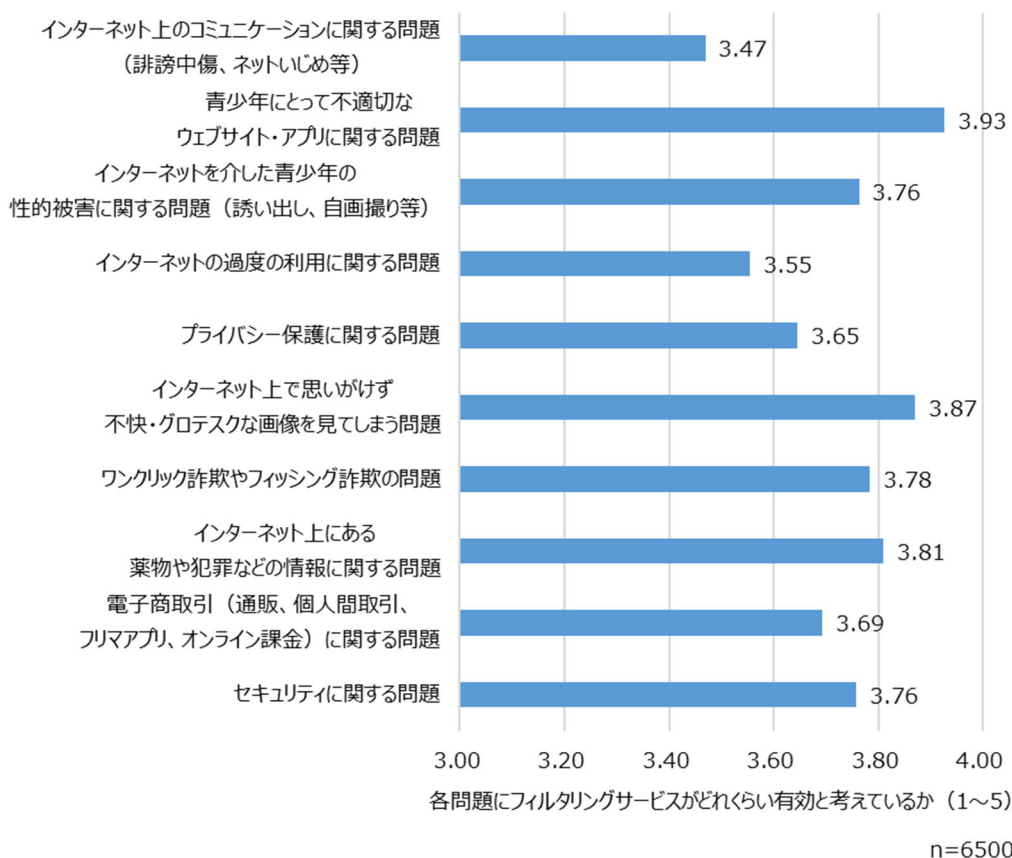


図表 4.6 インターネットの問題が子供にどれくらい危険と考えているか (年齢別)

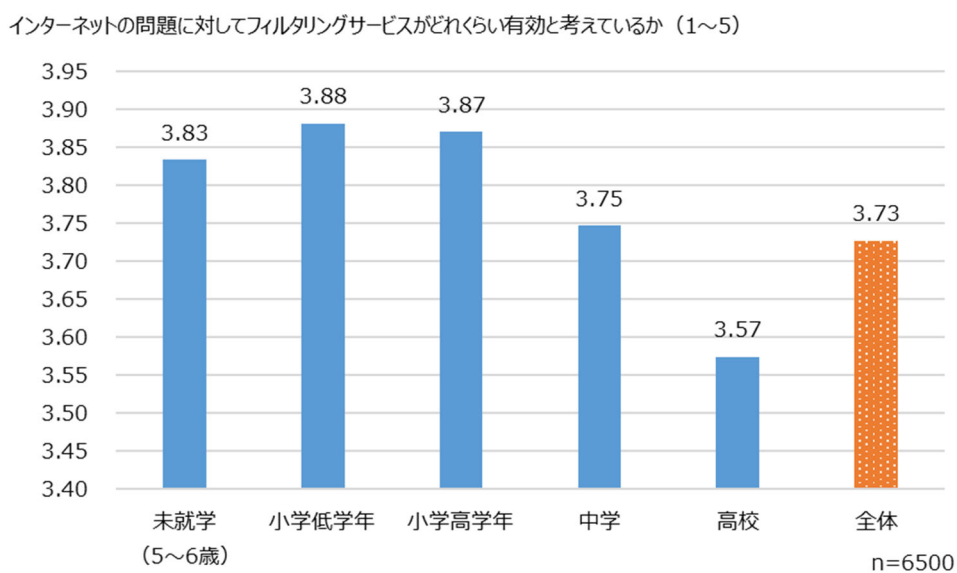
最後に、インターネットの各問題に対し、フィルタリングサービスがどれほど有効と考えているかを「1点：フィルタリングが有効だと思っていない」～「5点：フィルタリングが有効だと思っている」の5件法で調査した結果が図表 4.7、その平均値を青少年の年齢別にまとめたのが図表 4.8 である。

図表 4.7 を見ると、おおよそどの項目でも 3.7 程度の値となっており、少なからずフィルタリングサービスが各問題に対して有効だと考えられていることが分かる。内訳では「青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題」(3.93) が最も高く、「インターネット上のコミュニケーションに関する問題 (誹謗中傷、ネットいじめ等)」(3.47) が最も低かった。その差は 0.5 となっており、図表 4.1 や図表 4.3 と比べても大きい。この項目に挙げたインターネットの各問題は、どれもフィルタリングサービスで何らかの対処が可能なものであるが、その有効性の認知は項目によって異なるといえる。

また、青少年の年齢別の図表 4.8 からは、低年齢層で有効と考えている保護者が多い一方で、高校生保護者は 3.57 と低めになっていることが分かる。図表 4.6 では自分の子供に危険性がないと考えている高校生保護者が多いことが明らかになったが、同時にフィルタリングサービスの有効性も低いと考えていることが分かる。またこれらの結果は、図表 3.25 で「子供を守る有益なサービスである」と考えている人が高校生保護者で少なかったこととも整合性が取れる。



図表 4.7 各インターネットの問題に対してフィルタリングサービスがどれくらい有効と
考えているか



図表 4.8 インターネットの問題に対してフィルタリングサービスがどれくらい有効と考
えているか (年齢別)

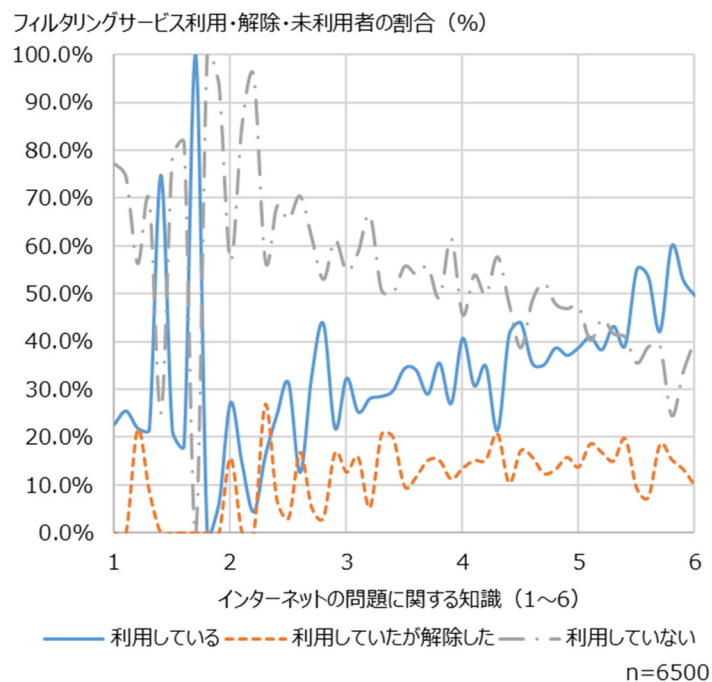
4. 2. 知識や危険性・有効性の認知とフィルタリングサービス利用行動の関係

では、これらの知識や危険性・有効性の認知と、フィルタリングサービス利用行動にどのような関係があるだろうか。その関係について分析した結果が図表 4.9～図表 4.12 である。それぞれ、図表 4.9 は「インターネットの問題に関する知識」、図表 4.10 は「フィルタリングサービスに関する知識」、図表 4.11 は「インターネットの問題の子供への危険性認知」、図表 4.12 は「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」と、フィルタリングサービス利用状況との関係を見ている。横軸はそれぞれの知識や危険性・有効性認知の値であり、縦軸はその値において該当するフィルタリング利用状況の人の割合を示している。ただし、各指標において 0 点や 1 点の人は極めて少ないため、少数のフィルタリングサービス利用状況に結果が引っ張られていることは留意されたい。

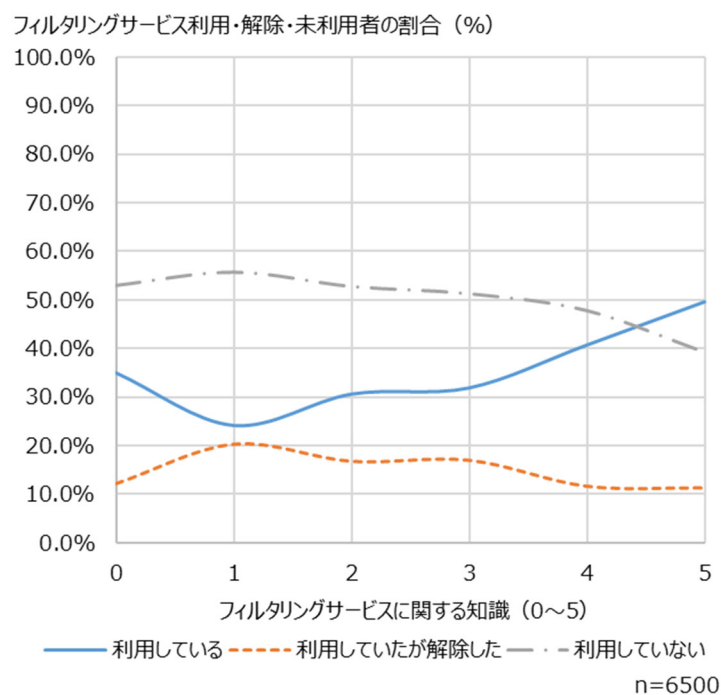
全ての図表を通していえることは以下の通り。まず、知識や危険性・有効性の認知が高くなるほど、概ねフィルタリングサービスを利用している人が増加する傾向にある。その一方で、フィルタリングサービスを利用していない人は減少する。外れ値はあるものの、この傾向はほぼ一貫しており、U 字型とは言い難い。先行調査¹⁷では、知識の少ない人について、「知識が少ないので不安につながり、情報を取得しペアコンを実施」「知識が少ないのでコントロールの仕方がわからず実施に至らず」という両パターンあることや、知識の多い人について、「知識が多いので対策をよく理解した上でペアコンを実施する傾向」「知識が多いので保護者自身が解決可能でありペアコンは不要」という両パターンある可能性が指摘されていたが、少なくとも本調査研究ではそのような傾向はみられず、知識や危険性・有効性の認知とフィルタリングサービス利用は明らかな正の相関をしている。これは知識の内容を細分化して詳細に聞いたことや、インターネットの問題に関する知識以外にも対象としていること、フィルタリングサービスの利用に対象を絞ったことが影響していると考えられる。

その一方で、フィルタリングサービスの利用を解除した人の割合についてはやや違う傾向がみられる。それは、インターネットの問題に関する知識についての図表 4.9 においては、外れ値が多いと考えられる 1～3 点未満の人を除いても、横ばい、あるいは点数が高くなるにつれて解除している人が多くなる傾向がみられるということである。これは図表 4.10～図表 4.12 には見られない傾向である。フィルタリングサービスの知識やインターネットの問題に関する危険性認知、フィルタリングサービスの有効性認知と異なり、インターネットの問題に関する知識が多くなったとしても、フィルタリングサービスを解除する人は減らないといえる。もし解除を食い止める施策を考えるならば、フィルタリングサービスの知識や、危険性・有効性認知を向上させるのが適していると予想される。

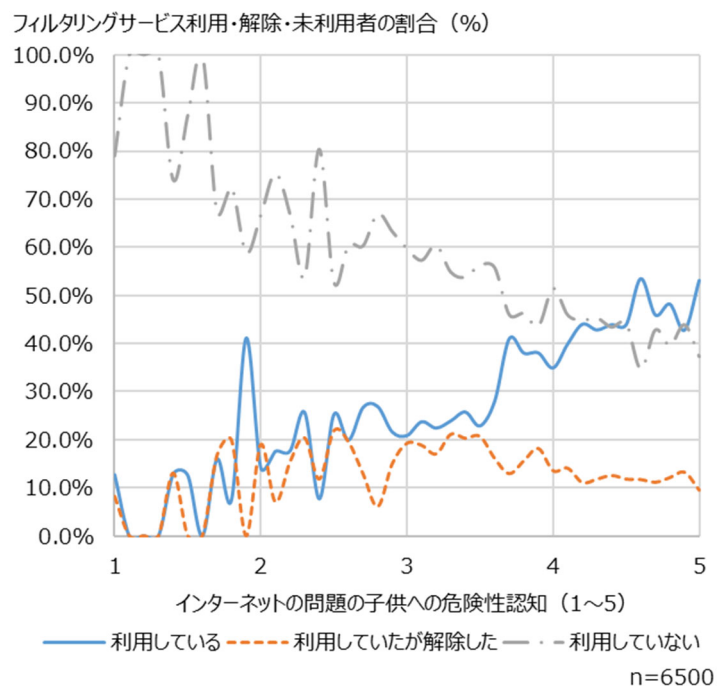
¹⁷ 一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会「ペアレンタルコントロールに関する調査の結果報告」、https://www.soumu.go.jp/main_content/000710962.pdf



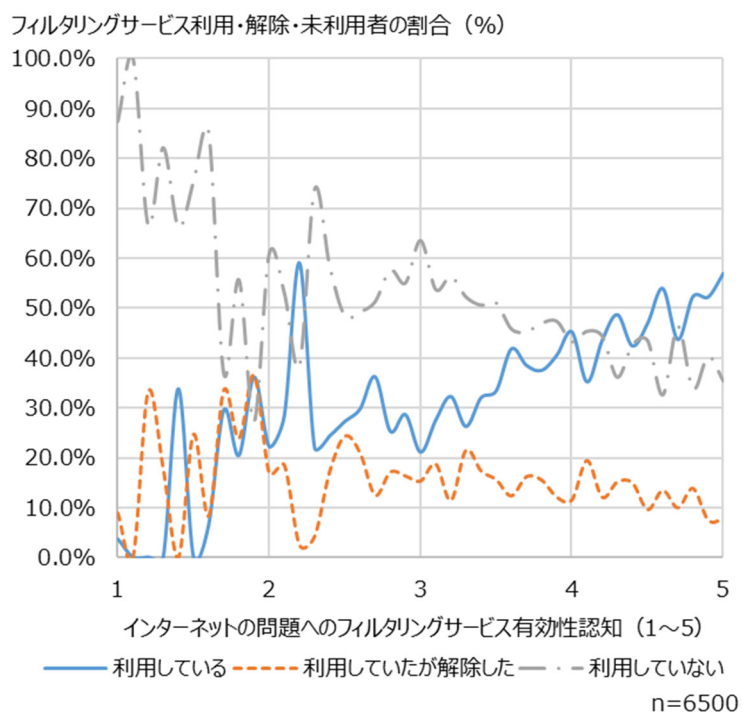
図表 4.9 インターネットの問題に関する知識とフィルタリングサービス利用行動の関係



図表 4.10 フィルタリングサービスに関する知識とフィルタリングサービス利用行動の関係



図表 4.11 インターネットの問題の子供への危険性認知とフィルタリングサービス利用行動の関係



図表 4.12 インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知とフィルタリングサービス利用行動の関係

4. 3. 知識・問題意識による保護者の4分類

4. 3. 1. クラスタ分析による分類方法

本節では、これまで取り扱った「インターネットの問題に関する知識」「フィルタリングサービスに関する知識」「インターネットの問題の子供への危険性認知」「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」という4つの指標を使って、保護者を4分類する。

分類方法としてはいくつか考えられるが、4つの指標は全て小数点を含む尺度変数となっており、閾値を決めて分割するのは妥当性に欠ける。そこで、クラスタ分析によって統計的に妥当なところで分類することとする。

クラスタ分析とは、全体像を把握するのが難しい場合に、得られたデータに基づいてサンプルを分類し、データの構造を見やすくするための手法である。クラスタ分析には2種類があるが、本稿では、その中でも階層的クラスタ分析を用いる¹⁸。

クラスタ分析における類似度は、サンプルのユークリッド距離によって設定されている。例えば、サンプルAが (X_1, Y_1) で、サンプルBが (X_2, Y_2) である時、ユークリッド距離は $\sqrt{(X_1 - X_2)^2 + (Y_1 - Y_2)^2}$ である。これが小さいほど類似度が高い。

そして、クラスタ分析では、類似度の他に、どのような基準で似たサンプルをまとめていくかというルール設定も必要になる。これには様々あり、最短距離法、再長距離法、群平均法、十進法、中央地法、ウォード法等ある。クラスタ分析は、この基準によって分析結果が大きく異なってしまふことがあるうえ、どのクラスタリング方法を用いるかについての客観的な基準はない。しかしながら、ウォード法からは解釈しやすい結果が得られるとされている¹⁹。そこで、本稿でもウォード法を用いて分析を行う。

ウォード法のクラスタリングは、以下のようなルールに基づいて行われる。あるクラスタ G_1 と別のクラスタ G_2 をまとめた時にクラスタ G_3 が出来るとする。この時、次のよう

¹⁸ 非階層的クラスタ分析を用いない理由は、非階層的クラスタ分析では、分析者があらかじめクラスタ数を指定して分類するという恣意性が入るためである。元々、非階層的クラスタ分析は、コンピュータの処理能力が低かった時代に、大規模サンプルで全ての個体同士の距離を計算する階層的クラスタ分析が不可能だったために利用されていた。しかしながら、現在の性能であれば本調査研究におけるサンプルサイズ(6,500)の階層的クラスタ分析は十分実行可能である。また、類似度を基準に似たサンプルをまとめていく過程の中で、デンドログラム(樹形図)を描き、可視化することが出来るのも階層的クラスタ分析の特徴である。

¹⁹ 足立浩平(2006). 多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門、ナカニシヤ出版

に定義する。

サンプルの散らばり具合の増分＝クラスター G_3 の散らばり具合－(クラスター G_1 の散らばり具合＋クラスター G_2 の散らばり具合)

このサンプルの散らばり具合の増分がなるべく小さくなるようにサンプルをまとめあげる。つまり、まとめることで出来るクラスター内の回答者の散らばり具合が最小になるように分類する。一般的に、2つのクラスターをさらにまとめあげると、散らばり具合の合計はまとめる前より大きくなるので、その増加分を最小にするようにまとめあげていくのがウォード法の狙いとなっている。

最後に、クラスター数の決定方法については、階層的クラスター分析では、クラスター数は自動的に決定されない。1つの手法として、デンドログラムを見て高さが最も高いところで区切るという手法があるが、本稿のようにサンプルサイズが大きい場合には用いないことが多い。

そこで、統計的にクラスター数を決定する指標を用いる。具体的には、Calinski & Harabasz's pseudo-F index²⁰を指標に用いることが多い。この指標は、値が大きいところで区切るのが適切であるとされる。

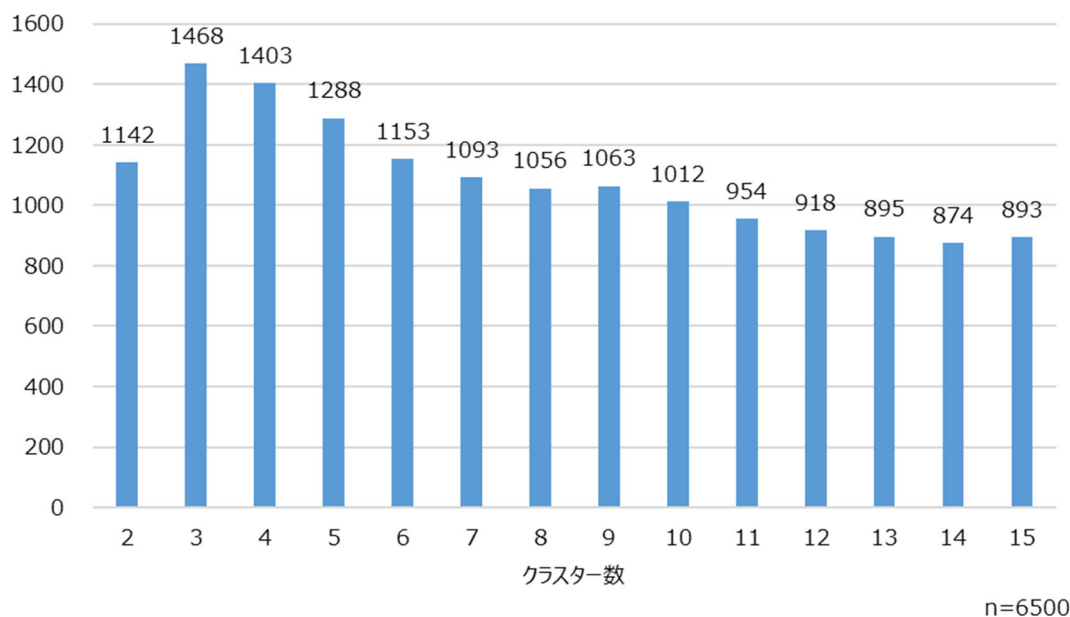
以上を踏まえ、実際に保護者 6,500 サンプルでウォード法階層的クラスター分析のクラスター数決定指標を見たのが図表 4.13 である。ただし、クラスター分析に当たっては、「インターネットの問題に関する知識」「フィルタリングサービスに関する知識」「インターネットの問題の子供への危険性認知」「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」の4つの指標のみを変数として入れている²¹。

図表 4.13 を見ると、値が高いのは3クラスターの場合と4クラスターの場合であることが分かる。このような場合、最後には各クラスターの特徴を見て実際に解釈しやすいもの、分析に適したものを判断する。特徴を見た結果、4指標であることもあり解釈が自然だったのは4クラスターの場合だったため、4クラスターで分析することとした。

²⁰ Calinski, T., and J. Harabasz., (1974). A dendrite method for cluster analysis. *Communications in Statistics*, 3, 1-27.

²¹ 下位尺度は入れておらず、4つの変数のみである。

Calinski pseudo-F



図表 4.13 クラスタ分析における Calinski & Harabasz's pseudo-F index

4. 3. 2. 保護者の4分類の特徴

以上を踏まえてクラスタ分析を行い、各クラスターの特徴を分析したものが図表 4.14 である。「インターネットの問題に関する知識」「フィルタリングサービスに関する知識」「インターネットの問題の子供への危険性認知」「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」の4つの指標について、各クラスターでの平均値を示している。ただし、尺度が指標によって異なるため、6,500人全体での平均で割った値でグラフを作成している。例えば、あるクラスターにおいて「インターネットの問題に関する知識」の平均値が3で、6,500人全体での平均値が4だった場合、それを0.75で表示している。

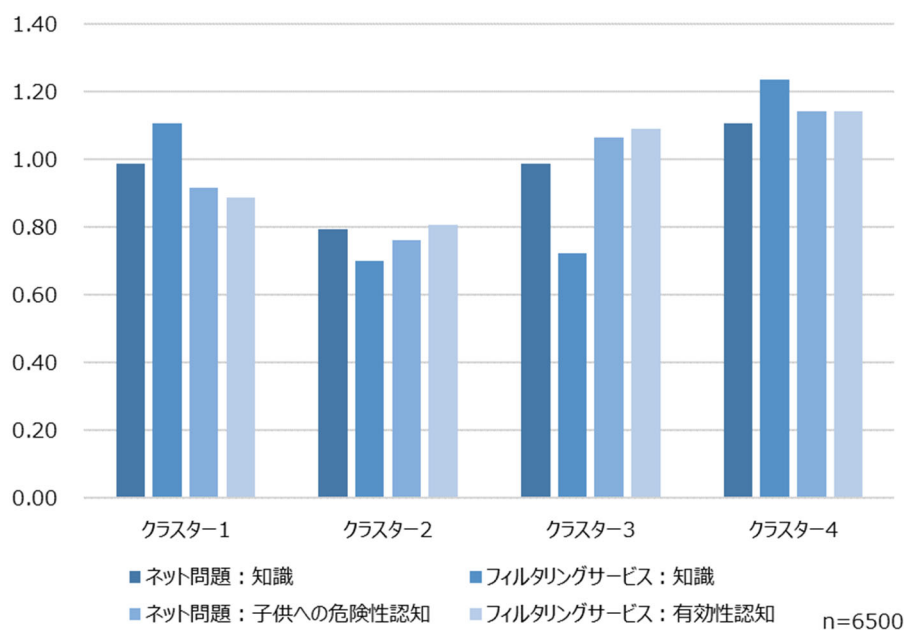
図表 4.14 からは、各クラスターについて次の特徴が見える。クラスター1は、フィルタリングサービスに関する知識が高い一方で、インターネットの問題の子供への危険性認知とフィルタリングサービス有効性認知が低い。クラスター2は全てが低い。クラスター3はフィルタリングサービスに関する知識が低い一方で、インターネットの問題の子供への危険性認知とフィルタリングサービス有効性認知が高く、クラスター1と対になっている。クラスター4は全てが高く、クラスター2と対になっている。

これらをまとめると図表 4.15 のようにいえ、簡潔に次のように書ける。ただし、図表 4.15 において、◎は平均より高く、○は平均並み、×は平均より低いことを示す。

- フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし

- ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし
- フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり
- ネット問題・フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり

全体平均を1とした時の値

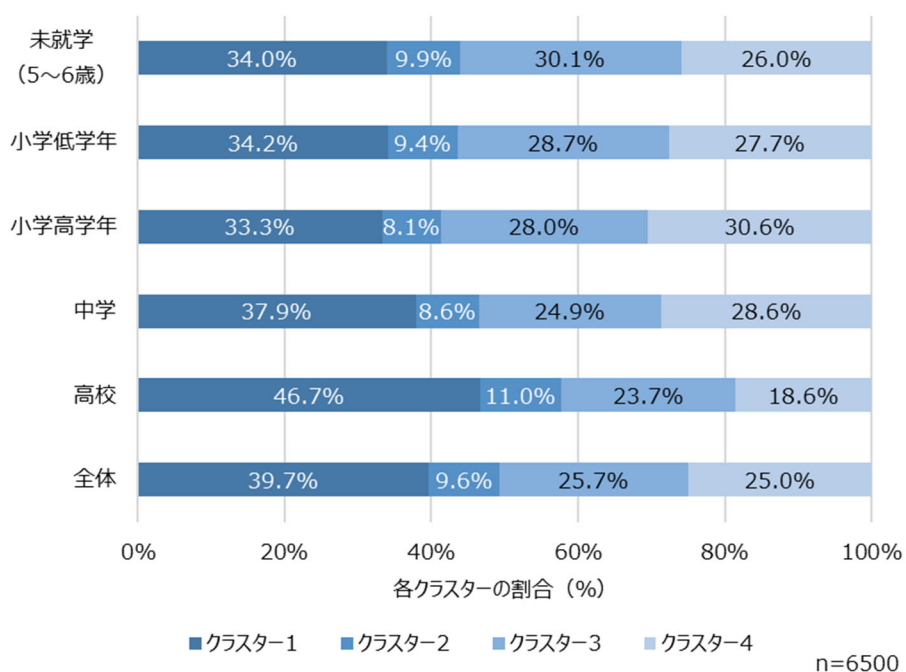


図表 4.14 保護者の4分類各クラスターの特徴

図表 4.15 保護者の4分類各クラスターの特徴まとめ

	知識		危険性・有効性認知	
	ネット問題	フィルタリング	ネット問題	フィルタリング
クラスター1	○	◎	×	×
クラスター2	×	×	×	×
クラスター3	○	×	◎	◎
クラスター4	◎	◎	◎	◎

また、各クラスターがどれくらいいるのか、青少年の年齢別に分析したものが図表 4.16 である。図表 4.16 からは、フィルタリングサービスの知識がある一方でインターネットの問題の子供への危険性認知とフィルタリングサービス有効性認知が低いクラスター1 が最も多く (39.7%)、全てが低いクラスター2 が最も少ない (9.6%) ことが分かる。青少年の年齢別には、未就学 (5～6 歳) から中学生の保護者までは大きな違いはないものの、高校生保護者は特徴的にクラスター1 が多く、その分クラスター4 が減っていることが分かる。これは 4. 1. で見たとおりで、やはり高校生保護者は自分の子供への危険性認知や、フィルタリングサービスの有効性認知は低いといえる。

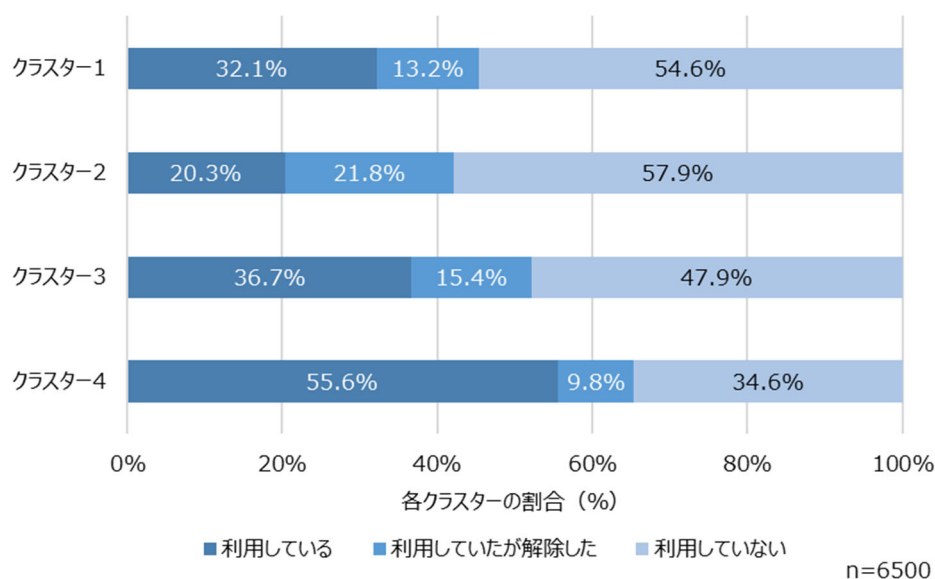


図表 4.16 保護者の4分類各クラスターの割合 (年齢別)

4. 4. 保護者の4分類とフィルタリングサービス利用行動の関係

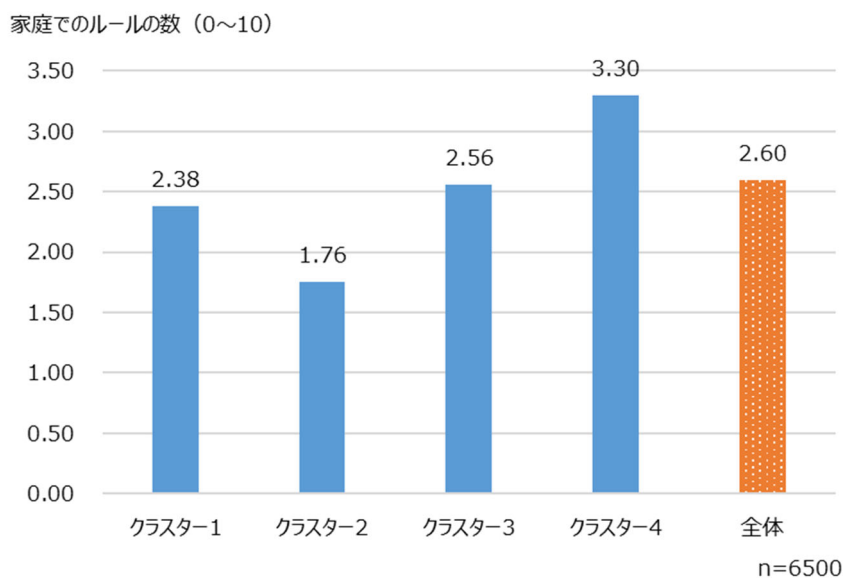
この各クラスターにおいて、フィルタリングサービス利用状況がどのようになっているか示したのが図表 4.17 である。図表 4.17 からは明らかな特徴が見て取れ、クラスター4が突出してフィルタリングサービス利用者が多く、クラスター2では極端に少ない。4. 1. でみたとおり、知識や危険性・有効性認知は、フィルタリングサービス利用率と正の相関をしているといえる。

そしてクラスター1とクラスター3では、大きな違いはないものの、クラスター3の方がフィルタリングサービス利用者、利用していたが解除した人、共に多いことが確認される。つまり、フィルタリングサービスに関する知識が多いことよりも、子供への危険性を認知していたりフィルタリングサービスの有効性を認知していたりするクラスターの方が、フィルタリングサービスを利用しているといえる。子供への危険性や各問題に対するフィルタリングサービスの有効性を啓発することが、フィルタリングサービス利用率向上に寄与する可能性がある。



図表 4.17 フィルタリングサービスの利用状況（クラスター別）

さらに、家庭でのルールの数について同じように分析したのが図表 4.18 である。家庭でのルールの数については、図表 3.32 と同じ項目について該当するものの数をカウントした。傾向は図表 4.17 と変わらず、クラスター2 とクラスター4 では大きな差がある。



図表 4.18 家庭でのルールの数（クラスター別）

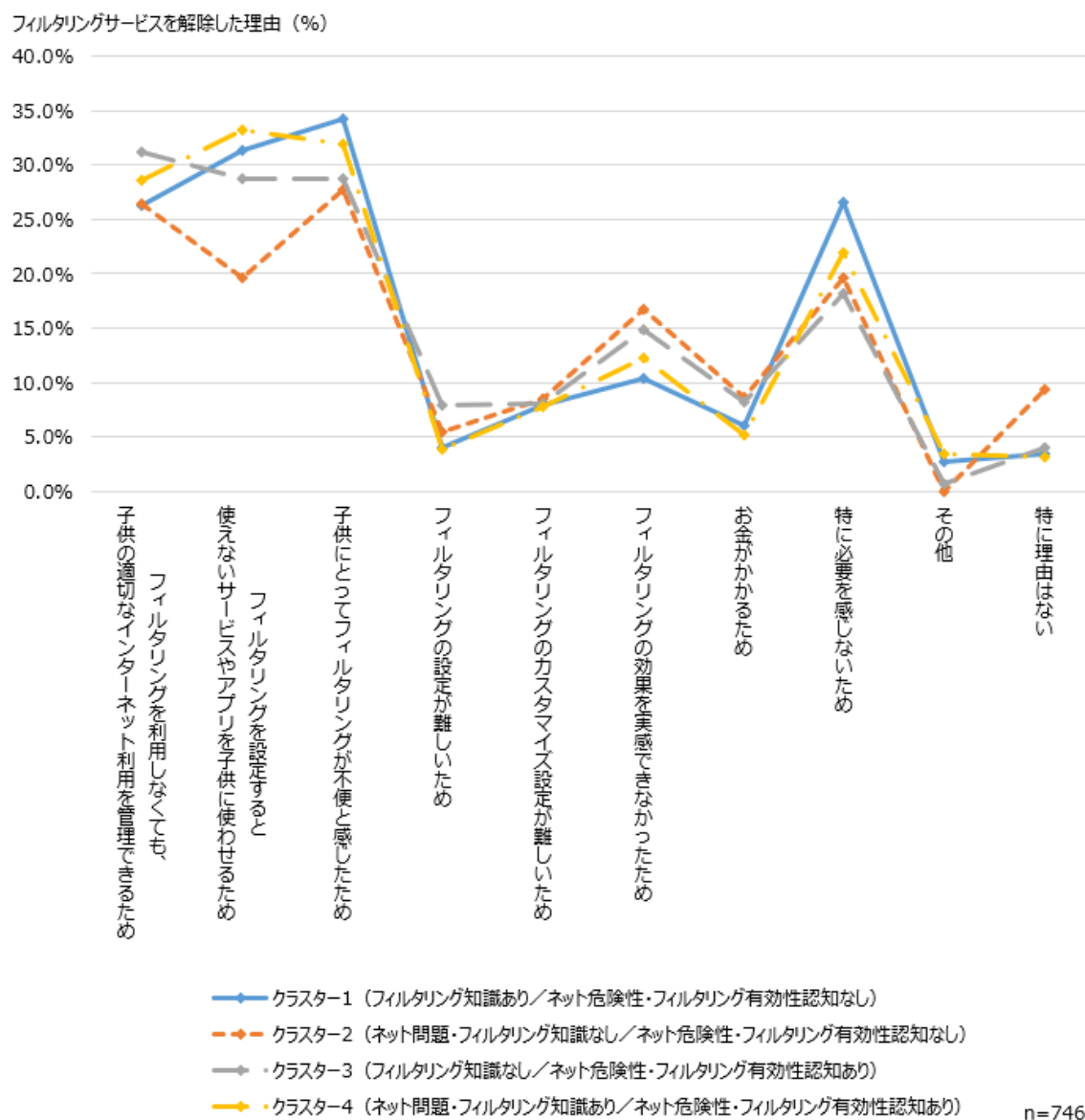
図表 4.19 は、フィルタリングサービスを利用していたが解除した人について、解除した理由をクラスター別に見たものである。いくつか特徴がみられ、まず、クラスター1については、「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」「特に必要を感じないため」「フ

フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」が多く、特に前者2つは相対的に他のクラスターと比べても多い。クラスター1はフィルタリングサービスの知識はある一方で、子供への危険性認知やフィルタリングサービスの有効性認知が低い層であり、フィルタリングサービスがどのようなものか知ったうえで必要ないと判断しているといえる。このクラスターには、ただ単にフィルタリングサービスの知識を啓発しても利用は進まないと考えられる。

クラスター2は「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」が非常に少ない一方で、「特に理由はない」が相対的に多い。知識も危険性・有効性認知も低いため、設定によって子供がどのような状況になっているか詳細に把握できておらず、特に理由もなく解除に至るケースが多いと考えられる。

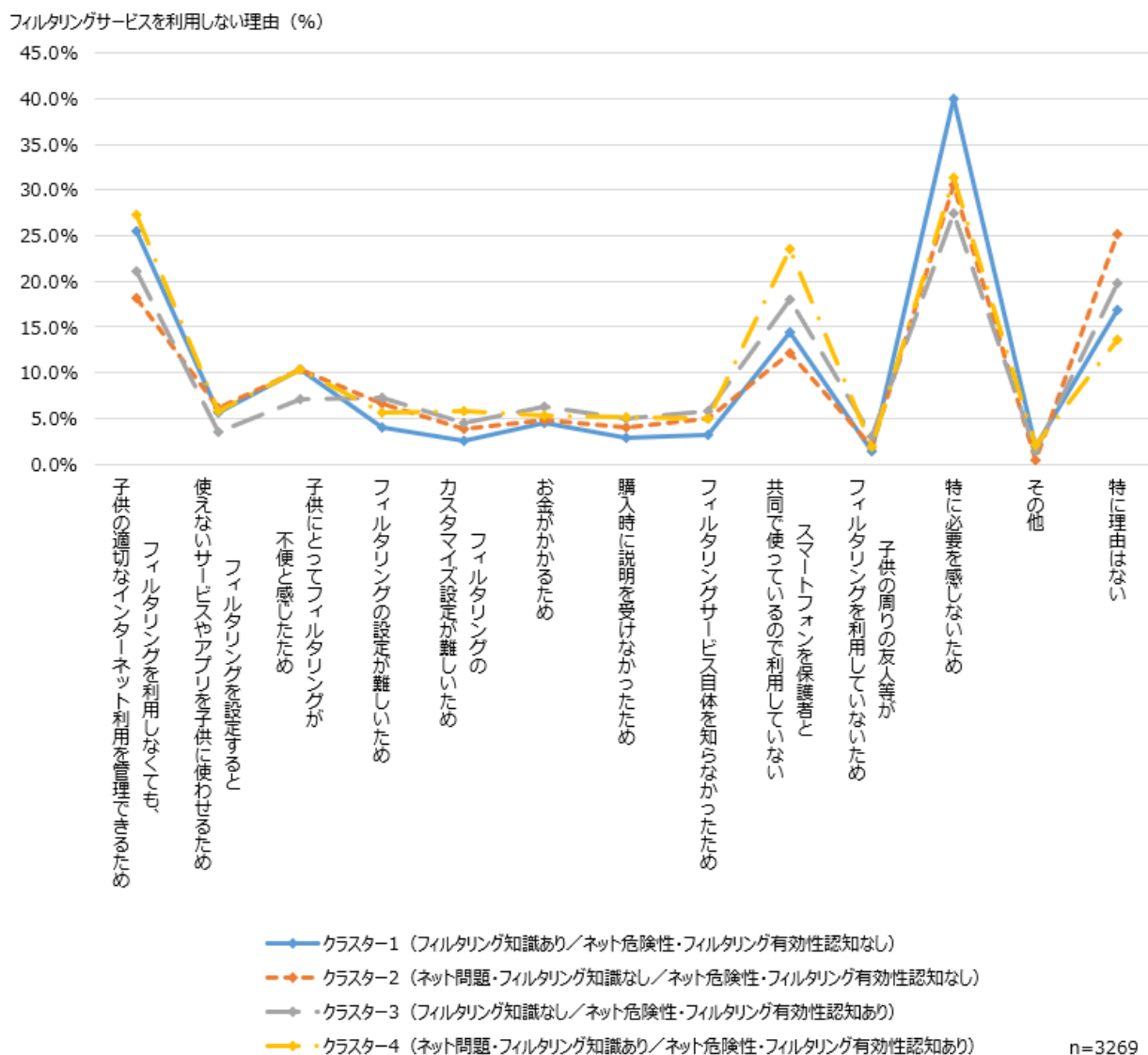
クラスター3は「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」が多い。クラスター3はフィルタリングサービスのインターネットの各問題に対する有効性は認知しているが、それにもかかわらずこの項目が多いのは興味深い。フィルタリングサービスそのものの知識は低いことから、有効だとは感じながらも個別具体的に何が出来るかを知らず、結果的に利用しなくて良いという結論に至っていると考えられる。

クラスター4は「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」が多かった。知識が高く、危険性・有効性も認知している人は、フィルタリングサービスの設定によって子供に不便がかかることを懸念している傾向が強いといえる。



図表 4.19 フィルタリングサービスを解除した理由 (クラスター別)

続けてフィルタリングサービスを利用していない人について、利用しない理由をクラスター別にまとめたのが図表 4.20 である。図表 4.20 からは、どのクラスターでも概ね同じ形状をしており、「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」「スマートフォンを保護者と共同で使っているので利用していない」「特に必要を感じないため」「特に理由はない」の4つが高い。その中でも特徴を見ると、クラスター1は「特に必要を感じない」が相対的に多く、クラスター2は「特に理由はない」が相対的に多いのは図表 4.19 と一致するところである。また、知識も危険性・有効性認知も高いクラスター4は、「スマートフォンを保護者と共同で使っているので利用していない」という理由が相対的に多かった。

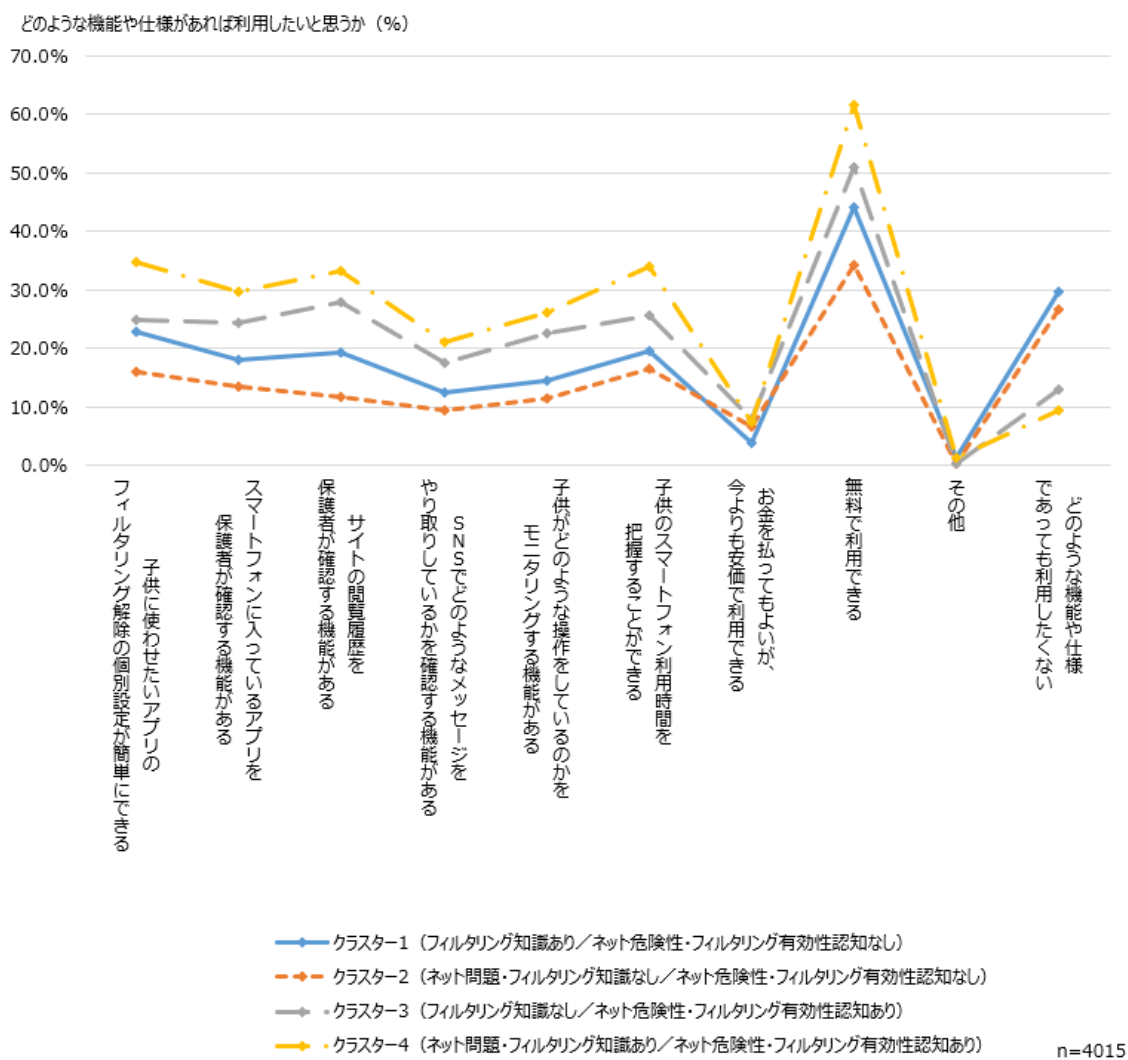


図表 4.20 フィルタリングサービスを利用しない理由 (クラスター別)

最後に、図表 4.21 はフィルタリングサービスを利用していたが解除した人と利用していない人に対し、どのような機能や仕様があれば利用したいと思うか調査した結果をクラスター別に見たものである。図表 4.21 はこれまでの図表 4.19、図表 4.20 と比べてクラスターごとの明確な傾向の違いが見られ、クラスター4は「どのような機能や仕様であっても利用したくない」以外が軒並み多く、次にクラスター3が多い。その一方で、クラスター1は3位、クラスター2は4位と低く、かつ、「どのような機能や仕様であっても利用したくない」が多い。

このことが示すのは、全ての知識や危険性・有効性認知が低い人や、フィルタリングサービスの知識はあるものの危険性・有効性認知が低い人は、フィルタリングサービスの個別機能に対して「これがあれば利用したい」という具体的な希望はなく、漠然と避けており、利

用したくないと考えている人が多いということである。このクラスター1 とクラスター2 (両社合計 50%程度) では、仮に今後フィルタリングサービスを改善したとしても利用率の向上が限定的になることが考えられ、特にインターネットの問題の子供への危険性や、フィルタリングサービスの有効性を啓発していくことが重要といえる。



図表 4.21 フィルタリングサービスにどのような機能があれば利用したいと思うか (クラスター別)

5. インターネットの問題について見聞きした経験・トラブルに遭った経験

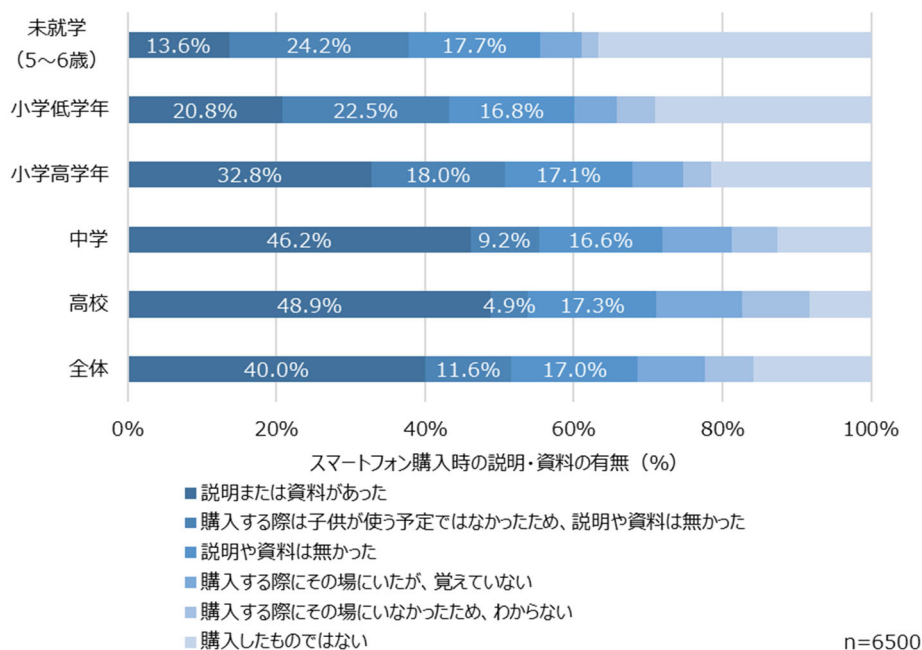
本章では、インターネットの問題について見聞きした経験や、保護者と子供がトラブルに遭った経験を調査した結果を示す。そのうえで、それらの経験の有無とフィルタリングサービス利用状況がどのように関係しているかを確認する。

5. 1. フィルタリングサービスやインターネットの問題について見聞きした経験

フィルタリングサービスや青少年のスマートフォンの利用等、保護者の管理について、スマートフォン購入時に説明を受けたり資料を配られたりしたかを調査した結果が図表 5.1²² である。図表 5.1 からは、全体の 40.0%の人が説明を受けたり資料を配られたりしていることが分かる。覚えていない、分からないという人を除くとこの値はもっと大きく、少ない割合の人が何らかの方法で、フィルタリングサービスや青少年のスマートフォンの利用等の保護者の管理について、購入時に知る機会があったといえる。

ただしこれは青少年の年齢によって大きく異なり、年齢が高くなるにつれて増えるようになっている。未就学（5～6 歳）ではわずか 13.6%しかそのような経験を有していない。代わって多くなるのが「購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった」であり、保護者と共用で使っていること等が影響していると考えられる。尚、「購入したものではない」も年齢が低くなるにつれて増えるが、これは回答者が、親との共用や兄弟のおさがり等を「購入したものではない」に含めたものと考えられ、この割合も含めると、未就学（5～6 歳）のほとんどが、購入時に青少年が利用するということを想定できていないといえる。購入時にその想定をしていないような青少年保護者でも説明を受けられるような環境を整備する必要があると思われる。

²² 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和 2 年 4 月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai.html/index.html>



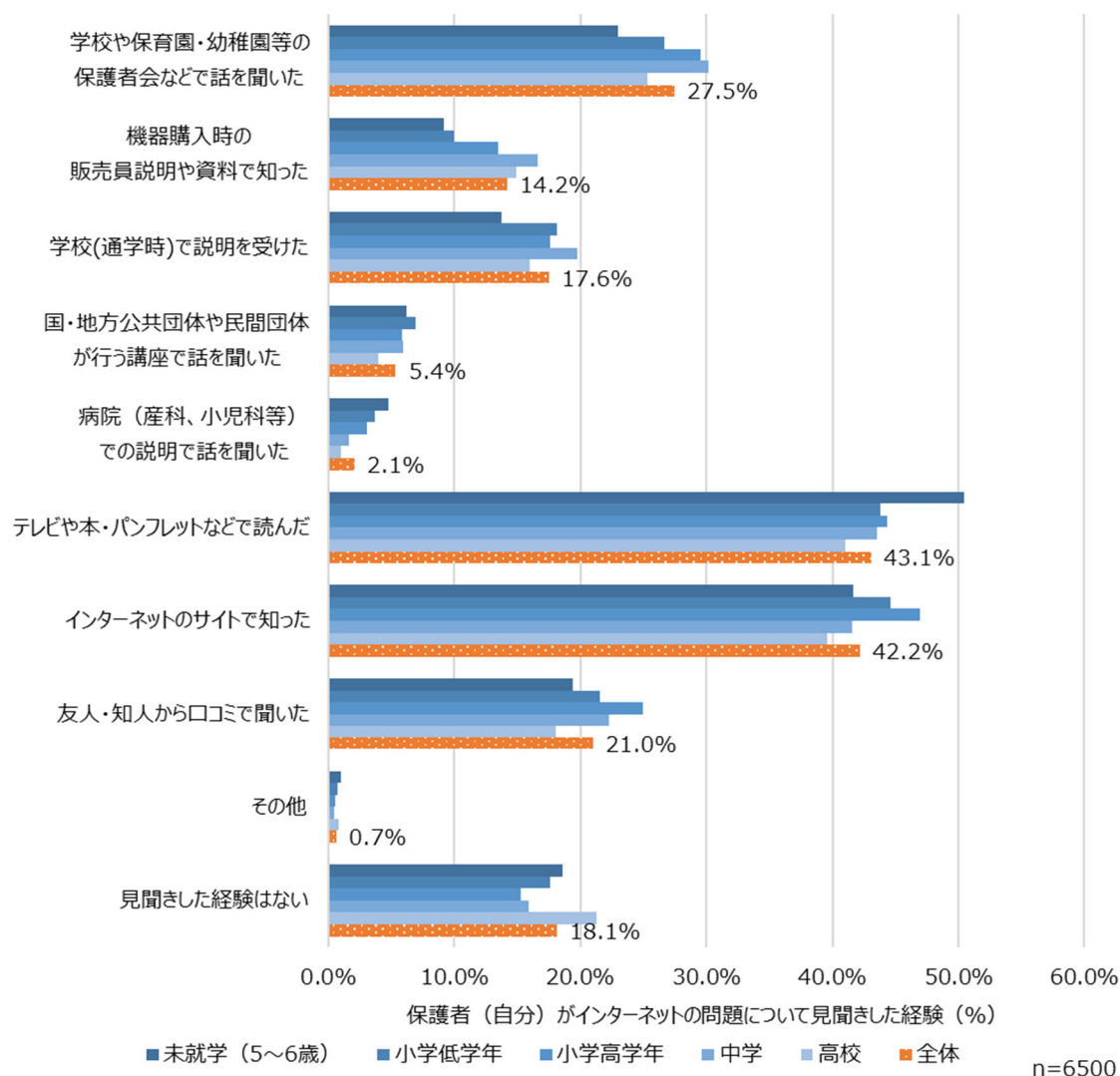
図表 5.1 スマートフォン購入時に保護者の管理について説明はあったか (年齢別)

図表 5.2²³は保護者がインターネットの問題について見聞きした経験全般を調査した結果である。図表 5.2 で、まず全体の傾向を見ると、「見聞きした経験はない」は 18.1%に留まり、80%以上の保護者が何らかの方法で見聞きした経験があるということが分かる。多いのは「テレビや本・パンフレットなどで読んだ」(43.1%)と「インターネットのサイトで知った」(42.2%)で、何らかのメディアを通して見聞きする人が多いといえる。「学校や保育園・幼稚園等の保護者会などで話を聞いた」は 3 位であるものの 27.5%に留まり、学校や保育園・幼稚園でインターネットの問題に関する説明が充実しているとは言い難い状況である。

また、興味深いのは「機器購入時の販売員説明や資料で知った」が 14.2%となっていることである。フィルタリングサービスや青少年のスマートフォンの利用等の保護者の管理については 40%が説明を受けたり資料を見せられたりしているにもかかわらず、インターネットの問題についてはその半分以上の人しか機器購入時に見聞きしていない。このことは、販売店での説明が管理の説明に留まっていることを示唆している。他方、4.4. で見たように、インターネットの問題の子供への危険性の認知もフィルタリングサービスの継続利用と関係している。インターネットの問題についても説明に含めることが、よりフィルタリングサービス普及に資すると考えられる。

²³ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和 2 年 4 月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai.html/index.html>

青少年の年齢別には、多くの項目について小学低学年から中学生の保護者が多い山型の分布となっている。ただし「病院（産科、小児科等）での説明で話を聞いた」と「テレビや本・パンフレットなどで読んだ」は未就学（5～6歳）が最も多い。後者については、保護者会や機器購入時の説明等で聞く機会の少ない未就学（5～6歳）の保護者が、テレビや本・パンフレットで情報収集していると予想される。

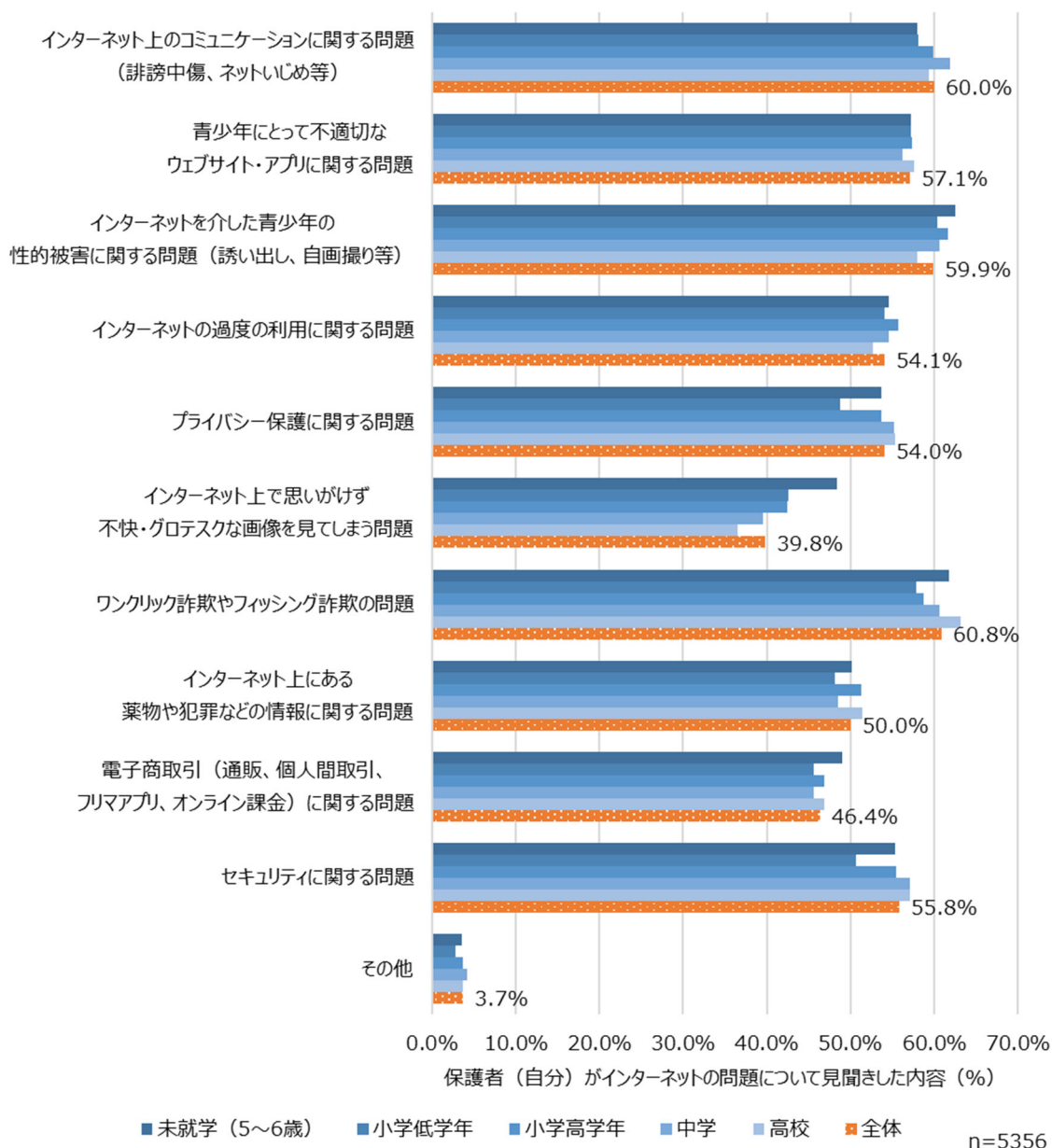


図表 5.2 保護者がインターネットの問題について見聞きした経験（年齢別）

続いて図表 5.3²⁴はそれらの経験によってどのような問題について見聞きしたかを調査した結果である。分母はインターネットの問題について見聞きした経験のある人である。全体

²⁴ 設問設計に当たり以下を参照している。：内閣府「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」，令和 2 年 4 月，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r01/jittai.html/index.html>

的な傾向では「ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題」(60.8%)と「インターネット上のコミュニケーションに関する問題(誹謗中傷、ネットいじめ等)」(60.0%)が高い一方で、「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見てしまう問題」(39.8%)は非常に低い。また、これは青少年の年齢によってほとんど差異がなく、「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見てしまう問題」で未就学(5~6歳)がやや多いという結果となった。



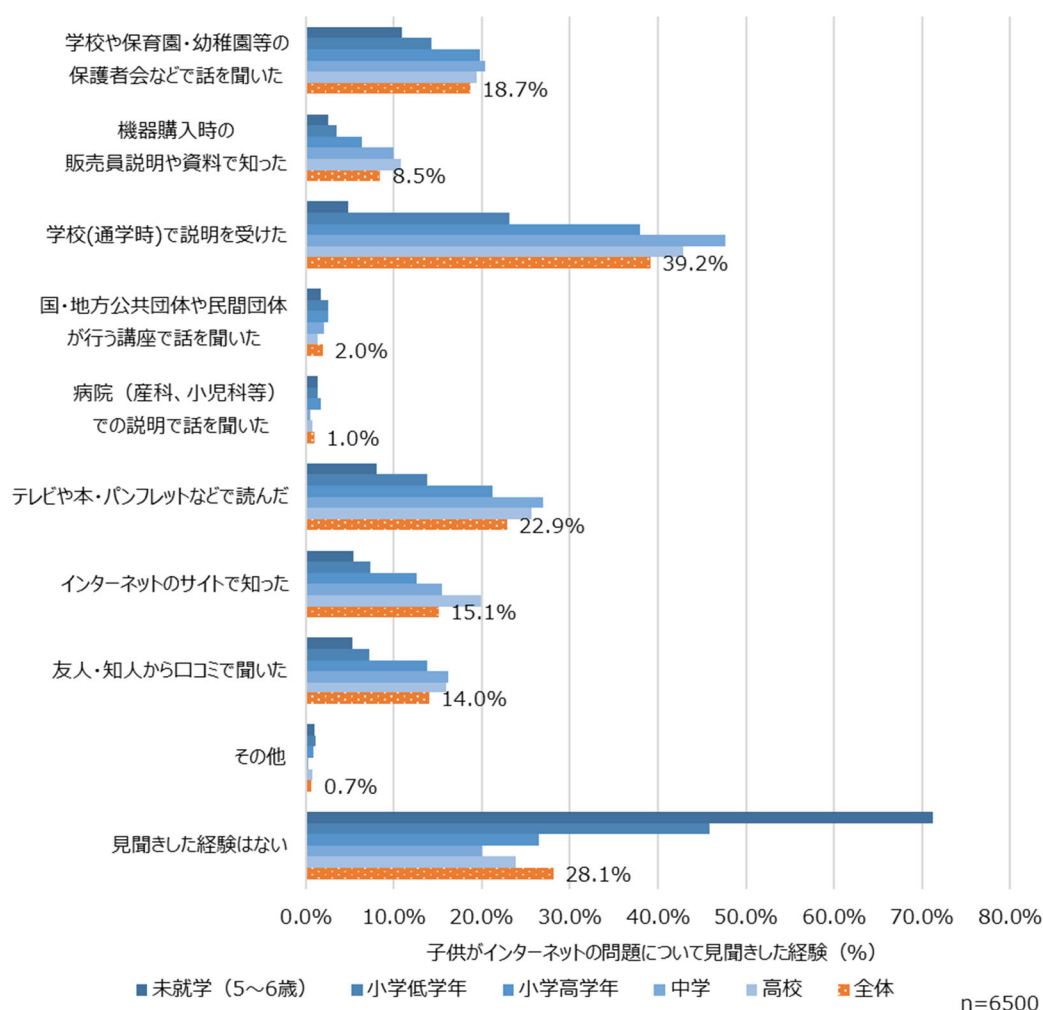
図表 5.3 保護者がインターネットの問題について見聞きした内容(年齢別)

次に、図表 5.4 は同じ質問を子供について実施したものである。ただし、これは子供の経

験を保護者が回答しているものだという事は留意する必要がある。

図表 5.4 を見ると、「見聞きした経験はない」は保護者に比べて多いものの 28.1%であり 70%以上の青少年が何らかの見聞きした経験があるといえる。全体の傾向では、最も多いのが「学校(通学時)で説明を受けた」(39.2%)で、「テレビや本・パンフレットなどで読んだ」(22.9%)、「学校や保育園・幼稚園等の保護者会などで話を聞いた」(18.7%)と続く。

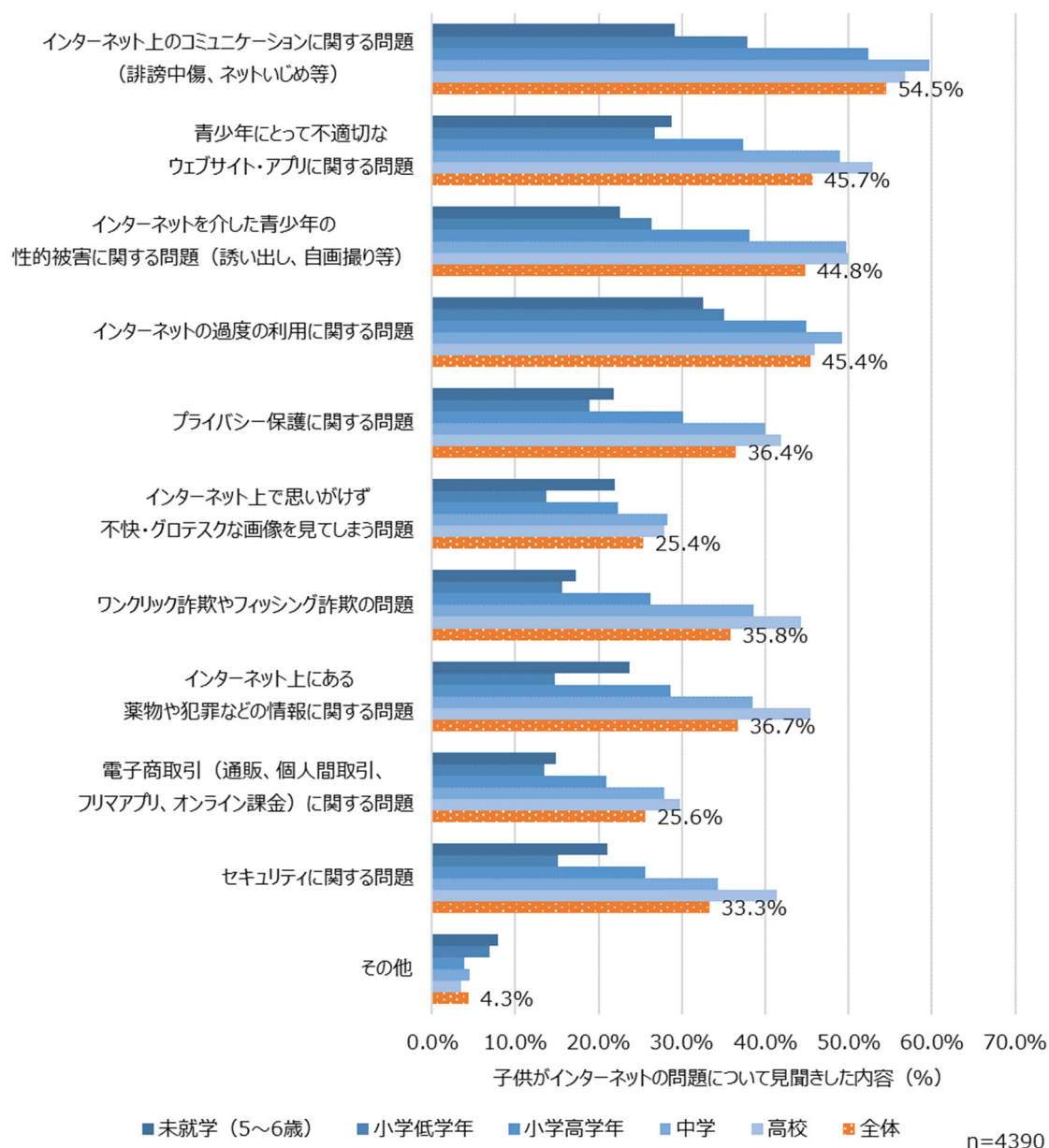
また、青少年の年齢による差異が図表 5.2 より顕著であり、基本的に中学生と高校生で経験率が高い。実際、「見聞きした経験はない」も、未就学(5~6歳)と小学低学年で突出して高いのが分かる。



図表 5.4 青少年がインターネットの問題について見聞きした経験 (年齢別)

続いて図表 5.5 はそれらの経験によってどのような問題について見聞きしたかを調査した結果となっている。分母はインターネットの問題について青少年が見聞きした経験のある人である。全体的な傾向では「インターネット上のコミュニケーションに関する問題(誹

「誹中傷、ネットいじめ等」(54.5%)が最も高く、「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見てしまう問題」(25.4%)が最も低い。そして、図表 5.3 と大きく異なる点として、青少年の年齢による差異が大きいことが挙げられる。概ね年齢が低いほど少なくなっている。分母は見聞きした経験のある人となっているものの、その中でも青少年の年齢が低い場合には簡単にテーマを限定して伝えるケースが多いためと考えられる。

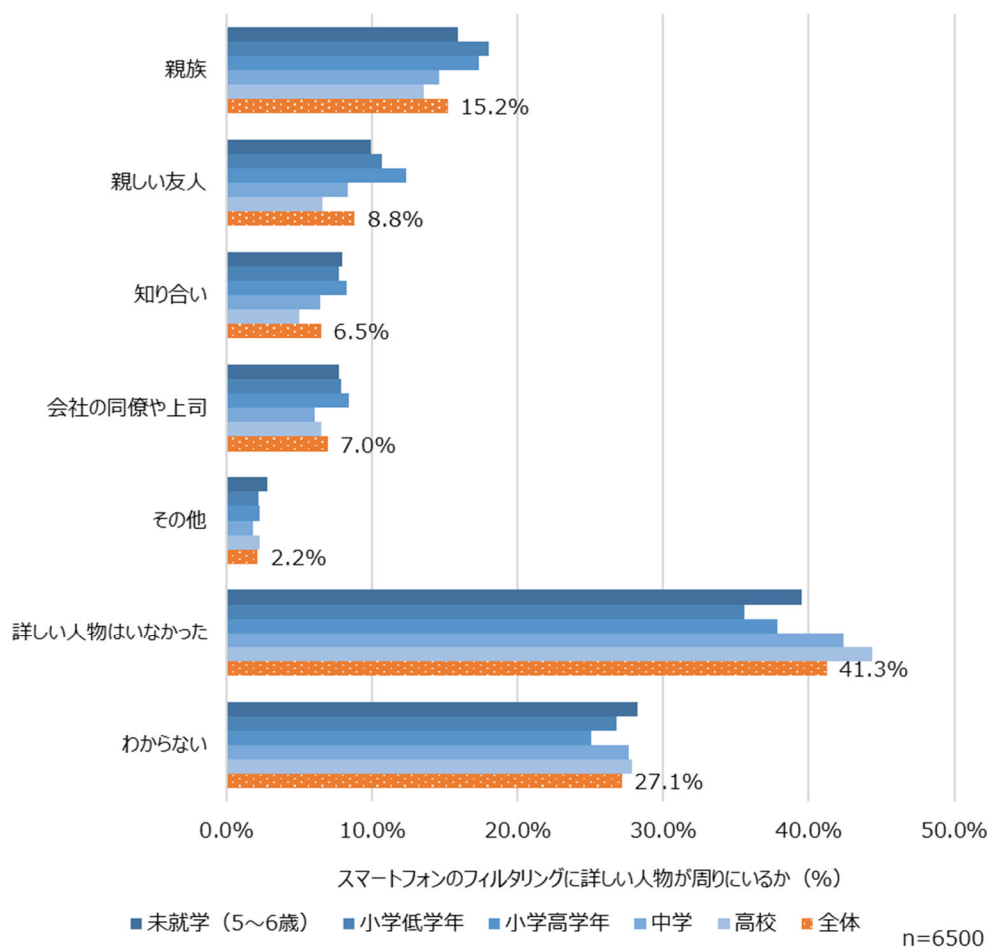


図表 5.5 青少年がインターネットの問題について見聞きした内容 (年齢別)

図表 5.6 は、スマートフォンのフィルタリングサービスについて、保護者の周りに詳しい人がいるかどうか調査した結果である。図表 5.6 を見ると、多くの人が「詳しい人物はいな

かった」(41.3%)、「わからない」(27.1%)に該当しており、詳しい人がいるといえる人が少ないことが分かる。その中でも親族は最も多く15.2%となっている。

青少年の年齢別では、どちらかといえば小学低学年や小学高学年の保護者の周りにそのような人が多い。これは、この年代でフィルタリングサービスへの関心が高まって調べる人が増えると同時に、そのような話題を周囲でする人が増えることも関係しているだろう。



図表 5.6 スマートフォンのフィルタリングに詳しい人物が周りにいるか (年齢別)

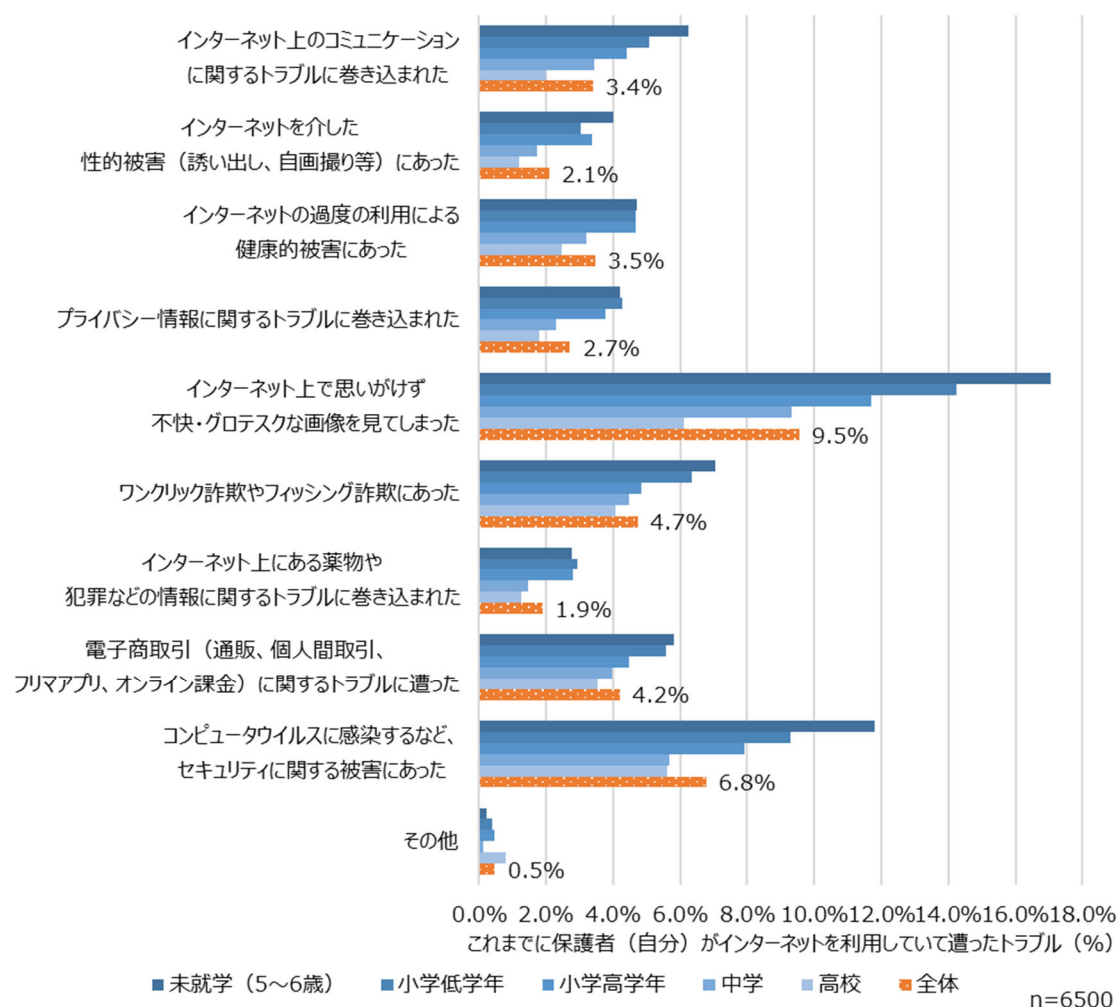
5. 2. インターネットを利用して遭ったトラブル

図表 5.7 は、インターネットを利用して保護者がどのようなトラブルに遭ったことがあるか示したものである。ただし、人数が多すぎるために「トラブルに遭ったことはない」という項目は表示しておらず、そのような人は全体で75.2%存在していた。

まず全体の傾向を見ると、「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見してしまった」(9.5%)で、次いで「コンピュータウイルスに感染するなど、セキュリティに関する被害にあった」(6.8%)となった。興味深いのは、前者については図表 5.3 でインタ

ーネットの問題について見聞きした内容として最も少なかったことである。もちろん図表 5.7 は青少年のトラブルについて示したのではなく保護者についてはあるが、インターネットを利用して遭遇しやすいトラブルともいえる。「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見る問題」に関する啓発も必要と考えられる。

青少年の年齢別の傾向では、年齢が高いほど遭遇率が全般的に低くなる傾向が見られた。これは、年齢が高い青少年の保護者は年齢が高いため、インターネットへの親和性が相対的に低く、トラブルに遭遇する確率も低いためと思われる。



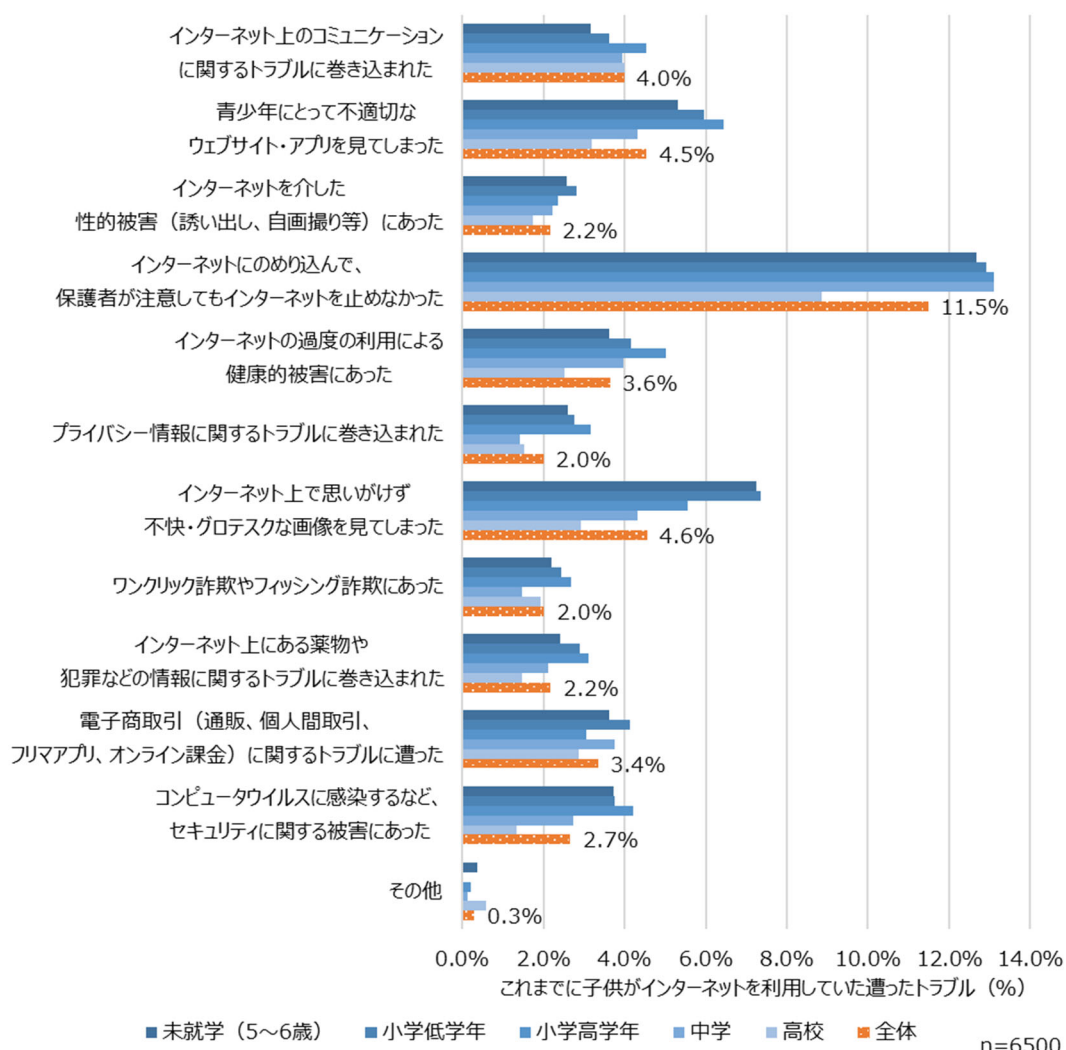
図表 5.7 これまでに保護者がインターネットを利用して遭ったトラブル (年齢別)

続いて図表 5.8 は、それを青少年について調査した結果である。これも図表 5.5 と同様に、保護者が青少年の経験を回答していることに留意する必要がある。

まず全体の傾向では、「インターネットにのみり込んで、保護者が注意してもインターネットを止めなかった」(11.5%) が最多で、2位が「インターネット上で思いがけず不快・グ

ロテスクな画像を見てしまった」(4.6%)であった。子供のトラブルとして最も多いのがインターネットを長時間やってしまうことであることが分かると同時に、後者は図表 5.7 と同じ傾向であり、やはり「インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見る」ことは少なくないといえる。

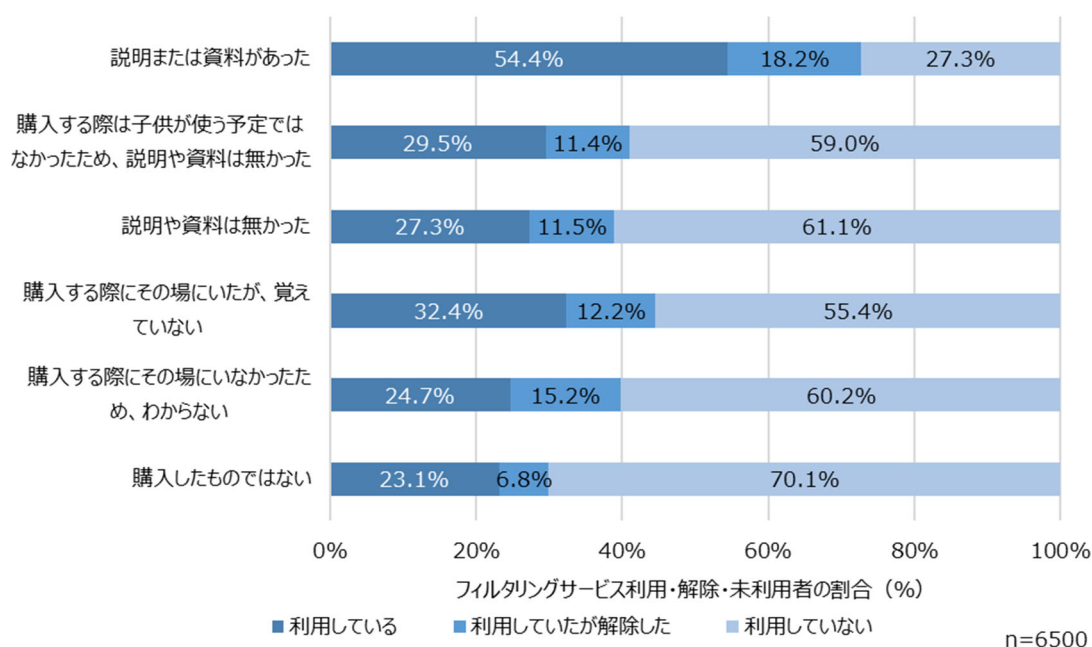
青少年の年齢別には、概ね年齢が低い方が経験している人が多く、特に小学低学年や小学高学年で多い傾向がある。その一方で、高校生は全般的に少ない。この調査は「これまでに青少年が遭ったトラブル」を聞いており、年齢が高くインターネット利用期間が長そうな高校生の方が多く該当しそうなものである。その理由としては、今の高校生は今の未就学(5～6歳)や小学生と比べてスマートフォンの利用開始時期が遅かったことが考えられる。利用開始時期が遅ければ、ある程度分別がついてから利用し始めるためにトラブルに遭いにくいということ、そして年頃でトラブルに遭っても親に報告しにくくなることが背景にあると推察される。



図表 5.8 これまでに青少年がインターネットを利用して遭ったトラブル (年齢別)

5. 3. 経験とフィルタリングサービス利用行動の関係

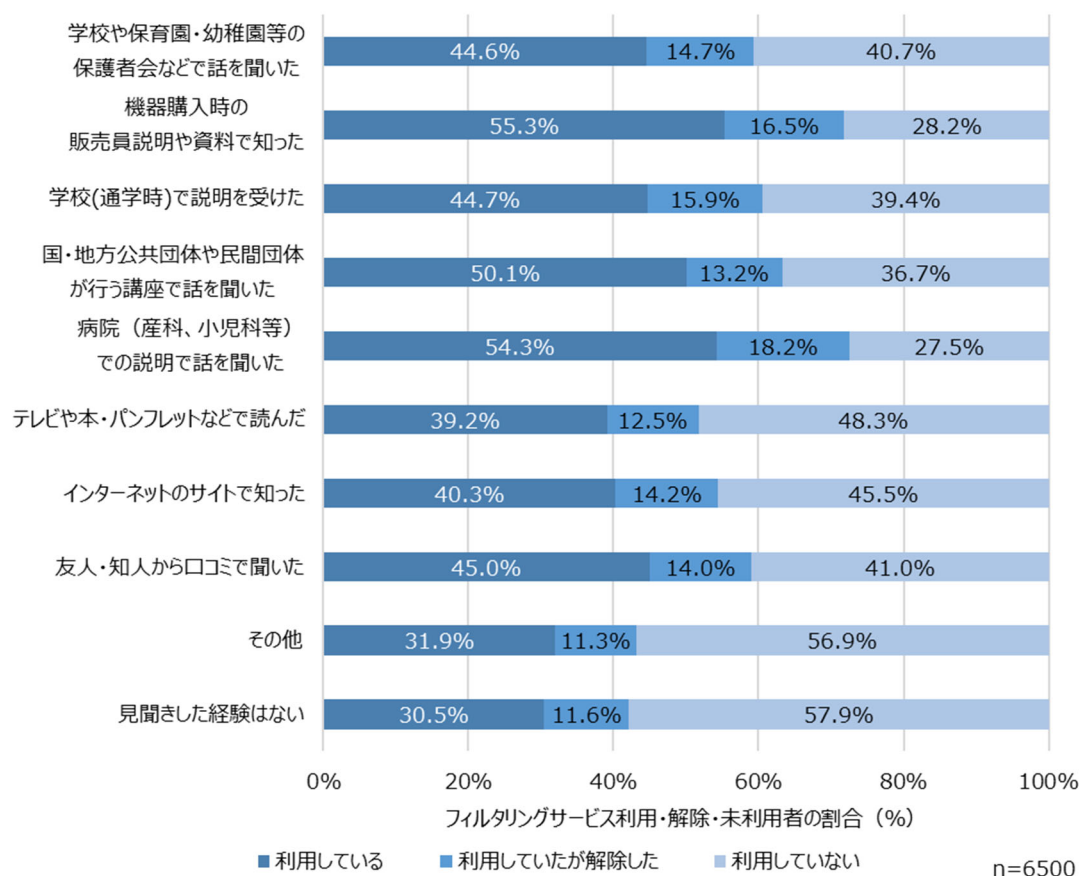
本節では、5. 1. と 5. 2. で見てきた経験と、フィルタリングサービス利用状況との関係を分析する。まず、スマートフォン購入時における保護者の管理についての説明とフィルタリングサービス利用状況の関係を見たものが図表 5.9 である。図表 5.9 を見ると、明らかに「説明または資料があった」人ではフィルタリングサービスを利用している人が多く、54.4%も存在することが分かる。また、利用していたが解除した人も 18.2%で最多となっており、購入時の説明または資料が少なからずフィルタリングサービス利用に繋がっていることが示唆される。また、「購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった」と「説明や資料は無かった」ではほとんど違いはなく、理由に関わらず説明や資料がないとフィルタリングサービス利用率は低いことが分かる。



図表 5.9 スマートフォン購入時における保護者の管理についての説明とフィルタリングサービス利用状況

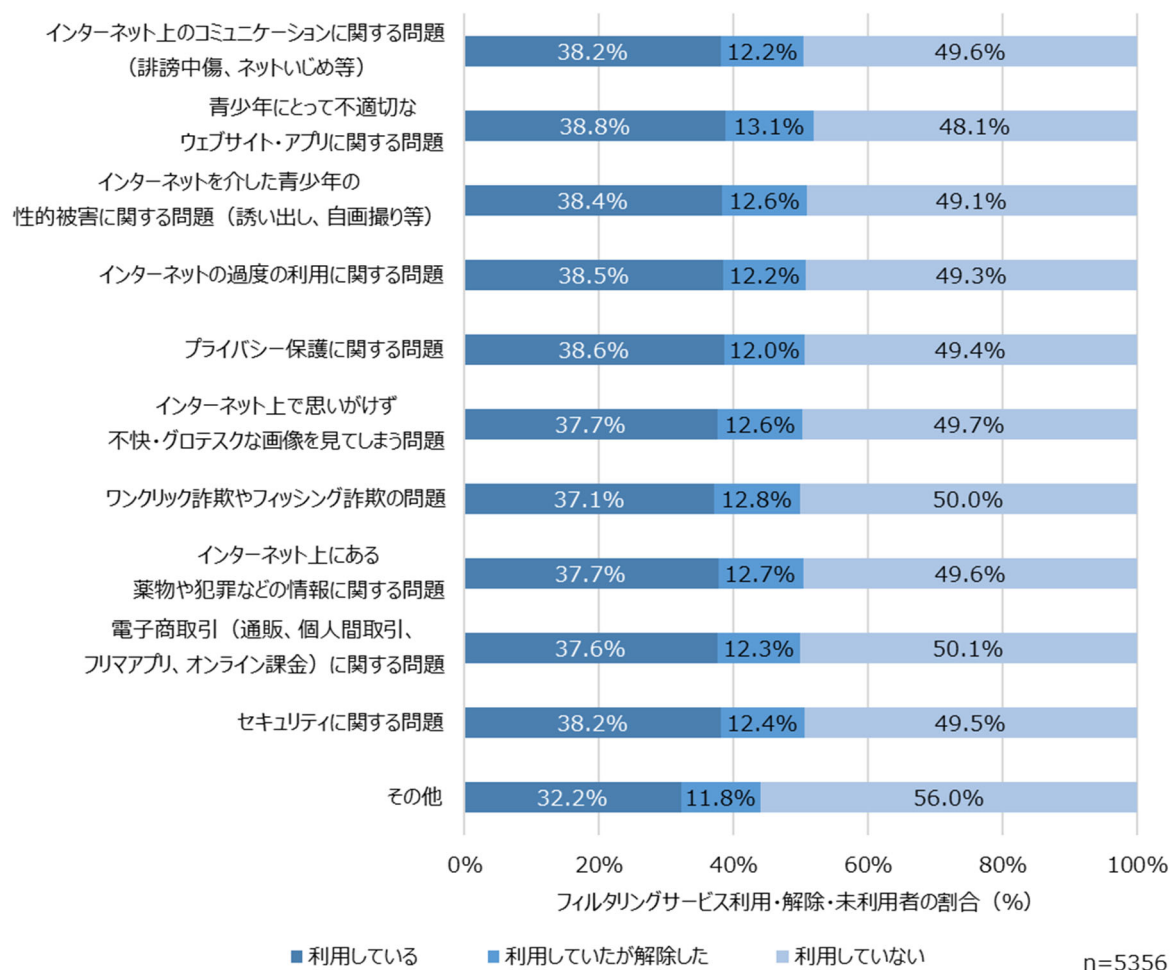
続けて、インターネットの問題について見聞きした経験とフィルタリングサービス利用状況の関係を見たものが図表 5.10 である。図表 5.10 を見ると、まず、「見聞きした経験はない」ではフィルタリングサービスを利用している人が 30.5%と低く、何らかの方法で見聞きしているとフィルタリングサービス利用率が高くなっていることが分かる。特に、「機器購入時の販売員説明や資料で知った」(55.3%)「病院（産科、小児科等）での説明で話を聞いた」(54.3%)「国・地方公共団体や民間団体が行う講座で話を聞いた」(50.1%) ではフィルタリングサービス利用率が高く、利用していたが解除した人を合わせてもベスト 3 となっている。無論、フィルタリングサービス利用行動は様々な要因で決まると思われるので、単

純にこの関係だけをもってしてこれらでの経験の効果が高いとはいえない。しかし、特に「病院（産科、小児科等）での説明で話を聞いた」と「国・地方公共団体や民間団体が行う講座で話を聞いた」は、図表 5.2 において経験者の少なかったものであり、これらをもっと充実させることがフィルタリングサービス利用促進に繋がる可能性がある。



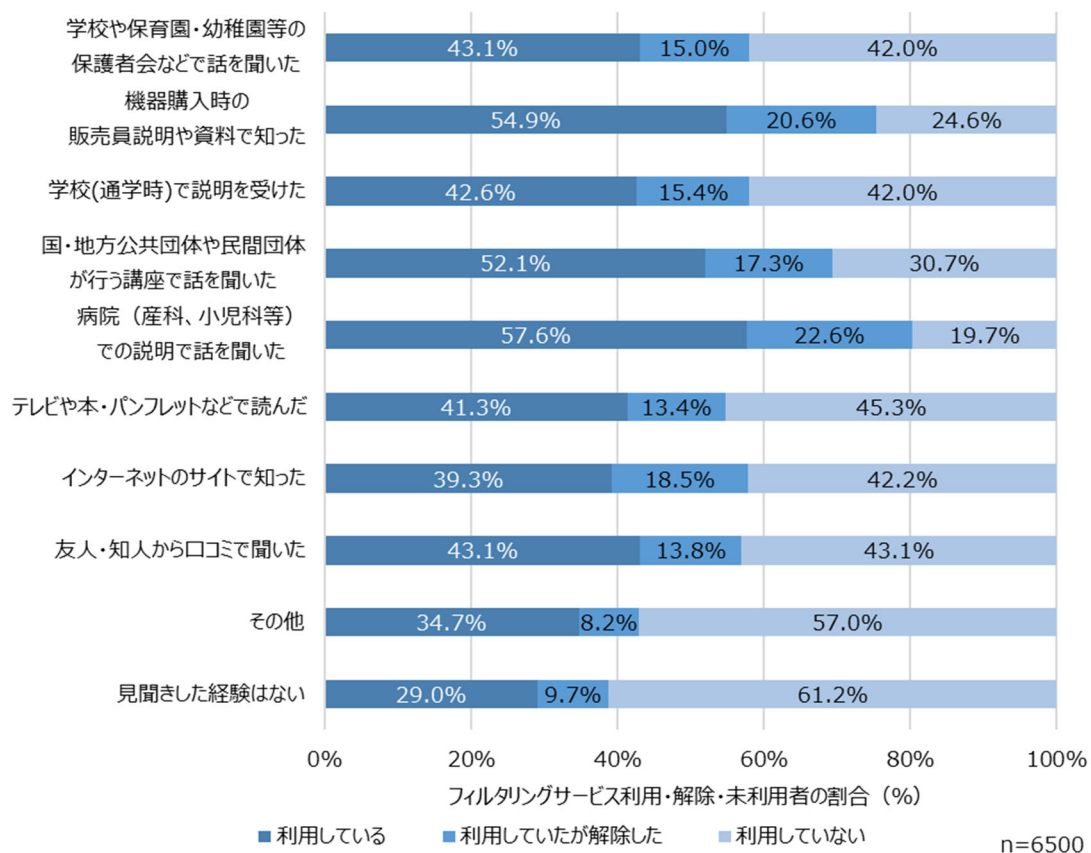
図表 5.10 保護者がインターネットの問題について見聞きした経験とフィルタリングサービス利用状況

図表 5.11 は、そのインターネットの問題について見聞きした内容とフィルタリングサービス利用状況の関係を見たものである。図表 5.11 からは、内容によって全くフィルタリングサービス利用状況が変わらないことが観察される。唯一「その他」の場合では利用している人が 32.2%と低い。ただしそれでも図表 5.10 の「見聞きした経験はない」(30.5%) よりも多い。いずれにせよ、ここに挙げた項目内容であれば、どのような内容であっても見聞きしている人はフィルタリングサービス利用率が高い傾向にあるといえる。



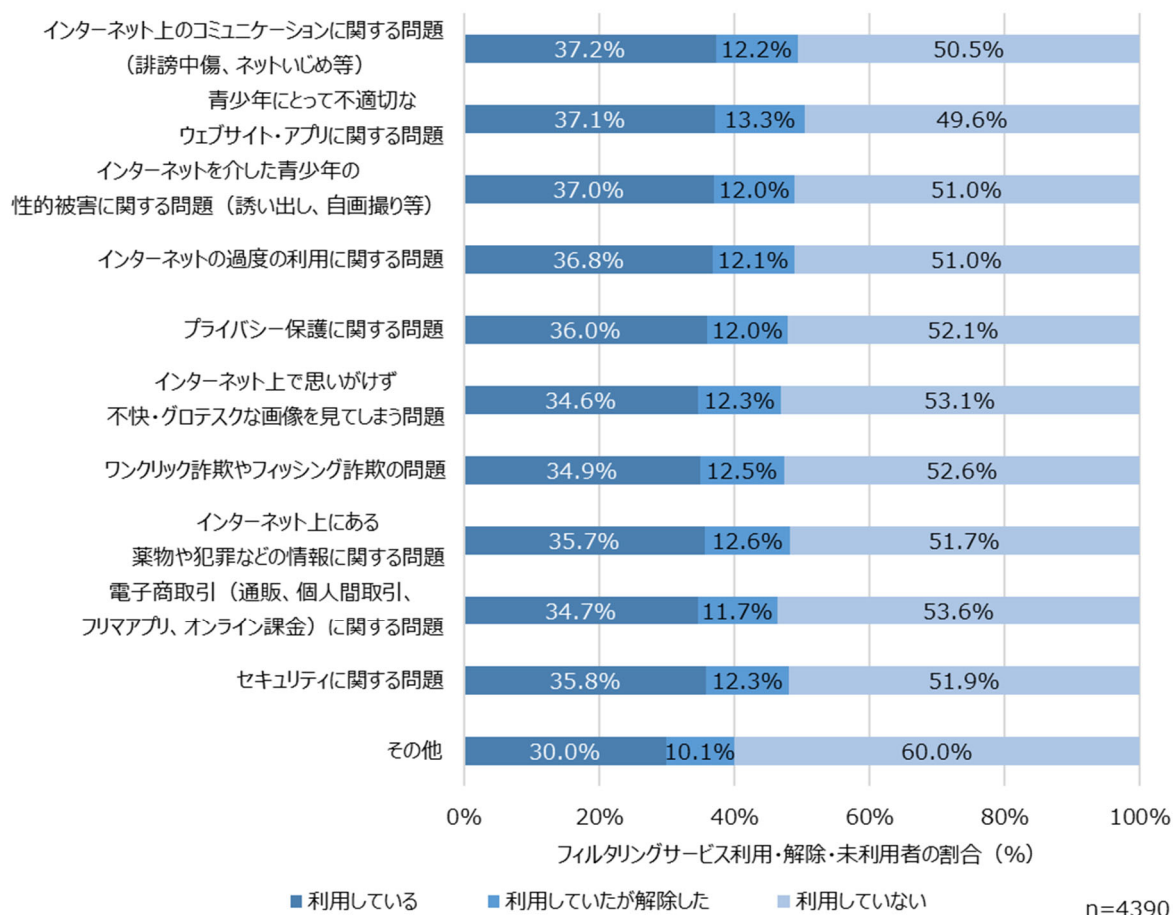
図表 5.11 保護者がインターネットの問題について見聞きした内容とフィルタリングサービス利用状況

図表 5.10 と同じ内容を青少年について見た結果が図表 5.12 である。形は図表 5.10 と似ており、「病院 (産科、小児科等) での説明で話を聞いた」(57.6%)、「機器購入時の販売員説明や資料で知った」(54.9%)、「国・地方公共団体や民間団体が行う講座で話を聞いた」(52.1%) で多い。こういったところで保護者と青少年が一緒に見聞きしている場合、フィルタリングサービス利用率が高いということだろう。



図表 5.12 青少年がインターネットの問題について見聞きした経験とフィルタリングサービス利用状況

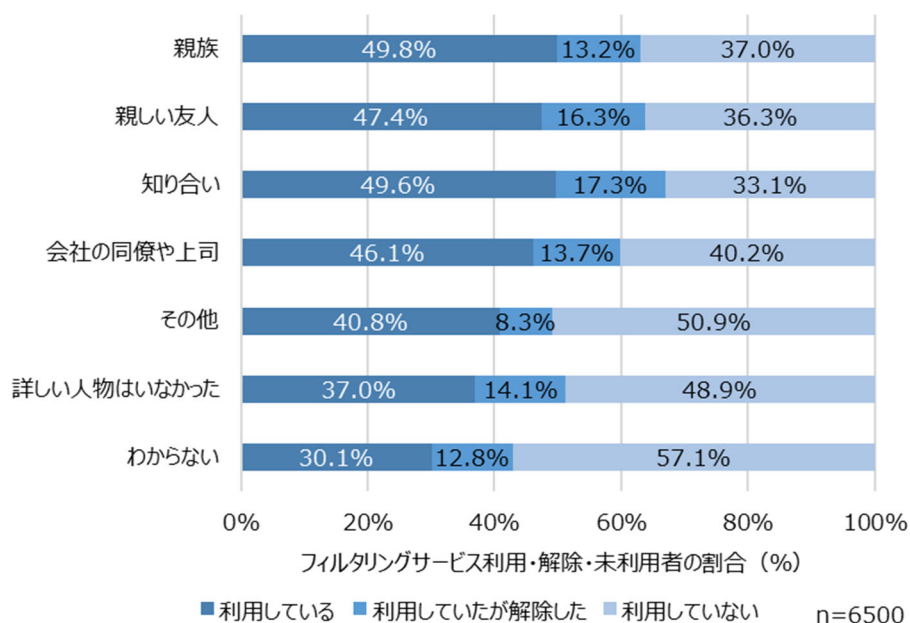
図表 5.13 は、図表 5.11 と同じ内容を青少年について見た結果である。図表 5.13 も、図表 5.11 と同様に見聞きした内容によってほとんどフィルタリングサービス利用状況に変化がないことが分かる。



図表 5.13 青少年がインターネットの問題について見聞きした内容とフィルタリングサービス利用状況

図表 5.14 は、スマートフォンのフィルタリングサービスに詳しい人物が周りにいるかどうかと、フィルタリングサービス利用状況の関係を見たものである。顕著に傾向が出ており、「わからない」場合はフィルタリングサービスを利用している人が最低の 30.1%であるのに対し、周囲に詳しい人物がいる場合は「その他」でも 40.8%となっている。特に、親族、親しい友人、知り合い、会社の同僚や上司といった身近な人だとその割合はさらに高くなる。

興味深いのは、「詳しい人物はいなかった」に比べても「わからない」でフィルタリングサービスを利用している人がかなり少ないことである。このことは、「わからない」人は周囲とフィルタリングサービスに関して話もしていないので、詳しい人物がいるかもわかっておらず、フィルタリングサービスを利用しない傾向にあると解釈できる。



図表 5.14 スマートフォンのフィルタリングサービスに詳しい人物が周りにいるかとフィルタリングサービス利用状況

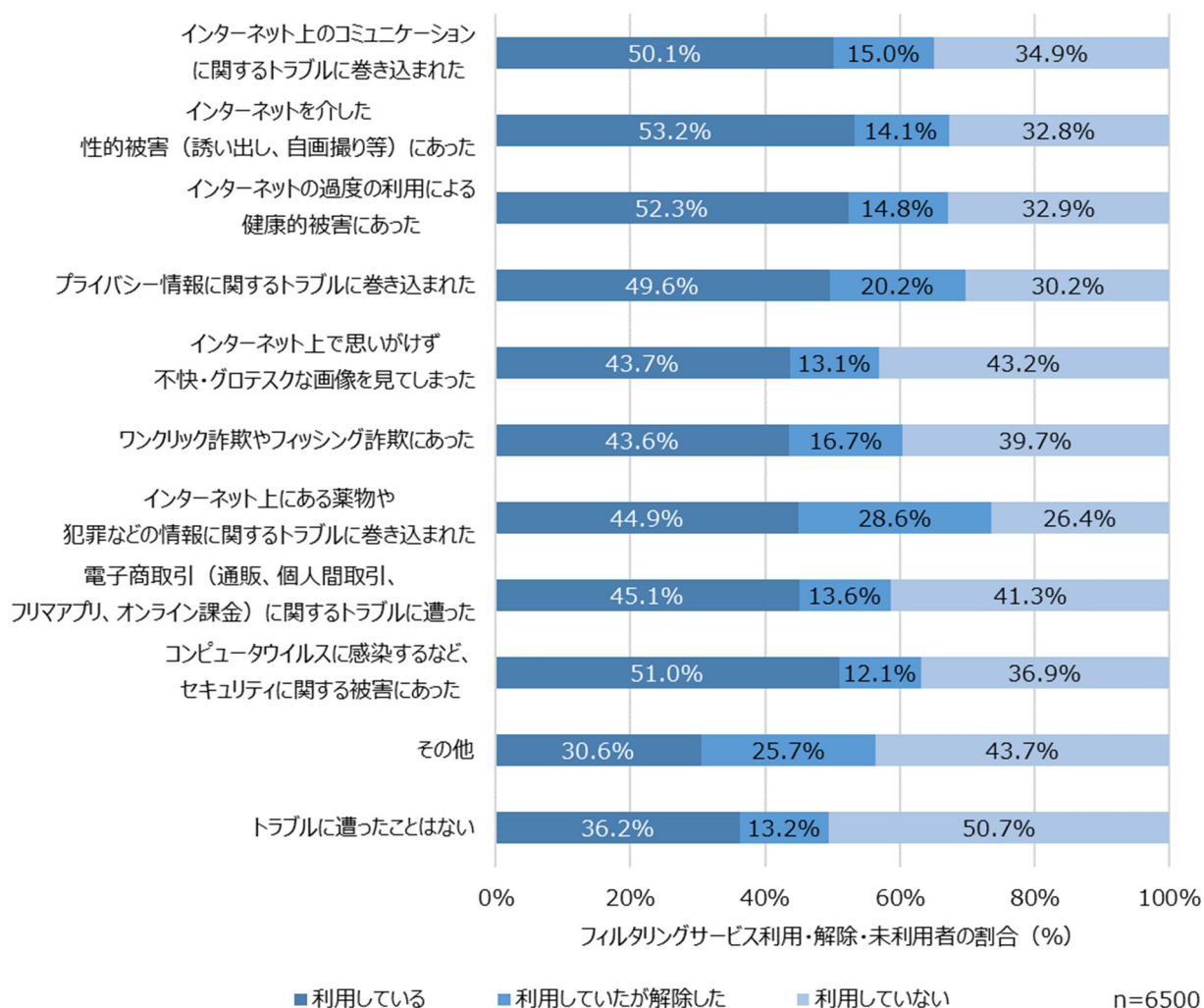
最後に、インターネットで遭ったトラブル経験とフィルタリングサービスの利用状況の関係を確認する。図表 5.15 は、これまでに保護者がインターネットを利用して遭ったトラブルとフィルタリングサービス利用状況を見たものである。

図表 5.15 からは、保護者がインターネットでトラブルに遭っている方が、フィルタリングサービス利用率が高い傾向にあることが分かる。特に多いのが「インターネットを介した性的被害（誘い出し、自画撮り等）にあった」（53.2%）と「インターネットの過度の利用による健康的被害にあった」（52.3%）であり、このような経験のある人はフィルタリングサービスを利用しやすいといえる。自らトラブルに遭うことが問題意識醸成に繋がり、子供を守るためにフィルタリングサービスを利用するようになることが示唆される。

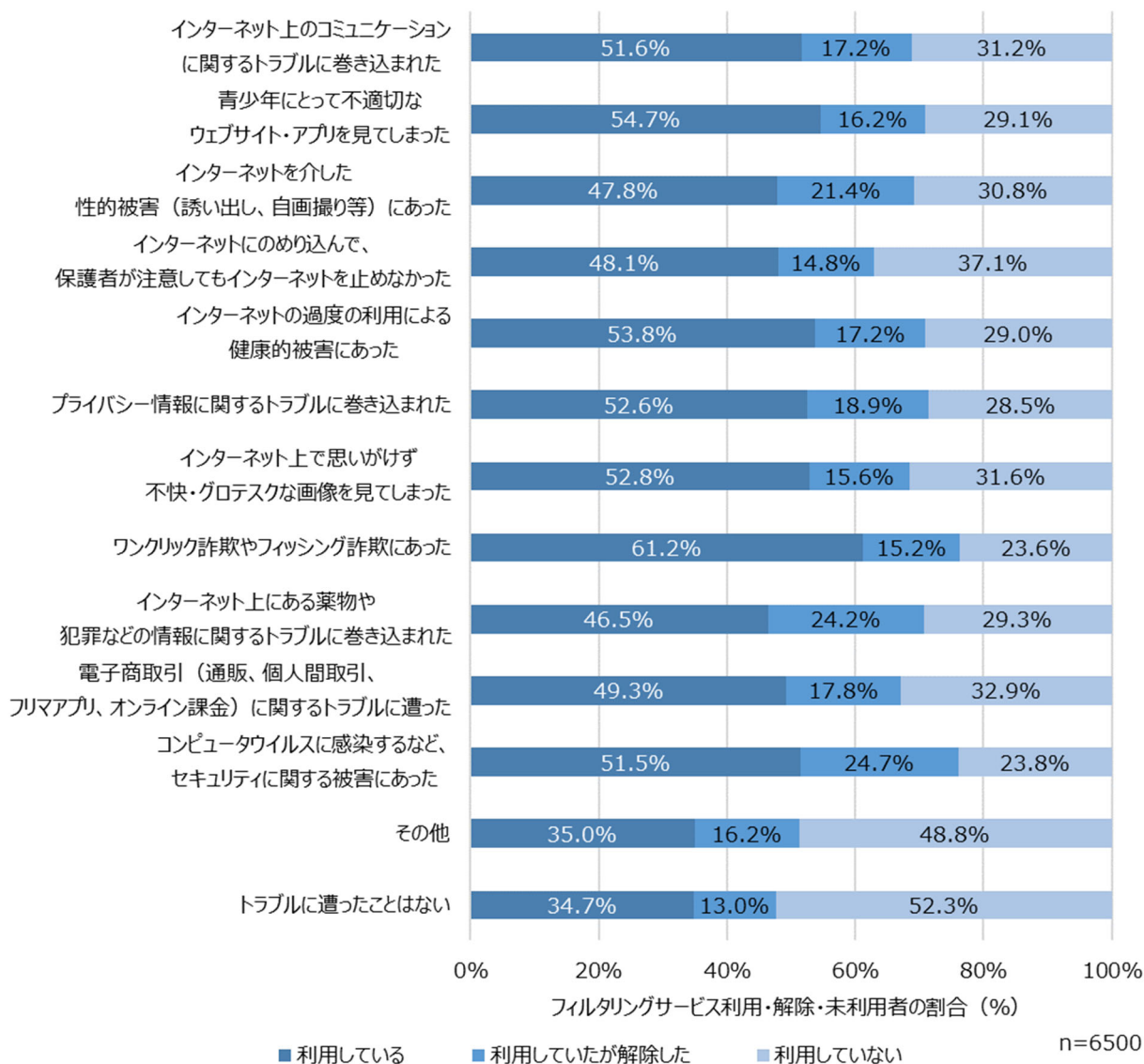
続けて青少年の遭ったトラブルについて見た図表 5.16 でも、同じことが見えてくる。フィルタリングサービスの利用と青少年がトラブルに遭う関係は、トラブルに遭ったから利用した（そして利用を継続した）という関係と、フィルタリングサービスを利用していないからトラブルに遭っていないという関係の両方が考えられるが、前者が後者を上回ったといえる。ただし、これはあくまで保護者の認識に基づく回答であり、フィルタリングサービスを利用していない問題意識の高くない層が、子供のインターネットトラブルを把握していないという効果も含まれている。

個別項目で特に多かったのが「ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺にあった」（61.2%）であり、青少年がこのような経験をしていると特にフィルタリングサービスを利用しよう

とすることが分かる。解除した人を合わせても最多で、利用したことのない人は23.6%しかない。



図表 5.15 これまでに保護者がインターネットを利用して遭ったトラブルとフィルタリングサービス利用状況



図表 5.16 これまでに青少年がインターネットを利用して遭ったトラブルとフィルタリングサービス利用状況

6. フィルタリングサービス利用行動に何が影響を与えているか

本章では、保護者のフィルタリングサービス利用行動が何によって決定づけられているか、回帰分析によって明らかにする。回帰分析をすることで、交絡因子²⁵をコントロールしたうえで、統計的な検証を経て、フィルタリングサービス利用行動に影響を与えている要素について総合的に分析することが出来る。

6. 1. 分析方法

分析するのは、保護者*i*のフィルタリング利用行動に関する、下記(6.1)式のような多項ロジスティックモデルである。

$$\begin{aligned} \ln\left(\frac{P_{bi}}{P_{ai}}\right) &= \alpha_b + \beta_{b1}Knowledge_i + \beta_{b2}Literacy_i + \beta_{b3}Other_i + \beta_{b4}Experience_i + \beta_{b5}Mobile_i \\ &\quad + \beta_{b6}C_characteristics_i + \beta_{b7}A_characteristics_i + \beta_{b8}Relationship_i \\ \ln\left(\frac{P_{ci}}{P_{ai}}\right) &= \alpha_c + \beta_{c1}Knowledge_i + \beta_{c2}Literacy_i + \beta_{c3}Other_i + \beta_{c4}Experience_i + \beta_{c5}Mobile_i \\ &\quad + \beta_{c6}C_characteristics_i + \beta_{c7}A_characteristics_i + \beta_{c8}Relationship_i \end{aligned} \quad (6.1)$$

ただし、各記号は以下を表す。

- P_{ai} : フィルタリングサービスを利用している予想確率
- P_{bi} : フィルタリングサービスを利用していたが解除した予想確率
- P_{ci} : フィルタリングサービスを利用していない予想確率
- $Knowledge_i$: 「インターネットの問題に関する知識」と「フィルタリングサービスに関する知識」のベクトル。
- $Literacy_i$: 「インターネットの問題の子供への危険性認知」と「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」のベクトル。
- $Other_i$: フィルタリングサービス以外の施策をしているかどうかのベクトル。具体的には、家庭でのルールの数とペアレンタルコントロール機能利用有無である。
- $Experience_i$: 保護者と子供のこれまでの経験を表すベクトル。具体的には、スマート

²⁵ 交絡を発生させる要因のことである。例えば、飲酒者と非飲酒者では飲酒者の肺癌発生率が高くなる(飲酒するかどうかと肺癌発生率は正の相関をする)。しかしながら、これは交絡因子である喫煙の影響によるもので、飲酒者に喫煙者が多いことによる。喫煙の有無で分けてから、飲酒者と非飲酒者の肺癌発生率を比べると違いは無くなり、飲酒は肺癌の発症と関連の無いことが分かる。<https://bellcurve.jp/statistics/glossary/1322.html>

フォン購入時における保護者管理の説明・資料の有無、インターネット問題に関する情報の見聞き経験有無、インターネットでトラブルに遭った経験有無、周りにフィルタリングサービスについて詳しい人物がいるかどうかである。

- $Mobile_i$: スマートフォンの利用状況を表すベクトル。具体的には、兄弟姉妹で共用かどうかといった利用形態と、契約している通信事業者、スマートフォンの OS である。
- $C_characteristics_i$: 青少年の属性ベクトル。具体的には、青少年の年齢²⁶、青少年のスマートフォン利用時間（1日当たり時間）、青少年が動画共有サービス等各サービスを利用しているか。
- $A_characteristics_i$: 保護者の属性ベクトル。具体的には、保護者の学歴（大卒かどうか）、保護者の年齢、在住地域（大都市圏在住かどうか）、世帯年収、保護者のスマートフォン利用時間（1日当たり時間）、保護者の動画共有サービス等各サービス利用時間（1日当たり時間）。
- $Relationship_i$: 保護者と子供の間接関係を表すベクトル。具体的には、子供と接する時間（1日当たり時間）²⁷と子供のことは信頼できると思うか²⁸である。
- $\alpha_b, \beta_{b1}, \beta_{b2}, \beta_{b3}, \beta_{b4}, \beta_{b5}, \beta_{b6}, \beta_{b7}, \beta_{b8}, \alpha_c, \beta_{c1}, \beta_{c2}, \beta_{c3}, \beta_{c4}, \beta_{c5}, \beta_{c6}, \beta_{c7}, \beta_{c8}$: 各変数、ベクトルのパラメータ。

各変数の基本統計量は次の図表 6.1 のようになる。

図表 6.1 基本統計量

変数カテゴリ	変数	平均	標準偏差	最小	最大
フィルタリン	利用している	0.381	0.486	0	1
グサービス利	利用していたが解除した	0.137	0.344	0	1
用状況	利用していない	0.482	0.500	0	1
知識	ネット問題	4.539	0.906	1	6
	フィルタリングサービス	3.571	0.957	0	5
危険性・有効	ネット問題の危険性	4.023	0.818	1	5
性	フィルタリングサービスの有効性	3.727	0.813	1	5
フィルタリン	家庭でのルールの数	2.595	1.809	1	9
グ以外の施策	ペアレンタルコントロール利用	0.279	0.448	0	1
親と子の経験	購入時説明	0.400	0.490	0	1

²⁶ 未就学（5～6歳）、小学低学年、小学高学年、中学、高校の5区分。

²⁷ 設問設計に当たり以下を参照している。：総務省「子供と家族に関する国際比較調査の概要」、平成7年12月、<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/kodomo/kodomo.htm>

²⁸ 「この子（一番小さいお子様）のことは信頼できる」について、「1点：当てはまらない」～「4点：当てはまる」の4件法で調査した結果。

	ネット問題の説明経験（子）	0.819	0.385	0	1
	ネット問題の説明経験（親）	0.719	0.450	0	1
	ネットトラブル経験（子）	0.248	0.432	0	1
	ネットトラブル経験（親）	0.248	0.432	0	1
	周りに詳しい人物	0.316	0.465	0	1
スマートフォン ン利用状況	兄弟姉妹で共用	0.021	0.143	0	1
	親と共用・親が見ている前のみ	0.117	0.321	0	1
	親と共用・1人でも利用	0.097	0.297	0	1
	その他の形態	0.018	0.134	0	1
	契約：NTT ドコモ、KDDI、SoftBank のいずれか	0.619	0.486	0	1
	契約：切れている	0.051	0.220	0	1
	iOS	0.443	0.497	0	1
青少年属性	未就学（5～6歳）	0.038	0.192	0	1
	小学低学年	0.139	0.346	0	1
	小学高学年	0.177	0.381	0	1
	中学	0.277	0.448	0	1
	男子	0.484	0.500	0	1
	スマートフォン利用時間	1.932	1.547	0.125	6.000
	動画共有サービス利用	0.784	0.411	0	1
	ゲームアプリ利用	0.510	0.500	0	1
	学習・勉強・知育アプリ利用	0.214	0.410	0	1
	クチコミサイト利用	0.074	0.262	0	1
	メッセージアプリ利用	0.534	0.499	0	1
	SNS 利用	0.370	0.483	0	1
	検索エンジン利用	0.523	0.500	0	1
	電子書籍利用	0.101	0.301	0	1
	ネットニュース利用	0.264	0.441	0	1
	フリマアプリ・ショッピング等利用	0.118	0.322	0	1
保護者属性	大卒	0.532	0.499	0	1
	年齢	47.652	6.113	22	69
	大都市圏在住	0.479	0.500	0	1
	世帯年収（百万円）	777.019	405.212	0	2500
	スマートフォン利用歴	8.637	4.599	0.0	17.5
	スマートフォン利用時間	2.042	1.506	0	6
	動画共有サービス利用時間	0.553	0.780	0	6

	ゲームアプリ利用時間	0.428	0.807	0	6
	学習・勉強・知育アプリ利用時間	0.128	0.443	0	6
	クチコミサイト利用時間	0.221	0.417	0	6
	メッセージアプリ利用時間	0.426	0.565	0	6
	SNS 利用時間	0.345	0.603	0	6
	検索エンジン利用時間	0.553	0.649	0	6
	電子書籍利用時間	0.217	0.558	0	6
	ネットニュース利用時間	0.486	0.561	0	6
	フリマアプリ・ショッピング等利用時間	0.325	0.493	0	6
子供との関係	子供と接する時間	3.394	3.047	0	14
	子供のことは信頼できる	3.178	0.709	1	4

6. 2. 分析結果

以上を踏まえて (6.1) を分析した結果が図表 6.4 である。<1>列には利用していたが解除した人の分析結果 ((6.1) 式上段) を、<2>列には利用していない人の分析結果 ((6.1) 式下段) を示している。分析結果は「フィルタリングサービスを利用している人と比べて」となる。分析には STATA16 を使用している。ただし、スマートフォン利用状況において、利用形態では基準を青少年が専用で利用している場合、契約では基準を NTT ドコモ、KDDI、SoftBank を除く通信事業者、OS では基準を Android としている。また、青少年属性において、年齢は高校生を基準としている。

限界効果列には平均限界効果を記載している²⁹。つまり例えば、<1>列のインターネットの問題に関する知識を見ると、限界効果が 0.027 であるため、インターネットの問題に関する知識が 1 ポイント増えると、フィルタリングサービスを利用していたが解除する確率が 2.7%増加するといえる。

また、標準化係数列には標準化偏回帰係数を掲載している。標準化偏回帰係数とは、全ての変数の平均値を 0、標準偏差を 1 としたうえで推定した結果の係数であり、他の説明変数が一定という条件のもと、当該説明変数が 1 標準偏差変化した時に、標準化された被説明変数が何単位変化するか表した値である。主として説明変数同士の説明力を横比較する際に用いられる。p 値は White (1980)³⁰の標準誤差から算出されており、不均一分散に頑健な値となっている。

²⁹ 限界効果とは、説明変数が 1 単位増加した時に確率がどの程度変化するかを表している。

³⁰ White, H. (1980). A heteroskedasticity-consistent covariance matrix estimator and a direct test for heteroskedasticity. *Econometrica: Journal of the Econometric Society*, 817-838.

さらに、この推定結果について、5%水準で有意になったものを分かりやすく図としたものが図表 6.2 と図表 6.3 である。図表 6.2 は<1>列の「利用していたが解除した人」の分析結果をまとめており、図表 6.3 は<2>列の「利用していない人」の分析結果をまとめている。グラフで示しているのは標準化係数であり、変数間の横比較が可能になっている。

ここから、主に標準化係数を示した図表 6.2 と図表 6.3 を見ながら解釈を加えていく。まず、図表 6.2 の知識については、フィルタリングサービスの知識が多いとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。一方で、インターネットの問題に関する知識が多いと解除する傾向が見られた。自分が詳しいから青少年についてもフィルタリングサービスなしで安全に管理できると考えてのことと予想される。しかし、保護者がインターネットの問題に詳しいからといって、青少年が適切にインターネットを利用できているとは限らない。

一方で、危険性・有効性については、インターネットの問題の自分の子供に対する危険性認知も、フィルタリングサービスの各問題に対する有効性認知も、共に高いほどフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。

これらを総合すると、インターネット問題に関する知識があっても、フィルタリングサービスの知識が無かったり、危険性や有効性を認知していなかったりする場合に解除しやすいといえる。そのため、青少年の適切なインターネット利用のために、フィルタリングサービスの利用を促進するならば、インターネットの問題について啓発するよりも、フィルタリングサービスで出来ることや設定方法といった知識や、インターネットの問題の青少年に対する危険性、フィルタリングサービスの各問題に対する有効性を啓発するのが効果的と考えられる。

また、標準化係数の絶対値を見ても、年齢を除くと 2 位、3 位、4 位となっており（1 位はペアレンタルコントロール機能の利用）、フィルタリングサービス利用行動に非常に大きな影響を持っていることが分かる。フィルタリングサービスの知識と危険性・有効性認知を上げるとはフィルタリングサービス利用促進に大きく寄与する可能性がある³¹。

フィルタリングサービス以外の施策では、家庭でのルールの数もペアレンタルコントロ

³¹ ただし、これはあくまで知識や危険性・有効性認知が高いとフィルタリングサービスを利用する傾向があることを示したに過ぎず、明確な因果関係を抽出したわけではないことに留意する必要がある。つまり、例えばフィルタリングサービスの知識について、知識があるからフィルタリングサービスの利用を継続しているという効果と、フィルタリングサービスの利用を継続しているから知識があるという逆因果の両方があるだろう。インターネットの問題の危険性はそのような逆因果は弱いと思われるが、フィルタリングサービスの知識と有効性認知では無視できない。ただしいずれにせよ、「知識のある人、危険性・有効性認知の高い人はフィルタリングサービスを利用継続しており（解除しにくい）、その関係は強い」というのは事実である。

ール機能の利用も、共に実施している人の方がフィルタリングサービスの利用を継続していることが分かった。つまり、「フィルタリングサービス以外の対策をしているからフィルタリングサービスを利用しない」というよりも、「フィルタリングサービスを利用していない人は他の対策もしていない」といえる。青少年を保護する施策はフィルタリングサービスだけでないため、総合的にどのように保護しているかが社会的には重要であるものの、現実的には様々な対策をしている層とほとんどしていない層で分かれてしまっているといえる。また、図表 4.18 からも明らかなおと、知識や危険性・有効性認知は他の施策の実施とも関係が強い。インターネットの問題の青少年への危険性や、フィルタリングサービスの知識、有効性の啓発をとおして、総合的な青少年保護意識を高めていくことが必要と考えられる。

親と子の経験では、ほとんどの変数は有意とならなかったが、スマートフォン購入時に保護者の管理に関する説明を受けたり資料を読んだりしているとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。図表 5.11～図表 5.16 を見ると、他の様々な経験についても、経験を有しているとフィルタリングサービスを利用するようになると思われたが、実際にはほとんどの変数について交絡因子が影響を与えていた疑似相関だったといえる。しかし注目すべきは購入時に保護者の管理に関する説明を受けたり資料を読んだりしていると、その時点でフィルタリングサービスに加入するだけでなく（図表 6.3・後述）、利用を継続する効果もあるということである。その一方で、特に低年齢層の子供を持つ保護者では、購入時には青少年が利用する予定がなかったために説明を受けなかったという人が多かった（図表 5.1）。そのような場合でも青少年と同居している場合には説明を受けられるような施策を展開することが、フィルタリングサービス利用促進に繋がると考えられる。

スマートフォン利用状況では、親と共用で親が見ている前のみで使用している場合、その他の形態の場合でフィルタリングサービスの利用を解除する傾向が見られた一方で、通信事業者との契約が切れている場合にはフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。前者については、基準は青少年が専用で利用している場合なので、そのような場合に比べて他の利用形態ではフィルタリングサービスを解除する形態にあるというのは予想通りである。ただし、兄弟姉妹で共用している場合や、親と共用で1人でも利用することがある場合は、専用の場合と有意な差がなく、フィルタリングサービスを解除する傾向はみられなかった。あくまで親と共用していてかつ親が見ている前でのみ使用していると解除する傾向にあることから、親がフィルタリングサービスを利用しなくても管理できると判断して解除していると推察される。

通信事業者との契約が切れている場合にフィルタリングサービスの利用を継続する傾向があるのは予想と反する。なぜならば、青少年がインターネットを利用するシーンが限定されるため（家の Wi-Fi を使う等）、解除する傾向にあると考えられたためである。通信事業者と契約していないと支払い金額に上限のあるキャリア決済が使えない等が影響している可能性はあるが、本分析からだけではこれ以上の解釈は難しい。

青少年の属性では、全ての年齢で高校生に比べてフィルタリングサービスの利用を継続する傾向であり、特に未就学（5～6歳）から小学高学年までは利用を継続している。また、アプリ・サービス利用では SNS を利用していると解除する傾向、電子書籍を利用していると継続する傾向が見られた。

まず、年齢については、図表 3.4 から明らかなとおり、高校生ではフィルタリングサービスを利用していたが解除している人が非常に多く、中学生も少なくない。青少年の年齢が高くなるにつれてフィルタリングサービスを解除していくことが分かる。

次に、アプリ・サービス利用において、SNS 利用で解除するというのは分かりやすい傾向である。SNS はフィルタリングサービスで制限されるものであり、例えば SoftBank のあんしんフィルターであれば、高校生プラスモードまで何らかの制限が付く³²。その一方で、SNS は日本社会で広く普及しているサービスであり、利用率が高く利用したい青少年も少なくないと考えられる。その結果、SNS を利用させるためにフィルタリングサービスを解除していると考えられる。このようなことを防ぐためには、青少年の年齢に合ったフィルタリングサービスの利用を推奨しつつも、柔軟にカスタマイズ設定できることを啓発することが大切と考えられる。例えば、SNS 利用を禁止はしないが、利用時間を管理するといった運用も出来る。その一方で、電子書籍を利用しているとフィルタリングサービスの利用を継続するのは、電子書籍は元々制限があまりなく、前述の SoftBank のあんしんフィルターでも中学生以上であれば制限がないことが要因と考えられる。他方、アダルト等青少年に有害なコンテンツの閲覧を警戒してフィルタリングサービスを利用し続けるというわけである。

保護者の属性については、大卒であるとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向にある一方で、スマートフォン利用歴が長いと解除する傾向にある。また、アプリ・サービスの利用時間では、メッセージアプリ利用時間が長いとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向にある一方で、SNS 利用時間が長いと解除する傾向にあった。

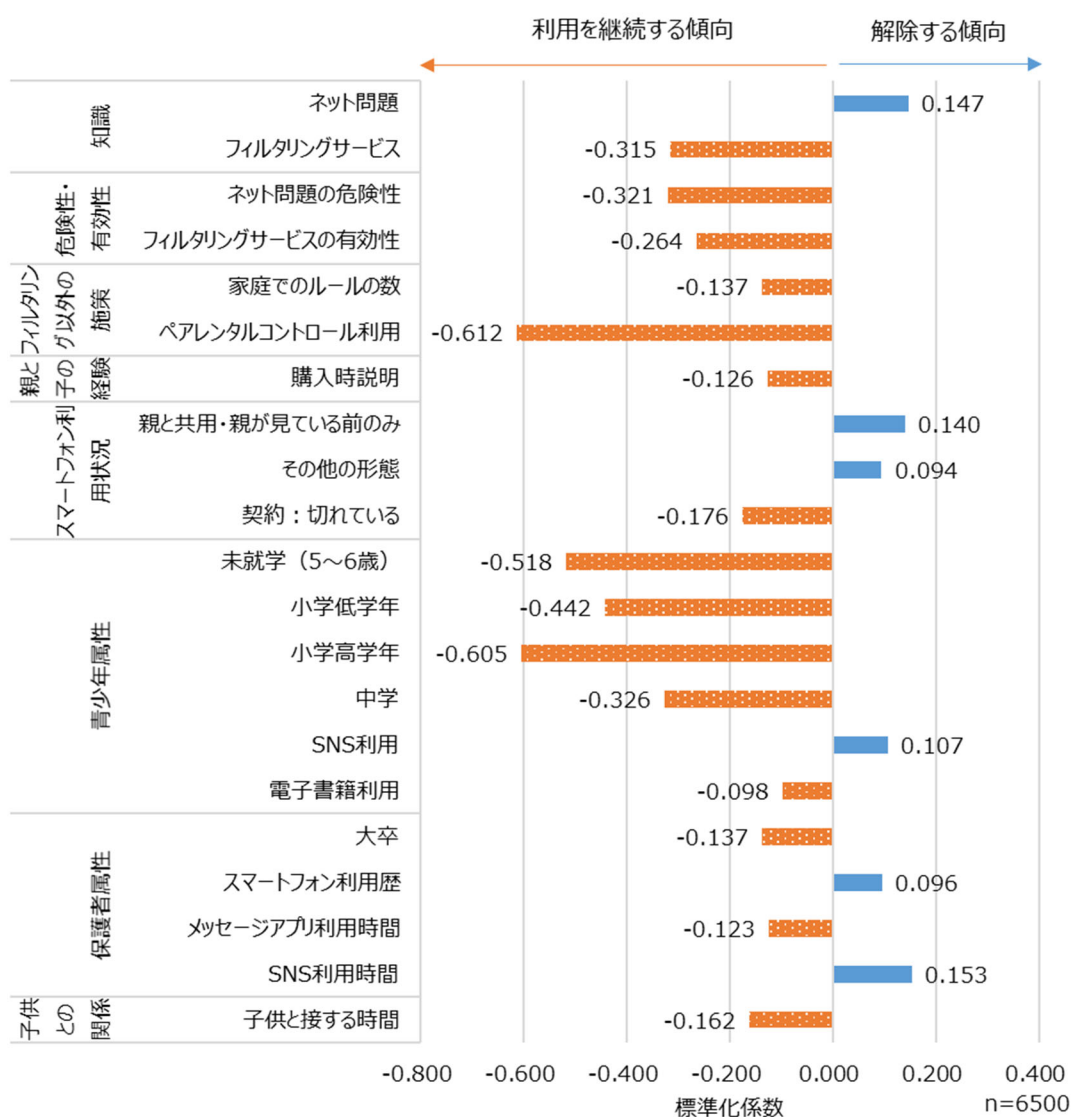
まず、大卒については、大卒の方が全般的な知識があったり青少年保護に関する意識があったりすると推察される。また、スマートフォン利用歴については、自分が慣れているために青少年も大丈夫であり、フィルタリングサービスがなくても保護できると考えて解除していると考えられる。これはインターネットの問題に関する知識が多い人ほど解除する傾向があったのと一致する。しかし現実には保護者が慣れているからといって青少年が慣れていることにはならず、適切な管理は求められる。

アプリ・サービス利用時間については、メッセージアプリ利用時間が長いとそれだけフィルタリングサービスやインターネットの問題について他の保護者等と話す機会が増え、フィルタリングサービスを継続するようになると考えられる。その一方で、SNS 利用時間が

³² https://www.softbank.jp/mobile/service/filtering/anshin-filter/access_control/

長いと、スマートフォン利用歴と同様に保護者自身が慣れており、青少年も安全と考えてフィルタリングサービスを解除するようになるといえる。

最後に、子供との関係では、子供と接する時間が長いとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。家庭でのルールがあるほど、あるいはペアレンタルコントロール機能を利用している人ほどフィルタリングサービスの利用を継続していたのと同じように、よく子供と接しているほど青少年保護意識が高まり、フィルタリングサービスの利用も継続するようになると考えられる。



図表 6.2 分析結果：フィルタリングサービスを利用していたが解除する行動に与える影響（標準化係数）

※ただし、スマートフォン利用形態の基準は「専用」、契約形態の基準は「NTT ドコモ、KDDI、SoftBank を除く通信事業者」、年齢の基準は「高校生」である。

続いて図表 6.3 について確認する。知識については、インターネットの問題に関する知識は有意にならなかった一方で、フィルタリングサービスの知識が多いとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。図表 6.2 と異なりインターネットの問題に関する知識が有意に正となることは無かったものの、インターネットの問題に関する知識が多くてもフィルタリングサービスを利用するような傾向は見られない。

危険性・有効性については、インターネットの問題の自分の子供に対する危険性認知も、フィルタリングサービスの各問題に対する有効性認知も、共に高いほどフィルタリングサービスの利用を継続する傾向が見られた。

図表 6.2 との結果を合わせると、フィルタリングサービスの知識が多い人、インターネットの問題の自分の子供への危険性を認知している人、フィルタリングサービスのインターネットの各問題に対する有効性を認知している人は、フィルタリングサービスを利用する確率が高く、継続する確率も高いといえる。やはりインターネットの問題を除いた、これらのテーマについて啓発するのが効果的と考えられる。

フィルタリングサービス以外の施策では、家庭でのルールの数もペアレンタルコントロール機能の利用も、共に実施している人の方がフィルタリングサービスを利用しており、図表 6.2 と一致する。利用の継続だけでなく、そもそもフィルタリングサービスを利用している人は、利用したことが無い人に比べ、このような他の施策を実施している傾向にあるといえる。

親と子の経験では、ほとんどの変数は有意とならなかったが、スマートフォン購入時に保護者の管理に関する説明を受けたり資料を読んだりしていることと、保護者がインターネットのトラブルに遭った経験を有していると、フィルタリングサービスを利用する傾向が見られた。特に購入時の説明・資料は標準化係数が大きく、フィルタリングサービスを利用するきっかけとして非常に機能しているといえる。また、保護者がトラブルに遭っていると、それだけインターネットの危険性を考慮するようになり、フィルタリングサービスを利用するようになると考えられる。

スマートフォン利用状況では、親と共用で親が見ている前のみで使用している場合、親と共用で 1 人でも利用することがある場合、その他の形態の場合でフィルタリングサービスの利用を利用しない傾向が見られた一方で、通信事業者が NTT ドコモ、KDDI、SoftBank のいずれかであるとフィルタリングサービスを利用する傾向が見られた。

前者については、基準は青少年が専用で利用している場合なので、そのような場合に比べて他の利用形態ではフィルタリングサービスを利用しない予想通りであり、図表 6.2 ともほとんど一致する。図表 6.2 との違いは親と共用で 1 人でも利用することがある場合でもフィルタリングサービスを利用しない傾向にあることである。解除の判断は 1 人で利用するか

どうかで異なっていたか（親が見ている前でのみの利用であれば解除）、そもそも親と共用の場合利用者が変わるたびにフィルタリングサービスを設定・解除する必要があり、その手間を避けるために利用していないと考えられる。標準化係数の絶対値もかなり大きく、フィルタリングサービスを利用しないことに大きな影響を与えている。親と共用の場合でもそのような手間を軽減出来れば、フィルタリングサービスの利用はさらに促進されると考えられる。

通信事業者については、NTT ドコモ、KDDI、SoftBank であると格安スマートフォンの場合に比べてフィルタリングサービスを利用する傾向にある。これは、NTT ドコモ、KDDI、SoftBank はあんしんフィルターという通信事業者のフィルタリングサービスを無料で利用できること³³、店頭でのやり取りが多いこと等が影響を与えていると考えられる。

青少年の属性では、小学低学年、小学高学年、中学生であるとフィルタリングサービスを利用する傾向である一方で、未就学（5～6 歳）は有意にならず、基準となる高校生と大きな違いはないという結果となった。また、アプリ・サービス利用では動画共有サービス、口コミサイト、SNS を利用しているとフィルタリングサービスを利用しない傾向で、検索エンジンを利用していると利用する傾向が見られた。

まず、年齢については、図表 3.4 から明らかなおり、未就学（5～6 歳）と高校生ではフィルタリングサービスを利用していない人が多い。未就学（5～6 歳）については、親と共用が多いため利用率が低いということもあるだろうが、スマートフォン利用形態をコントロールしても尚、利用率が高校生と同水準といえる。まだ子育て歴が浅く、フィルタリングサービスの利用検討に至っていないことや、スマートフォン利用率自体が低い年齢層なので周囲でそのような話をする保護者も少ないことが影響していると推察される。

次に、アプリ・サービス利用において、動画共有サービスと SNS を利用しているとフィルタリングサービスを利用しないのは、いずれも老若男女問わず人気のサービスである一方でフィルタリングサービスでは利用を制限されているためと考えられる。SNS は前述したとおり、SoftBank のあんしんフィルターであれば、高校生プラスモードまで何らかの制限が付き、動画共有サービスも中学生までは制限される。しかし、YouTube Kids であれば制限はないため、そのような Kids 向けのサービスの存在を啓発することがフィルタリングサービス利用に寄与する可能性がある。また、クチコミサイトは、実際の購入・利用と紐づいているものが多く、そのようなサービスを利用させたいがためにフィルタリングサービスを利用しなくなると思われる。その一方で検索エンジンを利用しているとフィルタリングサービスを利用する傾向にあったのは、検索エンジンそのものにはフィルタリングサービスで制限がない³⁴一方で、検索後に有害情報にアクセスしないようにフィルタリングサービス

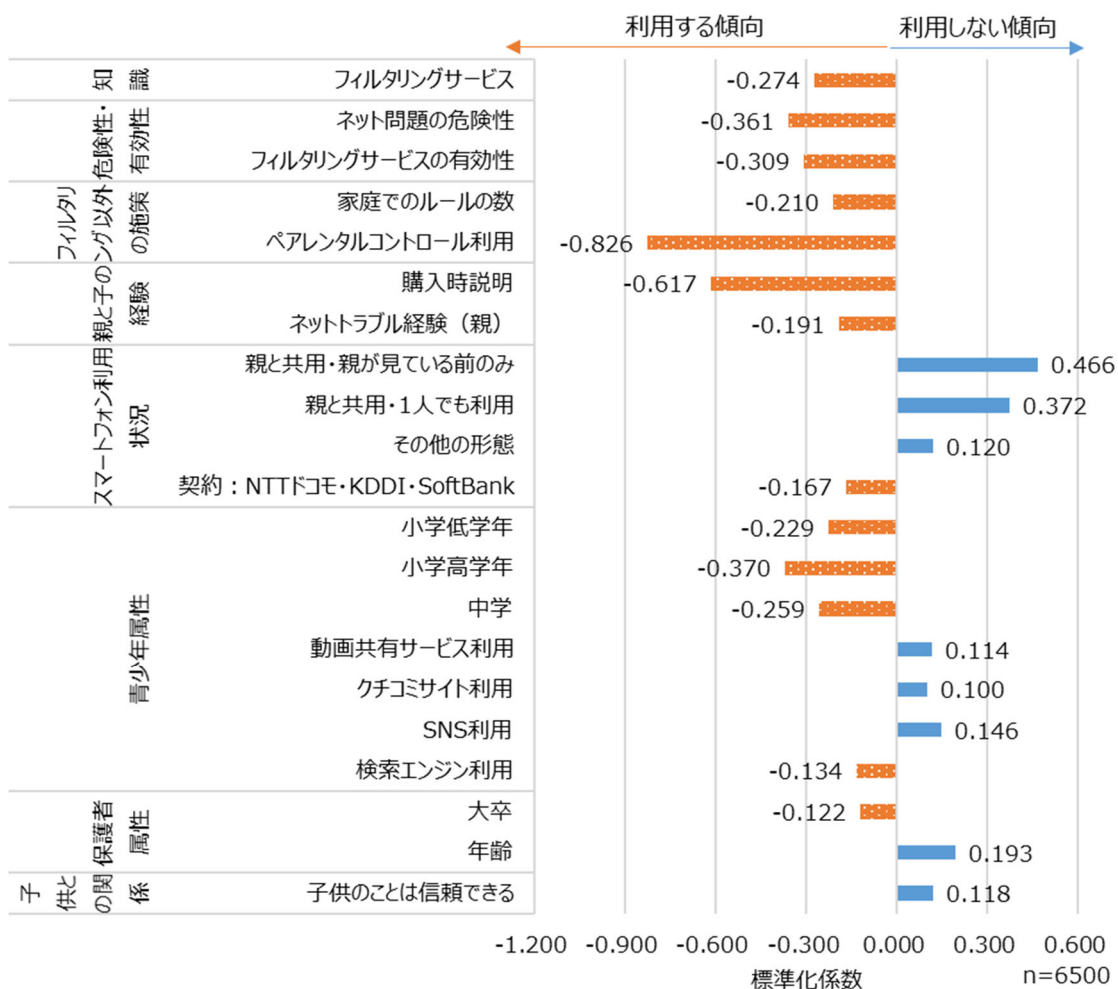
³³ 格安スマートフォンでは無料で使える場合もあるが、事業者に依存する。

³⁴ 尚、アプリとしての Google の利用には制限がある場合がある。

を利用するようになると考えられる。

保護者の属性については、大卒であるとフィルタリングサービスを利用する傾向にある一方で、年齢が高いとフィルタリングサービスを利用しない傾向にある。前者については図表 6.2 と同じ傾向である。また、年齢が高いと IT 機器との親和性が低い人が多くなるために、フィルタリングサービス利用率が低下すると考えられる。図表 6.2 では、スマートフォン利用歴が長い人（慣れている人）はフィルタリングサービスの利用を解除する傾向が見られたが、図表 6.3 では IT に慣れていない年齢の高い人はフィルタリングサービスをそもそも利用しない傾向が見られたといえる。青少年保護者自身も IT に詳しくなる必要があると共に、自分が詳しいからといってフィルタリングサービスを解除しても良い理由にはならないということを啓発する必要がある。

最後に、子供との関係では、子供のことは信頼できると考えている人ほどフィルタリングサービスを利用しない傾向にあった。信頼しているので利用しないという傾向は、保護者インタビュー調査でも見られた傾向である。しかし有識者会議では、保護者が青少年を信頼できると考えていることと、実際に青少年が信頼できる・安全であるということは紐づいていないという指摘もあった。信頼できると考えていたとしても、インターネットの問題のもつ子供への危険性や、フィルタリングサービスの知識、有効性をよく知ったうえで、子供と話し合い、適切な保護方法を考えていくことが大切といえる。



図表 6.3 分析結果：フィルタリングサービスを利用していない行動に与える影響（標準化係数）

※ただし、スマートフォン利用形態の基準は「専用」、契約形態の基準は「NTTドコモ、KDDI、SoftBankを除く通信事業者」、年齢の基準は「高校生」である。

図表 6.4 分析結果：フィルタリングサービス利用行動に与える影響

変数カテゴリ	変数	<1>			<2>		
		限界効果	標準化係数	p値	限界効果	標準化係数	p値
知識	ネット問題	0.027	0.147	0.01 **	0.005	0.021	0.62
	フィルタリングサービス	-0.047	-0.315	0.00 **	-0.042	-0.274	0.00 **
危険性・有効性	ネット問題の危険性	-0.063	-0.321	0.00 **	-0.066	-0.361	0.00 **
	フィルタリングサービスの有効性	-0.058	-0.264	0.00 **	-0.056	-0.309	0.00 **
フィルタリング以外の施策	家庭でのルールの数	-0.015	-0.137	0.02 *	-0.016	-0.210	0.00 **
	ペアレンタルコントロール利用	-0.206	-0.612	0.00 **	-0.269	-0.826	0.00 **
親と子の経験	購入時説明	-0.044	-0.126	0.01 *	-0.192	-0.617	0.00 **
	ネット問題の説明経験（子）	0.027	0.075	0.31	0.031	0.079	0.11
	ネット問題の説明経験（親）	0.046	0.104	0.20	-0.007	-0.022	0.67
	ネットトラブル経験（子）	0.016	0.074	0.20	0.011	0.024	0.59
	ネットトラブル経験（親）	-0.019	-0.049	0.39	-0.070	-0.191	0.00 **
	周りに詳しい人物	-0.003	-0.015	0.77	-0.016	-0.043	0.28
スマートフォン利用状況	兄弟姉妹で共用	0.063	0.041	0.14	0.045	0.044	0.05
	親と共用・親が見ている前のみ	0.098	0.140	0.01 **	0.261	0.466	0.00 **
	親と共用・1人でも利用	0.005	0.027	0.62	0.228	0.372	0.00 **
	その他の形態	0.099	0.094	0.03 *	0.151	0.120	0.00 **
	契約：MNO	-0.032	-0.085	0.10	-0.056	-0.167	0.00 **
	契約：切れている	-0.103	-0.176	0.04 *	-0.016	-0.017	0.69
青少年属性	iOS	0.003	-0.015	0.76	-0.016	-0.066	0.08
	未就学（5～6歳）	-0.181	-0.518	0.00 **	-0.038	-0.137	0.14
	小学低学年	-0.138	-0.442	0.00 **	-0.067	-0.229	0.00 **
	小学高学年	-0.189	-0.605	0.00 **	-0.111	-0.370	0.00 **
	中学	-0.096	-0.326	0.00 **	-0.080	-0.259	0.00 **
	男子	-0.005	-0.022	0.65	-0.001	-0.005	0.89
	スマートフォン利用時間	0.006	0.056	0.34	-0.003	-0.033	0.48
	動画共有サービス利用	0.018	0.043	0.39	0.043	0.114	0.00 **
	ゲームアプリ利用	-0.005	-0.001	0.98	0.008	0.023	0.56
	学習・勉強・知育アプリ利用	0.031	0.082	0.08	-0.027	-0.068	0.09
	クチコミサイト利用	0.048	0.060	0.18	0.057	0.100	0.01 *
	メッセージアプリ利用	-0.021	-0.093	0.10	-0.029	-0.078	0.08
	SNS利用	0.038	0.107	0.04 *	0.051	0.146	0.00 **
	検索エンジン利用	-0.021	-0.058	0.29	-0.041	-0.134	0.00 **
	電子書籍利用	-0.054	-0.098	0.04 *	-0.001	-0.010	0.80
	ネットニュース利用	-0.004	-0.006	0.91	0.024	0.057	0.15
	フリマアプリ・ショッピング等利用	0.022	0.045	0.34	0.027	0.054	0.17
保護者属性	大卒	-0.050	-0.137	0.01 **	-0.039	-0.122	0.00 **
	年齢	-0.001	-0.024	0.69	0.005	0.193	0.00 **
	大都市圏在住	0.031	0.095	0.05	-0.013	-0.032	0.38
	世帯年収（百万円）	0.000	-0.006	0.91	0.000	-0.056	0.16
	スマートフォン利用歴	0.004	0.096	0.05 *	0.001	0.018	0.64
	スマートフォン利用時間	-0.004	-0.026	0.67	-0.001	-0.015	0.75
	動画共有サービス利用時間	0.004	0.026	0.63	0.008	0.043	0.34
	ゲームアプリ利用時間	0.002	0.021	0.69	-0.005	-0.037	0.41
	学習・勉強・知育アプリ利用時間	0.043	0.124	0.05	-0.006	-0.035	0.55
	クチコミサイト利用時間	0.019	0.050	0.47	0.016	0.025	0.67
	メッセージアプリ利用時間	-0.033	-0.123	0.05 *	-0.025	-0.103	0.07
	SNS利用時間	0.028	0.153	0.01 *	0.022	0.078	0.16
	検索エンジン利用時間	0.030	0.100	0.10	0.004	0.016	0.77
	電子書籍利用時間	-0.002	-0.016	0.79	-0.005	0.006	0.91
	ネットニュース利用時間	-0.005	-0.043	0.50	0.007	0.027	0.63
フリマアプリ・ショッピング等利用時間	-0.007	-0.017	0.81	-0.019	-0.062	0.24	
子供との関係	子供と接する時間	-0.008	-0.162	0.02 *	-0.001	-0.005	0.92
	子供のことは信頼できる	0.008	0.040	0.41	0.028	0.118	0.00 **
	定数項		-2.427	0.00 **		-0.624	0.00 **
	n	6500					
	R2	0.2372					

注1：**p<0.01、*p<0.05。

注2：多項ロジットモデルで推定。p値は不均一分散に頑健な標準誤差から算出している。

注3：<2>列は「フィルタリングサービスを利用していたが解除した人」の分析結果、<3>列は「フィルタリングサービスを利用していない人」の分析結果であり、基準は「フィルタリングサービスを利用している人」である。

さて、知識と危険性・有効性認知については、下位尺度がある。その内インターネットの問題に関する知識、インターネットの問題の子供への危険性認知、フィルタリングサービスの各インターネット問題への有効性認知の3つについては、インターネットの各問題によって回答結果はあまり変わらなかったことが分かっている（図表 4.1、図表 4.5、図表 4.7）。実際、各項目での相関係数を見ると 0.5～0.8 程度であり、極めて高い。

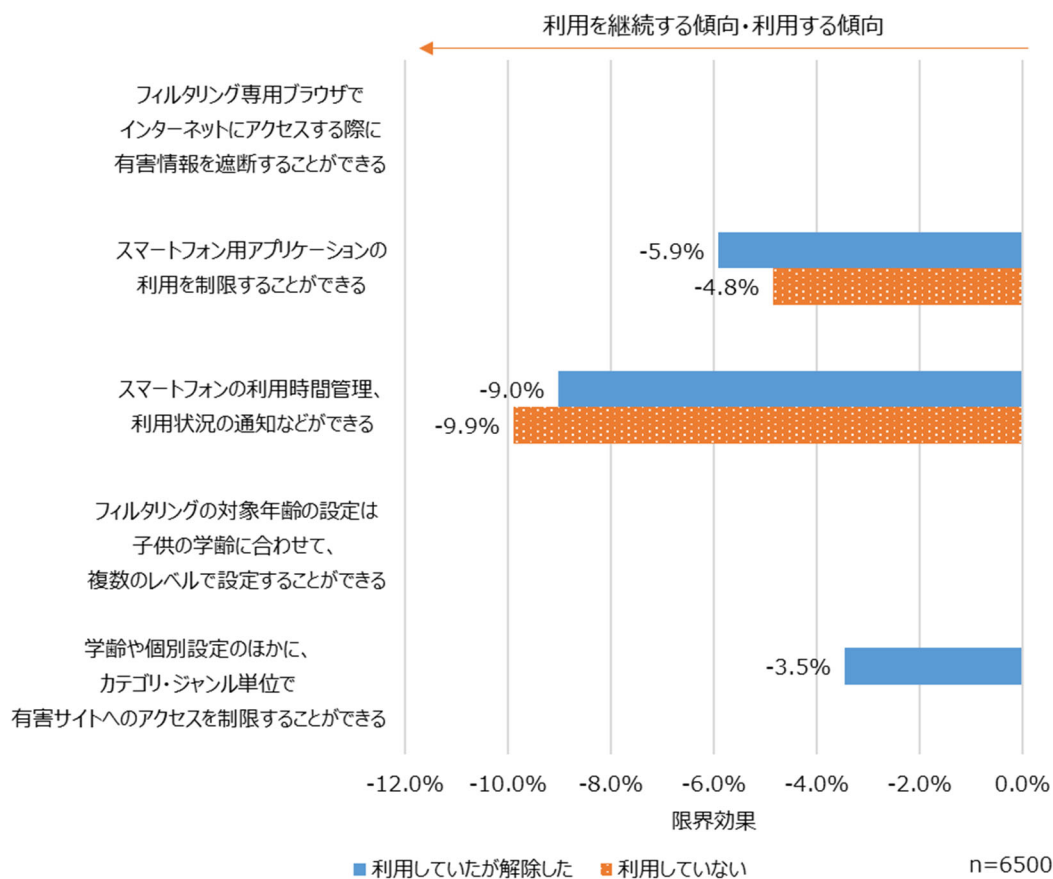
他方、フィルタリングサービスの知識については、クイズ形式だったこともあり相関係数は -0.1～0.1 と低い。そこで、フィルタリングサービスについて特にどの知識がフィルタリングサービス利用行動に影響を与えているか分析するため、その他の変数をそのままに、フィルタリングサービスの知識だけ下位尺度のそれぞれの項目に対して正解したかどうか（正解したら 1）とするようなダミー変数として分析した。その結果について、フィルタリングサービスの知識に関する下位尺度の結果をまとめたものが図表 6.5 である。

ただし図表 6.5 は、全てダミー変数で横比較可能なことから、限界効果を示している。値が負であればフィルタリングサービスを利用する傾向（あるいは利用を継続する傾向）にあるといえる。利用していたが解除した人と利用していない人の分析結果を同じグラフで表示しており、青の棒グラフが利用していたが解除していた人に関する分析結果、オレンジに白のドットのある棒グラフが利用していない人に関する分析結果である。5%水準で有意でなかったものは 0 としている。

図表 6.5 を見ると、フィルタリングサービスを解除しない（継続する）ことに対しても、フィルタリングサービスを利用することに対しても、フィルタリングサービスで「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」ことを知っていることが最も大きな影響を持っていることが分かる。これを知っている人は、フィルタリングサービス利用継続率が 9.0% 高く、利用する確率が 9.9% 高い。次に、「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」を知っていることも影響を与えており、これを知っている人はフィルタリングサービス利用継続率が 5.9% 高く、利用する確率が 4.8% 高い。この2つは実験的調査の監修者も保護者のニーズが特に高いものであると指摘しており、これら2点のフィルタリングサービスの機能を啓発することが、フィルタリングサービス利用促進に繋がると考えられる。

また、「学齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる」ことを知っている、フィルタリングサービス利用継続率が 3.5% 高かった。このような細かいカスタマイズ設定を知っているかどうかは、フィルタリングサービスを利用するかどうかには影響はないものの、フィルタリングサービスを解除するかどうかには影響を与えているといえる。図表 3.16 で、フィルタリングサービスを解除する理由として最も多いのが「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」、次点が「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」であったこ

とからも、フィルタリングサービスで使えないサービスを利用させることが解除の動機として多いことが分かる。カスタマイズ設定の啓発は、解除抑止に繋がる。



図表 6.5 分析結果：フィルタリングサービスに関する知識とフィルタリングサービス利用行動の関係

7. 実験的調査による情報提供効果の検証

本章では、フィルタリングサービスを利用していなかった保護者 1,002 名に対し、付録A 2. 1. のようなフライヤーを提供し、それによってフィルタリングサービス利用意向がどのように変化するか確認する。

7. 1. 資料閲覧後のフィルタリングサービス利用意向

まず、提供する資料について簡単に説明する。実際の資料は付録A 2. 1. であるが、それぞれの要点は以下のようにになっている。

- 資料 A：インターネット上の問題が子供にもたらす危険性を中心に啓発する資料。「誰にも言えない...—保護者が気付かない、これだけのトラブル事例—」というタイトルで、「画像をばらまくぞ！（自撮り画像で脅迫）」「突然請求された！（子供を狙う架空請求）」「アダルト動画を見たばかりに...！（有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染）」という 3 つの情報を提供する。また、フィルタリングサービスで出来ることや、カスタマイズ設定の存在などの情報も資料に含まれる。
- 資料 B：フィルタリングサービスの効果と設定方法について啓発する資料。「お子さまのスマホ利用が 見える！守れる！—フィルタリングは保護者のお手伝いをする道具です—」というタイトルで、「お子さまの成長に合わせて調整出来る！」「離れた場所からコントロール出来る！」「アダルト・有害情報を遮断できる！」という 3 つの情報を提供する。また、フィルタリングサービスの設定方法や、カスタマイズ設定方法について簡単に説明している。

これらの資料について、グループ 1 には資料 A を提供し、グループ 2 には資料 B を、グループ 3 には資料 A と資料 B を提供した。

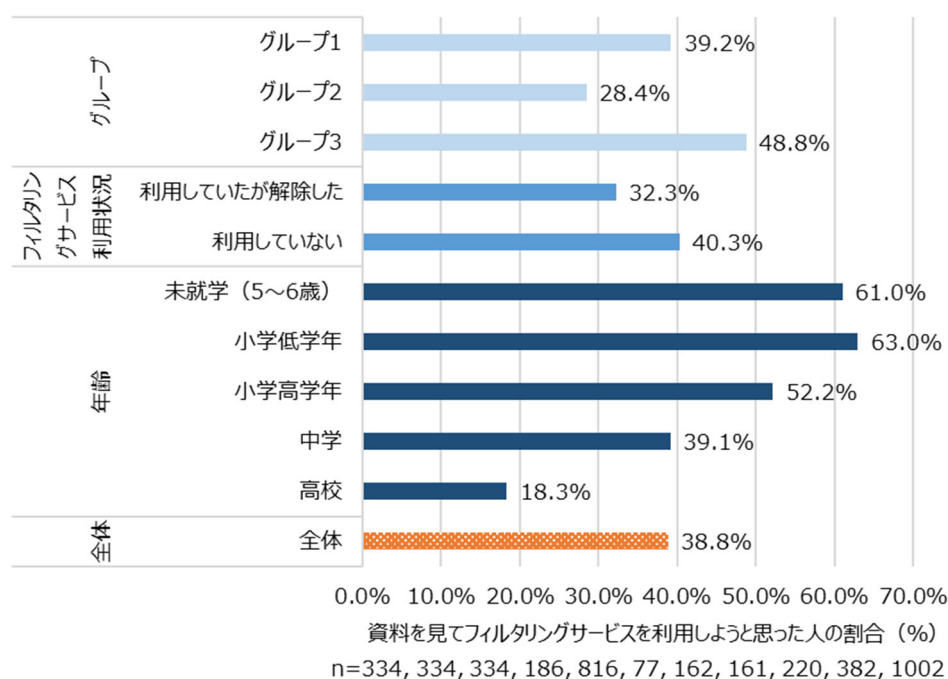
まず、資料を閲覧した後、一番小さい子供が利用しているスマートフォンについてフィルタリングサービスを利用しようと思ったかどうか調査した結果が図表 7.1 である。図表 7.1 では、資料提供方法に違いを付けたグループの他、フィルタリングサービス利用状況、青少年の年齢によってクロス分析をしている。

全体を見ると、対象となった人の 38.8%がフィルタリングサービスを利用しようと思ったことが分かる。あくまで「利用しようと思った」という仮想的な回答であり実際に利用したわけではないが、それでも資料を用いてインターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスの効果、設定方法等を啓発することで、約 4 割の人はフィルタリングサービスを利用しようと思う。少なからず啓発には効果があるといえるだろう。

グループ別の違いを見ると、グループ 1 が 39.2%、グループ 2 が 28.4%、グループ 3 が 48.8%であった。ここから、インターネットの問題が子供にもたらす危険性を中心に啓発するのが高い効果を持つということ、それをさらにフィルタリングサービスの効果や設定方法の情報と同時に提供すると非常に高い効果を持つということがいえる。

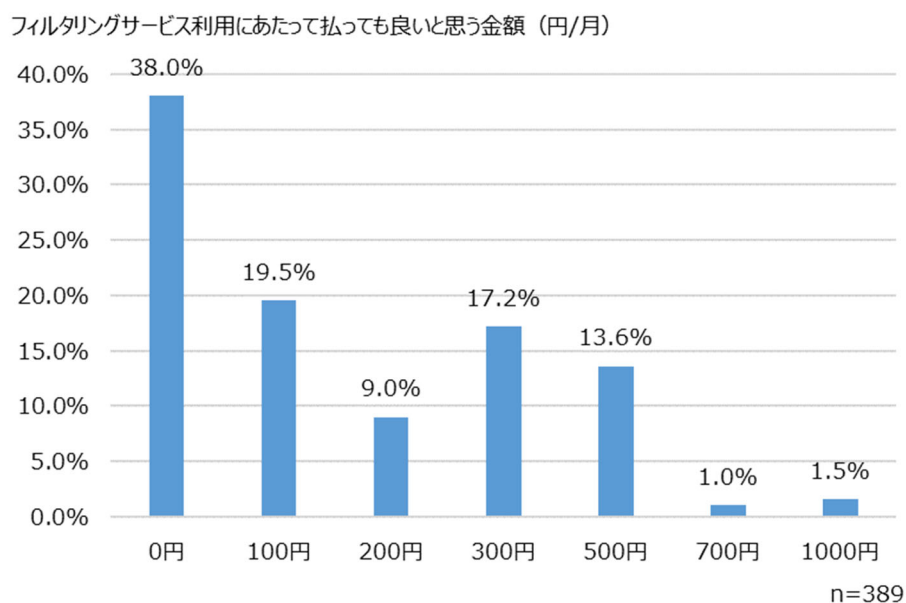
フィルタリングサービス利用状況別では、利用していない人（40.3%）に対しての方が、利用して解除した人（32.3%）よりも高い効果である。図表 3.16 と図表 3.21 を比較するとわかるように、フィルタリングサービスを一度も利用していない人は、利用しない理由として「特に必要を感じない」「特に理由はない」というものが多く、具体的な理由は少なかった。つまり、多くの利用していない人が、明確な理由はなく必要ないと感じているといえる。そのため、情報の提供によって危険性や効果を考えるようになり、利用しようと思う人が多かったと予想される。

年齢別では、未就学（5～6 歳）から小学高学年だと効果が高い一方で、特に高校生では効果が小さかった。高校生になると子供の年齢も高いということで、資料で提供されたようなインターネットの問題が子供にもたらす危険性等が、自分の子供には関係ないと考えられるためと思われる。これは、そもそもフィルタリングサービス利用率が低い理由とも一致するだろう。他方、資料で高校生をイラストに加えているように、実際には自画撮りによる被害等は高校生でも発生している。



図表 7.1 資料を見てフィルタリングサービスを利用しようと思った人の割合（グループ別・フィルタリングサービス利用状況別・年齢別）

続けて、フィルタリングサービスを利用しようと思ったと回答した人に対し、月に最大でいくらまでなら支払っても良いか（支払い意思額）を調査した結果が図表 7.2 である。図表 7.2 を見ると、支払い意思額 0 円が最多であるものの 38.0% であり、本資料を読んでフィルタリングサービスを利用しようと思った人の大半が、有料でも利用したいと考えていることが分かる。



図表 7.2 フィルタリングサービス利用にあたって月に払っても良いと思う金額の分布

また、図表 7.3 は、その支払い意思額の平均値についてグループ、フィルタリングサービスを利用状況、青少年の年齢別に分析したものである。

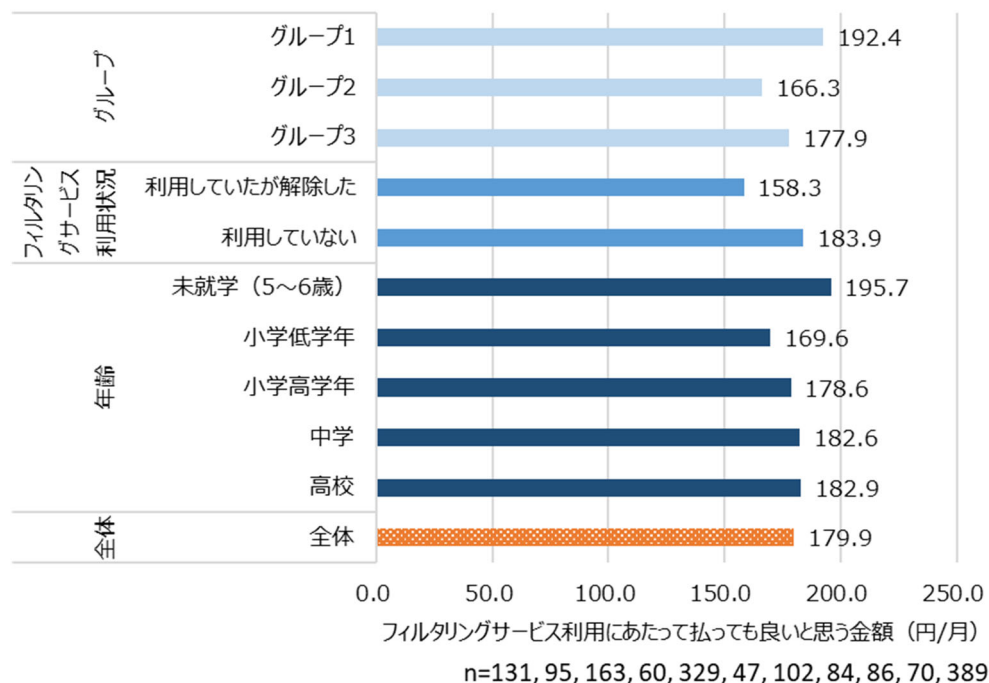
図表 7.3 で全体を見ると、平均してひと月当たり 179.9 円の支払い意思額といえる。ただし、クロス分析結果では大きな違いは見られず、提供される資料やフィルタリングサービス利用状況、年齢によって大きく異なることはない。

その中でも差を見ていくと、まずグループでは、グループ 1 が 192.4 円で最も高いが、グループ 2 との差は約 25 円に留まる。ただし、利用しようと思った人が最も多かったグループ 3 で支払い意思額が特段高いわけではないのは興味深い。グループ 3 では利用しようと思う人は多かったが、その人たちが資料を 2 枚見たことで、特別フィルタリングサービスを評価したわけではないといえる。

フィルタリングサービス利用状況では、利用していない人の方が利用していたが解除した人よりも約 25 円高い。これは図表 7.1 と似た傾向である。

年齢では未就学（5～6 歳）が 195.7 円で最高である一方で、最低は小学低学年（169.6 円）

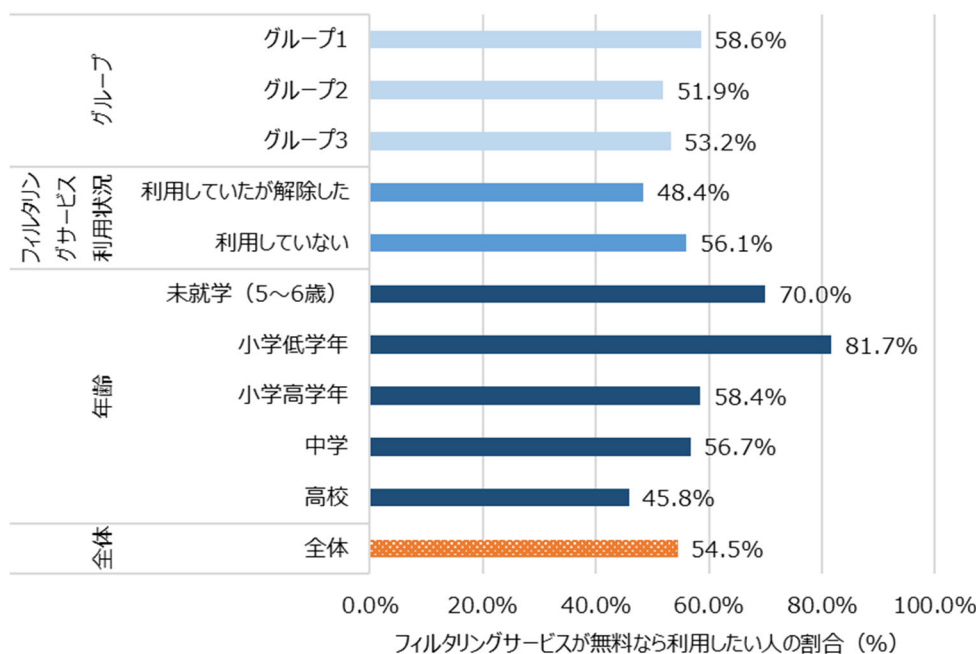
であり、図表 7.1 とは異なる結果となった。



図表 7.3 フィルタリングサービス利用にあたって月に払っても良いと思う金額 (グループ別・フィルタリングサービス利用状況別・年齢別)

続けて図表 7.4 は、フィルタリングサービスを利用しようと思わなかった人について、無料であれば利用したいと思うか調査した結果である。全体では無料なら利用したい人は 54.5%に留まり、45.5%は資料を見せられても無料であったとしてもフィルタリングサービスを利用したいと思わないといえる。尚、この割合の分母は本実験的調査で資料を見てもフィルタリングサービスを利用しようと思わなかった人である。そのため、全体の中でフィルタリングサービスを利用していない人+解除した人の割合 (61.9%) と、資料を見ても利用しようと思わなかった人の割合 (61.2%) を考慮すると、全体の中で資料を見ても利用しようと思わなかった人が 37.9%、さらに無料であっても利用しようと思わない人が 17.2%存在するといえる。

クロス分析の結果では、グループとフィルタリングサービス利用状況ではほとんど差が見られない。その一方で、年齢で見ると未就学 (5~6 歳) と小学低学年で無料なら利用したい人が多く、高校生で少ないという結果となった。これまでと同様、青少年の年齢が低い場合には比較的利用に前向きになりやすいといえるだろう。



n=203, 239, 171, 126, 487, 30, 60, 77, 134, 312, 613

図表 7.4 フィルタリングサービスが無料なら利用したい人の割合 (グループ別・フィルタリングサービス利用状況別・年齢別)

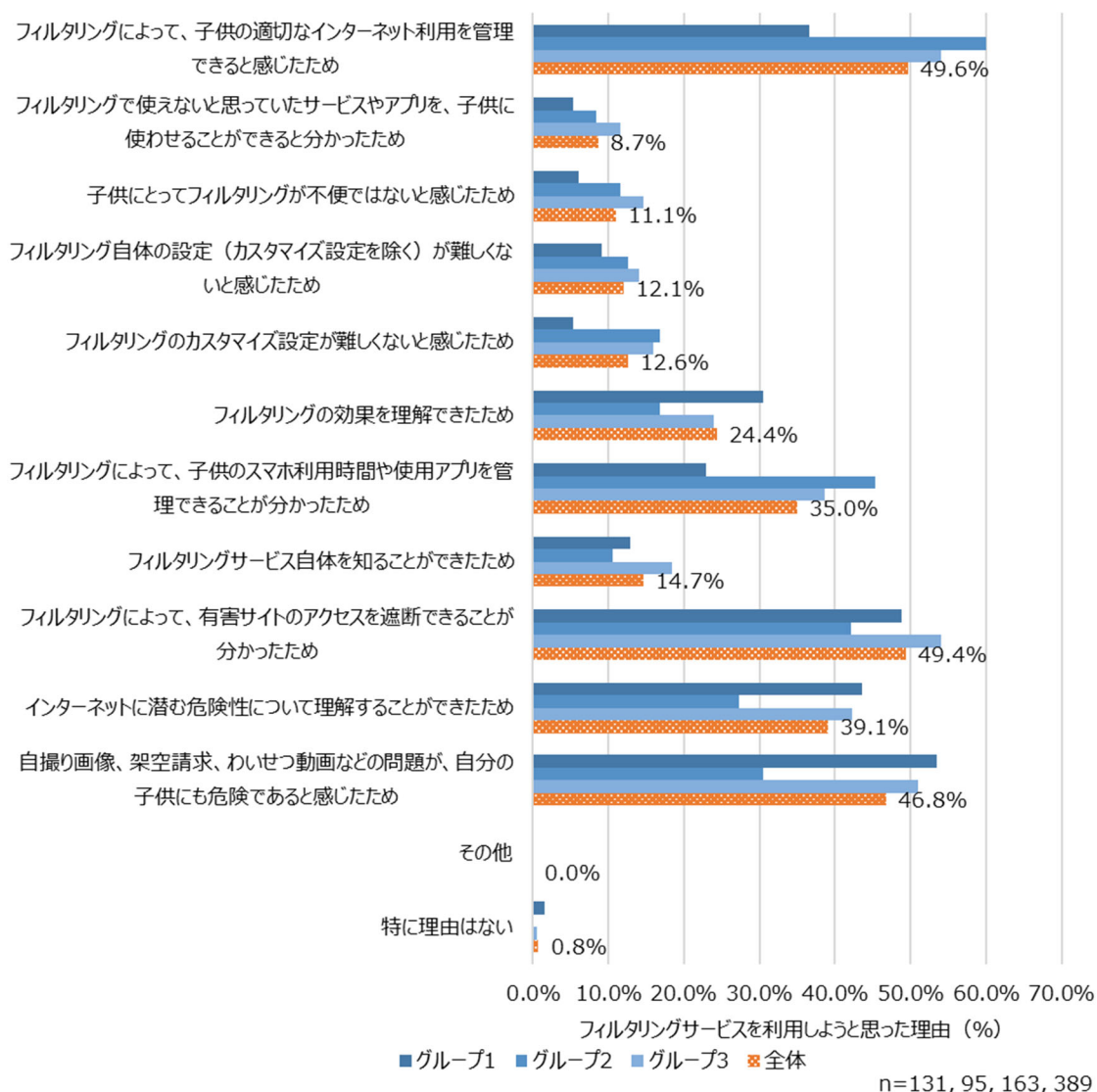
7. 2. フィルタリングサービスを利用しようと思った理由・利用しようと思わなかった理由

本節では、フィルタリングサービスを利用しようと思った理由・利用しようと思わなかった理由について詳細を見ていく。図表 7.5 は、フィルタリングサービスを利用しようと思った人について、その理由を調査した結果である。グループ別のクロス分析結果も載せている。

まず全体の傾向として、「フィルタリングによって、子供の適切なインターネット利用を管理できると感じたため」(49.6%)、「フィルタリングによって、有害サイトのアクセスを遮断できることが分かったため」(49.4%)、「自撮り画像、架空請求、わいせつ動画などの問題が、自分の子供にも危険であると感じたため」(46.8%) が非常に多い。見せた資料にもよるが、資料ではフィルタリングサービスの効果とインターネットの問題がもたらす子供への危険性について強調しており、それが利用しようと思う行動に繋がっているといえる。

またグループ別には、インターネットの問題がもたらす子供への危険性を中心に提示したグループ 1 では「インターネットに潜む危険性について理解することができたため」や「自撮り画像、架空請求、わいせつ動画などの問題が、自分の子供にも危険であると感じたため」が多く、フィルタリングサービスの効果を中心に提示したグループ 2 では「フィルタリングによって、子供の適切なインターネット利用を管理できると感じたため」「フィルタリングによって、子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理できることが分かったため」が

多いという結果となっている。ここから、見せる資料によって保護者の認識にかなり影響を与え、フィルタリングサービス利用行動や動機も変化することが分かる。2つの資料を見せたグループ3については総じて高めの傾向であった。

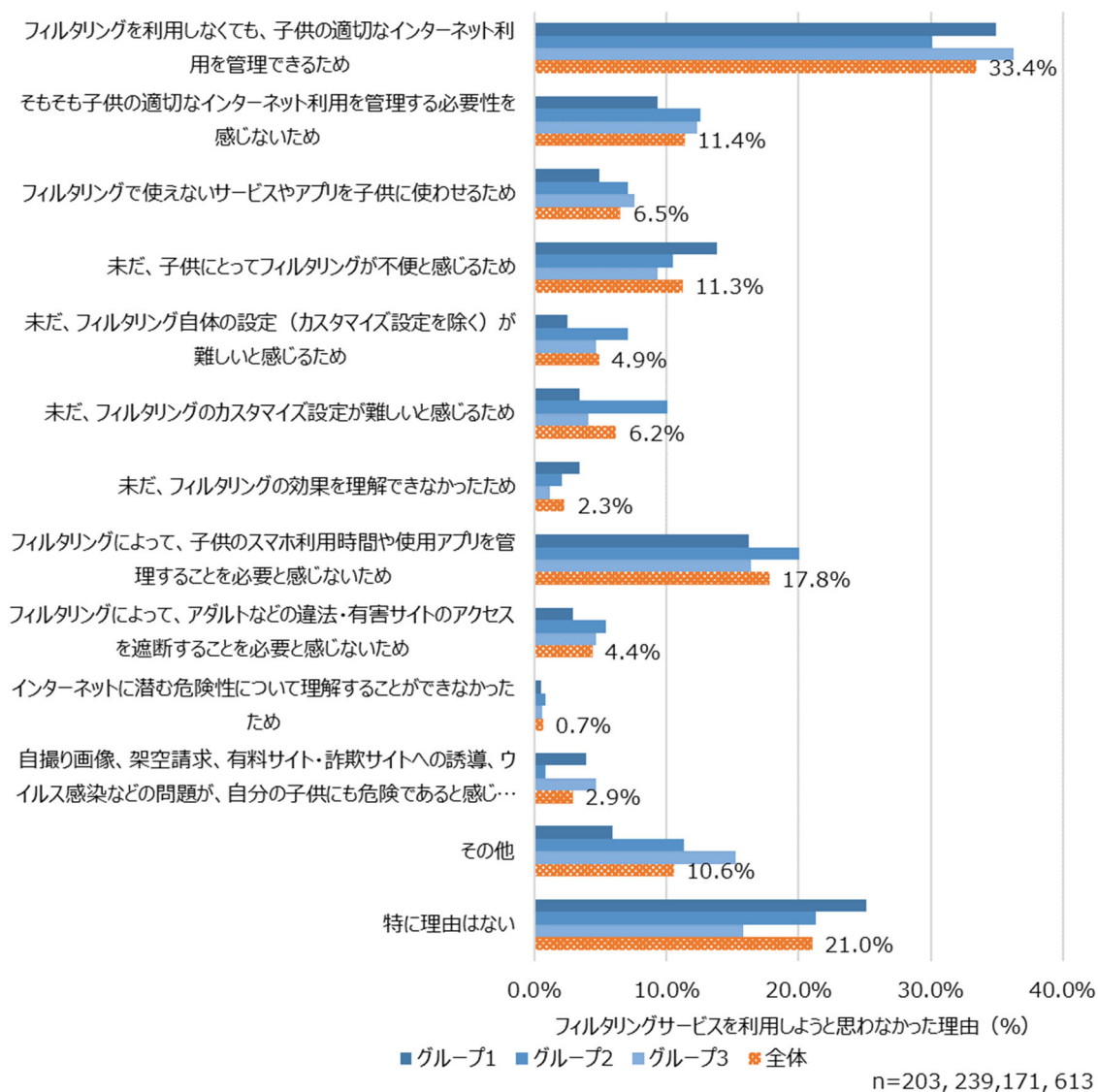


図表 7.5 フィルタリングサービスを利用しようと思った理由（グループ別）

一方、フィルタリングサービスを利用しようと思わなかった理由をまとめたものが図表 7.6 である。全体の傾向では「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」（33.4%）、「特に理由はない」（21.0%）、「フィルタリングによって、子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理することを必要と感じないため」（17.8%）が多く、フィルタリングサービスに不満があるというよりは、そもそも必要性を感じていなかったり特段理由が無かったりすることが分かる。また、グループによる違いは図表 7.5 ほど

大きくなく、どのグループでも前述のような理由が多かった。

資料を見ても利用しようと思わない人は高校生で圧倒的に多かった（図表 7.1）ことから分かる通り、資料を見ても利用しようと思わない人はそもそも自分の子供には危険性が小さく、フィルタリングサービスは必要ないと考えていると予想される。

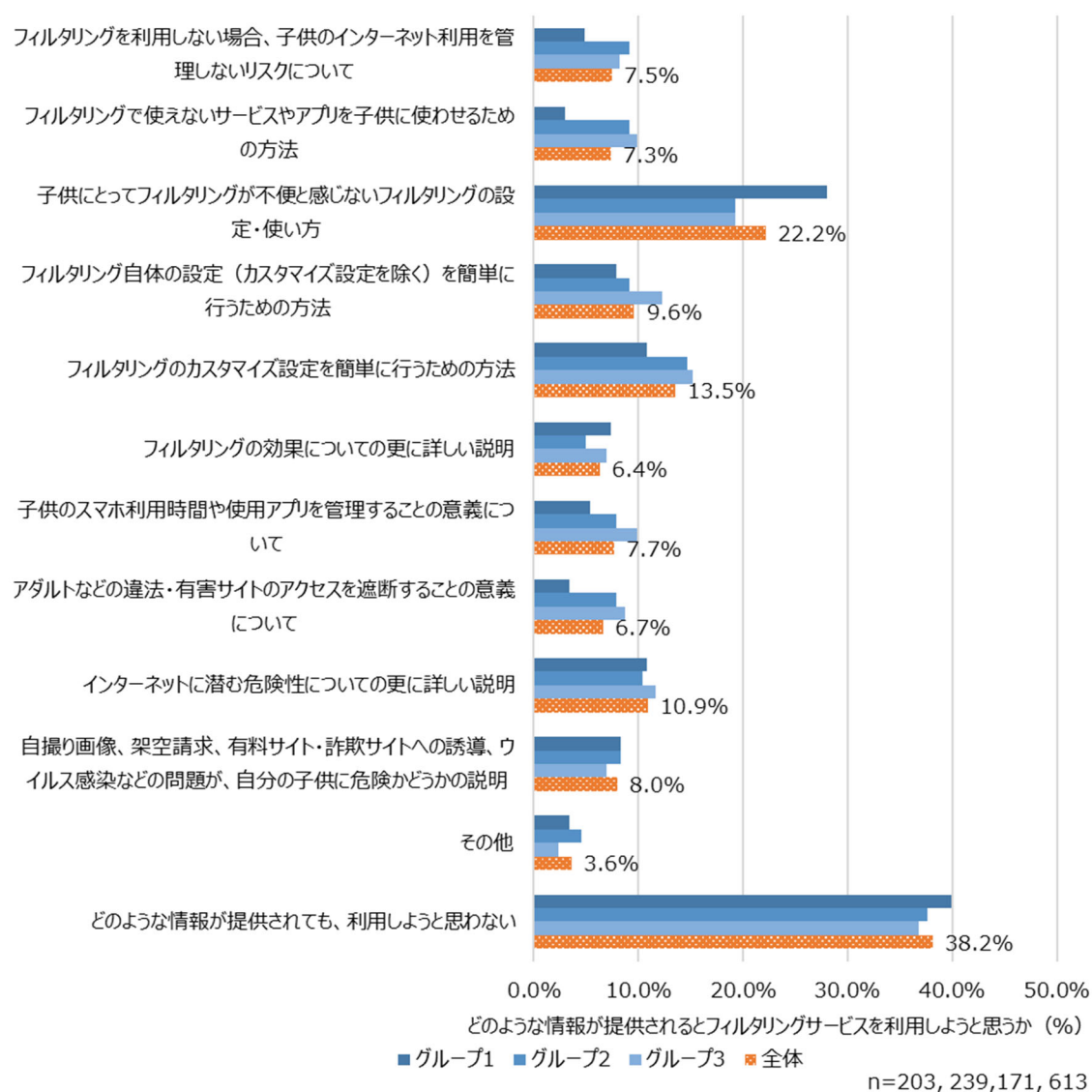


図表 7.6 フィルタリングサービスを利用しようと思わなかった理由（グループ別）

最後に、フィルタリングサービスを利用しようと思わない人について、どのような情報が提供されればフィルタリングサービスを利用しようと思うか調査した結果が図表 7.7 である。全体の傾向としては「どのような情報が提供されても、利用しようと思わない」が 38.2% と最も多く、図表 7.4 で無料でも利用したいと思わない人がいたのと同様に、何があっても利用したいと思わない層が少なくないことが示唆される。他には、「子供にとってフィルタ

リングが不便と感じないフィルタリングの設定・使い方」(22.2%)と「フィルタリングのカスタマイズ設定を簡単に行うための方法」(13.5%)が多く、フィルタリングサービスをお子供に合わせてカスタマイズして、お子供に不便を感じさせないような方法を求めていることが分かった。

グループ別にはそれほど大きな違いはなく、グループ1では「お子供にとってフィルタリングが不便と感じないフィルタリングの設定・使い方」がやや多いという結果となった。



図表 7.7 どのような情報が提供されるとフィルタリングサービスを利用したいと思うか (グループ別)

8. 保護者インタビュー分析

保護者一人一人がなぜフィルタリングを利用していないのか、利用をやめてしまったか、さらには子供がスマートフォン利用をするきっかけや、保護者としての課題意識について、親子関係同様にその背景には多様性が存在している。本章では、インタビューによって明らかになった15のストーリーを記載し、9.の政策的含意となるフィルタリングを継続して利用してもらうためのポイントを導出する。インタビュー実施は全21名でターゲットマトリクスとIDは図表8.1の通りである。

図表 8.1 保護者インタビュー調査のターゲットマトリクスとID (*は共用)

子の性別	男児			女児		
	未導入	解除	導入中	未導入	解除	導入中
未就学児	—	—	G*	—	c*	—
小学校低学年	—	C*	—	—	—	g
小学校高学年	—	D	H	—	d	h
中学生	A	E	I	a	e	i,k
高校生	B	F	J	b	f	j

8. 1. 青少年とスマートフォン

【ストーリー1】

スマートフォンを専用し始める一つの節目が「中学生」から。その理由は「LINE」利用のため。

青少年がスマートフォンを専用で利用するようになる時期は、家庭環境やその他の要因で多様にある。今回のインタビューでも、専用利用を開始したのは、小学校低学年から高校生になってからと多岐にわたっていた。しかしながら、見えてきた一つの共通の節目があり、それは「中学1年生」であり、その背景に共通の理由として「部活でLINEが必要になった」「LINEをやらざるを得なくて購入した」といった声があった。(図表8.2)。こうした、コミュニティに所属することが、専用利用の開始を必然的に加速させていることがわかった。

図表 8.2 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	「部活をやるので、 <u>連絡メールが今スマホの LINE になっちゃってる</u> ので。なのでスマホを購入しました。」
B	男児・フィルタリング未導入・高校生	「背景は地元のサッカークラブに入ってます、結構スケジュールが、会場が結構こっち行ったりあっち行ったり、 <u>いろいろやり取りが (グループ LINE で) あったもんですから</u> 。そういう意味でも、親が行かずに、もう子供だけで試合に行ったりっていうのが結構毎週のようにあったんで。」
E	男児・フィルタリング解除・中学生	「 <u>サッカーの部活の連絡が全部 LINE で</u> 。元々あまり持たせたくはなかったんです。最初私があまり持たせたくないという考えで頑張ってたんですけど、サッカーの練習に行った先で例えば忘れ物をしたりとか、調子が悪いから早く迎えに来てほしいっていうときに彼一人だけ持っていないくて、コーチに電話を借りて電話をしてくれたりとか。」「それで結局もたせてうちの子が最後でした。」
F	男児・フィルタリング解除・高校生	「私はスマホを持たせるのは高校生とかでもいいのかなっていう気持ちはあったんですけど、それはちょっと古いよって子供のほうから言われてしまって。」 「 <u>中学に上がってテニス部に入ったんですけど、やっぱりスマホを持ってるお子さん多かったので、部活の連絡の試合とかそういうのをスマホでやっているお子さんが多くて、自分だけ気づけないっていうのも恥ずかしいし</u> っていうのを、ずっと子供からお願いされて、買いました。」
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	「前から欲しいとは言ってたんです。 <u>部活のグループ LINE があって、そこで結構いろいろ明日の練習とか、そういうのが得られるみたいなのがあったみたいで、それをきっかけに</u> 買いました。」
a	女児・フィルタリング未導入・中学生	「一番下の子はサッカーのクラブチームに入ってる、その送迎の関係で連絡がうまく取れないときがあつて。小学校まではまだ親同士の連絡だったんですけども、 <u>中学生以上になったら、子供同士の LINE の連絡のほうが多くなって</u> しまって、そうなるあまり連絡がうまくいなくなかって、それで一度ちょっと困ったことがあつて、それがきっかけっていうか一つです。」

j	女児・フィルタリング導入中・高校生	「(中学生もありましたが高校生にも) クラス LINE っていうのがやっぱりあって、そこでも結構なやり取りがあるんですよね。その中でいろんな授業の情報ややり取りがあるので、もう <u>クラス LINE 全員入ってるって言ってましたね</u> 。ここで一人抜けてしまったりすると、それこそ連絡する人に対しても手間を掛けたりするような感じになっちゃうのっていうところがあって、必要不可欠なツールになっちゃうのかなと思いますけど。だからまあしょうがない。」
---	-------------------	---

【ストーリー2】

未就学児～小学生のスマートフォン利用は専用であっても「YouTube だけ」、「親との連絡だけ」など、「機能限定的」な利用。

今回のインタビューの中で小学校低学年から専用利用している家庭において、多くの場合が「家庭内のみで利用する（場所の限定）」、「特定のアプリやツールのみを許可制で利用する（アプリ限定）」など、限定的な利用が多くあった。(図表 8.3)。これらも相まって、「フィルタリングの利用をあまり意識していない（そこまで積極的に考えてない）」という声も見られた。

図表 8.3 保護者の声

ID	属性	発言
C*	男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）	「スマートフォン自体もう <u>YouTube</u> を見るだけですわね。」「とりあえず今の時点でSNSは禁止にしています。」
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	「(スマホは) <u>ゲームと YouTube</u> がメイン。あとはゲームでのやりとり目的でお友達と LINE をしています。」「SNSはTikTokとかInstagramとかはやってなくて、投稿とかもしてないです。」
G	男児・フィルタリング導入中・未就学児（共用）	「私のほうでは基本的にアプリは使わせていなくて、 <u>通話とCメール</u> だけ利用させています。」「基本的には自分の部屋には持ち込まないよという事は言ってますね。家にいる時はリビングで使うという形で。」
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「スマホは(コロナによる)休校の時の連絡手段として買ったので、基本は <u>連絡と現在地把握のために</u> 使わせています。」

c*	女兒・フィルタリング解除・未就学児（共用）	「(私の携帯なので) 出かけたときに、 <u>アプリのゲームをしたり撮った動画を見たりとか、写真見たりとか、そんな感じです。</u> 」
h	女兒・フィルタリング導入中・小学校高学年	「アプリを許可制でいれていて、ポケコロっていう女の子向けのゲームがあってそれがやりたいってことでそのアプリを入れでます。あとはメインとしては、 <u>YouTube</u> をよく見てます。」 「 <u>LINE</u> とか携帯番号が必要なものは一切できない状態で、だからアカウント新たに作るっていう SNS はできない状態です。」

【ストーリー3】

インターネット接続そのものは、スマートフォン以外に「タブレット」「ゲーム機器」「PC」を大人同様に利用。

インターネット接続において、専用共用に関わらずスマートフォン以外に「タブレット」と「ゲーム機器」、「PC」を大人同様に多様に利用していることがわかった。「タブレット」は YouTube を主に利用しており、「ゲーム機器」は特に男児においての利用が多かった。また、「PC」利用は学習用からゲーム用まで学齢によって多岐にわたっていた。特に注目すべきは、小学生以下だと特にスマートフォンよりもこうした「タブレット」や「ゲーム機器」をメインとして利用しているほうが多いという家庭も目立った点である。(図表 8.4)。

図表 8.4 保護者の声

ID	属性	発言
C*	男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）	「 <u>タブレットと Nintendo Switch、私のノートパソコンを使います。</u> 」 「前は(スマートフォンでゲームも)していたんですけど。結局タブレットを買っちゃったんで、そっちで(メインにやっています)。」
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	「 <u>フォートナイトとか戦関係ゲームが大好きで、ノート PC とデスクトップ PC と(兄弟とも)1台ずつ持っています。(そちらをメインで使うことが多い)</u> 」「(攻略のために) スマホで YouTube を見ながらとか、お友達と LINE や Discord でチャットしています。」
G	男児・フィルタリング導入中・未就学児（共用）	「 <u>パソコン、タブレット、Fire TV Stick すべてあって、共用で利用できます。でも、どれも開けるためにパスワードが必要なので、ある意味親の目がある時に使っています。</u> 」

H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「スマホよりもやっぱりまだ <u>PSP</u> とか <u>Nintendo Switch</u> とかテレビで <u>YouTube</u> の動画を見るのが一番で、その後にスマホですね。そんなスマホに執着している感じがないです。」
c*	女兒・フィルタリング解除・未就学児（共用）	「スマホも使いますが、 <u>タブレットのほうが使ってるかもしれないです。</u> 」「 <u>タブレットは、2歳か3歳から使っています。</u> 」
g	女兒・フィルタリング導入中・小学校低学年	「昔から、割と早めにタブレットは渡してまして。タブレットをたぶん、確か4歳か5歳ぐらいにタブレットを安かったんで渡して。」「 <u>ほんとに iPad をよくずっと使ってるので、スマホではそんなに見ないと思いますね。</u> 」

8. 2. 保護者とペアレンタルコントロール

【ストーリー4】

ペアレンタルコントロール（非技術的・技術的双方）は「思春期（子供の自立）」の親子関係が反映することがあり管理が難しい。

フィルタリングを含むペアレンタルコントロールに関して、スマートフォン導入時に「利用時間」をはじめとして設定するものの、利用を進めるうちに「守らなくなった」「なし崩し的になくなってしまった」という家庭が多くみられた。その背景に、「反抗期になってしまい言うことを聞かなくなった」「友達には使えるのに自分は使えないのが困る」といった思春期に見られる言動とリンクしており、子育てそのものとペアレンタルコントロールは切り離せない状況であり、かつ管理が難しいことが伺えた（図表 8.5）。

図表 8.5 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	「最初の1カ月は守っても、もう守らないんじゃないかなと思って。中1ぐらいの時はかわいかったんですけど、 <u>中2ぐらいから反抗期になってしまい、今はほぼ私が3回話し掛けて1回返事が来るぐらいなので、ほんとに多分守らないという。</u> （いわれる前に）分かるようになってほしいなという親心なんですけど。」
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	「一応部屋ができた時も、できればリビングで使って部屋には持っていかないでって言ったんですけど、その時になったら <u>中間テストとかそういう YouTube でおさらい動画とか、ほんとに見てはいたんですけど、そういうの見たいから持っていくって言って、なし崩しに持っていくようになってしまいました。</u> だから今守られてることはないに等しいですかね。」

E	男児・フィルタリング解除・中学生	「最初は守ってたんですけど、友達が夜電話をする。電話でしゃべる。みんな部屋でしゃべってるんだ。部屋に持って行って、また例のごとく自分だけが参加していないと言われると弱いですよ。親としては自分だけができてないって言われると、それで許可したのが最初で、なし崩しの。」
F	男児・フィルタリング解除・高校生	「やっぱりスマホ利用の難しさは、子供も小さいうちはまだ言うこと聞いてくれて決まりも守ってくれたのが、やっぱり中学生もだんだん学年が上がって高校生ぐらいになって周りの言動に惑わされちゃうじゃないんですけれど、離れていく感じですよ。あんまり言うことも聞かなくなる。」
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	「(利用する時間が) 夜9時までというのは守ってます。ただ、やることをやるっていうのができてなくて、一回話し合っただけでやることをやってから決めて、その1日、2日ぐらいはいいんですけど、またそこから少しずつだらしちゃって、また話し合っただけでやることを何回も今やってる感じです。」 「(ルールを守るとか) それはでもスマホに関してだけじゃないよね。生活全般にみたいな。」
a	女児・フィルタリング未導入・中学生	「(5人子供がいるので) あまりにも遅くまで使ってた子には言って、12時超えても使ってた子がいて、その子に対しては、高校生の子が11時とかは言ったんですけども、結局ずるずると約束がなくなってしまったということはありました。」 「厳しくしても、子供がいい方向にいけばいいんですけども、ある程度子供の意見も尊重しつつ、なるべく相談しながら、全部頭ごなしにこちらが決めつけるのではなくって、相談しながら決めるようには一応心がけてはいるんですけども、なかなか難しいです。」
b	女児・フィルタリング未導入・高校生	「心配しがちで管理はしたいんですけど、できてないっていいですか。子供からの反発っていうか。例えば今でも誰とどこに出掛けて何時に帰ってくるのかとか、そういう事細かに聞きたいですけど、子供はすごく嫌がるんで聞かないように。聞かないようにっていうか聞いても教えてくれないです。なのでうちは管理してるように見えてわりと自由にさせてるほうかもしれません。」

f	女兒・フィルタリング解除・高校生	「もう子供に任せてもいいのかなって思うんで。もう何かあったら教えてくれるし。ただ、最近気になってるのは、今どんなアプリをみんなやってんの、とか聞くと、うるさいって言われるようになってきて。何でそんなに知りたいのって言われて、やっぱお年頃だなと思って。 <u>でもやっぱり自分も逆の立場で考えたら何でも把握されるのっていうのはもう窮屈で、ある程度いいんじゃないって。</u> 私も、だって昔やってたブログなんて子供に見られたら嫌ですもん。」
i	女兒・フィルタリング導入中・中学生	「 <u>(ルールを) 紙にも書いたこともあります。何時間しか使いませんとかいろいろ書かせたんです、子供に。でも全然守れなかったです。</u> 夏はリビングだけクーラーしてるんですけど、使うんだったら暑い所でやればあんまりしないかなと思って玄関とかでやれって言ったことあるんですけど、楽しんでやっちゃってこれは駄目だと思って。」 「なので守らないからある種(フィルタリングを使って)機械的に強制的に管理することにしました。」

【ストーリー5】

女兒よりも男児のほうが、長子よりも末子のほうが、ペアレンタルコントロール(非技術的・技術的双方)が難しい。

ストーリー4に加えて、「男児は管理がしづらい」「下の子はなあなあになっていった」という声がいくつかみられた(図表8.6)。d(女兒・フィルタリング解除・小学校高学年)の中でみられるように「子供を含む家族の多くがスマートフォンを持つことにより、特別な事象でなくなったため、管理意識が下がった」ということが一つの大きな要因であると考えられる。

図表 8.6 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	「多分3番目(末子・男児)が一番反抗的だと思うんですけど。でも <u>女の子はそれでも何となく従ってくれるというか。自分の中でやらなくちゃいけないものとか明確に見えるみたいですけど(自立してやっている感じです)。</u> 男の子はちょっと駄目で、全然駄目で(管理が難しい)。」

E	男児・フィルタリング解除・中学生	<p>「<u>上のお姉ちゃんは約束をきちんと守っていたので、彼女の場合は何時から何時までっていうのも守っていたので、わざわざフィルタリングを掛けなきゃいけないようなトラブルというかはなかったんです。</u>息子もその調子かなと思ったら違って、とんでもなくゲーム時間が(長くて)。ずっとゲームしてるわ。解除して勝手にやるとか。お姉ちゃんとは勝手に違いました。」</p>
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	<p>「<u>お姉ちゃんは本当に(スマートフォンに)執着がなくて、仕方なく電車通学の時間用に持ったみたいな感じの入り口だったので、そこまで上のときの子は心配してなくて。</u>」</p> <p>「<u>多分第二人のほうは、ルールがないと、いつまででもスマホは多分触ると思うんですけど。YouTube やめなさいって言ったら YouTube はやめて今度はゲームをする。それも一緒よ、ゲームやめなさいって言ったら今度は違うゲームをする。スマホも駄目だって、一緒だって言ったら今度は iPad。機械が変わればいいみたいな感じで触るので。使いすぎは駄目よっていうのはしっかり言わないと弟たちは多分、(土日など特に)フリーな時間にずっと使いたいみたいな感じ。」</u></p>
J	男児・フィルタリング導入中・高校生	<p>「<u>コンテンツフィルタリングを入れることとかもできなくはないんですけども。入れたとしても男の子なので、たぶんまあ見てしまうだろうなと、どこかで(自分のスマートフォンじゃないとしても)。そういうこととなれば、物理的、通信的なフィルタリングよりも、どちらかという<u>と教育のほうの方が大事かな</u>と</u>思っています。」</p>
b	女児・フィルタリング未導入・高校生	<p>「<u>子供の性格とかにもよると思うんですけど、うちの下の娘はおとなしいタイプではない</u>っていうかインスタとかもやって写真とかも載せたりするような、そういうタイプで、<u>そんなやめなさいって言ってもやめられるようなものでもない</u>って感じで(管理が難しい)。」</p>
d	女児・フィルタリング解除・小学校高学年	<p>「<u>多分上の子のほう</u>が最初にスマートフォンを持ったので、スマートフォンを持った当初はスマートフォンに触れるっていうことがある種、子供にとってのご褒美だったと思うんですね。」</p> <p>「<u>ところが(下の子の時は)親もスマホをしょっちゅういじっていて周りの友達もいじっているし、多分(下の)娘の中</u>でもはやもうご褒美ではない<u>ってなった瞬間はあった</u>と思うんですね。で、そうすると、もう日常生活の中に組み込まれたことを、別に<u>ご褒美として与えられてもまったくうれしくもなんともない、(というような)多分感覚</u>になって、<u>それもだからなし崩し的に。(いろんなルールがなくなっていった)</u>」</p>

8. 3. フィルタリング

フィルタリングの分類を図表 8.7 に、インタビューー21 名の属性とフィルタリング状況ならびにコンテンツ規制（有害情報のカット）の有効状況を図表 8.8 に記す。なお、属性として「解除」にあたるが現在も利用中になっている家庭が 3 件みられる（ID：D、c*、d）が、これらは候補者であった保護者が③キャリアによるサービスのみをフィルタリングと認識していたため、そのような属性になっている。

図表 8.7 フィルタリング分類

分類	具体
① 機種への設定	「スクリーンタイム (iOS)」、「Digital Wellbeing (Android OS)」
② 親子アカウント設定	「ファミリー共有 (iOS)」、「ファミリーリンク (Android OS)」
③ キャリアによるサービス	NTT ドコモ、KDDI、SoftBank など通信事業者の提供する「あんしんフィルター」等
④ その他フィルタリングサービス	「i-フィルター」、「スマモリ」等
⑤ アプリ上での個別設定	Twitter や YouTube などのアプリ上での「年齢設定」等
⑥ その他	—

図表 8.8 インタビューー21 名のフィルタリング状況一覧

ID	属性	フィルタリング状況と種類	コンテンツ規制状況
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	最初からなし	×
B	男児・フィルタリング未導入・高校生	最初からなし	×
C*	男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）	⑤YouTube 上での年齢設定 →解除	×
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	③あんしんフィルター →①スクリーンタイム (iOS) 設定（課金制限、アプリ DL 許可制）を <u>現在も利用中</u>	×

E	男児・フィルタリング解除・中学生	①スクリーンタイム (iOS) 設定 (時間制限、コンテンツ制限、アプリ DL 許可制) →子供に勝手に <u>解除</u> された	×
F	男児・フィルタリング解除・高校生	③あんしんフィルター → <u>解除</u>	×
G*	男児・フィルタリング導入中・未就学児 (共用)	③あんしんフィルター (cメールと電話ができるのみの厳しい設定) を <u>現在も利用中</u>	○
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	②ファミリーリンク (Android OS) 設定 (時間制限、コンテンツ制限、アプリ DL 許可制) を <u>現在も利用中</u>	○
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	③あんしんフィルター (中学生モード) →③あんしんフィルター (高校生+モード) を <u>現在も利用中</u>	○
J	男児・フィルタリング導入中・高校生	②ファミリー共有 (iOS) 設定 (アプリ DL 許可制、課金許可制) を <u>現在も利用中</u>	×
a	女児・フィルタリング未導入・中学生	最初から <u>なし</u>	×
b	女児・フィルタリング未導入・高校生	最初から <u>なし</u>	×
c*	女児・フィルタリング解除・未就学児 (共用)	③あんしんフィルター →⑤ YouTube 上での年齢設定および⑥スマホのロックを <u>現在も利用中</u>	△
d	女児・フィルタリング解除・小学校高学年	③あんしんフィルター →②ファミリーリンク (Android OS) 設定 (履歴確認・DL 確認等) を <u>現在も利用中</u>	×
e	女児・フィルタリング解除・中学生	④スマモリ →②ファミリーリンク (Android OS) 設定 → <u>解除</u>	×
f	女児・フィルタリング解除・高校生	③あんしんフィルター → <u>解除</u>	×
g	女児・フィルタリング導入中・小学校低学年	②ファミリーリンク (Android OS) 設定 (GPS、時間制限、課金制限、アプリ DL 許可制、コンテンツ規制) を <u>現在も利用中</u>	○

h	女兒・フィルタリング導入中・小学校高学年	①スクリーンタイム (iOS) 設定 (時間制限、課金制限、アプリ DL 許可制、コンテンツ規制) を <u>現在も利用中</u>	○
i	女兒・フィルタリング導入中・中学生	①スクリーンタイム (iOS) 設定 (時間制限、コンテンツ規制、アプリ DL 許可制) を <u>現在も利用中</u>	○
j	女兒・フィルタリング導入中・高校生	①スクリーンタイム (iOS) 設定 (コンテンツ規制) を <u>現在も利用中</u>	○
k	女兒・フィルタリング導入中・中学生	(③i-フィルター：長子の際に) →⑥家庭用 Wi-Fi ルーターにフィルタリング設定を <u>現在も利用中</u>	△

【ストーリー6】

フィルタリング導入の意図として「有害情報のカット (コンテンツ規制)」にニーズがあり。そのほか「時間管理」「課金制限・アプリの管理」についてもニーズがある。

フィルタリングを導入した理由として「変なものを見せたくない」「アダルトコンテンツなど過剰なものを見せたくない」といった有害情報のカットに多くの保護者がニーズを感じており、導入していることがわかった。また同時に「時間管理」と「課金制限・アプリ管理」への関心も強くあり、同時にコンテンツフィルタリングも設定したという意見も聞かれた (図表 8.9)。これらから、コンテンツフィルタリングを促進するためにも、フィルタリングには多面的な機能があることをアナウンスすることは有効であると考えられる。

図表 8.9 保護者の声

ID	属性	発言
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	「(フィルタリングを導入しようと思ったのは) なんだろうな。やっぱり変なものをあまり見てほしくないなっていうのは、 <u>ありました。</u> 課金とかは、結構その前とかにも気をつけるように言っていたのと、一応課金をしないでゲームはやろうっていうことだったので (約束したので)。そのへんは結構信じてたので制限特につけなくてもいいとは思ったんですけど、間違っとなっちゃってもやっぱりあんまりどころも気持ちがよくないので、そうしました。」

E	男児・フィルタリング解除・中学生	「(フィルタリングの設定は) まず三つですね。ひとつは時間、夜中はできない。そしてアプリを最初年齢制限あるじゃないですか。あれで切ろうとして、そして三つ目があまり見せたくないような、暴力的だったりそういうのを制限してたんですけど、彼は時間とアプリをいつの間にやら解除してましたけれども。」
F	男児・フィルタリング解除・高校生	「やっぱり悪質なサイト、アダルトコンテンツ。ちょっと年頃の男子なので、そういうものも心配だったので、もう絶対そういうのには行かせないようにしたいなっていうのが。」
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「はじめ取りあえず入れて様子を見てみようと思ったんですけど、本当に最近私も、はじめはどれくらい、どのアプリを何分使っているとか結構分かるのでよく見てました。(が今はあまり見てない)」 「一日の一応利用時間制限と、あと寝る時間制。アプリを落とすときに必ず親が承認をしないと、ゲームのアプリでも無料な分以外落とせないようにしています。」
d	女児・フィルタリング解除・小学校高学年	「小学生なので親がいろんなことを説明しても理解できないところもあるだろうし、こっちでセーブしちゃおうっていうような思いもあって、入ろうとは思ってました。」 「(導入した) 一番はやっぱりゲームをやるだろうっていうことがわかっていたので、知らず知らずのうちに課金を防ぎたいのと。あと最初からわりと悪質なというか YouTube の広告なんかに出てくるとかで巧妙に課金があるって思って。」
e	女児・フィルタリング解除・中学生	「小5の冬、最初にスマホを持ったときに、なぜイオンモバイルにしたかという、イオンモバイルにオプションでスマモリというフィルタリングのものが結構お安く、無料だったのかな。それが付いてくるよと (だからそうしました)。それをちょっとママ友さんから聞きましていろいろ調べたところ、いいんじゃないかということで、イオンのスマモリを入れました。」 「元々イオンで契約していたわけでは、私たちはなかったんですけど、子供に持たせるっていうので、全員イオンのモバイルに移ったっていう感じでした。」
h	女児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「(フィルタリングを導入したのは) 一番大きいのは使いすぎの時間ですね。次がコンテンツの内容ですかね。」

j	女儿・フィルタリング導入中・高校生	<p>「(導入した目的は) <u>変なサイトにいたりしないような、犯罪に巻き込まれるような、そういうやつを防ぐために。</u>」</p> <p>「(位置情報とか、あと時間管理とかそういうものは) しなかったですね。追加でできるからいいやみたいな、使い方次第でっていう感じだったんですけど。」</p>
k	女儿・フィルタリング導入中・中学生	<p>「<u>アダルトコンテンツとかそういったものはまだ制御できないであろうと考えてその辺をフィルターしたいなっていうふうに思って導入しましたね。</u>」</p> <p>「あと、i-フィルターを入れて、<u>時間の制御も i-フィルターでできたので、それも約束だけでなく物理的な時間の制御にも最初は使っていました。</u>」</p>

【ストーリー7】

未導入の理由は「**必要ない(意識がない)**」と「**ある程度情報を見させて子供自身で判断させることも大事**」。

フィルタリング未導入の家庭へのインタビューは全部で4件であったが、そのすべてにおいてフィルタリングの存在そのものについては認知しておりその機能を正しく理解していた。しかしながら、導入には至っておらず、「最初から入れるという選択肢がなかった」「子供自身で判断できることが大事」というような意見がみられた(図表8.10)。フィルタリングの有効性や必要性を正しく伝えるために、保護者への重要なタッチポイントとなる購入時において、より丁寧に説明をすることが必要であるということが考えられる。

図表 8.10 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	<p>「主人のほうが入らなくていいよって言ってました。私はドコモショップで、もうちょっと説明を聞いて判断したかっただんですけど、<u>主人は、俺たちよりも本人のほうが多分詳しいから入らなくていいし、もし何かあったら今じゃなくても 1 カ月後とかでも入れるから大丈夫、大丈夫みたいな感じで。</u></p> <p>「多分小学校の時に買っていたらフィルタリングを付けたと思うんですけど、何か月後から中学生という感じだったので、一応説明はして、そういうの見ちゃ駄目だよとか。もし万が一例えば課金とかになっちゃったときに、こうすると課金になるんだよっていうのを、身をもって知らしめたいというか。未然に防ぐのも大事なんだけど、ちょっと失敗させて、これは良くないことやっちゃったんだっていうのを感じさせて、もうさせないようにするとか。そういうのもありかなと思って。<u>今度中学生になるから、なるべく自分で判断させたい</u>とか。」</p>
B	男児・フィルタリング未導入・高校生	<p>「買い替えるときにフィルタリングの説明ですか。受けたのかな。全然記憶も意識もないです。<u>フィルタリングについてどうしようかなって迷ったこともないですし。</u></p> <p>「<u>信用していたって</u>いうと、ちょっとかつこよすぎますけど。これとこれとこれ、こういうことで使うんだよって言って、それ以外は使っちゃ駄目よっていうことを話し合った記憶はあります。間違っってそういうの押しちゃうと課金されちゃう場合があるよとか、そういう話はちゃんとした。家族同士でした。それから先、心配だからフィルタリングっていうところまでは、全然思いが飛びませんでしたね。」</p> <p>「<u>でも今日話してフィルタリングってどういうものなのかとかを知りたくなりました。興味持ちました。それ知ってたら、子供に対しての対応の仕方がもしかしたら違ってたのかなとも、ぼんやり今考えるようになりました。</u>」</p>
a	女児・フィルタリング未導入・中学生	<p>「インターネットの世界って、有害なこともあれば、必要な内容もすごいたくさんあるので、その中で見ないように触れないようにするのも大事かと思うんですけども、<u>そういったのを子供たちが見ちゃいけないとか、そういったものを子供自身が判断できたらいいかなって</u>いうのが、<u>フィルタリングをしなかった最初の理由</u>ですね。」</p>

b	女兒・フィルタリング未導入・高校生	「自分の子だけしっかり管理しても、よその家がみんなそうとは限らないので、自分の学校にスマホとか今は高校生だから持ってってますし、 <u>うちの子だけブロックしても周りの子がブロックされてなかったら結局なんでも見れちゃうから自分のスマホでは見れないっていうだけで意味はないのかな</u> っていう。あとは、いろんなニュースとかを見て、家族でいるときにそういうネットとかの危険な情報とかを見て、こういうのはこうこうだよねとか、これは良くないよねっていうような話とか、普段のコミュニケーションの中でしてはいけないことっていうことの確認が親子でできてたからだとも思います。」
---	-------------------	---

【ストーリー8】

フィルタリングサービスの解除理由として「使えないアプリ・見えないサイトが多すぎる」。目立つのは通信事業者の提供するフィルタリングの解除。

フィルタリングを解除した家庭では、「LINE が使えないのではスマホを買った意味がない」「見えないものが多すぎてあまりにも不便」という理由が多数みられた。フィルタリング導入時にその目的に共感しているものの（【ストーリー6】参照）、いざ利用してみたら思ったよりも不都合が多かった、といった評価をしている家庭が多くみられる（図表 8.11）。また、通信事業者が提供するフィルタリングを導入して解除に至る家庭が多く、導入したものの解除した家庭が今回のインタビューのうち全8件（ID：C*、D、E、F、c*、d、e、f）であったが、そのうち6件（ID：C*、D、F、c*、d、f）がそれにあたった（図表 8.8）。【ストーリー1】とも関連するが、LINE や YouTube などよく子供が利用するアプリは利用できるようにするなど、ニーズにあった初期設定が必要とされるといえるだろう。

図表 8.11 保護者の声

ID	属性	発言
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	<p>「<u>docomo のフィルタリングを最初に入れて、でも全然入れちゃうと何も見れなくなっちゃって、YouTube とか見れないので。で、やっぱりもうやめたんですよね。</u>」</p> <p>「すごく仲いい友達から LINE で、みんなこういうの面白いよ、とか共有されてきたりするものとかで、大体そういうもの見れないんですよ。YouTube とかも全然普通の（人気 YouTuber 動画）でさえ見れなくなっちゃったりするので、ちょっとそれはやっぱりかわいそうだし、（スマホを買った）意にそぐわないというか。あまりにちょっと制限がかかりすぎてる感じだったので、もう外していいかなと。」</p> <p>「そういうのが続いて他のおうちのお子さんがもフィルターをかけてるとはちょっと到底思えない感じだったりしたので。それと子供をちょっと信じて、もし見てしまったとしてもそれはそれというか。それで外しました。」</p> <p>「その歳にそぐわない表現とかのページは出ないように、の工夫っていうか、やっぱりそれはしてほしいんですが。やっぱりその<u>普通の YouTube とか全部駄目</u>っていうのは違うかなって、ちょっと思いますね。」</p>
E	男児・フィルタリング解除・中学生	<p>「<u>がちがちにあれも駄目、これも駄目</u>っていうのは難しいかなっていうのを感じましたね。ある程度は信用して任せることも必要かなって、フィルタリングをしていて思ったんですね。」</p>
F	男児・フィルタリング解除・高校生	<p>「宿題とか課題の調べものとかでもやっぱりスマホを使っているんですけど、やっぱりフィルタリングがかかっている、<u>特にそんな有害とかそういうほどでもないのに進まない</u>というか使えないから不便だっていう。そういうもの（有害コンテンツ）は見ないからやめてほしい、みたいなことを本人から言われて、ちょっと主人とも話し合っていて、その時はきちんと親との約束も守って使えていたので、じゃあ解除してもいいかなって、ちょっと不安も残りながら解除しました。」</p>

I	男児・フィルタリング導入中・中学生	<p>「<u>(中学生モードだと) Google (検索アプリ) が使えないってびっくり</u>しました。それ聞いて、逆にじゃあ有害サイトって何だみたいになって、ちゃんと適切にどう判断してんのかなって、逆にフィルタリングについて怪しくなりました (信頼度が下がった) けど。」</p> <p>「(フィルタリングを) <u>中学生レベルにしてしまうと SNS が使えない</u>っていう、そういうレベルらしいんですよね。次男は <u>LINE がやりたい</u>ので、それはちょっと不適合なので高校生プラスにしました。」</p> <p>「<u>Google で検索できないから、例えば公式じゃないサイトみたいな</u>のと違う経路に行けちゃったりしたら、何にフィルターかけてんのかなって余計分かんなくなっただけです。」</p>
d	女兒・フィルタリング解除・小学校高学年	<p>「購入してもうわりとすぐ。1週間もなかったかな。結局<u>小学生レベルの強いセキュリティ</u>にしてるともうなんにもできない。LINE もできない。」</p> <p>「最初小学生モードじゃ全然使えないなと思ってレベルを上げようと思ったけど、よくよく見ていくと <u>高校生モードでもわりと制約が強く</u>これじゃ使えないなと思って。」</p> <p>「あとは何かをするにしてもいちいち許可するのも負荷で。僕のアカウントを利用しないとできない。やってくれ、やってくれって何度も確認するのも。(あんしんフィルターを利用後) フィルタリングの印象は使ってみて、<u>ユーザーのことがわかってない</u>なっていう。」</p> <p>「なので、<u>ファミリーリンク (Android OS) 設定</u>にしてフィルタリングというより <u>管理</u>にしました。」</p>
f	女兒・フィルタリング解除・高校生	<p>「やっぱり <u>見たいものが見れないのが多過ぎ</u>。ちょっとだったら我慢した気がしますね。」</p> <p>「お友達とのやり取りで自分だけみれないというのはね。やっぱほら、みんなおそろいでみんなも見れないんだったらいいんだろうけど、いろんなご家庭があって厳しいところからフリーなところまであるので、(結局見れてしまうのもあって) 難しい。」</p>

k	女兒・フィルタリング導入中・中学生	<p>「上の子のときは <u>LINE モバイルから提供された i-フィルターを使っていたんですけど制限が強過ぎて端末の設定すらできなくなっちゃっていて、やりたいことに対してこれはちょっとフィルターとして強過ぎるだろう、不便過ぎるっていうところがあって、デバイスをいろいろ使いこなしたいっていう子なのでちょっと足かせが大き過ぎるってところで別のもうちょっと使い勝手のいいフィルターはないかっていうのを探したところで Google Wi-Fi に出会ってという形です。</u></p> <p><u>「スマホの良さっていうのが失われてるなっていうのも。あまりに縛りすぎていてスマホの便利さが、いろんなアプリがインストールできるとか、アプリを使っているいろんな体験ができるっていうところがちょっと失われ過ぎてるなっていうところがある。」</u></p>
---	-------------------	---

【ストーリー9】

フィルタリングサービスの解除をした家庭において「カスタマイズができることを知らなかった」。

フィルタリングを解除した家庭に対し、どのようなフィルタリングであれば利用を継続していたかを問うと「フィルタリングの強弱がつけられたら」「家庭にあわせた設定ができたら」という声はいくつかみられた（図表 8.12）。インタビュー中にカスタマイズができることを伝えると「できるとは知らなかった」と回答しており、継続のポイントとしてカスタマイズができることをよりわかりやすく伝えていくことが重要であることが示唆された。

図表 8.12 保護者の声

ID	属性	発言
F	男児・フィルタリング解除・高校生	<p>「やっぱり年齢とか学年によっても、そういう <u>フィルタリングの強弱じゃないんですけど、年齢、学年に合わせたフィルタリングが、契約する時とかに、これはすごいしっかりフィルタリングはかけて、ここはちょっといらぬとかゆるめとか、オプション的なものがあれば、なおもっと利用しやすいのかなって思うんですけど。</u></p>
d	女兒・フィルタリング解除・小学校高学年	<p>「多分そういうソフトはあると思うんですけども、簡単に言うとオーディオイコライザーみたいにこれはどうする、あれはどうするという細かく設定することができるようなものがあれば、一度最初の初期設定を話したうえで納得のいくように。多分それが一番いいんだろうなとは思いますが。」</p>

e	女儿・フィルタリング解除・中学生	<p>「<u>やっぱり年齢に応じた管理の仕方みたいなのが変わって</u>いて、<u>オプションで付けられるようなのがあったらいい</u>ですよ。たくさん項目がある中で、小学生のうちはこれとこれとこれとこれみたいな感じで、<u>チョイスして管理</u>をしているけれども、中学校に上がったらかれはいらぬ、でもこういったものは欲しいというので、また組み替えて管理ができるような。そういうアプリみたいなのでできたらいかなって。結構大体どのアプリっていうかそういうものって、同じような項目が多い気がするんですよ。なので一つのものでこれだけっていうのではなくて、一人一人お子さんって違うので。やっぱり<u>そこのご家庭に合わせられるような、チョイス</u>できるような項目があつてっていうふうに。<u>カスタム</u>っていうんですか。」</p> <p>「知らないんですよ、ごめんなさい。<u>チョイスとか</u>できたんですよ、あれって。もう完全に外したら全部外さないといけぬのかなってっていうふうに、勝手に認識してたんで。」</p>
---	------------------	---

【ストーリー10】

フィルタリングを継続できているパターンは「iOS」または「Android」が提供するOSのフィルタリングサービス。

今回のインタビューのうち、フィルタリングを分類①～⑥のうちいずれかで現在も導入している家庭は全部で12件（ID：D、G*、H、I、J、c*、d、g、h、i、j、k）であった。そのうち、分類「①機種への設定：スクリーンタイム（iOS）、Digital Wellbeing（Android OS）」または「②親子アカウント設定：ファミリー共有（iOS）、ファミリーリンク（Android OS）」で継続に至っている家庭が9件（ID：D、H、J、c*、d、g、h、i、j）を占めていた（図表8.8）。また、有害情報カット（コンテンツ規制）ができている家庭は全部で9件（ID：G*、H、I、c*、g、h、i、j、k）であった（図表8.8）。継続利用できているポイントとして、【ストーリー8】および【ストーリー9】とも関連し、そのカスタマイズ性が利用者にとって使いやすいためであると考えられる。

【ストーリー11】

フィルタリングを導入していてもアプリ内でのやり取りに不安が残る。

フィルタリングを導入している家庭においても、「LINEでの会話の内容までは見れない」「TikTokやインスタでDMをしていたらわからない」という点において、不安があるという声はいくつか見られた（図表8.13）。未導入の家庭において意識が低いことが見られたのとは対照的に、導入中の家庭ほど意識が高く、危険性について深く理解しているともいえる。

表 8.13 保護者の声

ID	属性	発言
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	<p>「なかなかやっぱり、<u>子供の LINE の内容は見ないじゃないですか。なので内容までは分からないんですけど、あとはもうフィルターにかけられないんで、そこがちょっと今心配っちゃ心配なんですけど。</u></p> <p>「そういう <u>LINE とかの中の内容のワード、例えば死ねとか怖いワードだったりとかがあったらそことか引っ掛かると強制的に親に連絡が来たりすればいいのになと思うんですけど。</u>」</p>
g	女兒・フィルタリング導入中・小学校低学年	<p>「子供が <u>LINE でにやにやしながらやってたんで、何やってんのって聞いたら、たぶん何かの会社のか分かんないんですけど、何かの自動で来る bot みたいな、何か送ったら自動的に返ってくるみたいなそういう LINE アカウントとやりとりをずっと1人でやって、それが面白いみたいで。それが誰とやってんのかなみたいな感じで、普通に誰とかじゃなくてずっとやってて、それはちょっと怖いなと思いましたけど。でも、別にそれで (今回は) 変なことになんないと思うんですけど、そういうことなのかなみたいな。子供たちが巻き込まれる最初のステップみたいので。」</u></p>
h	女兒・フィルタリング導入中・小学校高学年	<p>「この間、知り合いに聞いたのは、<u>お金のやり取りで1万五千元とか、例えば会う約束するのに1万五千元とかって書いてちゃうとばれちゃうんだけど、なんかそこにストロベリーって書いてあったんですって。それはつまりイチゴ、一五だから1万五千元が連想できると。そういう言葉も使うんだなと思って。</u></p> <p>「(そういう風に) <u>結局インターネットのサイトがどこまでフィルタリングされるのか。結局やっぱりどうしても抜け道みたいなものがある。そういうアダルトな画像がちょっと一瞬出ちゃったりとか。そこまではね。全部 100 パーセントじゃないと思うんで。そこだけ、そこは心配ですね。</u>」</p>
k	女兒・フィルタリング導入中・中学生	<p>「<u>SNS を通じた DM を使って変なやり取りをされてることはどうしても防げないのでそこはリテラシーでカバーしているんですけど、そこが崩されたときに心配だなっていうところですね。</u></p> <p>「誰か分からない、相手がよく分からない人とDMするのは危ないよねとかそういう話は普段の話でもたまにするし。もう1個は通信制中学に通わせてるところもあってやっぱり最先端の ICT 教育もしてもらえるのでそこでもカバーしてます。」</p>

8. 4. より良い青少年のスマートフォン利用と保護者のニーズ

【ストーリー12】

親向けには年齢性別毎の「対処策」「トラブル事例」などの情報、子供向けには学習を切り離さない「自分ごと化できるコンテンツ」を求めている。

インターネット上のトラブルや問題を認識するだけでなく、それに対し「具体的にどういう風に対応したらいいのか」という対処策を学習できるような情報が欲しいという声や「年齢や性別などその時々にあわせた対処策や事例が知れたら」という声はいくつか伺えた。また、【ストーリー4】や【ストーリー5】とも関係し、「女親なので男の子にどう対応したらいいかわからない」「自分（親）よりも子供のほうが詳しいので言いにくい」といった声も見られ、「親が言うよりも子供自身が自分で学べる環境やツールが有効」という声も多く見られた（図表 8.14）。

図表 8.14 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	「私課金はしたことないんですけど、例えば課金をした場合に、どういふうに子供にそれを伝えたら、どういう言葉を使って伝えたらいいのかっていう伝え方とか知りたいです。」 「怒るのは誰でもできると思うんだけど。そうではなく、 <u>自分は悪いことしちゃったんだとか、どうしたらいいかとか、言葉、本人に響く言葉の使い方、コミュニケーションの仕方とかを知りたいです。</u> 」
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「何か自分が困ったときにスマホでワードを入れて調べるじゃないですか。毎日は別に調べないんですけど、何か子供に悩みができたときとか、自分に悩みができたときに。やっぱり上の子育ててる時も下の子の時も、悩みも（違いが）あったり。いろんな事例を、たくさんワードが引っ掛かってくるのを集めてくださってとか、みんな結構同じようなことでそれでだいぶ答えとかものってるんで、みんな同じことで同じときに悩んでいるんだなっていうのがいつも思うんですけど。」 「(だから) <u>男の子の場合はこういうことが(管理の仕方がある)とか事例があったり、女の子のお母さんの場合はこういうやり方がある</u> とか教えてもらえるとすごく助かります。」

g	女兒・フィルタリング導入中・小学校低学年	<p>「<u>子供の年齢と性別と使い方のモデルケースみたいなのがいくつか用意されてて、自分の子供に近いところのケースがあれば、こういう使い方をすれば、例えばこういうアプリを入れて制限をかけて、何時から何時まで使えるようにしてますよとか。で、そういう機種の見介とか端末の見介だったりとか、アプリの制限のかけ方の例とかサンプルとかあったりとかすると、購入しやすいかなと思いますかね。</u></p> <p>「やっぱり<u>子供が触れやすいような形で、そういうあんまりよろしくないことがあるよっていうことを知れるようなアプリだったりとか、そういう教育の場があるといいかなと思いますね。</u>」</p>
h	女兒・フィルタリング導入中・小学校高学年	<p>「(危機意識については) <u>結局親が言うとうるさいなってなっちゃいますし。あとは学校で言われても自分には関係ないことだっと思ってちゃうでしょうし。</u></p> <p>「(普段使っている環境下で) <u>子供が見れるニュースが、たぶん本人的には一番すんなり頭に入ると言うんですよね。親が言うこととか学校で言われることとかよりは、ニュース、映像でやっぱり(自然に)目に入るのが一番。分かりやすいのかなと思うんですよね。</u>」</p>
j	女兒・フィルタリング導入中・高校生	<p>「私は大体テレビのニュースでそういうの(子供のスマートフォンの事件)を知ったりとかするんですけど、それに遭わないためにこういうのがありますよっていうのが一緒にリンクして付いてたりするといひ。<u>こういう被害に遭わないためにこういうサービスがありますみたいながあれば、すぐそこにつながってアプリなりそういうサービスを見て、これだったらうちの子に適用できるかもって思って、だからそういうのが欲しいですね。</u>」</p>

k	女儿・フィルタリング導入中・中学生	<p>「<u>実際教育も急に先生が来て IT リテラシーとか言っても（子供たちは）自分事になかなかならないですよ。</u></p> <p>「一番効果がありそうなのは <u>SNS の運営会社がそういうリテラシー教育コンテンツを流してくれることかもしれないですね。YouTube を使っているときに YouTube のリテラシーを YouTube が話してくれるとか、Facebook を使っているときに Facebook のリテラシーを Facebook がタイムラインに載せて見せてくれるとか。自然に見せたほうが目についていいんじゃないかなと思いますね。」</u></p> <p>「IT リテラシー教育っていうのはもっとやらなきゃいけないなと思っていて、学校に行き行って教えて、普段と違う講師が来て話してくれたみたいイベント感みたいなそんなレベルだと思うんですけど。（そうではなくて）<u>本当は僕は国語、数学、英語と同じぐらい大事な教育だと思っていて、理科、社会より上だと思っていて。そういう教育ができるようになるんじゃないかな</u>っていうのは思っています。」</p>
---	-------------------	--

【ストーリー13】

「**保護者の学習・成長**」を保護者自身が必要と感じている。

フィルタリング未導入や解除した家庭において、特に「自分をもっとわかっていたら」「親がもっと詳しく知っていたら続けられていたかも」という声があった。また、導入中の家庭であっても、「親が正しく使うことが（鏡になることが）大切」「親の態度（スマートフォン利用）が子供に影響を与える」という声が伺えた。こうしたことから、親自身がスマートフォン利用を含む知識や姿勢に対してより良い学習を必要だと認識していることがわかった（図表 8.15）。さらに、未導入中の家庭において「自分（親）も体験してみることで子供に進めることができたかもしれない」という声もあり、まず親自身がフィルタリングを利用し理解するというような体験の機会も一つの策であることが伺えた。

図表 8.15 保護者の声

ID	属性	発言
B	男児・フィルタリング未導入・高校生	「フィルタリングが、どういうものか自分が使ったことないし、フィルタリングかけられてるとどういふのかっていうのの実感がないので入ってないのかもしれませんが。もしその実感があつたら、これはいいと思えば子供に勧めていただろうし、 <u>どういふものか自分でよく分からないから、子供にも話せないっていうのだったのかもしれないなって、思いました。</u> 」「自分のスマホでフィルタリングかけられたらどういふ使い勝手になるのかなって、そういうのがあつたらいいかもしれません。」
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「本当日々もつといいことないかなとか、こっちが何か勉強して何かできることとか増やせることがあつたらいいなと思つて、 <u>大人もアンテナを張つて何かできないかなとは思ひながらは生活をしてるんですけど。</u> 」「 <u>本当に勉強しないと（スマートフォンや子供の対応に）全然ついていけない。</u> 」
J	男児・フィルタリング導入中・高校生	「 <u>親が正しく使うこと</u> でしょうね。親がスマホにはまってるのに、子供にはまるのは無理って言うのは、それは無理。」 「親つてのは子供にとっては社会環境なので。社会環境としての親の behavior つてもものがやっぱり改善されないと、子供つていうシステムだけ変えたつて（意味がない）。」 「 <u>やっぱり親つていうものがスマホなんかも使ひながら、外の世界への正しいゲートになつていくつていうところが一番なんじゃないか</u> というふうには思ひつています。」
d	女児・フィルタリング解除・小学校高学年	「僕よりも多分妻のほうがスマートフォンをずっと見てる。だから親がスマートフォンをどういふふうに向き合つてるかみたいなことも子供への影響としては大きいんじゃないかと思ひつてます。」
f	女児・フィルタリング解除・高校生	「 <u>もつと私がメカに詳しくて、もつと詳細に細かく設定がばんばんできる人だつたら良かったな</u> つていうのは思ひつてます。」

k	女儿・フィルタリング導入中・中学生	<p>「いくら制限しても駄目だし、制限されてるってところで思考を停止してしまうのは良くないなっていうのがあって。しっかり自分で考えてできるようになるってところで免疫力っていうのは非常に大事だなっていうのを改めて思ったんで、<u>うちの子供たちの免疫力も上げられるようにまた頑張っていかなきゃなっていう気持ちになりました。</u>」</p>
---	-------------------	---

【ストーリー14】

フィルタリング（防ぐ・守る）をするだけでなく「子供自身の情報環境に対して自身で危険性を判断できるようになる」ことを求めている。

フィルタリング未導入の理由でもあり、また導入している家庭においても意識されていることの一つが「子供自身で危険性を判断できるようになってほしい」という考え方であった。子供の学齢が上がるほどに「あれもこれも守っていたらいつか困るのは子供自身ではないか」というような声が多く聞かれた（図表 8.16）。こうした視点に対して、未導入を防ぐためにも、フィルタリングを導入しながらも子供自身に‘免疫力’をつけさせるような教育やフィルタリング設計ができることが望ましいと考えられる。

図表 8.16 保護者の声

ID	属性	発言
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	「子供も大人も全く一緒です。これから社会に出て行くので。自分でやっていくしかないから、(フィルタリングなしでいろいろふれるのも) <u>今は準備段階だと思ってるから、もしそこでけがをしても自分で癒すしかない。だからそういう感じかな。</u> 」
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	「理想としてはそういう (フィルタリング等の) サービスを使わずに、 <u>自分でコントロールできるっていうのが一番理想かなと思うので。</u> 」
J	男児・フィルタリング導入中・高校生	「コンテンツフィルタリングを入れることとかもできなくはないんですけども。入れたとしても男の子なので、たぶんまあ見てしまうだろうなど、どこかで (自分のスマートフォンじゃないとしても)。そういうこととなれば、 <u>物理的、通信的なフィルタリングよりも、どちらかという<u>と教育のほうが大事かな</u>と思っていて。それで<u>うちはエデュケーションのほうで対処しよう</u>と決めたって感じですね。」 「情報機器との付き合い方っていうのは、家庭で学ぶことなのかなっていうふうには思うので、<u>セルフコントロールすることを怒られながら学ぶのも大事か</u>と思っています。」</u>
f	女兒・フィルタリング解除・高校生	「やっぱり自分で判断してほしい。何でもかんでも親がこれ駄目ってシャットアウトしちゃってもその時はいいんですけど、いつか自分で判断をしていかなきゃいけないんだから、それをもう生活の一環としてやっていってほしいですね。」

k	女兒・フィルタリング導入中・中学生	<p>「強制的なフィルターって効果という意味では一時的なものはあるんですけど、<u>本当にアクセスしていいコンテンツとかってものを絞るよりも、自分で、これは駄目だ、これはいいって判断できるようにならないといけないって思っている。</u>フィルターをかけることはそれに対して効果があるのかって言うと、これは駄目なんだ、これはいいんだみたいなことを考えるきっかけにはなるんですけど、じゃあフィルター外れたらどうなるかってなると、あんまりかけ過ぎると将来的には逆に、<u>フィルターがなくて自由だって何でも見ちゃうようになりそうだっていう、(逆効果のような) 過剰さの可能性を (今のフィルタリングは) はらんでいるなっていうふうに思いました。</u></p> <p>「インターネットというものは知らない人と普通に通信できるものであって、その<u>知らない人と通信するっていうことがどういうことなのかっていうところをしっかりと教えることによって学んでもらうことが大切なのかなと。</u>」</p>
---	-------------------	---

【ストーリー15】

コンテンツフィルタリングに関しては「仕組みの透明性」や「精度向上」を求めている。

コンテンツフィルタリングに対して、その目的は賛同しているものの（【ストーリー6】参照）利用してみたところ不都合が多いという家庭が多くみられた（【ストーリー8】参照）。こうした点に対して、「フィルタリングのかけ方を柔軟にしてほしい」「どういうルールで規制がかかっているのか、または、かかっていないのか明示してほしい」というような声が伺えた（図表 8.17）。コンテンツフィルタリングをより有用なものにするためにも、ガイドライン等を利用者にもわかりやすく明示していく必要があると考えられる。

図表 8.17 保護者の声

ID	属性	発言
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	<p>「(フィルタリングを使ってみて) <u>なんか全然使えないなと思ってます。</u>本当はここからは駄目だよってようなフィルタリングがあれば一番いいんですけど、そうじゃなくて<u>最初から結構駄目って感じで、機械なんだししょうがないとは思んですけど。</u>もうちょっとこう AI 的になっていうんじゃないけど、<u>修正に適したフィルタリングっていうか、かけ方がこれからできてもらったらうれしいなって、ちょっと思います。</u>」</p>

F	男児・フィルタリング解除・高校生	「フィルタリングが、ちょっとでも危険だと思えば防いでくれる、踏まないようにしてくれる、確かにすごい性能なんだなっていう印象はあります。けど、難しいのかもしれないけど、 <u>必要なもの</u> をやっぱり見れる境目っていうんですかね、そういうのがもうちょっとはつきりしてくれてればよかったかなっていうのがあります。」
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	<p>「(フィルタリングに関して) <u>理想は公式サイトじゃないものとか。フィッシングサイトとか、詐欺につながるようなものとか</u>そういうのが分かった上で、そういうサイトにつながらないようにしてほしいと (思っています)。(でも使ってみて) 意味分かんない。そんなものとは思ってなかった。」</p> <p>「安心と安全、そもそも違ってて、<u>安全なほうを私はフィルタリングとかに求めるんだけど、それができてないサービスだというのが私の体験から感じていることです。安心を企業ジェスチャーとして</u> 適当にやっているというか。」</p>
h	女児・フィルタリング導入中・小学校高学年	「 <u>例えば YouTube とかでも、たまにそういう (アダルトや危険な) 言葉が出ちゃうとかあるから。まあやむを得ないんでしょうけど</u> ね。不安なのは、不満なのはそこだけですね。本当にフィルタリングで <u>100 パーセント</u> されないっていうところが。」

8. 5. 保護者インタビュー個別データ (全 21 件)

8. 5. A 【男児・フィルタリング未導入・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	3人
1-2	性別・学齢	男・21・大学生／女・19・大学生／男・15・中3
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Andoroid／docomo
2-3	利用している主なアプリ	LINE／YouTube／クーポンアプリ／ゲームアプリ
3	フィルタリング利用状況 (末子)	
3-1	現在の利用状況	未導入
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入しなかったか

スマホを購入したとき、店頭でフィルタリングについて時間的、心理的に検討する余裕がなく、さらに、父親が必要ないという態度を示していたため。また、基本的に家で使っているので、何かがあれば家族が対応できると考えている。「今は必要ない」という意識が続いていることもある。小学生であれば導入していたかもしれないが、「未然に防ぐ」よりも「自分で判断させる」ことを優先している。

②意識の有無・知識の有無に関して

スマホの使い方については、自分で失敗しながら学ぶことが経験のひとつとして重要だという意識を持っている。また、親が使い方などに介入しても大きな効果は期待できないと考えているので、使い方や現状について積極的に知りたい（知るべき）と考えていない。普段、SNS、インターネットのトラブルなどの話題はニュースや学校、ママ友から入手している程度。写真で個人情報をさらすことに対する危機感、トラブルに巻き込まれる可能性を心配している。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2018年3月（中学に上がる春）・携帯販売店
2	主な用途	LINEで友達とのやり取り、ゲーム。
3	利用量	平日は2時間、土日は4-5時間程度。
4	スマートフォン利用歴	約3年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン2台、タブレットなし。プレイステーションなどのゲーム機器あり。 スマートフォン：家族全員スマートフォン所有（専用）、docomo契約。父は10年前から、母は7年前から使用。 両親はAndroid、きょうだいはiPhone。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	未導入
2	知識と環境	詳しくはないが、知っているという程度。テレビやママ友から情報を得るほか、先行して利用している家庭から聞くこともある。ママ友からはゲームで課金、迷惑メールが来るという体験談を聞いた経験がある。家族でICTに詳しいのは大学1年生の長男。
3	認識	フィルタリングについては、YouTubeを見ているあいだにアダルトサイトに移ると警告する、データ通信量が大幅に増えた時に警告する、迷惑メールをブロックするなど、有害なコンテンツ等を遮断するという認識を持つ。
4	未導入の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	購入時にフィルタリングについて店頭で聞かれたが、お店が混んでいたことや、早く帰りたかったため。また、父親が入らなくてもいいという雰囲気だったことも影響している。未然に防ぐのも大事だが、中学生になるので体験させて学ばせることも大事だと考えている。中学生で、ほとんど家で使うため、何かあったときにもすぐに対処できるとも考えた。
5	未導入の理由（利用者：子の視点）	本人も友達からきいて多少の危機管理があったほうがいいと思ったが、「自分で気を付けるよ」という対応。
6	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	入ったことがないのでわからない。
7	課題とニーズ（利用者：小学生のときキッズ携帯を持っていた友人から話を聞いて	

	子の視点)	ていたり、その携帯をなくす、ゲームをやりすぎて親に叱られるなどの具体例を聞いたりして、本人なりに使い方について学んでいる。
8	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特になし。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	食事の前後、1日当たりの利用時間は決めていない。リビングで使うこと、有害サイトや怪しいと思われるサイトは見ないこと。テスト前1週間は親が預かる。
2	参考情報	テレビ（ニュース、NHK「あさイチ」の特集など）。
3	理由・背景	受験勉強に集中するため、勉強をする部屋に持ち出さない、テスト1週間前は母親が預かるというルールを決めた。しかし、反抗期で決めても守らない、母親自身のストレスを回避したいという思いや、第3子で緩くても良いと考え、ルールは厳密に決めていない。部活や友人関係でのコミュニケーションにスマートフォンは必要で、家で息抜き程度に使うのは良いと考えている。
4	子育ての指針	余計なことを聞かないようにする、子供の持ち物を勝手に見るなど、基本的に干渉し過ぎないようにしている。身の回りのことに自分で気付き、学び、自立してほしい、自主性を育みたいという考えを持つ。また、何かあったときには、子供が説明を受けて納得し、理解できるように育てたいと考えている。
5	プロセス	子供は親が思いつかないようなことをやってしまうこともあるので、試験勉強の時に調べ物をしたい時は親に許可を得てパソコンを使うなど、何かあったときに子供と話し合い、対応してきた。子供からは強い反発はない。
6	管理方法	本当はルールを決めたいが、守らないだろうと考えているため、あまりルールでがんじがらめにしたくない。学校は規則ばかりなので家ではリラックスさせたい。ただ、子供がルールを守らないと親にストレスが溜まってしまおうとも感じる。
7	課題	何をしているか分からない。課金には気を付けているが現在はないと感じている。もし課金をしてしまったら、子供に払わせ、自分で痛い思いを経験して学んでほしい。
8	ニーズ	子供自身が危機管理の知識を身に付けてほしい。

IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	分からないことを何でもすぐに調べられること（ニュースの内容、辞書、バスの時刻など）から、利便性を評価している。高校の情報を入手し、行った気分が得られることもある。LINEでのコミュニケーションが基本になっているため、電話で直接話すことを嫌う、人付き合いが淡泊だと感じており、人間関係が希薄になっているように感じている。子供達に本当の友達はあるのかと心配している。
2	有害情報等への意識	有害情報への危機感を持っているが、本人がどう切り抜けるかが大事であると考えている。大人も子供も同じで、子供の場合はこれから社会に出て行くので、今は準備段階として、怪我をしても自分で癒すことを覚えてほしい。
3	エピソード	次男が中1のときにスマートフォンで応募し、新品の靴が届いたことが2、3回あった。本人には危機意識がなかったため、個人情報を出さないように注意した。ニュースで見聞きする出会い系サイトや、指先殺人（ネットでの誹謗中傷による自殺）は怖いと感じている。
4	対策	個人情報の流出に対してはアイコンを自分の写真にしないなどの注意をしている。出会い系サイト等の問題については「心が満たされないこと」が原因の一つと考え、自立して自分で考えられる人間に育てたいと考えている。
5	ニーズ	怒るのは誰でもできると思うので、本人に気づかせるための声かけの仕方（コミュニケーションの仕方）を知りたい。

8. 5. B【男児・フィルタリング未導入・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	女・23・社会人／男・高3
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／au
2-3	利用している主なアプリ	LINE／Twitter／Facebook／YouTube／ゲーム(ウイニングイレブン)／Zoom
3	フィルタリング利用状況(未子)	
3-1	現在の利用状況	未導入
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入しなかったか

特に必要性を感じなかったため。また、家族で使い方について話せば十分だと考えたため。

②意識の有無・知識の有無に関して

フィルタリングについては課金防止や有害情報の閲覧防止という理解。ニュースを見て炎上には気をつけると子供に伝えている。危機意識が低いことについて、「自分が体験したことがないから意識がおよばない」「フィルタリングも知っていたけど意識がないから勧めることもしない」ということだった。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2019年11月(高2)・家電量販店
2	主な用途	コミュニケーション(LINEを使った家族やサッカーグループ内のコミュニケーション)が主。ゲーム、娯楽。
3	利用量	高校3年生で学校が休み、毎日家にいて、教習所・バイト以外はほぼ使っている。
4	スマートフォン利用歴	7年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状	—

	況、ご家族の利用状況	
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	未導入
2	知識と環境	長女にスマートフォンを持たせるようになってから、SNS を通じて知った。店頭でフィルタリングの説明があったかどうかは認識がない。
3	認識	課金防止や有害コンテンツの閲覧を防止するという認識。
4	未導入の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	フィルタリングを導入すべきかどうか、悩んだことはない。本当に要るのかなと感じている。
5	未導入の理由（利用者：子の視点）	子供を信用していたため。家族と話し合いをして、使って良いものと、駄目だというものについて確認し合ったが、心配だからフィルタリングが必要だとは考えなかった。
6	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	自分自身、フィルタリングがどういうものか分かっていない、実感がないので勧められない。分かっていて、良ければ勧めたかもしれない。
7	課題とニーズ（利用者：子の視点）	特になし。
8	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特になし。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	過去は ・1日1時間まで（小学生まで） ・利用はリビングで（中3まで） 現在は放任している。
2	参考情報	父親の経験から話をしている。
3	理由・背景	父親自身が危ない目に遭うような体験をしていないため、ネットへの危機感をあまり感じない。また、そういったことへの興味が薄い。
4	子育ての指針	父親は子供達に対してなるべく干渉せず、口うるさく言わないようにしている。母親は干渉することが多く、子供にもはっきりと言うタイプ。
5	プロセス	約束事は家族で話し合って決めた。意見の違いはなかったが、結果的には守れなかった。

6	管理方法	管理はできていない。1日1時間が守れないことは無理もないと考える。
7	課題	思い浮かばない。
8	ニーズ	特にない。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	ネットで積極的に情報収集ができることが便利。子供のサッカーチームの親とTwitterでつながっており、試合状況や子供の様子についてリアルタイムで知ることができた。子供はTwitterなどで勉強に関して情報を収集したり、問題のやり取りができています。ネガティブな面については考えたことがなく、子供達には炎上するような使い方をするなどは伝えている。
2	有害情報等への意識	あまりない。気をつけろとは言っているが、そんなに心配していない。
3	エピソード	母親が何かに「当選しました」というメールに、暗証番号を入れて返信しかけた経験があり、気を付けなければいけないと気付いた。炎上などはTwitterやテレビの芸能ニュースを見て気を付けなければならぬと考えている。
4	対策	気が付いたときに伝える。不足感はない。
5	ニーズ	そこまで考えたことはない。

8. 5. C【男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	1人
1-2	性別・学齢	男・小2
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	共用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	ZenFone Max/y!mobile
2-3	利用している主なアプリ	YouTube
3	フィルタリング利用状況（長子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	⑤アプリ上での個別設定
3-3	フィルタリングの具体	YouTube 上での年齢設定 → <u>解除</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

YouTube 視聴が主だが、タブレットで見られる動画が見られない、これまで見ていた動画が見られないなど、子供が気が付いた。引っ掛かる理由も分からず、不便さを感じたため。

②フィルタリングへの不満点

内容を見ている、引っ掛かる理由が分からなかった。

③意識の有無・知識の有無に関して

何となく知っている程度。フィルタリングは完全なものではなく、抜け道があると考えている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年4月
2	主な用途	YouTube を見るため。
3	利用量	30分以内
4	スマートフォン利用歴	3年

5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：ノートパソコン、タブレット、Nintendo Switch、テレビ（Youtube視聴可能）。 スマートフォン：両親とも利用。
6	共用の形態・時期・きっかけ	幼稚園年長の頃から母がスマートフォンを使っているのに興味を持ち、触り始めたため。
7	共用の期間	3年
II フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ		
1	利用状況	解約
2	知識と環境	10年以上前から、何となく知っている。フィルタリングをしても抜け道があると思っている。父親がIT系の仕事のため詳しい。
3	認識と利用目的	子供が見ないほうが良いものや、見る気がなくても出てきたりする動画を防ぐため。
4	やめた時期	2020年7-8月頃
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	これまで見ていたものが見られなくなり、フィルタリングに引っ掛かった。内容を見ても引っ掛かる理由が分からなかった。子供が見られない動画があると言ってきた。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	フィルタリングは認識していない。同じYouTubeでも見られるものと見られないものがあることに気が付いた。
7	解除後の管理方法	年齢的に大丈夫だろうと思っている。
8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	専用のスマートフォンを購入したら、継続していたかもしれない。
9	課題とニーズ（利用者：子の視点）	見たいものが見られたら。
10	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特になし。問題なく解除した。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	最初の頃は時間を決めていた（テレビの時間まで、など）。
2	参考情報	何となく。
3	理由・背景	本当は使って欲しくない。
4	子育ての指針	厳しくない。インターネットに関しては以前から両親とも使っていたが、SNSは興味もなく見ることもない。

5	プロセス	何となく使い始めた感じ。タブレット、スマートフォンを使う時間が圧倒的に増えている。タブレットを使えるので、スマートフォンは特にせがまれない。
6	管理方法	使い方については放任している。スマホだから特別ということはない。
7	課題	使い過ぎている。今後、ゲームをして誰かとつながる可能性があると思っている。
8	ニーズ	使えないのが本当は一番だが、そういうのは無理だと思っている。人からの話で、これから部活の連絡も LINE で来ると聞いている。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	良くも悪くも知識が増えている。難しい漢字が読める用にもなっている。5年前と今とでも全然違うから分からないが、高学年になったらどうなるのだろうと思っている。
2	有害情報等への意識	変な思想になったら困る（宗教的なもの）。個人を攻撃して書き込むことをしないで欲しいと思う。SNS のいじめでつながったりするのも不安。
3	エピソード	身の回りではなく、ニュースで知る程度。芸能人の自殺報道は知っている。
4	対策	特に対処はしていない。
5	ニーズ	抜け道があるので難しいと思うが、SNS は年齢制限をして欲しい。

8. 5. D 【男児・フィルタリング解除・小学校高学年】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・15・中3／男・12・小6
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／自宅 Wi-Fi のみ
2-3	利用している主なアプリ	YouTube／LINE／ディスコード／ゲーム実況、生配信アプリ
3	フィルタリング利用状況（長子）	
3-1	現在の利用状況	解除→導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス→①機種への設定
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター →スクリーンタイム (iOS) 設定（課金制限、アプリ DL 許可制）を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

既にスマートフォンを持つ友人が使っていたり、勧めてくれたりするアプリが使えないことや、YouTube で見たい動画が見られず不便さを感じた。また、長子の友人らがフィルタリングを導入しているとは思えなかったこともあり、周囲に合わせ、子供を信じるということを重視し、導入後すぐに解約した。また何回も外すように求められたことが面倒くさかった。

②フィルタリングへの不満点

自分は友達が見られるコンテンツが見られないこと、YouTube の人気 YouTuber できさえも見られないなど全然使えないと思った。中学生くらいだったら何か見ても学ぶものがあるだろう、制限が掛かりすぎている。

③意識の有無・知識の有無に関して

意識してフィルタリングに関する情報を入手しているわけではないが、香川県の規制条例、海外の事例といった知識を持っている。

【共通項目】

I		利用状況
1	購入時期・場所	2018年2月（中学に上がる春）
2	主な用途	LINE で友達とのやり取り、ゲーム（「フォートナイト」が主、Discord でボイスチャットをしながらゲームをする、ゲーム実況）。
3	利用量	平日は約1時間、土日は4-5時間程度。
4	スマートフォン利用歴	約3年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：iPad（皆がスマートフォンを持っているので現在使用せず）、子供用パソコン2台。Nintendo Switch。 スマートフォン：家族全員スマートフォン所有（専用）、docomo 契約。父は約9年前から、母は6年前から使用。弟も iPhone。
II		フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ
1	利用状況	解約→設定
2	知識と環境	積極的にフィルタリングに関する知識を獲得しようとする行動はとっていない。保護者自身が ICT、スマートフォンに詳しいわけではないと感じている。
3	認識と利用目的	課金の心配があるため、子供2人共にスクリーンタイムを入れている。
4	やめた時期	結構すぐに（3か月程度）。
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	小6の2月に持たせたところ、友達が見られるコンテンツが見られないこと、YouTube で人気 YouTuber できえも見られないなどかわいそうに感じ、全然使えないと思った。制限が掛かりすぎていると思った。何回も外すように求められ、煩わしく、面倒くさかった。中学生くらいだったら何か見てしまっても学ぶものがあるだろうと考えている。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	フィルタリングは認識していた。YouTube が見られず、親は「嫌そうだ」と感じていた。
7	解除後の管理方法	気を付けて使おうね、という合意のみ。本人確認のもとメールなどをチェックする。
8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	子供も子供なりに親の目を盗んで調べたいことがあるだろうと思うので、18歳未満が見てはいけないものは最初から出さないでほしい。フィッシングのような何個も何

		個も開いてしまったので、大人が使うスマートフォンでも規制してほしい。お菓子やゲームに制限をかけると大人になってからタガが外れたようになるということがある。少し冒険もさせてあげられるレベルにしてほしい。
9	課題とニーズ (利用者：子の視点)	見たい動画や、見たいコンテンツが見られていれば受け入れていたと思う。
10	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	フィルタリングより使い過ぎてしまうこと、音声通話やLINE の過剰な使い方にやきもきすることのほうが多かった。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は当初 21 時まで。親の前で使い、自分の部屋に持っていかない (共に、現在は破られている)。移動するときに触らない。友達の悪口は書かない。ゲームを 1 つ入れるときには既存のゲームを消す。課金はしない。
2	参考情報	テレビ (夕方のニュース、特集など)、学校での「LINE いじめ」をテーマとした道徳の授業参観、この授業に関する学校からのプリント。
3	理由・背景	寝る時間に差し障りがないように、さらに、時間を決めることが大切だという考えや、勉強時間の確保のため、時間制限を設けた。 LINE でのやり取りで無意識に他人に疎外感を与え (られ) てしまう可能性もある。経験しないと分からないことがあるという考えから、子供がスマートフォンを使うことには肯定的に捉えている。大人になって急に使うのではなく、子供のうちから慣れていくことが重要だと考えている。子供が時間を守れないことへの諦めはあるが、スマートフォンを使って物事を考えるなど、ポジティブな影響を期待している。ただ、コミュニケーションをLINE のようなツールに依存してしまうことへの気掛かりは持っている。
4	子育ての指針	子供がやりたいということはできる限りやらせたい。子供同士で何かやるというのも、常識の範疇を越えなければいいと思っている。家族内コミュニケーションは取れていると感じている。
5	プロセス	当初、スマートフォンを購入する前に、保護者が話し合

		った内容を子供に「約束」として示したが、子供が LINE を時間内にやめられない（見なければならぬ、答えなければならぬと考えて）ことなどからなし崩し的になった。
6	管理方法	子供の自主性に任せていた。約束が守れないことに対して口頭で注意をしていたが、なあなあになっていった。
7	課題	たまに親の目を盗んで暗い部屋でスマートフォンを見ている様子が、傍からは中毒っぽく見える。「スマホ依存」的な感じが心配。
8	ニーズ	香川県の「スマートフォン条例」を知っているが、条例だから制約がない（ので何らかの制約が欲しい）。韓国では、15 歳未満は 12 時くらいになったら電源が落ちると聞いている。日本でも導入を考えてほしい。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	インターネットについて詳しい人は家族にいない。子供に「わけがわからなくても持たせたほうが良い」と考え、タイピングを覚えさせるためにパソコンを 1 台ずつ購入している。スマートフォンの利用方法も父親より子供が先んじている傾向。 インターネットを通じてゲームでのボイスチャット、言葉の選び方など、コミュニケーション能力を学んでいることに対してポジティブに捉えている。一方で、長子がゲーム生配信の配信者をフォローし、その人とゲームをしても良いか親に許可を求めたことがあった。この経験から、個人情報特定されるのではないかと、また、使い方を間違えるのではないかとという心配をした。
2	有害情報等への意識	過去の自身の家族の経験や、子供の小学校での話から、個人情報の漏洩についての危機意識を持つ。子供自身は気を付けているとは思いますが、友達からの漏洩も含め、個人情報の漏洩が心配。写真を SNS に載せない、友達のことを他の友達に安易に教えないなど、日頃から子供に注意している。利用の仕方などを AI で学ぶなど柔軟なフィルタリングであれば良いと思う。家庭だけでは難しいので、15 歳未満は 12 時くらいに電源が落ちるといった社会面での規制が欲しい。
3	エピソード	メールで架空請求されたことがあり、長男が電話番号を

		かけてしまったことを後から報告された。注意し、何かあったら母親に相談するように言っているが、それ以来メールをチェックするようにしている。母親自身、過去に架空請求の封書が送られた経験があり、住所が他人に知られることは怖いと思った（何が原因か不明）。
4	対策	ニュースを見ているときにネット関連の話題があったら、ネットに絶対に写真や個人情報を載せない、友達のも載せないことなどを話す。
5	ニーズ	個人情報や写真など最初に出たときに防がないと收拾がつかないので、ネットパトロール（小学校の時に友達の悪口があつてすぐ見つかった）のようなものを市で異なるのではなく公的に行い、法制度的に整備してほしい。

8. 5. E【男児・フィルタリング解除・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	女・17・高3／男・15・中3
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／UQ モバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE／YouTube／TikTok
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	①機種への設定
3-3	フィルタリングの具体	スクリーンタイム（iOS）設定（時間制限、コンテンツ制限、アプリ DL 許可制） → <u>解除</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

以前からゲーム機器にフィルタリングの機能があったことを認知し、スマートフォンにも導入が必須だと考えていたが、設定を子供が解除してしまった。その後、親が設定、子が解除するといった親子間のせめぎ合いがあったが、結果的に親が根負けしてしまったため。

②フィルタリングへの不満点

年齢で区切ると、子供が部活で見たい動画が一律で見られなくなる不便さがあった。スクリーンタイムを設定しても、子供が設定を解除し、母親が再設定するという、親子間の設定・解除の応酬が半年以上続いた。

③意識の有無・知識の有無に関して

母親は睡眠時間や勉強時間の確保、脳への影響を心配しており、自ら情報収集をし、意識は高い。フィルタリングを設定できる技能も持つ。だが、同様に、子供自身がフィルタリングは不要だという立場で、母親に対抗するだけの高い情報収集能力と技術を持っている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2018年7月（中学1年の誕生日）・携帯販売店
2	主な用途	最初の頃は無料のゲームが多かったが、最近はTikTok、YouTubeの映像視聴。動画は視聴専門。コミュニケーションはLINE（家族間・友達）。
3	利用量	平日は約2時間、土日は10時間程度。
4	スマートフォン利用歴	約2年半
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	iPad、PSP（プレイステーション・ポータブル）。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解除
2	知識と環境	母親が仕事柄、ネットに関わっており、知識を積極的に入手している。周囲から聞かれることも多い。
3	認識と利用目的	早い段階からゲーム（ニンテンドーDSなどの携帯ゲーム機器）にもフィルタリングがあったので、機械を使うときには必要だと知っており、ネット利用等への危険性は認識していた。スマートフォンを買ったときに母親がフィルタリングを設定して子供に渡した。
4	やめた時期	購入後1年以内
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	母親が設定し、末子に解除されても再設定していたが、結果的に根負けし、やめざるを得なかった。勉強などやることはやっていたので良いかと考えたことや、本人が睡眠はとらないといけないと認識していたため。また、がちがちにあれもだめこれもだめ、というのは難しく、ある程度は信用して任せることも必要だと感じている。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	急にゲームができなくなったのでフィルタリングの存在を知り、不満を抱いたため、母親と交渉。だが、全く受け入れてくれないと思い、自ら設定を解除した。
7	解除後の管理方法	何もしておらず、会話するようには心掛けている。
8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	スクリーンタイムで年齢制限するとアプリが消えたり、時間がぐちゃぐちゃになったりしてしまうので、本人に見つからずに設定できるようにしてほしい。アプリ追加のために親に許可を取る仕組みになっているが、タイムラグが発生し、30分以内に設定ができないので改善して

		ほしい。
9	課題とニーズ（利用者：子の視点）	ない方がよい。
10	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	親子間で険悪ではないが、合意形成はできていない。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	時間：22時まで（夜中は不可） 場所：リビング コンテンツ：アプリの年齢制限、有害情報や暴力情報の制限 その他：アプリを入れるときには母親に確認する フィルタリングとして時間とコンテンツを設定していたが、子供が解除していた。
2	参考情報	母親自らの情報収集、学校の配布資料、地元でスマートフォンについて研究している小児科医。
3	理由・背景	中学生程度であれば行動範囲も狭いので、スマートフォンを持つ必要もないと考えている。小児科医の話から、脳の発達への影響や視力が落ちる心配があるほか、勉強をしなくなることも考えられるので、なるべくスマホは持たせたくない。
4	子育ての指針	スマートフォンだけでなく、おしゃれや髪染めを含め、いつでもできるようなことは取ってやらなくても良い、子供らしくいてほしいと考えている。スマートフォンの使い方について、周囲と比較して一番厳しいと子供から言われている。全て禁止するのではなく、子供が最低限守るべきことをしているか、危険なことをしていないかを見守り、信用することが大事だと考えている。
5	プロセス	スマートフォンを購入して、「スクリーンタイム」を導入したが、保護者が知らない間に子供が制限を突破し、本来、使ってはいけない時間、アプリの年齢制限を解除していた。しばらく、親子間で設定と解除を繰り返した。購入後、半年から1年後の間、子供がアプリ自体を消去してしまったため、保護者が設定を諦めた。だが、年齢で区切る設定では、子供が部活の練習のために見たいというYouTubeやTikTokが見られないことがわかり、あれも駄目、これも駄目というのは難しいと感じた。

6	管理方法	最初、約束事を紙に書いて親子ともサインしたが、守らなかった。親は守らないとサッカーをやめさせると言ったが、いろいろと重なって親が根負けしてしまった。
7	課題	「お仕置き」的な対応ができるようになってほしい。現状では1か月単位になっており、すぐに、一定期間の対応ができないもどかしさがある。
8	ニーズ	普段はそんなに厳しくコントロールする必要はないと思うが、約束を守れなかったときだけ1日、2日、1週間使用禁止にするなど、柔軟に対応できると良い。現状では解約すると解約手数料や事務手数料など、経済的な負担にもなる。短期間的に止められるような仕組みがないか、親がいろいろと調べている。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	スマートフォンを使うことでコミュニケーションが取りやすくなる、動画を見るなど、楽しみが増えることをポジティブに捉えている。長子は自動車学校の宿題にも使っており、学びにも有用。一方で、スマートフォンを優先してやるべきことをやらないことに対して非常に苦々しく感じている。
2	有害情報等への意識	子供の利用状況を見ていて、あまり危険性を感じたことはない。
3	エピソード	姉がSNSを通じて趣味が同じ人と会ったことを聞き、トラブルはないが、子供が、親が知らないどのような交友関係を持つのか、どのような行動をしているのかは常に把握しておきたい。
4	対策	子供と話し合うようにしている。また、位置情報で確認するようにしている。子供のFacebookやInstagramのアカウントをフォローしようとしているが、外されてしまう。投稿の内容を知りたい。
5	ニーズ	子供が何を考えているのか把握できるサービスが欲しい。

8. 5. F【男児・フィルタリング解除・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	女・18・高3／男・16・高1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android／SoftBank
2-3	利用している主なアプリ	LINE／学習系アプリ／YouTube／ゲーム (モンスターストライク・星のドラゴンクエスト)
3	フィルタリング利用状況（末子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター → <u>解除</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

子供が宿題の調べ物をするのに、有害ではない物も調べられない、部活の休みの日や休日に使おうとしても時間が足りないなど不便を訴えたため。

②フィルタリングへの不満点

利用者が必要だと思うコンテンツが見られる、見せたくないものは見せないという細かい設定が欲しいと感じた。年齢、学年に合わせてフィルタリングを緩めにしたり、オプションがあったりするなどのカスタマイズ性があればより使いやすいのではないかと考えている。

③意識の有無・知識の有無に関して

母親は子供の自主性を重視するが、利用には慎重的な姿勢を持つ。現在はゲームへの依存や、高額な請求の心配を持つ。現状のフィルタリングでは実情に即した対応ができないと感じており、日常でどのように自分の知識を高め、対応すれば良いか分からないと感じている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	約1年前・ショッピングモールの催事場
2	主な用途	LINE や YouTube も使うが、ゲームが主。
3	利用量	1日4-5時間。
4	スマートフォン利用歴	約3年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：ニンテンドーDS。 スマートフォン：両親は約10年前から使用。家族のギガ数50GB/月。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解除
2	知識と環境	家族や周囲でネットに詳しい人はいない。店頭でフィルタリングについて説明を受けたが、「よくわからない」と思いながら導入を決めた。
3	認識と利用目的	ニュースを見てスマートフォンを持たせることに抵抗感や不安、心配があったので、初めてスマートフォンを購入する際に、店頭で勧められるままに導入した。
4	やめた時期	購入後半年
5	やめた理由(管理者：自分および配偶者の視点)	子供にフィルタリングを外すようせがまれたため。フィルタリングを外したくなかったが、子供が不満を言った際には親のスマートフォンを貸すようにしていた。だが、両親で話し合い、親の言うことを聞いていると感じ、良いのではないかと考えた。
6	やめた理由(利用者：子の視点)	宿題の調べ物をするのに、有害ではない物も調べられない、部活の休みの日や休日に使おうとしても時間が足りないなど不便。
7	解除後の管理方法	何かおかしいと思うことがあれば親に言うように伝えた。また、ペアレンタルコントロールを取り入れた。本人の言い分が納得できる理由であれば、対応している。
8	課題とニーズ(管理者：自分および配偶者の視点)	コンテンツの制限の境界がはっきりしていると良い。年齢や学年によってもフィルタリングの強弱があるので、カスタマイズ性があると良い。
9	課題とニーズ(利用者：子の視点)	悪いことではないのにダメと言われることが嫌だと感じていた。悪いものと良いものが分けできていて良い。

10	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	一気にやめるのではなく、徐々にやり取りし、すり合わせをしながら進めた。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は22時まで、場所はリビングで。 当初はLINE禁止、ゲームは1時間と決めた。親が支払っていること、課金の危険性を伝えるようにした。試験前は、調べもの以外はしない。
2	参考情報	ママ友の噂話やニュース。
3	理由・背景	子供が有害なサイトを閲覧することによる、多大な請求や犯罪に巻き込まれるトラブルを心配したため。また、SNSによる対人関係のトラブルに巻き込まれることも心配した。中学生は未熟なので、何らかの対策が必要だと考えた。
4	子育ての指針	父親は失敗しても良いので自分で体験させることを重視するが、母親は心配性の傾向で、未然に失敗を防ぎたいと考える。母親は小さなことでも何でも相談でき、自分の言いたいことが言えるような雰囲気づくりを心掛けてきた。子供の発言には真剣に向き合い、声掛けを行うなど、コミュニケーションは欠かさないよう努めている。
5	プロセス	スマートフォン購入前に両親が相談して、時間の制限、使う場所、LINE禁止などのルールを示し、末子も中学生まではルールに従っていた。高校生になり行動範囲や交友関係が変化したことで部屋に持っていったり、時間制限を守れなくなったりしているが、寝る時にはリビングで充電することは今でも守っている。部活でLINEが必要になり、使うようになっている。
6	管理方法	基本的に本人の自主性に任せ、使い過ぎが気になるときは親が声掛けをする。
7	課題	過去2回（高1の10月、12月）、ゲームのアイテムを購入するために、1万円程度の課金の問題が発生した。両親とも注意し、使った分を親に返すように約束したうえで、自分のお小遣いの範囲内で使うようにと伝えている。 使用時間（ゲームが主）も気になっている。
8	ニーズ	子供が課金をするタイミングで親に通知が来るなど、課金が事前に止められるようなサービスが欲しい。

IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	困ったときに、手軽に分からないことが調べられる、連絡が取りやすいなど、生活になくてはならないものになっている。だが、スマホ決済が簡単になっており課金が簡単にできる、子供が誘惑に負けやすく依存しやすい点を不安に感じている。ニュース、友人からの具体的なスマートフォン、インターネットを介したトラブル事例を知っており、子供が何らかの事件に巻き込まれるかもしれないという不安を感じている。
2	有害情報等への意識	SNS を通じて、知らない人と簡単につながる可能性があること、詐欺メールへの対応など、ニュースや周囲からの話を聞いて不安に感じ、自身の対策や知識が不足していると感じるので、年齢や学年に応じた、親子とも納得できるフィルタリングが欲しいと考えている。
3	エピソード	課金トラブルの件。ニュースで小学生くらいの子供がゲームをしたいがために親の財布からクレジットカードをとって結構な請求がきたケース、いじめを Instagram にあげたケース、写真で瞳に映った景色から場所を割り出したケースを知り、不安を感じている。
4	対策	自分自身、対策が不足していると感じる。本人がわかっていると言っているがわかっていなかったり、周囲に流される危険性もあるのではないかと感じている。どう対応して良いか分からない。
5	ニーズ	年齢、学年に合わせたフィルタリング的なものが欲しい。子供も納得できるフィルタリングが良い。

8. 5. G【男児・フィルタリング導入中・未就学児（共用）】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	4人
1-2	性別・学齢	男・15・中3／男・13・中1／男・10・小4 ／男・6・年長
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	共用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android／au
2-3	利用している主なアプリ	通話／SMS／YouTube
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター (c メールと電話ができるのみの厳しい設定)を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

スマートフォンの機能を主に通話と SMS に絞るため。スマートフォンに頼りすぎないよう、時間、アプリの制限が必要だと考えたため。

②フィルタリングへの不満点

フィルタリングで時間制限をすると、携帯の機能がすべてストップしてしまう点が不満。アプリの制限をしても通話と SMS は可能など、細かく設定ができるよう、もう少し融通が利くと良いと思っている。

③意識の有無・知識の有無に関して

保護者が自ら責任をもって使い方について調べ、危険性を意識して対応しなければならないという立場から、中学生に対しても通話と SMS に限定している。フィルタリングについて細かな知識を持っているわけではないが、厳しめのレベルを設定し、現状のサービス内でできることを子供に許可している。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年3月か4月
2	主な用途	通話、SMS、YouTube。
3	利用量	1日平均10分（外出時のみ）。
4	スマートフォン利用歴	約10か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン、テレビ（Amazon Firestick）、タブレット。 スマートフォン：長男は中2から、次男は中1から利用（共にY!mobileで専用）。
6	共用の形態・時期・きっかけ	10歳の子をメインにキッズスマホになってから共用開始。
7	共用の期間	約10か月。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中（参考：中学生の長子・次男にはLINEのみ許諾し、小学生モードで制限中）
2	知識と環境	ニュースや、自分で調べて知識を得ている。
3	認識と利用目的	詳しいことは分からないが、厳しいフィルタリングが入っている（SNSと通話のみ）。特に買い物防止のため。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	時間管理、有害情報の遮断、買い物防止のため。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	理解はしておらず、このようなものだという認識。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	時間制限をしてしまうと、機能がすべて止まってしまうので、ソフトウェア自体がかゆいところに手が届かないと感じている。例えば、SNSと通話は許可するが、LINEは止めたいなど。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	上の子（2人）は時間延長を希望している。下の子（2人）は特になし。
8	利用の意向	今後も使いたい。大学に入るときには解除はすると思う。
9	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	一番大きいのはコストの問題。通信機能は残し、フィルタリングのソフトウェアが細かくできるようにしてほしい。
10	課題とニーズ（利用者：	上の子（2人）は調べ物をしたいというが、使わないよう

	子の視点)	に言い聞かせている。下の子(2人)は特になし。
11	管理者(親)と利用者(子)のすり合わせ	上の子(2人)には親の考えを伝え、それに納得しなければ持たせないと伝えている。下の子(2人)は特になし。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は22時まで、場所はリビングで。
2	参考情報	自らネットで検索して情報収集したり、通信事業者のサイトを閲覧した。
3	理由・背景	基本的には昔の携帯の機能(通話・メール)で十分だと思っており、機能を最小限に制限して、連絡用に持たせることにしている。中学生の長男・次男にはGoogleを入れているが、スマートフォンに頼らず、自分で調べるといった経験をさせることが教育の面でも必要だと考えている。また、パソコンの履歴を確認する、子供が利用しているときに声掛けをするなど「親が見ている」という姿勢を常に見せるように心掛けている。
4	子育ての指針	実体験を踏まえ、自分で調べると記憶の定着が良いと感じている。「なるべく手を使って大変な思いをさせる」ことを重視し、スマートフォンに頼りすぎず自分で考えて調べるよう、子供に促している。子育ての指針は両親で相談し、決めている。 生活のリズムが変化して、どうしても変えざるを得ないときには考慮するが、基本的に現在の設定の変更は考えていない。
5	プロセス	約3年前に長男にスマートフォンを購入したときに、フィルタリングについて調べ、方針を決めて制限を掛けた。以来、子供が調べ物をしたい、あるいは時間を長くしてほしいと言うこともあるが、基本方針はまったく変えていない。子供もルールを守っている。
6	管理方法	あまり管理はしていない(声をかけてはいない)。部屋に持っていくのを見掛けたら声をかける。
7	課題	LINEの中でどういう会話をしているかは見られず、心配な部分もあるが、プライバシーなので関与しないようにしている。
8	ニーズ	値段が変わらず、通話機能ができるのがあれば乗り換える可能性がある。ソフトウェアで細かく管理してほしい。

IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	教育面で、プログラミング教育への期待、英語や教育アプリなどのコンテンツが比較的簡単に利用できることを評価している。しかし、親が見せたくないと思うものが見えている可能性があり、できるだけ避けたい。
2	有害情報等への意識	一般的に有害とみなされる情報への接触は避けたいと考えている。過去の神戸の少年殺人事件から、有害な情報が犯罪の入り口になり得る可能性を危惧している。
3	エピソード	誘導メールは自分にも来るが、特に危険なエピソードはない。過去にあった事件など（マスメディア、新聞、ニュース）や神戸の事件（ネットが入り口になっているため）が気になっている。
4	対策	利用について締め付けたいが、プライバシーとのバランスが難しいと感じている。パソコンの履歴をみて口頭で指摘するようにしている。また、常に親の目があるということを意識させるように心掛けている。
5	ニーズ	ある程度、危ない検索やワードでアラートが出てほしい。利用のログがわかると安心はできるかもしれない。

8. 5. H【男児・フィルタリング導入中・小学校高学年】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	3人
1-2	性別・学齢	女・15・中3／男・11・小5（双子）
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android／楽天モバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE／ゲーム／写真／検索（Google）／YouTube（制限あり）
3	フィルタリング利用状況（末子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	②親子アカウント設定
3-3	フィルタリングの具体	ファミリーリンク（Android OS）設定（時間制限、コンテンツ制限、アプリ DL 許可制）を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

姉の中学でLINEの使い方のトラブルや、姉の携帯に怪しいショートメールが来るという経験から、LINEの内容や検索する情報の管理などが必要だと考えたため。さらに、子供自身が危険性を認識していないという不安もあった。

②フィルタリングへの不満点

LINEで危険なワードを感知したら親に通知が来るようにしてほしい、アプリ管理をもっと厳しくしてほしいと思うが、現状の機能で満足している。

③意識の有無・知識の有無に関して

過去の家族の実体験や長子のLINEにまつわるトラブル、周囲からの情報を聞き、ネットトラブルへの意識は高い。情報が追いつかない、さらに、子供に危機意識がない状態でどんどん情報が入るのが怖いと感じており、自分が全ての知識、情報を網羅しているわけではないことを不安に感じている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年9月・携帯電話販売会社のHP
2	主な用途	LINE（家族の連絡）、ゲーム、音楽、検索。
3	利用量	不明だが母親は、わずかであるという感覚。習い事が無い日は触っているが Nintendo Switch などのゲームが優先。
4	スマートフォン利用歴	約4-5か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：PSP（プレイステーション・ポータブル）、Nintendo Switch、テレビ（Amazon Firestick）、iPad。 スマートフォン：長女は中学入学時から。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	姉の中学で LINE の使い方のトラブル（昼夜構わず連絡がある、内容が適切ではない）があった。また姉の携帯に怪しいショートメールが来ることもあったことから、LINE の内容や検索する情報の管理などが必要だと考えた。子供自身が危険性を認識していないという不安もある。母親が双子に買い与えた際に SIM を入れて自ら設定する知識を持った。
3	認識と利用目的	時間制限、寝る時間の管理、アプリの承認を行いたいと考えたため。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	時間管理と位置情報の管理が主。子供の利用状況が自分のスマホから見られるので安心。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	アプリが承認制でも違和感なく使っている。思いのほか執着していないので、管理が楽である。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	不満は特にない。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	共用の意識があるので、そこまで考えていない。
8	利用の意向	子供達が執着していないので、現状の使い方であればこのまま使い続けたい。
9	課題とニーズ（管理者：	アダルトサイトは仕方がないと思っているが、事件性、

	自分および配偶者の視点)	「死」に直面するようなことがあれば、有料であっても導入する。
10	課題とニーズ (利用者：子の視点)	特にない。
11	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	特にない。現在のところ、母親の言うことが絶対的。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	リビングで使う。
2	参考情報	ニュースやママ友の情報。身近でネットに関するトラブルがあったことを聞き、危機意識が強くなっている。
3	理由・背景	長子は中学で電車通学になったため、双子に対してはコロナ禍で休校になり連絡手段が欲しかったことからスマートフォンを購入せざるを得なかった。子供は現状、スマートフォンに執着している状態ではない。だが、深夜まで使う、あるいは使い過ぎは身体に良くないと考え、使い過ぎには注意したいと考えている。時間ルールではなく、寝る前にリビングに置いておくという「場所ルール」にした。子供がルールを守りやすくなり、長子だけでなく、双子もそれに従うことを当たり前と考えられるようになってきている。また、母親は部活では暗黙のルールとして LINE やスマートフォン利用が当たり前になっている現状を納得し難く感じている。
4	子育ての指針	スマートフォンのルールは家族で話し合っ決めて決めている。親が子供の LINE の内容を見ないというルールも決めた。長女にはスクリーンタイムを導入しているが、介入のバランスの難しさ、自立してほしいという思いから、フィルタリングや監視の辞め時のアドバイスが欲しいとも感じている。
5	プロセス	長女のスマートフォン購入後にフィルタリングを導入した経緯から双子の子供にも導入した。子供達はスマートフォンをチェックされる、入れたいアプリがあれば両親に申告するといったことは当然だと考えており、子供達がフィルタリングに対して不便さや異議を訴えることはない。母親は現在のような「家の電話」のような使い方であれば、子供達は当分の間、フィルタリングを受け入れて使うのではないかと捉えている。

6	管理方法	リビングで使うよう伝え、現在のところ、それを守っている。
7	課題	ゲーム、テレビ (YouTube)、スマートフォン、iPad と機器をかえて使い過ぎていること。
8	ニーズ	ワードで検索できて親に連絡する機能が欲しい。また、男女で困り事や対応の仕方が異なるので、男女別のお母さんの対応事例があると助かる。困ったときの対応が手さぐりになっているため、事例が欲しい。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	休校中も友達と会える、離れた祖父母と会えるといったコミュニケーションの面での便利さを最近痛感している。塾の授業もスマートフォンで受けている。興味のあることをすぐに調べられる利便性も評価している。だが、子供がネットの怖さを十分認識しておらず、無知で何でも吸収できる状態なので、大人が適宜、良い悪いの判断を教えていかなければならないと考えている。
2	有害情報等への意識	身近な親から、子供が出会い系サイトから連絡を取っている、彼氏との写真を Instagram に投稿しているといった話や、実際にトラブルに遭った話を聞いている。そのため、子供を同じようなトラブルに遭わせたくない、トラブルを想定して使わせないといけないという危機意識を持つようになってきている。情報過多のジレンマはあるが、トラブルへの対処方法、トラブルのリアルタイム情報を知らせてほしいと考えている。
3	エピソード	母親の弟の体験 (突然、ベネズエラから高額請求が来た)、LINE 事件 (昼夜問わず LINE が来る、友人の噂話など内容が良くない)、ショートメールの出来事 (ファストフード店のクーポンが当たり、個人情報を送っても良いか子供に尋ねられた)、ママ友からの身近な SNS トラブルの情報 (出会い系で連絡を取っている) など。
4	対策	子供は何が危険かをまだ分かっておらず、無知な状態で何でも吸収してしまっていることが怖いと感じるため、大人が積極的に駄目なことを教えたいと考えている。常にアンテナを張って、情報を収集するよう心掛けている。また、親が絶対的に子供を信じて守るという姿勢、意思を意識して話し、子供達に見せるようにし、子供にもい

		ろいろと情報を伝え、相談してほしいと思っている。
5	ニーズ	<p>できるだけ子供が危険な目に遭わないようなフィルタリングが欲しい。</p> <p>学校で子供達に対し、具体的に良い悪いの判断ができるように教えてほしい。親向けに学校からリアルタイムにタイムリーに気を付けたほうが良い情報を教えてほしい。</p> <p>事例集が欲しい。何か困ったときにワードをいれて調べられる、子供や自分に悩んだときに「対処策」「学齢」で調べられるなど。</p>

8. 5. I 【男児・フィルタリング導入中・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	3人
1-2	性別・学齢	男・16・高1／男・13・中1／男・10・小4 (対象者は中1男子)
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android／SoftBank
2-3	利用している主なアプリ	LINE／YouTube／ゲームアプリ (デュエルマスター)
3	フィルタリング利用状況 (中間子)	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類 (本編図表 8.7 参照)	③キャリアによるサービス
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター (中学生モード) →③あんしんフィルター (高校生+モード) を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性・女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

有害サイトを閲覧することを避けたいと考えたため。

②フィルタリングへの不満点

フィルタリングで Google が使えないことが不便。さらに、フィルタリングの機能では、本来 Google は使えないはずだが、Yahoo!アプリ経由だと使えるため、対策に穴があるという不信感を持っている。現状とフィルタリングの制限レベルが合っていない。

③意識の有無・知識の有無に関して

子供に使い方を注意したことはない。親自身もスマートフォンを好きに使っているため、子供に使い方を強要することはできないと考えている。フィルタリングやネットの危険性等について、ニュースや知人友人、ネット情報から知識を得た経験がなく、知識を入手することに興味はない。現在加入しているプランやその詳細についても把握していない。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年12月
2	主な用途	YouTubeが主。その合間でLINE、ゲームアプリをよく使っている
3	利用量	1日約3時間。
4	スマートフォン利用歴	約2か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：タブレット、Nintendo Switch。 スマートフォン：長男は高1になって専有。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	特に知識を得ようと考えていない。
3	認識と利用目的	有害サイトへのアクセスをできないようにしたいと考えたため。有害サイトがどういったものか特定できていないうえに、関心は持っていないが、中学生程度であればフィルタリングはあるのではないかと考えた。
4	利用の理由(管理者：自分および配偶者の視点)	そういうものだと考えたため。
5	利用の理由(利用者：子の視点)	認識していた。友達で導入している人が多い。「入れるのが当たり前」と思い、抵抗がなく導入した。
6	不満・不足(管理者：自分および配偶者の視点)	Googleが使えないことに驚いた。「有害サイト」はどのような基準のアルゴリズムなのか、また、通常普及しているものが使えず、かえって裏ルートを探ることで逆に怪しくなるのではないかと感じた。サイトの分だけ「穴」があるのだったらいい。無意味ではないが完璧ではない。
7	不満・不足(利用者：子の視点)	Googleが使えないことで自ら探し、Yahoo!アプリ経由で使えること(抜け穴)を見つけた。目的がLINEなので、特に不満はない。
8	利用の意向	しばらくは続ける。
9	課題とニーズ(管理者：自分および配偶者の視点)	何にフィルタリングを掛けているかを知りたい。一括して使えなくなる仕様に「意味が分からない」と感じる。公式サイトではないもの、詐欺につながるものは事前に繋がらないようにしてほしい。子供の年齢によるが、きめ細かな設定だったら有料でも続けるだろう。有料で今の

		状態であればやめると思う。
10	課題とニーズ（利用者：子の視点）	できないものは現状のままで良い。
11	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特にない。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	時間は21時まで。兄弟でやるべきことをしてから触ることは許可している。
2	参考情報	特にない。
3	理由・背景	22時就寝なので1時間前にはやめさせたいと考え、21時までと決めた。以前からゲームの利用も21時までとしていた。
4	子育ての指針	スマートフォンに限らず、兄弟で話し合ってお風呂洗いや炊飯の準備などの家事の手伝いを分担し、「やることをやってから遊ぶ」というルールを決めている。兄弟3人でチェックイン、管理、報告するという流れをスマートフォンだけでなく、生活全体で、家の仕事を含めて、習慣化できるようにしている。自己管理ができる子を育てたい。
5	プロセス	長男のスマートフォンを購入するときに、店頭で導入を勧められた。説明を受けて、導入したほうが良いと考え、契約した。Googleが使えない設定だったが、子供が抜け道を発見し、Yahoo!アプリ経由で現在、使っている。両親はそのことに対し、そういうものだ（仕方ない）と思い、フィルタリングの機能は完璧ではないと感じている。
6	管理方法	「恐怖政治」で親が子供達に問いかけ続けるように管理している。21時までの約束は守っているが、まず「やることをやる」ということができていない。
7	課題	特にないが、スマートフォンをいじりながらゲームをやるのは集中力の観点からどうなのか疑問を感じる。
8	ニーズ	特にないが、理想としては、自己管理でき、サービスをつかわずに自立してほしい。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	インターネットは「空気」のようなもので、電気、水、通信、ガスと同じようなライフラインの感覚がある。災害などでスマートフォンが使えないと不安になる。

2	有害情報等への意識	父親は、「安心」と「安全」はそもそも違うもので、フィルタリングに「安全」は求めるが、通信会社がコストを負担し、顧客満足度を上げつつ、「安全」なフィルタリングを行うことは現状では難しいと感じている。現状では、使い手側（特に母親）が求めるような「安全」と「安心」を両立させることは難しい。
3	エピソード	Nintendo Switch での体験。不本意に既に持っているダウンロード版をダウンロードさせられたが、サポートセンターに問い合わせるも、オンライン契約の場合返金ができないと言われた。UI がわかりにくく不親切だと感じた。説明には日本語と英語があり、大人でも読むのに難解で、子供では絶対に分からないと思う。E コマースはサードパーティーの品質がコントロールできていないことが難点だと思う。
4	対策	常日頃、自分に対してチェックする、お互いチェックすることによって腹落ちさせることも大事なかもしれない。何があってもそれでいいのだ、自分のことだからしくじろうが詐欺に遭おうが課金しようが、納得いくようなことをしなければならない。高いリテラシーも求められると思う。
5	ニーズ	サービスを提供する企業がわかりやすい UI で示すこと。以前、母親が証券会社に勤めていたが、投資信託の約款の字が小さく、金融庁から文字を大きくするように指示されたことがある。紙では対応できるが、ネットでは難しい。そうした対応や説明がまだ難しいなというか、追いついてないなと思う。

8. 5. J 【男児・フィルタリング導入中・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・18・大1 / 男・15・高1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone / LINE モバイル
2-3	利用している主なアプリ	ゲーム / LINE / YouTube / Twitter / Instagram
3	フィルタリング利用状況（中間子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	親子アカウント設定
3-3	フィルタリングの具体	ファミリー共有（iOS）設定（アプリ DL 許可制、課金許可制）を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

課金防止と保護者による利用アプリの把握のため。

②フィルタリングへの不満点

特にない。

③意識の有無・知識の有無に関して

父親が IT 企業勤務で、技術的にも、また SNS トラブルの事例にも詳しい。フィルタリングについては物理的、通信的な制限よりも、教育の観点で行うことが重要と考えている。スマートフォンが悪いわけではなくフィルタリングをしても防げない、悪い人がいるということ認識することが大事である。また、子供は親の背中を見て育つので、親自身が正しく使い、子供と一緒に使い方を学んでいくことも必要だと考えている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年8月・携帯電話販売会社のHP
2	主な用途	LINE でグループトークをしながらゲーム。Twitter、Instagram、YouTube を見ることも。 学校のラーニングマネジメントシステムで iPhone または iPad で課題の提出、学校で歌を歌えないので課題曲を歌い、動画をアップロードする。
3	利用量	平日：6時間 休日：10時間 学校にも持って行っている。
4	スマートフォン利用歴	4年間
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン、iPad、MacBook、テレビ（Amazon firestick）。 スマートフォン：家族全員所有。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	父親が職業柄、技術的にも SNS 等のトラブル事例にも詳しい。
3	認識と利用目的	アプリのダウンロードや登録、課金は親の許可がないとできないようにしている。一番の目的は課金防止で、アプリの利用状況も把握するため。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	物理的、通信的なフィルタリングよりも、教育のほうが大事だと考え、教育観点で対処することを決めた。フィルタリングについてはその目的と機能は理解している。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	理解しており、特に反対はない。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	特にはない。今の子供たちは、ほとんどウェブを使わずにアプリを使う。アプリがコントロールできていれば大丈夫で、危険性は感じない。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	特にない。
8	利用の意向	高校生いっぱい続ける。
9	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	基本的にスマートフォンが悪いわけではない。スマートフォンを制約しても意味がなく、こうした便利なものを利用して悪いことをしようとする人がいるということ

		教えることの方が大事。
10	課題とニーズ (利用者：子の視点)	ゲームについては公式アプリ販売サイトで配られているものは安全と考えている。SNS のアカウントは自らの意思でクローズドにしている (友人がそういう考え方であることも影響している)。投稿もしている様子。
11	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	特にない。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	中学時は、学校の準備の観点から朝は利用しない (現在はなし)。 現在は、夜のスマートフォン利用を制限するより、寝る時間を決めている。寝るときは寝る部屋には持ち込ませず、リビングで充電する。
2	参考情報	特にない。
3	理由・背景	父親が IT 企業に勤めていることや、男の子でパソコンも使っており、IT リテラシーも高かった。将来そういう仕事に就くのだろうという考えもあり、何らかの武器も持っていてほしいと考え、使わせる時期は早かったと思う。
4	子育ての指針	最終的に「食っていく力を身に着ける」ことをしていきたい。志望校や部活などの意思決定は自分で決めるようにさせている。現在は、インプットが大事な時代 (世界がどうなっているか、など) だと感じており、その一環で旅行にかかる費用が高い。
5	プロセス	機器に使われるな、という意識がある。子供が要望を言うてくることはあるが、それが長い目で得なのか損なのかなどを考える必要性を合わせて教えている。消費者としてではなく提供者になる視点で、仕組みを伝えて学ばせるようにしている。
6	管理方法	時々、注意する。
7	課題	特にない。
8	ニーズ	親が正しく使うことが大事。親がスマートフォンにはまっているのに子供に注意することは無理。子供は親の背中をみて育つので、親が正しいゲートになる必要がある。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	良い面、悪い面を特に意識していない。オンライン、オフラインの区別もあまり感じない。意識的にはずっとコネ

		クテッドしている世界に生きていると思う。両方をせず面として分けても意味がないのではないと感じる。
2	有害情報等への意識	本人がメールアドレスを持っているので怪しいメールや詐欺のようなメールが来るかもしれないことは伝えている。
3	エピソード	特にない。
4	対策	親として子供の様子を観察する。
5	ニーズ	親にとっての一番学びが大きいと思う。子供と一緒に学んでいくということを習慣化する。

8. 5. a 【女兒・フィルタリング未導入・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	5人
1-2	性別・学齢	男・22／男・21／女・18／男・15／女・13
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android／y!mobile
2-3	利用している主なアプリ	LINE／TikTok／Twitter／ゲーム（ウイニングイレブン）／YouTube／スタディサプリア
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	未導入
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入しなかったか

環境面で、以前から自宅のインターネット環境は充実しており、特別な対策が必要だと考えてはいなかったため。また、フィルタリングにより、子供のスマホの使い勝手が悪くなるだろうと判断したため。教育の観点で、インターネットの使い方を子供が自ら判断していくことが必要だと考えたため。

②意識の有無・知識の有無に関して

父親がIT企業に勤務していることから、インターネットの功罪については詳しい。母親も上の兄弟姉妹を育ててきた経験やニュースなどから知識を持っている。両親がもともとインターネットの使い方に慣れ親しんでいたため、子供がネットの使い方を自ら覚えることが大事だと考えている。どちらかといえば、使い方よりも健康や睡眠時間の確保を重視している。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年7月・ネット契約
2	主な用途	主にサッカーのクラブチームの連絡用としてLINE、TikTok、Twitter、ゲーム、YouTubeなど娯楽としての利用。
3	利用量	1日約3時間。
4	スマートフォン利用歴	約半年

5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン、タブレット、ゲーム（すべて共用）。 スマートフォン：上3人は高校生から、下2人は中学生から（同じタイミングで購入）、iPhone2名、Android3名。 両親はAndroid。
II フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ		
1	利用状況	未導入
2	知識と環境	フィルタリングはすべての子供で導入したことがなく、詳しい知識は持っていない。だが、以前からインターネットが利用できる環境であったこと、父親が詳しいことから、スマートフォンだから特別に対応するということは考えていなかった。
3	認識	ネットは有害なこともあれば、必要な内容も多いと考えている。それらを見ない、触れないことも大事ではあるが、子供自身がそれらに触れない、あるいは、自ら判断する力をつけることが大事だと考え、フィルタリングは契約しなかった。
4	未導入の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	インターネットの世界は有害なものあれば、必要なこともあるので、子供達自身が判断できるようになったらいいかなと考えたため。
5	未導入の理由（利用者：子の視点）	おそらくわかっていない。
6	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	特にないが、以前からインターネット環境がある環境で育ってきたので、子供は慣れていて大丈夫だろうという気持ちと、急にフィルタリングを掛けられると子供が困ることが出てくるかもしれないと考えた。
7	課題とニーズ（利用者：子の視点）	フィルタリングへの意識は持っていない。
8	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	ニーズの違いはない。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は22時まで。
2	参考情報	インターネットで収集した情報。独自に睡眠時間や健康を考えて時間を考えた。
3	理由・背景	健康や睡眠時間を考慮し、この時間になったら寝てほしいという思いから時間を決めている。

4	子育ての指針	すべてを厳しくしたくない、かといってすべて厳しくしても子供が良い方向に育つとは限らないと考え、ある程度子供の意見も尊重しつつ、なるべく相談しながら決めるように心掛けている。スマートフォン購入に際して両親で話し合い、学校の勉強も怠らず約束を守って使うように本人に伝えている。
5	プロセス	スマートフォンを購入するときに両親で話し合い、また、本人の健康も考えて利用時間のルールを決めた。
6	管理方法	約束の22時を過ぎそうであれば、両親が声掛けをしてやめるように促している。
7	課題	使い過ぎだと感じる。上の子は課金をしているので、親が払っており、やめてほしいと思っている。アルバイトをしていたら、子供のお小遣いから徴収したい。
8	ニーズ	料金の上限を決めたい。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	場所も時間も関係なく、簡単に誰でもボタン一つで情報を調べられるという利便性を評価している。その情報の確からしさを見極められることが、個々人の課題だと考えている。
2	有害情報等への意識	なりすまし、どのような人か分からないなどの可能性があるため、誰とでも繋がることのできるゆえの怖さを持っている。有害情報への接触や詐欺などの危険性についても、自分で判断し、危険を回避できるようになってほしいと考えている。現在まで、家族がそれらの危険に遭ったことはない。
3	エピソード	見ず知らずの人から急にメールが来た経験がある程度。ニュースを見てSNSで自宅を特定されることは怖いと感じている。
4	対策	ゲームでも特定の人とやり取りするときに個人情報のやりとりになっていくのを注意する。また、何か気が付いたことがあれば、母親が声をかけるようにしている。
5	ニーズ	あまり身近な人に相談できない内容もあると思うので、子育ての一環として相談できる場があれば良い。

8. 5. b 【女兒・フィルタリング未導入・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・19歳・大学生／女・16・高1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／ニフモ
2-3	利用している主なアプリ	Instagram / LINE / YouTube / TikTok / Apple ミュージック／ゼンリ／ゲーム
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	未導入
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入しなかったか

IT系企業勤務で、ITやインターネットに関して詳しい父親が、iPhoneではウイルスバスターでフィルタリングができなかったこと、小学生ではないのでわざわざ契約してやる必要はないと考えた等の理由から、フィルタリングの必要性を強く意識していない。

②意識の有無・知識の有無に関して

父親はインターネットに関する知識、機器の設定等の知識を持つが、有害情報等の実態についてはニュースで見聞きする程度。母親は基本的に知らないという立場。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2019年7月・ネット通販
2	主な用途	Instagram や TikTok は公開アカウントを持ち、SNS 投稿をしている。
3	利用量	家にいるときはほとんど。娯楽だけであれば2時間程度。
4	スマートフォン利用歴	1年半
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン（1人1台）、タブレット（スマートフォン購入前によく利用）、ゲーム（ニンテンドーDS）。 スマートフォン：両親、子供共に2019年7月からスマー

		トフォン契約。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	未導入
2	知識と環境	フィルタリングについてはニンテンドーDS をネット接続するときに使っていたので、以前からその存在は知っていた。設定やネットの関係について父親が詳しい。
3	認識	スマートフォン購入が遅かったので、必要ないと考えた。自分の子供だけしっかり管理しても、周囲がしていなければ簡単に閲覧できてしまうことでフィルタリングは無意味だと感じている。また、普段から子供と危機意識や善悪の区別などの価値観などの共通認識ができていたことなどから、フィルタリングをしなくても大丈夫だという安心感もあった。
4	未導入の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	父親が iPhone ではウイルスバスターでフィルタリングができず、それ以上、わざわざやろうとしなかったこと、小学生ではないので敢えて契約してやる必要はないと判断したことから。
5	未導入の理由（利用者：子の視点）	あまり分かっていない。
6	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	自分のスマートフォンだけ対策をしても、周りの子がブロックしていなかったら見られるので意味がない。また、普段からコミュニケーションしており、親子で共通の認識ができていたので大丈夫だろうと考えた。
7	課題とニーズ（利用者：子の視点）	特にない。
8	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特にない。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	特に決めていない。
2	参考情報	特にない。
3	理由・背景	周囲で実際にあったスマートフォンを使ったトラブル（高額請求や Twitter のアカウント乗っ取りなど）があり、これらについて家族で話し合いを行い、危機意識を共有している。利用時間については、子供が Instagram への投稿などを積極的に行っており、親の忠告を受け入れるとは思えないことから、母親は本人の使い方、考え方に任

		せざるを得ないと考えている。
4	子育ての指針	管理しているように見えて、自由にさせていると感じている。本当は子供の生活等への心配があり、帰宅時間を確認するなどの管理をしたいと考えているが、できていない。家庭内のコミュニケーションはできている。
5	プロセス	スマートフォンは小学生のときから欲しいと言われていたが、両親もスマートフォンを買わず、買わなくてもパソコンで用が足りるという姿を見せることで、我慢させてきた。中3になり、毎日のように欲しいと言われ、我慢の限界に達したと感じ、購入に踏み切った。使い方のコントロールができないことは親としては気掛かりであるが、本人の自由に使わせているのが現状である。
6	管理方法	子供の自主性に任せている。
7	課題	インスタも公開アカウントにしているため、知らない人から悪意を持った接触や、犯罪に巻き込まれることを心配している。現状では、会話で対応するだけで対応はできていない。
8	ニーズ	親の話聞いてくれないので、学校などで情報の授業で危険性を伝えてもらえたら良い。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	欲しい情報がすぐ入手できる利便性があると思うが、グロテスクな情報等、知らなくても良い情報まで入ってしまう危険性も心配している。
2	有害情報等への意識	Instagram を公開しているため、知らない人から悪意を持った接触があるのではないかと、また、犯罪に巻き込まれる危険性もあるのではないかと不安を持っている。身近で高額請求やツイッター乗っ取りの事例を聞いており、危機感を覚えている。ニュースで小学生から出会い系、SNS でのわいせつ被害、監禁、誘拐などについて聞くので、怖いと感じている。
3	エピソード	長男の知人など身近で母親のクレジットカードを使い、100万円の課金があったケースや、ツイッターのアカウントを乗っ取ったケースを聞いたことがある。ニュースで小学生くらいから出会い系、SNS でのわいせつ被害、監禁、誘拐などはよく聞くので怖いと感じている。
4	対策	制約はできないので、こういうことは危険だという会話

		で対応し、親子で共通認識を持つようにしている。
5	ニーズ	学校での教育が欲しい。情報としては十分あるが、親として実行できていないだけだと感じている。

8. 5. c 【女兒・フィルタリング解除・未就学児（共用）】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	女・小1／女・5・年中
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	共用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android/docomo
2-3	利用している主なアプリ	YouTube／ツムツム／LINE／写真
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター →YouTube 上での年齢設定および⑥スマホのロックを <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

店頭で説明を受けて、未子がスマートフォンに興味を持ち始めていたこともあり、興味本位で導入を決めたが、教養のため子供が使うたびにパスワード入力が必要なことや現状の使い方では不要だと考えたため。いつも見ているサイトは決まっている、使うときに子供に説明すればいいと思ったことから1か月足らずで解約した。

②フィルタリングへの不満点

共用で母親の携帯であったこと、大人モード／子供モードと分けるときにパスワード入力が必要で面倒だと感じた（子供が使うときに「パスワードを入れて」と頼まれる）。指紋認証ができる、遠隔で操作できるなどの機能があり、利便性が高ければ使いやすく、継続利用しやすかったとも考えている。

③意識の有無・知識の有無に関して

有害情報のブロック、年齢制限、アプリ制限などができるという知識を持つ。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2018年8月・家電量販店
2	主な用途	母親が家事をしている間にダウンロードされた動画を見る、ゲームをする、出掛けたときに電車のなかやレストランなどで使う、祖父母にLINEスタンプを送るなど。
3	利用量	平日：30分ほか、出掛けた時（1時間以内）。
4	スマートフォン利用歴	2年5か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：iPad、テレビ（Amazon Firestick）。 スマートフォン：両親（2016年3月から）・長子（2020年4月から）。
6	共用の形態・時期・きっかけ	スマートフォンを購入する頃、末子が写真を見よう見真似で撮ったり、外出した時にゲームをしたりして、興味を持っていたので。
7	共用の期間	2年半
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解約
2	知識と環境	有害情報のブロックや時間制限、年齢制限ができるという知識は持っている。
3	認識と利用目的	1台目のときは検討しなかったが、2台目を買うとき、末子が使うことを考え、店頭で説明を受けて興味本位で導入を決めた。
4	やめた時期	購入後1か月弱。
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	共用のため、大人モードと子供モードに分けてパスワード管理していたが、末子が使おうとするたびにパスワード入力を依頼することが面倒だと感じたため。使うアプリやゲームは決まっていたので管理の必要がないと考えたため。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	フィルタリングが掛かっていることは分かっていない。パスワード入力を求められると今までと違う違和感を覚え、嫌な様子だった。
7	解除後の管理方法	スマートフォンのロックをしており、母親の許可がなければ使えない。アプリ側にもパスワードを入れている。何か分からないことがあれば、押す前に親に聞くように伝えている。

8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	大人モードと子供モードがスマートフォン立ち上げ時に指紋認証などで自動的に区別できると良い。有料であればやっていない。
9	課題とニーズ（利用者：子の視点）	パスワードを求められるのは、そういうものだとして受け入れて使っている。
10	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	特にないが、違和感なくやめることができた。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	YouTubeは20時まで（テレビも同様）。テレビ（Firestickを入れたネット接続状態）で、パスワード入力を必須にしている。
2	参考情報	特にない。
3	理由・背景	年齢に適した睡眠時間や、寝る前に画面を見ないほうが良いという情報を得て、就寝時間を確保するため。
4	子育ての指針	片付けができて、人の気持ちはちゃんと伝わる子になってほしい。自分がされて嫌なことは相手にはしないよう、常に注意するようにしている。親が怖いという意識を持たせるように意識しており、スマートフォンに関しては、親がダメだと言ったことは守るよう伝えている。現在まで子供が約束を守っていると認識している。
5	プロセス	（長子専用のスマートフォン購入に際し）父親は早いのではないかと懸念したが、行動範囲が広がることや習い事にいくことから必要だと考えた。21時半就寝を目指して、夜にネット機器等をだらだら使わないよう気を付けている。
6	管理方法	現在のところ、子供が親のいる空間で目の届く場所で使っている。
7	課題	親が止めないと何時間でも視聴しているため、就寝時間に向けて暖房など、少しずつ部屋の電源を切ることなどの行動を見せて、自分で切るよう促している。「しまじろう」の動画のように、視聴したら15分ほど休むなど視聴時間を管理したい。
8	ニーズ	時間を区切れ、休憩が入る機能、設定や検索、コンテンツなどすべてをキッズモードで管理できる機能、子供のスマートフォン利用を遠隔で管理できる機能。

IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	情報を得て周囲の話題にも追いつけることの便利さ、楽しさがある。自粛期間中、体を使う遊びだけでは満足できないので、ネットがあって助かった。ただ、子供が内容を理解せずに視聴できてしまうこと、言葉遣い、時間制限などをすることが難しいと感じる。
2	有害情報等への意識	年齢が上がったときに、誰とでも繋がる可能性があることが心配。
3	エピソード	近隣で、ツイッターで繋がった人による小学生の連れ去り案件があり、SNS の利用の怖さを感じている。無料広告の写真や内容、汚い言葉をどう防ぐかが問題だと考えている。
4	対策	また、対策はできていない。広告が出てきたら、都度、気を紛らせるようにしている。
5	ニーズ	アプリで細かすぎる設定は困るので、簡潔で分かりやすい設定ができると良い。基本的に無料のものが良いが、良いものであれば有料でもいい。

8. 5. d 【女兒・フィルタリング解除・小学校高学年】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	女・中2/女・小5
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	Android/Y!mobile
2-3	利用している主なアプリ	YouTube/TikTok/LINE
3	フィルタリング利用状況（末子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス→②親子アカウント設定
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター →ファミリーリンク（Android OS）設定（履歴確認・DL 確認等）を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

小学生レベルのフィルタリングが厳しく、快適に使えないと感じた。さらに、いちいち承認しなければならないことが手間だと感じた。さらに、利用承認などのメールに対して、いちいち承認しなければならないことが手間だと感じた。

②フィルタリングへの不満点

ユーザーのことを分かっていない。フィルタリングは使えないと思ったため。細かく設定することができれば、親子とも納得してフィルタリングを取り入れることができたのではないかと考えている。

③意識の有無・知識の有無に関して

自分の経験も含めて、情報がとられてしまうリスクは認識している。自身が ID・パスワード漏洩による被害に遭ったこともあり、課金への危機意識は高い。自身の経験がリスク認識に影響を与えている傾向も。子供だけでなく、大人（自分）も含めてスマートフォンに依存しがちな使い方を見直す必要があると感じている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年10月・ショッピングモール
2	主な用途	ゲームが多い。YouTube、TikTokの視聴など娯楽が主。
3	利用量	1-2時間。
4	スマートフォン利用歴	約3か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：Nintendo Switch。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解約
2	知識と環境	長子がスマートフォンを持った時に知った。同僚との話で話題に出たが、未然に危険性を防ぐという認識を持っていた。
3	認識と利用目的	小学生のため親が説明しても理解できないと思い、事前に危険性等を防ぐために導入を決めた。課金防止が主な目的。自分で設定する面倒があり、店頭で設定してもらった。
4	やめた時期	購入後1週間以内
5	やめた理由(管理者：自分および配偶者の視点)	小学生レベルのフィルタリングが厳しく、快適に使えないと感じた。さらに、いちいち承認しなければならないことが手間だと感じた。理念は分かるが、ユーザーのことがわかっていないと感じた。
6	やめた理由(利用者：子の視点)	フィルタリングが掛かっていることは認識していない様子。使えないことは分かっていたが、それにより守られているとは認識していなかった。
7	解除後の管理方法	Googleアカウントを通じた捜査履歴の管理
8	課題とニーズ(管理者：自分および配偶者の視点)	オーディオのイコライザーのように細かく設定できるようなものがあれば、最初に初期設定を話したうえで、保護者・子供共に納得のいく使い方ができていたと思う。
9	課題とニーズ(利用者：子の視点)	おそらくフィルタリングは受け付けない。スマートフォンは「電話」ではなく「携帯ゲーム機に通信機能がついている機器」と理解している。
10	管理者(親)と利用者(子)のすり合わせ	保護者の方が実際に使って「ダメだ」と感じた。
III	ペアレンタルコントロール状況	

1	設定状況	課金禁止、外への持ち出し禁止（紛失防止）。
2	参考情報	母親のママ友の情報。
3	理由・背景	睡眠時間の確保など、生活のリズムをスマートフォンによって乱されないようにしたい。ませた子ではないので、親が驚くような使い方はしないだろうという判断から。
4	子育ての指針	スマートフォンや通塾など、子供のニーズを主に母親と子供が話し合いを行い、最後に父親の承認を得るパターンが多い。父親もその決定に異議がなく、ほとんどその決定を承認している。
5	プロセス	長子に先にスマートフォンを購入しており、購入当初は「ご褒美」のような位置づけで、利用時間も決めていた。しかし、親も日常的にスマートフォンを使い、周囲でも使っていたので、ご褒美の感覚が薄れ、約束もなし崩しになっていった。末子に急に強く言うわけにもいかないため、特にルールは定めていない。
6	管理方法	スマートフォンをいじることが普通になっているので、そんなに口出しをしていない。親がスマートフォンとどう向き合っているかも大きいと思う。
7	課題	現代人がスマートフォン依存症になっており、子供だけでなく自分も含めてスマートフォンとの関係性を再構築する必要があると感じている。自分でも使い過ぎで嫌になることがあり、時間を減らしたいと思うほどだが、子供には言えない。
8	ニーズ	特に改善を求めているわけではないが、家でも外でも誰もがいつでもスマートフォンを触っている現状は異常だと感じている。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	子供には子供のコミュニティがあり、スマートフォンが役に立っていると感じる。しかし、2時間、3時間と使っても記憶に残らないし、自分に何も残らないように感じることで、インターネットの利便性を享受できていないと自覚している。
2	有害情報等への意識	スマートフォンにより、アクセスが簡単になり、様々な情報に触れるハードルが下がっている。危険な情報や大人が嫌うような情報に触れている可能性はあると思うが、成長過程で必要なことでもあると感じている。だが、

		子供が深いアクションはしないだろうと考えている。
3	エピソード	父親自身がパスワードを使いまわしていたためか、ID とパスワードが漏洩し、気づかない間に 2 万円分のポイントが抜かれていた、ヤフーアカウントで中国からログインされる、詐欺メールが来るなどの体験あり。
4	対策	長子と父親は iPhone を使っているので、長子の使い方を一部管理している。
5	ニーズ	学校など社会全体で教育していく必要がある。ジャッジするというより自立させる仕組みが必要。

8. 5. e 【女兒・フィルタリング解除・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	1人
1-2	性別・学齢	女・14・中2
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	P10 lite (ファーウェイ) / イオンモバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE / 学習アプリ / YouTube / ゲーム / 音楽 (mp3) / Twitter
3	フィルタリング利用状況 (長子)	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類 (本編図表 8.7 参照)	④その他フィルタリングサービス→②親子アカウント設定
3-3	フィルタリングの具体	スマモリ →ファミリーリンク (Android OS) 設定 → <u>解除</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

フィルタリング優先で「スマモリ」を契約、機種変更して Google のファミリーリンクを使っていたが、Google から 13 歳になり外しても良いのではないかという連絡が来た。一定期間そのままにしていたが、子供が危険な使い方をしていなかったこと、個別のフィルタリングができることを知らなかったことなどから解約した。

②なぜやめたか、フィルタリングへの不満点

年齢に応じてフィルタリングの内容が変わるようになると良い。

③意識の有無・知識の有無に関して

母親自身の危機意識は強いが、有害情報やネットトラブルに対して何をして良いか分からず、現状では何もできていない。また、ネットについて詳しい人も周囲にいない。学校や公的な組織が対策や危険性について正しく教えてほしいと思う一方、自らの知識を増やす必要があるとも考えている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2018年9月（小6）・店頭
2	主な用途	家族、友人との LINE 利用が多い。他に学習アプリ、YouTube、Twitter の閲覧、音楽視聴。
3	利用量	平日：1-2 時間 休日：3-4 時間
4	スマートフォン利用歴	3 年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：ノートパソコン、タブレット。 スマートフォン：母親も利用。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解除
2	知識と環境	最初にスマートフォンを購入しようとしたときに母親が調べたり、ママ友から情報収集したりした。
3	認識と利用目的	ママ友の情報から、「スマモリ」が無料か安価で付いてくることを知り、それを優先順位にして契約した。
4	やめた時期	中2の夏休み。
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	小6の9月にファーウェイの P10lite に機種変更したときに「スマモリ」が使えなくなった。小6の9月から Google のファミリーリンクを使っていたが、利用に対して不安になるようなことがなかったため。また、管理コストも掛かるため。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	特になし。
7	解除後の管理方法	厳しく管理はしていない。子供が自ら、入れたいアプリがあれば親に申し出る。フィルタリングの必要性についても親子で話し合い、親が使い方を管理する方針を理解している。
8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	カスタマイズの認識はなかったが、年齢に応じて変わることができたらいい。
9	課題とニーズ（利用者：子の視点）	有害ではない情報にもフィルタリングが掛かっていたので、外したほうが使いやすい。
10	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	13歳の時点で、Google から親子それぞれに、子供が自ら利用を管理することを勧めるメールが届いていたため、その内容について話し合いをした。

III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	①入れたいアプリがあった場合は母に相談 ②課金アプリは禁止 ③時間 20 時まで ④もしもトラブル (LINE いじめ等) があったら必ず相談すること ⑤自分の部屋には持っていない (現在はなくなった)
2	参考情報	ママ友からの情報や、自身で検索をして。
3	理由・背景	塾に通うために親が持たせた形になる。「新しいことを始めるから保険に入っておこう」という考え方で、子供自身も危機管理について分かっていた。
4	子育ての指針	まず「親が子供を信頼している」と伝えている。スマートフォンに関しては、信用して持たせているので、何かあったら必ず親に言いなさい、判断が付かないことは親に言いなさいと話している。
5	プロセス	最初に母親と娘で使い方を決め、あとから父親に伝えた。約束を決めたあと、通塾のため、時間を 21 時半まで延長した。
6	管理方法	最初は家庭のルールとして口頭で注意していたが、今は子供に任せている。
7	課題	大きくなればなるほど、サブスクリプションやネットでの買い物などで課金をしたくなると思う。決済をするのが自分ではないから、使いすぎを防ぐ対応がある。また、SNS のトラブルをどうすればいいか心配している。
8	ニーズ	学校でも危機感を煽るだけなので、何がどうだめで、どうすればいいか、という授業をしてほしい。また、トラブルがあったときに早く解決できる仕組みが欲しい。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	世界のいろいろな人とつながることが、当たり前に行えることは良いと思うが、手軽さゆえに何でも調べてそれを信じてしまい、正誤の判断がつかなくなりがちになっている。ネットへの依存性が高くなって、正誤の判断がつかなくなることも問題。
2	有害情報等への意識	本人が自覚しないうちに有害サイトにアクセスしたり、個人情報を抜き取られる危険性。SNS の利用により、自らの発信により、その言葉がいじめの対象や人を傷つけ、

		加害者になりうる可能性への不安がある。
3	エピソード	ショートメールで母親に宅配業者を装ったメールが来たことがある。娘の友人が、交流するサイトでアカウントに匿名の人から誹謗中傷の被害に遭ったことがある。芸能人の SNS での誹謗中傷自殺のニュースも衝撃的だった。
4	対策	今は何もしていないが、何をしたいかわからない。何もしていないがゆえに不安になる。
5	ニーズ	何をしたらいいかわからないので、どうしたらトラブルが防げるか（個人情報、SNS の被害）ということを知りたい。子供に対しても、母親自身にも必要。警察など、公認の正しい対処方法についての情報が欲しい。

8. 5. f 【女兒・フィルタリング解除・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・21・大学生／女・16・高1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／docomo
2-3	利用している主なアプリ	YouTube／LINE／Spotify／Amazon プライム／Instagram／TikTok
3	フィルタリング利用状況（末子）	
3-1	現在の利用状況	解除
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	③キャリアによるサービス
3-3	フィルタリングの具体	あんしんフィルター → <u>解除</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ解約したか

子供自身が周囲と比較して自分が見られない動画があることに違和感を覚え、頻繁に解除するように訴えており、その度に我慢するように言っていた。結果、本人と話をしてフィルタリングの理由とインターネットを介した事件の話をして、気を付けて使わなければいけないことを確認し、解除した。

②なぜやめたか、フィルタリングへの不満点

周囲と比較して、自分だけが見られない状態であり、見られない動画が多過ぎたこと。

③意識の有無・知識の有無に関して

母親自身をもっと知識を持っていればと感じており、他の家庭の例や対応を教えてほしいと考えている。小学校のときにトラブルはあったり、現在も末子がインターネットを介した人と会うことに心配をしているが、基本的に本人の自主性に任せる姿勢。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年冬（中3の終わり）・携帯販売店
2	主な用途	Amazon プライムでアニメの視聴、SNS への投稿。
3	利用量	家にいる間はずっと使っている（5-6時間）。
4	スマートフォン利用歴	4年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン、ニンテンドー3DS。 スマートフォン：父親（約10年前から）・母親（6年前）・長男（7年前）。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	解除
2	知識と環境	末子が最初にスマートフォンを契約するときにフィルタリングを知った。周囲にインターネットの危険性などに詳しい人はいない。
3	認識と利用目的	契約当時はゲームをやっていたので勝手に課金されることを防止するため、また、子供に刺激の強い画像に触れることを防ぐため。
4	やめた時期	購入後半年
5	やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	子供から YouTube の動画が見られないと訴えられ、我慢して使うようにしていたが、何度も繰り返したので解除することにした。本人とフィルタリングの意味や事件などについて話し合い、気を付けて使うように注意してから解約している。すべて駄目だと禁止しても外から情報が入ってきてしまうので、自分で判断して気を付ける、想像力を働かせることが大事だと考えている。
6	やめた理由（利用者：子の視点）	最初は怒っていて、周りでは動画が見られるのに自分が見られないことについての説得を始めた。「皆は見られる」「皆は使っている」が、自分は YouTube の特定の動画などが見られないことなどに納得がいかなかった。
7	解除後の管理方法	欲しいものがあるときは親に事前に支払いの許諾を得るようになった。自分で危機意識を持ってもらいたいと感じている。
8	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	母親自身をもっと知識を持って、自分が細かく設定できれば良かったと感じている。店頭を持っていくと、子供がなぜ自分のことを信じてくれないのかと誤ってしま

		う。また、本人がスマートフォンを離そうとしない。店頭ではなく、自分のスマホから設定が簡単にできれば良い。
9	課題とニーズ (利用者：子の視点)	自分が見られないものが多過ぎる。少しなら我慢できたかもしれない。皆が見られないのなら良かったが、動画が見られる子とのギャップを感じるが多かった。
10	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	母親と末子との直接のやり取りで決めた。父親は分かっておらず、外したことも知らない。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	イレギュラーなことや困ったことがあれば必ず親に伝える、スマートフォンが原因で朝起きられなくなったり、勉強をしなかったら取り上げる。 長子の場合にはルールを守る性格のため、特にルールを決めなかった。末子は流されやすい性格で、子供に合わせた約束事している。
2	参考情報	学校の保護者会で得た情報、テレビ、自身での検索。
3	理由・背景	大人がシャットアウトした場合、その時は良いが、いつか自分で判断していかななくてはならないので、自分で判断してほしいと思うため。
4	子育ての指針	放任主義。自分の意見を持ってほしい、人の話も聞ける人であってほしいと考えている。家族の関係は個人主義。
5	プロセス	フィルタリングを導入する際に特に話し合いも、親子間の衝突もなかった。睡眠時間が短いようだが頑張って学校に行っているため、スマートフォンを取り上げるなどの措置は取っていない。
6	管理方法	本人の自主性に任せる。
7	課題	一度、LINE のやり取りで会いたいという人が出てきた。同じ YouTuber が好きで、名前も連絡先も知っている人だったが、本人が帰宅するまで心配したということがあった。交友関係が広がることの心配がある。
8	ニーズ	携帯販売店にいても、フィルタリングや有害商法の説明が少ない気がする。子供向けに学校でスマホ講座もあるが、親向けの講座があってもいい。また、他のご家庭の例なども話し合えたら良い。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	スマートフォンがなかったら交流できないつながりができていて、いろんな人の考えが聞ける。また、子供が小さ

		いときもネットで繋がれるのは心強かった。いろいろな世界からチョイスでいるのがいいと思う。だが、どこの世界にも悪い人がいるので、親子関係なくお互いに気を付けなければいけない。大人が電車や車の中でずっとスマートフォンを見ているので子供への注意も説得力がなくなるが、ずっと画面を見ているのも良くないし、没頭しすぎてもったいないと思うことがある。
2	有害情報等への意識	テレビにしてもアニメにしても刺激的な情報が多い。自分の子供の時代とは違うと感じる。それがだめというよりそういう時代だなと思っている。
3	エピソード	小学校時代、3DS で友達とやりとりができ、アイコンに実名をかいて「きもいよね」と書かれたことがあったが、先方の親は重大なことと考えておらず、親同士の考え方の違いを感じた。学校の保護者会にいくとスマートフォンでのトラブルがあるとは聞いているが、内容と対処策は聞いていない。インターネットでやりとりがあったとしても会うことに対する分別が子供には難しいと思う。
4	対策	何かあれば子供が教えてくれるので、子供の自主性に任せている。子供との対話を意識している。
5	ニーズ	他の家庭の事情を知りたい。携帯会社のサービスをもらいたいというよりも、統計的な情報を知りたい。

8. 5. g 【女兒・フィルタリング導入中・小学校低学年】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	1人
1-2	性別・学齢	女・小3
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	ユニハーツアトム(キッズスマートフォン) (Android) / LINE モバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE / TikTok / YouTube
3	フィルタリング利用状況	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類(本編図表 8.7 参照)	②親子アカウント設定
3-3	フィルタリングの具体	ファミリーリンク(Android OS)設定(GPS、時間制限、課金制限、アプリDL許可制、コンテンツ規制)を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

スマートフォンを落とした時のために位置情報の確認が必要だと思ったため。費用が掛かるのでアプリとスタンプの購入は管理したい。

②フィルタリングへの不満点

あまり制約はしたくないが、GPS機能は上げてほしいと考えている。

③意識の有無・知識の有無に関して

スマートフォン購入の際に父親自身がいろいろと調べているが、フィルタリングに関しては位置情報に関心はあるものの、制限を付けずにどんどん使わせたいという立場。子供の要求に沿って利用可能時間を遅くしたり、スタンプを購入したりしている。子供は4歳からタブレットを利用。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2019年4月・ネット通販
2	主な用途	習い事・遊びに行った時の連絡手段が主。親戚・祖父母・友達とのLINE、GPSとしての機能。
3	利用量	ほとんど使っていない。
4	スマートフォン利用歴	1年10か月
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：iPad。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	一般的に知っている程度。買うときにフィルタリング機能がついていることがわかった。タブレットを渡したときに子供用設定にしたら全く見られなかったのが、YouTubeを通常の設定にした経緯がある。
3	認識と利用目的	①GPSでの位置確認、②時間管理、③アプリ管理、④情報報制約を目的に。どれくらい利用したかなどあまり確認したことはない。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	両親ともスマートフォンを落としたことがあるので、位置情報確認が必要だと考えたため。ほか、防塵防水、時間制約、大人向けコンテンツの制約を行っているが、あまり制限を付けず利用させたいので、時間、コンテンツ制約は重視していない。YouTubeも制限は掛けていない。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	購入するときに親の許可がいることは認識しているが、時間については就寝時間なのでやめるという程度。自分のスマートフォンを持っているという喜びが優先し、制限を受け入れている可能性もある。また、家でiPadやテレビでYouTubeが見られるので、スマートフォンでわざわざ動画を見ることも少ない。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	あまり制約はしたくないが、GPS精度をあげてほしい。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	寝る時間が遅くなったので、時間の制限を延長し、21時から21時30分にした。LINEのスタンプを買いたいといわれ、LINEの親子設定で購入した。

8	利用の意向	不特定多数とやりとりはしないようにしたいが、時間に関しては緩めても良いと思っている。GPS の精度が上がったら有料でも考えたい。
9	課題とニーズ (管理者：自分および配偶者の視点)	フィルタリングの機能が入ることで、自動的にムービーがインストールされると良い (インターネットでやりとりすることによるトラブルを子供にやさしく教えるような内容のムービー)。子供が自分で学ぶことで、自由度が上がる、親がフィルタリングをしなくなるという仕組みがあれば良い。
10	課題とニーズ (利用者：子の視点)	現在、スマートフォンが小さいので、大きい機種が欲しいというニーズが出てきている。小さいからなのかアクセス感で持っている。
11	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	特になし。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は 18 時～21 時半。特に口約束はしていない。
2	参考情報	父親が検索をして、小学生にスマートフォンを持たせている人のブログを見て Google ファミリーリンクを知った。また LINE モバイルが月 500 円で運用できることを調べて契約することとした。
3	理由・背景	スマートフォンがすぐ壊れてほしくない。持ち運びの面で、大きいものは落としてしまう可能性もあるので、「あまり大きくなく、ちょっと見えてもあまり面白くない」程度の小ささが良いと思った。費用がかかるアプリやスタンプは管理したいと思っているが、その他についてはあまり制限をかけたくない。不特定多数の人との交流をできないような形で使えれば、そんなに問題はないのかなと思っている。
4	子育ての指針	一人っ子なので与えられるものは制限をかけず、新しい文化・新しい技術を使ったもの、今後主流になっていくものは早く使ってほしいと考えている。将来的に自分が考えるときの幅が広がれば良い。デジタル家電だけでなく、いろいろな所に行っているいろいろな体験をさせ、可能性を広げたいと考えている。母親は「怪我してなんぼ」という姿勢。
5	プロセス	子供は大人用の大きいのが良いと言っていたが、友達が

		持っているのはキッズ携帯だったので、納得してもらった。途中で時間を遅めに延ばし、スタンプも購入した。
6	管理方法	システムの管理のみ。
7	課題	あまりない。
8	ニーズ	スマートフォンの会社か通信会社がモデルケース（年齢、性別、使い方）を教えてくれると良い。それに加えて、機種やアプリの制限の使い方の説明があるといい。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	親子で共有して、自分で調べられることは良い。ただ、YouTube も含めて、どうでもいい動画を何時間でも見てしまうことはどうにかしてほしい。
2	有害情報等への意識	危機感はなくはないが、まだ小さいので大丈夫だと考えている。SNS の登録も自分ではやっていない。デバイスで設定してもすべてを防ぐことはできないのかと思っている。
3	エピソード	子供が LINE でにやにやしていたので聞いてみると、何かの会社の bot をひとりでやっていた。あるタレントのラジオで 5 歳の子供がオンラインゲームで会ったこともない人と対戦していたという例を聞いて、怖いと思った
4	対策	iPad は大人のアカウントで使っているの、対策をしたほうが良いのではないかと思いは始めている。
5	ニーズ	子供が触れやすいような形で教えるアプリ、教育の場があるといいな、と思う。

8. 5. h 【女兒・フィルタリング導入中・小学校高学年】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・15／女・10・小4
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／SoftBank (sim カードを抜き自宅の Wi-Fi 環境で利用)
2-3	利用している主なアプリ	ゲーム (ポケコロ) ／YouTube
3	フィルタリング利用状況	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類 (本編図表 8.7 参照)	①機種への設定
3-3	フィルタリングの具体	スクリーンタイム (iOS) 設定 (時間制限、課金制限、アプリ DL 許可制、コンテンツ規制) を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

コロナ禍で頻繁に使うようになったため。①時間 (夜中変な時間につなげないように)、②課金・アプリをできないように、③どのようなアプリをダウンロードするのかダウンロードする前に確認したい、④不適切なコンテンツを防ぐなどの目的から導入した。

②フィルタリングへの不満点

抜け道があり、100%フィルタリングをしているわけではないと感じること。

③意識の有無・知識の有無に関して

フィルタリングについてはコロナ禍で必要になりこの半年で知った。自由度が高く、その場その場で調整していこうという家庭で、スマートフォンの環境と管理に関して、いくら本人と約束しても、周囲の環境とのバランスがあるため、家族内では収まらないと考えている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2年前・店頭
2	主な用途	ゲームと YouTube 視聴。
3	利用量	最低 3-5 時間。
4	スマートフォン利用歴	2年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：Nintendo Switch、タブレット。 スマートフォン：長男は利用、母も 10 年以上利用。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	フィルタリングという言葉を知ったのはここ半年くらい（見守り設定）。機能としては知っていたが、子供の携帯の用語としては知らなかった。身の回りには詳しい人はいない。経験上、これまでそれほどトラブルがなかった。
3	認識と利用目的	最初はしていなかったが、コロナ禍で頻繁に使うようになったため導入。①時間（夜中変な時間につなげないように）、②課金・アプリをできないように、③どのようなアプリをダウンロードするかダウンロードする前に確認したい、④不適切なコンテンツを防ぐなどの目的。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	使い過ぎの防止とコンテンツの内容管理。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	制限をされていると知ると反発心が出るのではないかと危惧し、フィルタリングについては子供に伝えていない。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	インターネットのサイトがどこまでフィルタリングされるのか。抜け道があると思っており、100%ではないから心配。YouTube でも完璧ではないという経験をしている。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	設定がもともと緩く、現状では時間に対して設定している程度。現在は夜 12 時までだが、9 時や 10 時に早めると激怒するだろうと思う。
8	利用の意向	継続はしていくと思う。最低でも 6 年生までは続け、中学生になったら段階的にしたい。
9	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	設定したときに分からない言葉が出てきて困る。例えば「オン」にすべきか否か、「オン」にしたら戻れなくなる

	点)	のではないかなど。また、学年別の事例が欲しい。
10	課題とニーズ (利用者：子の視点)	本人は課金の有無は分かる(「これやったらお金かかっちゃうのかな」とつぶやいている)ので、課金のフィルタリングは必要。知らない間にアプリ内のゲーム内のお金を買ってしまうこともあるかもしれないので、本人としてもフィルタリングはあった方が良いのではないかと思う。時間を自由に使いたいと考えていると思う。
11	管理者(親)と利用者(子)のすり合わせ	特にない。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	宿題をやればいい。 ゲームでのフレンドで知らない人とあまりつながらないように、会わないようにすること。 やる場所や時間は特に指定していない。現状、親が見ている前(リビング)で使う状況を作っている。
2	参考情報	自らの感覚が大きい。フィルタリングという言葉を知り、検索して見つけたサイトも参考にした。
3	理由・背景	せっかくだからやってみようかという程度で、時間設定をしなくてもよかったかなと思っている。徹底的に管理しようという気持ちはない。社会的に誰もがスマートフォンを持っているので、早く使いこなせるようになれば良いと考えている。
4	子育ての指針	あまり考えずに。あまり制約もせず、どちらかといえば自由にさせる方針。父親は制約なく使わせたいと思っているが、母親はもともとスマートフォンを持つことや、時間や使い方が問題だという立場で反対している。
5	プロセス	最初に取り決めをしても守れないと思うので、その都度その都度対応していけばよいと考えている。一度、長女がゲームのアイテムを買いたいと課金を頼んだが、親は断り、押し問答と話し合いの末、お年玉で買って良いことにした。それで本人がどう思うのかを体験させるためにも買わせてみたことがある。以降は買っていない。
6	管理方法	特にない。目に余るときだけ、主に時間について注意する。
7	課題	課題を本人にいくら与えても、友達がいるとイタチごっ

		ごになってしまう。家族内ではおさまらず、コミュニティの規範に依存してしまう。
8	ニーズ	ニュースをやっているときに子供と一緒に見られれば教えやすいし、本人もわかりやすいと思う。子供も大人と同様に使って行って学んでいく必要がある。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	気になるのは時間のことのみ。早く使い慣れて、どんどん使ってほしい。
2	有害情報等への意識	アダルトに関して、非現実的なものは良くないと思う。YouTubeでコメントができるようになったら怖いと思う。
3	エピソード	特にないが、許せるトラブルであれば本人の経験、勉強になるので良いと思う。ニュースで子供向けのゲームに大人が入り込んでいるのを知り、怖いと思った。
4	対策	SNSに登録しない、知らない人とコミュニケーションしない、ニュースでネット関係のものがあったら一緒に見て学ぶ（怖さを共に受け止める）。
5	ニーズ	子供専用アプリに大人が入れないようにする（女性専用車両のように、大人を制約する）、子供が見られるニュースがある（映像で目に入るのが一番）と良い。親が言うとうるさいと思われ、学校で言われても関係ないと思ってしまうため、本人が危機意識を持つようなコンテンツがあると良い。

8. 5. i 【女兒・フィルタリング導入中・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	3人
1-2	性別・学齢	女・19・専門学校生／男・16・高校生／女・13・中1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone／楽天モバイル
2-3	利用している主なアプリ	YouTube／検索／スタディサプリ／LINE Instagram／TikTok
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	①機種への設定
3-3	フィルタリングの具体	スクリーンタイム（iOS）設定（時間制限、コンテンツ規制、アプリ DL 許可制）を現在も利用中
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

使い過ぎが気になり、時間制限を行いたかったため。

②フィルタリングへの不満点

特にない。

③意識の有無・知識の有無に関して

学校からのお知らせも来るが、使い過ぎに対して母親自身が何とかしたいと考え、調べてスクリーンタイムの設定を行っている。母親はネットを普段から使っているわけではなく、危機意識や知識は高いわけではない。ただ、何かあれば自ら調べ対応を考えるようにしている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年2月
2	主な用途	Instagram や TikTok は小学校の時に投稿していたが、中学に入って投稿をやめた。鍵アカウント。 LINE はグループトークには参加せず、閲覧が主。YouTube や検索も使っている。学習用アプリで勉強。
3	利用量	平日休日とも1時間でロックがかかる。
4	スマートフォン利用歴	4年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス：iPad、パソコン。 スマートフォン：両親・きょうだいも利用。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	きょうだい3人のスマートフォンを買い揃えた頃、友達から聞いて知った。周囲に何かあったときにITの使い方について聞ける人はいる。
3	認識と利用目的	購入した当初はフィルタリングを付けていなかったが、使い過ぎが気になり、これを防ぐものはないかを母親が調べた。
4	利用の理由(管理者：自分および配偶者の視点)	使い過ぎの防止、購入制限、成人向けサイトの閲覧防止のため。使い過ぎが主な目的だったが、使ううちに購入制限と閲覧防止も気になった。
5	利用の理由(利用者：子の視点)	いやいや付けているという認識。母親がスクリーンタイムによる利用時間の実績を見て、約束が全く守られていないことを認識させた。
6	不満・不足(管理者：自分および配偶者の視点)	特にない。
7	不満・不足(利用者：子の視点)	あと少し見たいのに見られない、外に出掛けた時に見られなくなるなど、不満でいっぱい。ウェブの制限については特に不満はない。
8	利用の意向	高校で通学が長くなると今の制限が不満になるだろうが、中3までは今のままで続けたい。
9	課題とニーズ(管理者：自分および配偶者の視点)	特にない。

	点)	
10	課題とニーズ (利用者：子の視点)	特にない。
11	管理者 (親) と利用者 (子) のすり合わせ	子供は嫌がっているが、母親に利用時間実績を見せられており、仕方なく従っている。
III	ペアレンタルコントロール状況	
1	設定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯ばかり見ない ・2階 (自分の部屋) に持っていかない ・人にいるところで使う ・夜は見ない (当初の約束で、現在は守られていない)
2	参考情報	夜は携帯の光が良くない、学習低下につながるという情報を母親が自ら調べた。学校からも配られたが参考程度。
3	理由・背景	スマートフォンの使い過ぎは疲れが多いような気がして、体調管理の面から。
4	子育ての指針	放任はしたくない、厳しすぎることもないと思っている。子供が何をしているか知っておかなければいけないと考えている。子供3人、母親の間では、互いに携帯は見せて良いというオープンな関係性。
5	プロセス	LINE が来たら困る夜の時間帯を確認し、22時から7時までの間は利用不可とした。使いたい理由があれば都度、聞いて延長することもある。子供は、不満はありながらも理解している。
6	管理方法	時間が守れないため、スクリーンタイムを設定した。ロック番号は推測されていない。
7	課題	使い過ぎになっている点。
8	ニーズ	特に不満はない。
IV	インターネット接続への意識と課題・ニーズ	
1	全般的な意識	YouTube でも勉強になる動画を上がっているので、そうしたものを見ること、自分で調べられるのは良いと思う。画面を見て夢中になり過ぎる点はあまり良くないと感じる。
2	有害情報等への意識	特にないが、子供が教えてくれる。テレビで事件を見ると、注意喚起して情報共有をしている。
3	エピソード	子供には怒っていないが、長女の友達がマッチングアプリで遠くまで会いに行ったことがある。ネットを通じた

		知り合い（ネット友）はやめてほしいと注意している。
4	対策	ルールは特に決めていないが、ニュースなどがあれば話題にして注意する。子供のほうが詳しい。
5	ニーズ	特にない。

8. 5. j 【女兒・フィルタリング導入中・高校生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・20・大2 / 女・16・高1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone / ビッグロブモバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE / Instagram / YouTube / Twitter / 検索機能 / Spotify
3	フィルタリング利用状況（未子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	①機種への設定
3-3	フィルタリングの具体	スクリーンタイム（iOS）設定（コンテンツ規制）を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	女性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

本人の性格や、女の子であることから、犯罪に巻き込まれるようなサイトとの接触を防止するために。

②フィルタリングへの不満点

特にない。

③意識の有無・知識の有無に関して

学校からの注意や授業での内容を聞いたり、ニュースでフィルタリングやネットトラブルについて見聞きしたりしている。また、身近でのトラブルも聞いている。本人に危機意識があり、フィルタリングがあって安心すると言っており、本人の意向に沿って利用を継続する予定。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年2月
2	主な用途	SNSは閲覧が主。家族間コミュニケーションはすべてLINE。勉強にも利用。
3	利用量	学校に持っていくほか、家でも利用。
4	スマートフォン利用歴	1年
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン：両親・長男とも利用。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	兄が中学の時に学校での授業で聞いたことがある。また、テレビのニュースなどでも知っている。
3	認識と利用目的	有害情報に簡単に接触できないようにするものという認識。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	犯罪に巻き込まれるような「変なサイト」を見ないために。女の子であること、本人の性格、ニュースを見て心配になったことなどから。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	理解しており、本人も安心するという認識。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	特になし。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	特になし。
8	利用の意向	本人が必要ないというまで継続すると思う。
9	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	1日の利用料がわかると安心する。
10	課題とニーズ（利用者：子の視点）	特になし。
11	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	利用時間についての心配はあるが、フィルタリングの内容については特になし。

III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	①充電はリビングで行う。 ②知らない人とやりとりしない（非公開アカウント）。
2	参考情報	学校の情報やママ友に聞いて。
3	理由・背景	スマートフォンがないと学校でのコミュニケーションができず、必要不可欠なツールになっているので仕方がない。
4	子育ての指針	子供の自主性に任せる、父親は放任主義的（失敗したら本人の責任）だが、母親は本人に注意するようにしている。親子でオープンに話し合うよう努めている。
5	プロセス	フィルタリングに関し、本人の不満は見られない。利用場所や使い方も変わってきたので約束事については少しなあなあになっていると感じる。母親は、利用時間が増えていることや睡眠時間への影響を心配している。
6	管理方法	本人の自主性に任せている。リビングの充電器にスマートフォンがない場合、本人に声を掛けることがある。
7	課題	寝る時間が遅くなっていること。
8	ニーズ	アプリケーションごとに時間が制限できると良い。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	調べ物がすぐにでき、知識が広く深くなっているように感じる。使い過ぎや、テレビや新聞を見なくなり、情報がネットに偏ってしまう。
2	有害情報等への意識	学校での教育の影響が大きく、本人の危機意識が強い。
3	エピソード	中学の時に同じ学年の女の子が写真をあげてトラブルがあった。学校で生徒に対して指導した（親には説明はなかった）。SNSで先生が生徒と事件を起こす事例。
4	対策	本人に個人情報あげないこと、知らない人とやり取りしないことを注意している。
5	ニーズ	テレビやネットのニュースでは事件などは分かるが、そのときに危険性への対策を流してほしい。

8. 5. k 【女兒・フィルタリング導入中・中学生】

【概況】

1	属性	
1-1	子供の人数	2人
1-2	性別・学齢	男・中3/女・中1
2	スマートフォン利用状況	
2-1	現在の利用状況	専用
2-2	スマートフォンの種類と通信事業者	iPhone/LINE モバイル
2-3	利用している主なアプリ	LINE/Slack/Discord/ゲーム/YouTube
3	フィルタリング利用状況（末子）	
3-1	現在の利用状況	導入中
3-2	フィルタリングの分類（本編図表 8.7 参照）	⑥その他
3-3	フィルタリングの具体	家庭用 Wi-Fi ルーターにフィルタリング設定を <u>現在も利用中</u>
4	インタビュー対象者性別	
4-1	インタビュー対象者性別	男性

【インタビュー結果のポイント】

①なぜ導入したか

アダルトコンテンツや過剰な情報の制御、時間の制御。当初は場所コントロールやi-フィルターを行っていたが、過剰すぎるフィルタリングのため、当初の目的が自動的（強制的）に達成できる Wi-Fi でのフィルタリングを導入することとした。

②フィルタリングへの不満点

i-フィルターの場合、フィルタリングが過剰で不便だったこと。子供の自立を逆に阻害し、スマートフォンの便利さが失われる。また、皆が安心して使いやすいというものになっていない。

③意識の有無・知識の有無に関して

フィルタリングへの意識は高く、自作できるほどの知識と技術を持つ。厳しく管理するだけではなく、スマートフォンの利便性を享受しながら、子供が自立して自ら判断できること、精神的な健康も含めて対策を取らなければならないと考えている。

【共通項目】

I	利用状況	
1	購入時期・場所	2020年3月か4月・携帯販売店
2	主な用途	コミュニケーションが主。
3	利用量	1日1時間弱。
4	スマートフォン利用歴	4年間
5	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況、ご家族の利用状況	スマートフォン以外のデジタルデバイス状況：パソコン。 スマートフォン：長男も利用中。
II	フィルタリング状況と、意識と課題・ニーズ	
1	利用状況	導入中
2	知識と環境	共用の Google Wi-Fi を使っており、このルーターにフィルタリング（コンテンツフィルター）を入れた。LINE モバイルでフィルタリング導入が義務だったが、現在も未導入。契約プランの容量を少なめにして、自分でどのように利用すれば良いかを考えることを狙っている。ただ、LINE モバイルは SNS 利用についてはパケット料金がかからないので、SNS 利用の詳細についてカバーし切れていない。
3	認識と利用目的	アダルトコンテンツや過剰な情報の制御、時間の制御が主な目的。
4	利用の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	長男のときは LINE モバイルから提供された i-フィルターを使っていたが、制限が強過ぎて端末の設定すらできなかった。不便さを感じ、別の方法を探して端末ごとに設定ができる Google Wi-Fi を選んだ。
5	利用の理由（利用者：子の視点）	コンテンツによってはすごく守られていると思うが、「守られている」ことよりも、こういうものは駄目だということを理解したと思う。リテラシーが上がり、コンテンツや時間を意識しなければならないという変化があったのではないかと思う。
6	不満・不足（管理者：自分および配偶者の視点）	i-フィルターを使っていた間（1年間）は、過剰すぎて使いにくかった。子供の自立を阻害する可能性、スマートフォンの便利さが失われることが問題だと感じていた。
7	不満・不足（利用者：子の視点）	i-フィルターは全然使えない。
8	利用の意向	現在のスタイル（家庭の Wi-Fi 設定）は満足。

9	課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	i-フィルターをもっとバランスの取れたものにしないでほしいと思う。皆が安心して使いやすいというものになっていないことで、フィルタリングの強制力が損なわれているのではないかと。時間やコンテンツだけを縛り、あとは子供達が考える余地を残した仕組みにしてほしい
10	課題とニーズ（利用者：子の視点）	長男は使えないという不満はあったが、長女は自ら危険なコンテンツ等を避けており、不満は言っていない。
11	管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	最初に親が強制的に導入した。最初に強めに縛り、少しずつ微調整を行っている。
III ペアレンタルコントロール状況		
1	設定状況	時間は当初 21 時半までだったが、現在は平日 22 時・金曜土曜 24 時。 ※オンライン中学で決められた「コミュニケーションタイム」が 22 時までで、それに従って延長した。
2	参考情報	父親の地元の横須賀市のスマートフォン利用の情報
3	理由・背景	就寝時間の確保のため、また、ルールとして明確なものが良いと思ったため。
4	子育ての指針	方針として、最先端の物にはどんどん触れてほしいが、正しい使い方を含めて学んでほしいと考えている。スマートフォンは、まだそれほど必要なタイミングというわけではないが、渡して学ばせることをしている。自主性を重んじている。
5	プロセス	最初のデバイスは全部自分のお金で買わせる。パソコンも自作 PC で最低限のものだけ買えばいいように用意してあげて、その他ちょっと足りないものは家にある部品を渡して「自分のお金で買ったパソコン」と位置付ける。もっとスペックの良いパソコンを使いたいのであれば、親にお金を借り、返済計画を立てて返していく。得たものを最大限活用する、自分のやりたいことに活用するにはどうすればいいのかを考えてもらうことを重視している
6	管理方法	当初、リビングで充電をするルールにしたが、あまり管理ができなかったため、i-フィルターを導入して管理することにした。これが厳しすぎたため、Wi-Fi ルーターで管理することとして、ルーターで時間管理を行っている。
7	課題	SNS を通じた DM で変なやり取りをする可能性は防げな

		いので、本人のリテラシーでカバーしている。それが崩されたときに心配。
8	ニーズ	IT リテラシー教育をもっとやったほうがいい。IT リテラシーは国語、数学、英語と同じくらい大事。理科、社会より大事だと思う。
IV インターネット接続への意識と課題・ニーズ		
1	全般的な意識	可能性が広がる。コミュニケーションの面では人とのコミュニケーションが活発になること、先進的なアプリによりできることも増える可能性がある。一方で麻薬やドラッグなどと同じように、心が弱っているときに情報に飲み込まれてしまうことはリスクが高いので、そうした状況に対してフィルタリングをしなければならないと思う。自制心ができていないときに落ちてしまうのは怖い（心の成長と合っていないといけない）。
2	有害情報等への意識	本人の心が弱くなっているときに思わぬ方向に転がってしまうことが一番怖い。
3	エピソード	座間の連続殺人事件。その人の精神状態が弱くなっているときに見つかってしまうと怖い。ネガティブなことは心と直結しており、自制心もなくなっているタイミングで付け込まれることが怖いと思う。
4	対策	わざと話題にあげるということぐらいしかできていない。技術で解決しようとしても、技術は万能ではない。インターネットは知らない人と通信できるものであるが、その「知らない人と通信するとはどういうことか」を学ばなければいけないと思う。
5	ニーズ	学校教育の現場で事例を共有してほしい。SNS の運営会社がリテラシー教育コンテンツを流してほしい。わざわざ見に行かなければならないものではなく、自然に目にするような形が良いと思う。

9. 調査研究結果から得られる政策的含意

以上の調査研究で得られた結果や、有識者会議での議論等を踏まえ、今後の効果的なフィルタリングサービスの利用普及に係る政策的含意として以下が導かれる。

9. 1. フィルタリングサービスの利用率は低く、継続的な利用促進のための取組が必要

スマートフォンを利用している青少年において、フィルタリングサービスの利用率は38.1%に留まっていた。また、13.7%が解除しており、48.2%が一度も利用していなかった（図表 3.3）。また、フィルタリングサービスを利用していない人は、家庭内ルール作りやペアレンタルコントロール機能利用もしていなかった（図表 3.28、図表 3.32）。「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正後も、フィルタリングサービスの利用率は改善しているものの、定着しているとはいえない。継続的な利用促進施策が必要となる。

9. 2. インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスに関する情報と各問題に対する有効性を啓発することが重要。

「インターネットの問題に関する知識」を除き、「フィルタリングサービスの知識」、「インターネットの問題が子供にもたらす危険性認知」、「フィルタリングサービスの各問題に対する有効性認知」は、これらが高いほどフィルタリングサービスを利用しているし、解除していない傾向であった。また、その関係は非常に強かった（図表 6.2、図表 6.3）。

その一方で、これらに詳しい人が、フィルタリングサービス以外の手段で管理できるから利用していないという先行調査で指摘されていた傾向は、あまり見られなかった（図表 4.9～図表 4.12）。また、フィルタリングサービスを利用していない人は他の施策を実施しているというようなこともなく、むしろ、フィルタリングサービスを利用していない人は他の施策も実施していない傾向が強く出ており、青少年保護をしている保護者としていない保護者で両極端になっている傾向が見られた（図表 3.28、図表 3.32、図表 6.2、図表 6.3）。

実験的調査においても、啓発によってフィルタリングサービスを利用しようと思う人が少なくないことや、特に「インターネットの問題が子供にもたらす危険性」と「フィルタリングサービスに関する情報」を両方提供することで高い効果（48.8%が利用意向を示した）を得られることが分かっている（図表 7.1）。

保護者インタビュー調査においても、フィルタリングサービス未導入の理由として「必要ない」「最初から考えていなかった」という声がみられ、その背景には危険性を自分ごと化

できていない様子が伺えた（【ストーリー7】）（図表 8.10）。

インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスに関する情報と各問題に対する有効性を啓発することが、フィルタリングサービスの利用促進につながると考えられる。

9. 3. フィルタリングサービスのカスタマイズ設定について啓発すると同時に、カスタマイズしやすい設計とする取組が必要。

フィルタリングサービスを解除する理由については、最も多かったのが「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」（31.3%）であり、次点が「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」（29.2%）であった（図表 3.16）。つまり、子供にとって何らかの不便があったために解除しているといえる。実際、青少年が SNS を利用しているとフィルタリングサービスを解除する傾向にあり（図表 6.2）、動画共有サービス、クチコミサイト、SNS を利用していると利用しない傾向にあった（図表 6.3）。

保護者インタビュー調査においても、フィルタリングサービス解除に至る理由としてその拘束力の強さが最大の理由であるが（【ストーリー8】）（図表 8.11）、どうしたら継続出来ていたかという問いに対して、「フィルタリングの強弱がつけられたらよかった」「家庭にあわせた設定ができたならよかった」という発言をしており、カスタマイズがあることを認知していないことが明らかとなった（【ストーリー9】）（図表 8.12）。

実際には、フィルタリングサービスではカスタマイズ設定があり、サービスごとの設定等が柔軟にできる。フィルタリングサービスのカスタマイズ設定が存在すること、並びにその方法を啓発することが、フィルタリングサービス利用促進、とりわけ解除抑止に繋がると考えられる。分析でも、フィルタリングサービスの機能として「学齢や個別設定のほか、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる」ということを知っていると、フィルタリングサービスを解除しにくいことが分かっている（図表 6.5）。

さらに、フィルタリングサービスの種類ごとにカスタマイズ設定の有無を見ると、「iOS のフィルタリングサービス」（64.1%）と「Android のフィルタリングサービス」（60.8%）に比べて、「あんしんフィルター」（33.3%）のカスタマイズ率が非常に低かった（図表 3.12）。これはカスタマイズ設定をせずとも使い勝手が良いからというわけではなく、多くの人がカスタマイズできることに気付いていないことが保護者インタビュー調査から分かっている。

もちろんこれには、OS のフィルタリングサービスはカスタマイズを前提としており、あんしんフィルターはカスタマイズせずに手間なく簡単に設定できるということも影響している。しかし、あんしんフィルターがカスタマイズを前提としないがためにカスタマイズされずに解除されてしまうのであれば、この状況を変えることがフィルタリングサービス利

用促進に寄与する可能性がある。

特にあんしんフィルターについて、カスタマイズをしやすい設計を検討すると共に、店頭での説明の際にカスタマイズ設定の仕方まで啓発するなどの工夫が求められる。

9. 4. フィルタリングサービスの機能の中でも特に「アプリ利用制限」「利用時間管理・利用状況通知」を啓発することが重要。

フィルタリングサービスについて、「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」ということを知っている、フィルタリングサービスを利用する傾向にあり、解除しない傾向もあった（図表 6.5）。

保護者インタビュー調査においても、フィルタリングサービスの導入理由として「有害情報のカット（コンテンツフィルタリング）」だけでなく「使いすぎ（時間）を防ぎたかった」「ゲームなどで課金をしないように」というのを最大の理由に利用を始めている家庭も複数見られた（【ストーリー6】）（図表 8.9）。

つまり、これらはフィルタリングサービスの機能として保護者のニーズが高い分野であるといえ、これらがフィルタリングサービスで可能であることを啓発することがフィルタリングサービス利用促進に繋がると考えられる。

9. 5. フィルタリングサービスについて、青少年の利用実態に踏まえた設計にする取組が必要。：特に中学生以上

保護者インタビュー調査において、子供のスマートフォン専用利用の理由となる共通ポイントが「部活等でのメッセージアプリを活用したメッセージ利用のため」であった（【ストーリー1】）（図表 8.2）。一方、主に通信事業者の提供するフィルタリングサービスの年齢別設定を見ると、中学生モードでもメッセージアプリが制限対象となっており、結果、フィルタリングサービスの解除理由としても大きくその点が指摘されていた（【ストーリー8】）（図表 8.11）。

カスタマイズ設定の啓発と合わせて、初期から継続しやすい年齢別の設定にすることもフィルタリングサービスの継続の観点から意義があると考えられる。

他方、例えばメッセージアプリであれば、インストールすることでメッセージ機能だけでなく、オープンチャットや金融系サービスが紐づくこともある。このようなサービスを青少年に許可することにはリスクも考えられるため、サービス事業者がキッズ向けのアプリをリリースする等の対応をすることで、青少年がより安全に・便利にサービスを利用できる可能性がある。

9. 6. 高校生におけるインターネットの危険性も啓発することが重要。

高校生でフィルタリングサービスを利用しない理由としては、「特に必要を感じないため」や、「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」というものが多かった（図表 3.21）。また、「どのような機能があっても利用したいと思わない」人が多い（図表 3.23）。さらに、「子供にとって有益である」と考えている人は少なく、「子供と信頼関係があり、適切にルール作りが出来れば不要である」と考えている人が多い（図表 3.25）。

しかしながら、個人間取引の詐欺、架空請求、誘い出しなど、高校生が被害に遭うケースも少なくない。高校生でもインターネット利用に危険性があることを啓発することが重要といえる。

9. 7. 特に、低年齢層の子供を持つ保護者向けには、スマートフォン購入時にフィルタリングサービスの案内をすることが重要。

スマートフォン購入時における保護者の管理に関する説明や資料は、フィルタリングサービス利用に大きく寄与していた（図表 6.3）。しかしながら、そのような説明や資料があったのは 40%に留まり、とりわけ未就学（5～6 歳）では低かった。代わりに多くなるのが「購入する際は子供が使う予定ではなかったので説明や資料なかった」というものである（図表 5.1）。

実験的調査でも似た結果が出られている。資料の提供によって利用したいと思った人は全体で 38.8%存在し、特に未就学（5～6 歳）では 61.0%、小学低学年では 63.0%と非常に高かった（図表 7.1）。とりわけ低年齢層において、インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスに関する情報の提供が、フィルタリングサービス普及に大きく寄与すると考えられる。

購入時に青少年がスマートフォンを利用することを想定していないような青少年保護者でも、保護者の管理に関する説明を受けられるような環境を整備することで、年齢が低い時からの適切なフィルタリングサービス利用を促進できるといえる。また、親と共用だとフィルタリングサービスを利用しないし解除しやすい傾向にあるので、共用の場合でも利用者の変更する際にほとんど手間なしでフィルタリングサービスの ON/OFF を切り替えられることも利用を促進すると考えられる。

9. 8. フィルタリングサービス普及と同時に、保護者には「リテラシーの向上」を、子供には「自身で危険性を判断できるようになる」教育や情報・サービス展開を行うことが重要

保護者インタビュー調査を通じて、以下の二つの点に対する悩み（思い）とニーズがあることが明らかになった。

1つには、保護者自身よりも子供たちのほうがスマートフォン利用等に詳しいという現状と、思春期特有の管理の難しさである（【ストーリー4】）（図表 8.5）。こうした現状（悩み）に対して、保護者自身が「親が正しく使うこと」「常にアンテナを張る必要がある」といったスマートフォンを含むインターネット利用に関するリテラシーを向上させないといけなと感じており（【ストーリー13】）（図表 8.15）、また併せて「年齢や性別毎にどのように対処したらいいのか知れるとよい」「トラブル事例とその対応方法リストがあると具体的に行動しやすい」といった意見が伺えた（【ストーリー12】）（図表 8.14）。

もう1つには、フィルタリングサービスで危険を事前に防ぐことも大切であるが、同時に「子供自身で危険性を判断できるようになってほしい」と子供の成長を願う親の思いもある。これは、フィルタリングサービス未利用の家庭からも聞かれた考えであり（【ストーリー7】）（図表 8.10）、同時に、フィルタリングサービスを利用している家庭からも聞かれた考えである（【ストーリー14】）（図表 8.16）。

こうしたことから、保護者自身がスマートフォン利用を含むインターネットの危険性やその対処策を学ぶと同時に、子供自身には、「どのようにして危険を防ぐか」といった学びを同時に行うことで、長期的な視点でスマートフォンを含むインターネット利用における青少年のトラブルを防ぐことに寄与できるであろう。

付録

A 1. アンケート調査票

以下、実際に使用したアンケート調査票となる。ただし、各フィルタリングサービスについて尋ねる質問（PQ8、PQ9、Q1、Q41）は、実際に調査においてはフィルタリングサービスのアイコン画像を提示し、回答者が回答しやすい設計とした。

F1.
あなたの性別をお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 男性
 女性

F2.
あなたの年齢をお知らせください。

【必須】

歳

F3.
あなたのお住まいをお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

(回答を選択してください) ▼

F4.
あなたは結婚していますか。

(ひとつだけ) 【必須】


- 結婚していない (未婚・離死別)
 結婚している

F5.
あなたの職業をお知らせください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 会社員・役員
 自営業
 専門職 (医師、弁護士、美容師、デザイナー等)
 公務員
 学生
 専業主婦・専業主夫
 パート・アルバイト・フリーター
 無職・定年退職
 その他

PQ1.
同居しているお子様の人数を、男の子と女の子それぞれお答えください。

 (縦にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	男 の 子	女 の 子
--	-------------	-------------

	男の子	女の子
1人	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2人	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3人	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4人以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その性別の子どもはいない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

PQ2.

同居しているなかで、一番小さいお子様と一番大きいお子様の年齢（学齢）をお答えください。

ただし、同居しているお子様が1人しかいない場合は、一番大きいお子様について「子供は1人しかいない」をお選びください。

その1人のお子様の年齢（学齢）については、「一番小さいお子様」のところでお選びください。



（縦にそれぞれひとつずつ）【必須】

	一番小さいお子様	一番大きいお子様
2歳以下	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3歳	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4歳	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5歳・6歳で未就学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学1年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学2年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学3年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学4年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学5年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小学6年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中学1年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中学2年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中学3年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校1年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校2年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校3年生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高校3年生より上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供は1人しかいない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

PQ3.

同居している一番小さいお子様の性別をお答えください。

（ひとつだけ）【必須】

- 男の子
- 女の子

PQ4.
同居している一番小さいお子様のスマートフォン²の利用状況をお答えください。

(ひとつだけ) 【必須】

- そのお子様専用のものを持っており、それを利用している
- 兄弟姉妹で共用のものを持っており、それを利用している
- 親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、親が見ている前でのみ利用している
- 親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、一人で利用することがある
- その他の形態で利用している
- スマートフォンは利用していない
- わからない

PQ4で一番小さいお子様がスマートフォンを使っている・持っていると答えた方にお伺いします。

PQ5.
同居している一番小さいお子様の以前（過去）のスマートフォン²の利用状況について、当てはまるものを全てお選びください。

以前から変化がない場合は、「現在の利用状況と同じ利用をしていた」をお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- そのお子様専用のものを持っており、それを利用していた
- 兄弟姉妹で共用のものを持っており、それを利用していた
- 親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、親が見ている前でのみ利用していた
- 親（自分または配偶者）のスマートフォンを用いて、一人で利用することがあった
- その他の形態で利用していた
- 現在の利用状況と同じ利用をしていた

PQ4で一番小さいお子様がスマートフォンを使っている・持っていると答えた方にお伺いします。

PQ6.
同居している一番小さいお子様がスマートフォン²を利用し始めた時期をお答えください。


(ひとつだけ) 【必須】

- 2歳以下
- 3歳
- 4歳
- 5歳・6歳で未就学
- 小学1年生
- 小学2年生
- 小学3年生
- 小学4年生
- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生
- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生
- 高校3年生より上

PQ7.
 あなたは、スマートフォンのフィルタリングとは何かを知っていますか。
 最も近いものを1つお選びください。

- (ひとつだけ) 【必須】
- 人に説明できる程度に詳しく知っている
 - 人に説明はできないが、どのようなものか何となく知っている
 - 名前を聞いたことがある
 - 知らない

PQ8.
 あなたは、以下のスマートフォンのフィルタリングサービスを知っていますか。
 それぞれ最も近いものを1つお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	人に説明できる程度に詳しく知っている	人に説明はできないが、どのようなものか何となく知っている	名前を聞いたことがある	知らない
スクリーンタイム (iOSのフィルタリング機能)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
スクリーンタイムのファミリー共有 (iOSのフィルタリング機能)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Digital Wellbeing (AndroidOSのフィルタリング機能)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ファミリーリンク (AndroidOSのフィルタリング機能)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
au、docomo、Softbankの提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他の <u>フィルタリングサービス</u> (「i-フィルター」「スマモリ」等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

PQ4で一番小さいお子様が何かしらの形でスマートフォンを利用している（子供専用のものがある、兄弟で共用のものを利用している、親のものを利用している）と答えた方にお伺いします。

PQ9.
 あなたの一番小さいお子様は、有害サイトへのアクセスを防止する、スマートフォンのフィルタリングサービスを利用していますか。
 この中から1つお選びください。

ただし、複数のスマートフォンを利用している場合は、一番小さいお子様が最も使っているものについてお答えください。

また、フィルタリングサービスとは、例えば以下のようなものを指します。

- スクリーンタイム (iOSのフィルタリング機能)
- スクリーンタイムのファミリー共有 (iOSのフィルタリング機能)
- Digital Wellbeing (AndroidOSのフィルタリング機能)

- ファミリーリンク (AndroidOSのフィルタリング機能)
- au、docomo、Softbankの提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」
- その他のフィルタリングサービス (「i-フィルター」「スマモリ」等)

(ひとつだけ) 【必須】

- 利用している
- 最初は利用していたが解除した
- 最初から利用していない
- 一番小さい子供が持っているスマートフォンはインターネットに接続できない
- 利用しているかわからない

PQ9でフィルタリングサービスを「利用している」と答えた方にお伺いします。

Q1.

あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、どのフィルタリングを利用していますか。当てはまるものを全てお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

(いくつでも) 【必須】

- スクリーンタイム (iOSのフィルタリング機能)
- スクリーンタイムのファミリー共有 (iOSのフィルタリング機能)
- Digital Wellbeing (AndroidOSのフィルタリング機能)
- ファミリーリンク (AndroidOSのフィルタリング機能)
- au、docomo、Softbankの提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」
- その他のフィルタリングサービス (「i-フィルター」「スマモリ」等)
- わからない

PQ9でフィルタリングサービスを「利用している」と答えた方にお伺いします。

Q2.

あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンでは、具体的にフィルタリングのどのような機能を利用していますか。この中から、当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- Webフィルタリング機能
- アプリフィルタリング機能
- スマートフォン利用可能時間帯の設定・制限
- 利用状況の確認機能 (レポート閲覧、電子メール通知等)
- 位置情報検索機能
- 設定の遠隔操作機能
- インターネット検索のセーフサーチ機能
- 歩きスマホ防止機能
- アプリ内課金を保護者に通知する機能

その他

PQ9でフィルタリングサービスを「利用している」と答えた方にお伺いします。

Q3.

フィルタリングには、お子様の年齢に合わせたフィルタリングレベルが設定されている場合があります。あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンでは、フィルタリングはどの程度の制限レベルを設定していますか。
この中から1つお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

また、一番小さいお子様が高校生で、高校生プラスモードを利用している場合は、「お子様の年齢に合ったレベルのフィルタリング」をお選びください。

(ひとつだけ) 【必須】

- お子様の年齢に合ったレベルのフィルタリング (お子様：中学生、フィルタリング：中学生モード等)
- お子様の年齢よりも制限が弱いフィルタリング (お子様：中学生、フィルタリング：高校生モード等)
- お子様の年齢よりも制限が強いフィルタリング (お子様：中学生、フィルタリング：小学生モード等)
- 小学生・中学生・高校生とレベルのないフィルタリング
- わからない

PQ9でフィルタリングサービスを「利用している」と答えた方にお伺いします。

Q4.

あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、フィルタリングの設定をカスタマイズしていますか。
この中から1つお選びください。

なおカスタマイズとは、フィルタリング強度の設定や個別アプリの使用許可、個別サイトの閲覧許可等を指します。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

(ひとつだけ) 【必須】

- フィルタリングの設定をカスタマイズしている
- フィルタリングの設定をカスタマイズしていない

Q4で「フィルタリングの設定をカスタマイズしていない」と答えた方にお伺いします。

Q5.

フィルタリングの設定をカスタマイズしていない理由は何ですか。
この中から、当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- カスタマイズの存在を知らなかったから
- カスタマイズが必要だと思わなかったから
- カスタマイズの設定方法を知らなかったから
- カスタマイズの設定が面倒そうだから
- 個別サイトやアプリの判断ができないから
- 子供がカスタマイズを嫌がったから
- その他の理由
- 特に理由はない

PQ8でフィルタリングサービスを「利用している」「利用していたが解除した」と答えた方にお伺いします。

Q6.
あなたが一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、フィルタリングを利用し始めた時期はいつですか。
この中から1つお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 2歳以下
- 3歳
- 4歳
- 5歳・6歳で未就学
- 小学1年生
- 小学2年生
- 小学3年生
- 小学4年生
- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生
- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生
- 高校3年生より上

PQ9でフィルタリングサービスを「利用していたが解除した」と答えた方にお伺いします。

Q7.
あなたが一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、フィルタリングを解除した時期はいつですか？
この中から1つお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 2歳以下
- 3歳
- 4歳
- 5歳・6歳で未就学
- 小学1年生
- 小学2年生
- 小学3年生
- 小学4年生
- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生
- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生

高校3年生より上

PQ9でフィルタリングサービスを「利用している」と答えた方にお伺いします。

Q8.

あなたが一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、フィルタリングを使おうと思ったきっかけは何ですか？

この中から、必要だと感じたきっかけとして、当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) **【必須】**

- インターネットでフィルタリングを知って
- 友人や保護者同士の会話の中で
- テレビや本、パンフレットを見て
- 販売店での説明を受けて
- 学校や保育園・幼稚園等での説明を受けて
- 国や地方公共団体や民間団体が行う講座に参加して
- 病院（産科・小児科等）で教えてもらって
- その他
- 特にきっかけはない

PQ9でフィルタリングサービスを「利用していたが解除した」と答えた方にお伺いします。

Q9.

スマートフォンのフィルタリングを解除したのはなぜですか。

当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) **【必須】**

- フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため
- フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため
- 子供にとってフィルタリングが不便と感じたため
- フィルタリングの設定が難しいため
- フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいため
- フィルタリングの効果を実感できなかったため
- お金がかかるため
- 特に必要を感じないため
- その他
- 特に理由はない

PQ9でフィルタリングサービスを「利用していたが解除した」と答えた方にお伺いします。

Q10.

スマートフォンのフィルタリングを解除した後に何か問題は起きましたか。

当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) **【必須】**

- インターネット上のコミュニケーションに関する問題（誹謗中傷、ネットいじめ等）
- 青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題
- インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題（誘い出し、自画撮り等）
- インターネットの過度の利用に関する問題
- プライバシー保護に関する問題
- インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見てしまう問題
- フランクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題
- インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題
- 電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）に関する問題

- セキュリティに関する問題
- その他
- 問題は発生しなかった

PQ9でフィルタリングサービスを「最初から利用していない」と答えた方にお伺いします。

Q11.
スマートフォン・携帯電話のフィルタリングを利用しなかったのはなぜですか。
当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため
- フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため
- 子供にとってフィルタリングが不便と感じたため
- フィルタリングの設定が難しいため
- フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいため
- お金がかかるため
- 購入時に説明を受けなかったため
- フィルタリングサービス自体を知らなかったため
- スマートフォンを保護者と共同で使っているので利用していない
- 子供の周りの友人等がフィルタリングを利用していないため
- 特に必要を感じないため
- その他
- 特に理由はない


PQ9でフィルタリングサービスを「利用していたが解除した」「最初から利用していない」と答えた方にお伺いします。

Q12.
フィルタリングにどのような機能や仕様があれば、利用したいと思いますか？
当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】


- 子供に使わせたいアプリのフィルタリング解除の個別設定が簡単にできる
- スマートフォンに入っているアプリを保護者が確認する機能がある
- サイトの閲覧履歴を保護者が確認する機能がある
- SNSでどのようなメッセージをやり取りしているかを確認する機能がある
- 子供がどのような操作をしているかをモニタリングする機能がある
- 子供のスマートフォン利用時間を把握することができる
- お金を払ってもよいが、今よりも安価で利用できる
- 無料で利用できる
- その他
- どのような機能や仕様であっても利用したくない

Q13.
あなたは、以下のインターネットに潜む危険性についてどの程度知っていますか。
それぞれ最も近いものを1つお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】


	非常によく知っている	知っている	やや知っている	あまり知らない	知らない	全く知らない
インターネット上のコミュニケーションに関する問題（誹謗中傷、ネットいじめ等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題（誘い出し、自撮り等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットの過度の利用に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プライバシー保護に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
クリック詐欺やフィッシング詐欺の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
セキュリティに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q14.
あなたは、以下のインターネットに潜む危険性について、ご自身の一番小さいお子様に関してどれくらい危険と考えていますか。
それぞれ最も近いものを1つお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	危険だと考えている	やや危険だと考えている	どちらでもない	あまり危険だと考えていない	危険だと考えていない
インターネット上のコミュニケーションに関する問題（誹謗中傷、ネットいじめ等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題（誘い出し、自撮り等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットの過度の利用に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プライバシー保護に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
クリック詐欺やフィッシング詐欺の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
セキュリティに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q15.
あなたは、以下のインターネットに潜む危険性について、スマートフォンのフィルタリングサービスがどの程度有効だと思っていますか。
それぞれ最も近いものを1つお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	有効だと思っている	ややフィルタリングが有効だと思っている	どちらでもない	あまりフィルタリングが有効だと思っていない	フィルタリングが有効だと思っていない
インターネット上の <u>コミュニケーション</u> に関する問題（誹謗中傷、ネットいじめ等）	○	○	○	○	○
青少年にとって <u>不適切なウェブサイト・アプリ</u> に関する問題	○	○	○	○	○
インターネットを介した <u>青少年の性的被害</u> に関する問題（誘い出し、自撮り等）	○	○	○	○	○
インターネットの <u>過度の利用</u> に関する問題	○	○	○	○	○
<u>プライバシー保護</u> に関する問題	○	○	○	○	○
インターネット上で思いがけず <u>不快・グロテスクな画像</u> を見くしまう問題	○	○	○	○	○
<u>ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺</u> の問題	○	○	○	○	○
インターネット上に <u>ある薬物や犯罪などの情報</u> に関する問題	○	○	○	○	○
<u>電子商取引（通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金）</u> に関する問題	○	○	○	○	○
<u>セキュリティ</u> に関する問題	○	○	○	○	○

Q16.

フィルタリングサービスの機能として正しいものは、次のうちどれでしょうか。
文章をよく読み、正しいと思うものをこの中から5つお選びください。

(5つ選択) 【必須】

- フィルタリング専用ブラウザでインターネットにアクセスする際に有害情報を遮断することができる
- スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる
- スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる
- 許可したアプリケーションからアクセスするインターネット上の有害情報を遮断することができる
- 子供の居場所を確認することはできない
- フィルタリングで規制されたアプリケーションは、どんなものであっても、後から利用できるように変更することはできない
- フィルタリングの対象年齢の設定は子供の年齢に合わせて、複数のレベルで設定することができる
- フィルタリング設定は遠隔では変更できないので、子どものスマートフォンから直接変更する必要がある
- 有害サイトやアプリケーションの利用制限はできるが、使い過ぎを防ぐ利用時間の制限はできない
- 年齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる

Q17.

あなたが一番小さいお子様のスマートフォンの使い方について、何か家庭でルールを決めているでしょうか。
あなたの家庭で決めているスマートフォンの使い方のルールについて、当てはまるものを全てお選びください。

ただし、ルールを特に決めていない場合は、「ルールは決めていない」をお選びください。
兄弟で共用のものを利用している、親のものを利用しているといった場合も、それらを利用する際のルールについてお答えください。

(いくつでも) 【必須】

- 利用する時間
- ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法
- 困ったときにはすぐに保護者に相談する
- 利用するサイトやアプリの内容
- 利用する場所
- 送信・投稿する内容
- 利用者情報が漏れないように注意すること

- メールやメッセージを送る相手
- その他
- ルールは決めていない

Q18.

あなたの一番小さいお子様は、これまでにインターネットを利用して以下のようなトラブルに遭ったことがあるでしょうか。

この中から当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- インターネット上のコミュニケーションに関するトラブルに巻き込まれた
- 青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリを見つけた
- インターネットを介した性的被害(誘い出し、自撮り等)にあった
- インターネットにのめり込んで、保護者が注意してもインターネットを止めなかった
- インターネットの過度の利用による健康的被害にあった
- プライバシー情報に関するトラブルに巻き込まれた
- インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見つけた
- ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺にあった
- インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関するトラブルに巻き込まれた
- 電子商取引(通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金)に関するトラブルに遭った
- コンピュータウイルスに感染するなど、セキュリティに関する被害にあった
- その他
- トラブルに遭ったことはない

Q19.

あなたは自身はインターネットを利用して、以下のトラブルに巻き込まれたことがありますか？

当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- インターネット上のコミュニケーションに関するトラブルに巻き込まれた
- インターネットを介した性的被害(誘い出し、自撮り等)にあった
- インターネットの過度の利用による健康的被害にあった
- プライバシー情報に関するトラブルに巻き込まれた
- インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見つけた
- ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺にあった
- インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関するトラブルに巻き込まれた
- 電子商取引(通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金)に関するトラブルに遭った
- コンピュータウイルスに感染するなど、セキュリティに関する被害にあった
- その他
- トラブルに遭ったことはない

Q20.

一番小さいお子様が利用しているスマートフォンを購入する際に、フィルタリングや使わせ方など保護者の管理について、説明等ありましたか。

当てはまるものを1つお選びください。

ただし、親や兄弟と共用の場合は、その共用のスマートフォンを購入する際にどうだったかお答えください。一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。


(ひとつだけ) 【必須】

- 説明または資料があった
- 購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった
- 説明や資料は無かった
- 購入する際にその場にいたが、覚えていない
- 購入する際にその場にいなかったため、わからない
- 購入したものではない

Q21.
 あなたが最後に卒業した学校について、もっとも近いものを1つお選びください。
 ただし、現在学生の場合は、現在所属している学校をお選びください。


- (ひとつだけ) 【必須】
- 大学院
 - 大学
 - 短大・高専
 - 専門学校
 - 高校 (旧制中学)
 - 中学 (旧制小学)

Q22.
 あなたはスマートフォンやインターネットを利用し始めて何年経ちましたか。
 あなたのスマートフォンとインターネット利用歴について、それぞれ当てはまるものを1つお選びください。
 なお、インターネット利用歴には、PCによるインターネット利用を含めた年数をお答えください。
 また、スマートフォンを利用していない場合は、「0年 (利用していない)」をお選びください。

 (縦にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	スマートフォン	インターネット
0年 (利用していない)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
半年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
半年～1年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1年～2年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2年～4年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4年～7年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7年～10年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10年～15年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15年～20年未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20年以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q23.
 あなたは以下のアプリ・サービスを、スマートフォンで日ごろどれくらい利用 (視聴・閲覧・投稿等) していますか。
 最も近いものを1つお選びください。
 平日・休日を合わせて、平均して1日あたり利用している時間を教えてください。
 日ごろしていない場合は0分をお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	0分	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～
--	----	-------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------

	0分	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～5時間未満	5時間～
動画共有サービス（YouTube・ニコニコ動画など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゲームアプリ（Pokémon Go・モンスターストライクなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学習・勉強・知育アプリ（Studyplus・コソ勉・単語帳メーカーなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
クチコミサイト（食べログ・@cosme・楽天トラベルなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メッセージアプリ（LINE・Messengerなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SNS（Facebook・Twitter・Instagram・TikTokなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
検索エンジン（Google・Yahoo!検索など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子書籍（Kindle・LINEマンガなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ネットニュース（Yahoo!ニュース・LINE NEWS・まとめサイトなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト（メルカリ・Amazon・楽天など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q23で「0分」以外と回答されたアプリ・サービスについてお伺いします。

Q24.

あなたはそのアプリ・サービスをスマートフォンで利用し始めて何年経ちましたか。それぞれのアプリ・サービスの利用歴をお教えてください。
この中から最も近いものを1つずつお選びください。



（横にそれぞれひとつずつ）【必須】

	半年未満	半年～1年未満	1年～2年未満	2年～4年未満	4年～7年未満	7年～10年未満	10年～13年未満	13年～16年未満	16年～20年未満	20年以上
動画共有サービス（YouTube・ニコニコ動画など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゲームアプリ（Pokémon Go・モンスターストライクなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学習・勉強・知育アプリ（Studyplus・コソ勉・単語帳メーカーなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
クチコミサイト（食べログ・@cosme・楽天トラベルなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メッセージアプリ（LINE・Messengerなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SNS（Facebook・Twitter・Instagram・TikTokなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
検索エンジン（Google・Yahoo!検索など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子書籍（Kindle・LINEマンガなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ネットニュース（Yahoo!ニュース・LINE NEWS・まとめサイトなど）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト（メルカリ・Amazon・楽天など）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q25.

あなたの一番小さいお子様は以下のことを、スマートフォンで日ごろ利用（視聴・閲覧・投稿等）していま

すか。
 日ごろ利用しているものとして、**当てはまるものを全てお選びください。**

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

(いくつでも) 【必須】

- 動画共有サービス (YouTube・ニコニコ動画など)
- ゲームアプリ (Pokémon Go・モンスターストライクなど)
- 学習・勉強・知育アプリ (Studyplus・コン勉・単語帳メーカーなど)
- クチコミサイト (食べログ・@cosme・楽天トラベルなど)
- メッセージアプリ (LINE・Messengerなど)
- SNS (Facebook・Twitter・Instagram・TikTokなど)
- 検索エンジン (Google・Yahoo!検索など)
- 電子書籍 (Kindle・LINEマンガなど)
- ネットニュース (Yahoo!ニュース・LINE NEWS・まとめサイトなど)
- フリマアプリ、ショッピング・オークションサイト (メルカリ・Amazon・楽天など)

Q26.
 あなたとあなたの一番小さいお子様は、青少年に不適切なサイト (出会い系サイトやアダルトサイトなど) やネットいじめの問題など、**インターネットに潜む危険性について、これまで何らかの手段で見聞きしたことがありますか。**
 この中から、**経験したことがあるものとして、当てはまるものを全てお選びください。**



(縦にそれぞれいくつでも) 【必須】

	あなた自身	一番小さいお子様
学校や保育園・幼稚園等の保護者会などで話を聞いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
機器購入時の販売員説明や資料で知った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学校(通学時)で説明を受けた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国・地方公共団体や民間団体が行う講座で話を聞いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
病院 (産科、小児科等) での説明で話を聞いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
テレビや本・パンフレットなどで読んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネットのサイトで知った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
友人・知人から口コミで聞いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他 <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
見聞きした経験はない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q26でいずれかの経験があると回答した方にお伺いします。


Q27.
 それらの**経験を通じて、インターネットの危険性について、どのような内容の説明を見聞きしましたか。**
 この中から、**見たり聞いたりした内容として、当てはまるものを全てお選びください。**



(縦にそれぞれいくつでも) 【必須】


	あなた自身	一番小さいお子様
インターネット上の <u>コミュニケーション</u> に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題（誘い出し、自画撮り等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネットの <u>過度の利用</u> に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<u>プライバシー保護</u> に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<u>クリック詐欺</u> や <u>フィッシング詐欺</u> の問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネット上にある <u>薬物</u> や <u>犯罪</u> などの <u>情報</u> に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電子商取引（ <u>通販</u> 、 <u>個人間取引</u> 、 <u>フリマアプリ</u> 、 <u>オンライン課金</u> ）に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<u>セキュリティ</u> に関する問題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q28.
 あなたは日ごろ一番小さいお子様と、どのくらいの時間接していますか？
 平日と休日のそれぞれ、平均して1日あたり接している時間を教えてください。

 (縦にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	平日	休日
ほとんどない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
30分未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
30分～1時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1時間～2時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2時間～3時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3時間～5時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5時間～7時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7時間～10時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10時間～13時間未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13時間以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q29.
 一番小さいお子様との関係性について、お伺いします。
 当てはまるものをそれぞれお選びください。

 (横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
この子（一番小さいお子様）は誰よりも私になついていると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
この子（一番小さいお子様）は誰よりも私が好きだと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この子（一番小さいお子様）は私と一緒にいて幸せだと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この子（一番小さいお子様）が何を欲しいか、どうしてもらいたいかは誰よりも私が理解できると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この子（一番小さいお子様）は私の気持ちがよくわかると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この子（一番小さいお子様）のことは信頼できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q30.

あなた家の世帯年収はおおよそいくらですか。額面での世帯年収をお答えください。

（ひとつだけ）【必須】

- 0円（なし）
- 100万円未満
- 100万円～200万円未満
- 200万円～300万円未満
- 300万円～500万円未満
- 500万円～700万円未満
- 700万円～1000万円未満
- 1000万円～1500万円未満
- 1500万円～2000万円未満
- 2000万円以上

Q31.

あなたと同居している人について、以下の中から該当する人をすべてお選びください。

（いくつでも）【必須】

- あなたのパートナー（結婚相手や彼氏・彼女）
- あなたやあなたのパートナーの父親
- あなたやあなたのパートナーの母親
- あなたやあなたのパートナーの兄弟・姉妹
- あなたの子供
- その他の親族
- その他

Q32.

一番小さいお子様が使っているスマートフォンについて、契約しているキャリアをお答えください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。


兄弟で共用のものを利用している、親のものを利用しているといった場合は、それらの契約しているキャリアをお答えください。

（ひとつだけ）【必須】

- au
- docomo
- Softbank
- Y!mobile
- 楽天モバイル

- IIJmio
- UQ mobile
- BIGLOBEモバイル
- TONEモバイル
- mineo
- イオンモバイル
- OCNモバイル ONE
- LINEモバイル
- その他格安SIM (MVNO)
- 契約は切れている


Q33.
 あなたと、同居している一番小さいお子様は、平均して1日当たり、どのくらいの時間、スマートフォンを使いますか。
 それぞれ最も近いものを1つお選びください。

 (縦にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	あなた自身	一番小さいお子様
15分未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15分～30分未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
30分～1時間未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1時間～2時間未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2時間～3時間未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3時間～4時間未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4時間～5時間未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5時間～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34.
 あなたと、一番小さいお子様が使っているスマートフォンについて、利用している機種をお答えください。

ただし、複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

 (縦にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	あなた自身	一番小さいお子様
iPhoneシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Xperiaシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Galaxyシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
AQUOSシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
LGシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Google Pixelシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

	あなた自身	一番小さいお子様
HUAWEIシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
OPPOシリーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
機能限定(子ども用)スマートフォン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他スマートフォン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q35.
 お子様をインターネット上の潜在的な危険性から守る手段として、フィルタリング以外にもペアレンタルコントロールに関する機能が存在しています。
 あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、フィルタリング以外のペアレンタルコントロールに関する機能は利用していますか。
 フィルタリング以外のペアレンタルコントロールに関する機能で利用しているものを全てお選びください。


ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

- (いくつでも) 【必須】
- アプリ内の設定をしている
 - SNSの利用監視サービス (FIII等) を導入している
 - 時間管理アプリや機能を導入している
 - その他のペアレンタルコントロール機能を導入している
 - 利用していない

Q36.
 スマートフォンのフィルタリングサービスは、有害情報排除、位置情報確認、利用時間管理等の様々なサービスを提供し、何を利用するかは保護者が選択できます。
 子供がスマートフォンを利用する際に、このフィルタリングサービスを導入することについて、あなた(保護者自身)はどう思いますか。
 以下から最も当てはまるものをひとつ選んでください。

- (ひとつだけ) 【必須】
- 子供を守る有益なサービスである
 - 子供に不便もあるが、子供を守るためには必要なサービスである
 - 子供と信頼関係があり、適切にルール作りができれば不要である
 - 不要なサービスである

Q37.
 あなたの周りに、以下のものの使い方・設定の仕方について詳しい人物はいましたか？
 それぞれ当てはまるものを全てお選びください。

 (縦にそれぞれいくつでも) 【必須】

	スマートフォン	インターネット	スマートフォンのフィルタリング

	スマートフォン	インターネット	スマートフォンのフィルタリング
親族	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
親しい友人	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知り合い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
会社の同僚や上司	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
詳しい人物はいなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q38.

あなたのお子様は、スマートフォンのフィルタリングに対してどのような評価をお持ちですか？
最も近いと思うものを1つお選びください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 自分（子供）にとって、プラスになると考えている
- 自分（子供）にとって、どちらかというプラスになることが多いと考えている
- 自分（子供）にとって、どちらかというマイナスになることが多いと考えている
- 自分（子供）にとって、マイナスになると考えている
- わからない

Q39.

あなたのお子様は、フィルタリングに対してどのように感じていますか？
当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- 有言サイトにアクセスすることがないので安心できる
- フィルタリングを利用するかどうかは、親子で相談して決めるのがよい
- フィルタリングを利用するかどうかは、親が判断するべきだ
- フィルタリングを利用するかどうかは、使っている本人が判断するのがよい
- 子供は必ずフィルタリングを利用するべきだ
- インターネットが使いにくくなる
- あてはまるものはない
- わからない

Q40.

あなたの子育てに関して、どのような気持ちをお持ちで子育てをされていますか？
それぞれ、最も近いと思うものを1つお選びください。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	とてもいい	まあいい	どちらでもない	まあ悪い	とても悪い
--	-------	------	---------	------	-------

	とても当てはまる	当てはまる	どちらともいえない	当てはまらない	全く当てはまらない
私の子供の <u>いいところ</u> を具体的に10個程度あげることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の子供の <u>頑張っているところ</u> （努力しているところ）が具体的に10個程度あげることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供を <u>ほめる</u> ことが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
最近、子供の <u>成長が楽しみ</u> になってきた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この頃、子供を <u>頼もしく</u> 思うことが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の子供は、とても <u>かわい</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の <u>子育て</u> はかなりうまくいっていると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の話をできるだけ <u>聞く</u> ようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子育てで困ったときは、自分の <u>配偶者</u> や <u>親</u> に相談している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子育てで困ったときに、相談する <u>相手</u> が <u>いなくて</u> 苦勞することがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供と <u>一緒に遊び</u> に出かける	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供とできるだけ <u>長く一緒に過ごす</u> ようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の <u>学習課題</u> （幼児教材含む）などを見てやるようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子育てで困ったときは、自分の <u>友人</u> たちに相談している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の <u>こと</u> について <u>考えない</u> ようにしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供が言うことを聞かない場合、 <u>脅かしたり</u> するような強い <u>厳しいしかり方</u> をする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供が言うことを聞かない場合、 <u>叩いたり</u> などの強い <u>厳しいしかり方</u> をする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供を <u>叱る</u> ことが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の子供は <u>私が気になる行動</u> （私を怒らせる行動）をすることが多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の子供は、 <u>育てにくい</u> 子供だったと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の子供は、 <u>育てやすい</u> 子供だったと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
育児期に子供の <u>育児が辛い</u> と思っていた（いる）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
育児期に子供の <u>育児が楽しい</u> と思っていた（いる）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この頃、子供が <u>親の言うこと</u> を聞かなくなってきた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
この頃、子育てが <u>難しく</u> なってきたと感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
最近、子供が <u>何を</u> 考えているか <u>わからない</u>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

PQ9で「（フィルタリングを）最初は利用していたが解除した」と答えた方にお伺いします。

Q41.
 あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンで、解除する前に利用していたフィルタリングは何だったでしょうか。
 当てはまるものを全てお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

（いくつでも）【必須】

- スクリーンタイム（iOSのフィルタリング機能）
- スクリーンタイムのファミリー共有（iOSのフィルタリング機能）

我が国における青少年のインターネット利用に係るフィルタリングに関する調査 報告書

- Digital Wellbeing (AndroidOSのフィルタリング機能)
- ファミリーリンク (AndroidOSのフィルタリング機能)
- au、docomo、Softbankの提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」
- その他のフィルタリングサービス（「i-フィルター」「スマモリ」等）
- わからない

A 2. 実験的調査における提供資料・追跡調査票

A 2. 1. 提供資料

A 2. 1. 1. 資料A

誰にも言えない...
—保護者が気付かない、これだけのトラブル実例—

1. 画像をばらまくぞ！（自撮り画像で脅迫）
インターネットで知り合った相手に「体型の悩み」の相談をしていたところ、「裸の自撮り画像を交換しよう」と持ちかけられ…相手を信じて送信すると、「画像をばらまくぞ!」と態度が豹変。実は、相手は同性・同世代を装って近づいてきていたのです。このように、脅され、誰にも言えず苦しんでいる子どもがいます。

2. 突然請求された！（子どもを狙う架空請求）
スマホの画面に突然「お申込み完了」「今月は99,850円です」という表示が！慌てて連絡すると、「分割払いでもOK」「上司に頼んで値引きしてもらったよ」と親身に対応され、信用してお金を振り込んでしまいました。もちろん詐欺です。最近は成人だけではなく、未成年もネット詐欺のターゲットになっています。

3. アダルト動画を見たばかりに…！（有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染）
ネット上のアダルト動画には違法コンテンツが多く、知らぬ間に有料サイトや詐欺サイトに誘導されるケースもあります。画面を開いただけでウイルスに感染する悪質なサイトも。誰にも相談できず一人で悩んでいる子どもがいます。

フィルタリングサービスとは

有害・違法情報を遮断できる！
アプリの利用を把握できる！
利用時間を管理できる！

サービスの総称です。お子さまが安全にインターネットを使い、保護者が安心して見守るための機能となります。フィルタリングによる制限は、段階的に調整できるので、お子さまの成長に合わせた見守りが可能です。また、アプリ単位で閲覧や使用の可否を個別に設定（カスタマイズ）することができます。

※1 犯罪、薬物、詐欺、アダルト、危険なサイトといった違法・有害情報サイトへの接続や年齢に達しないアプリの利用を阻止できます。
※2 どんなアプリを使っているか確認できます。インストールを許可制にすることも可能です。
※3 アプリ毎の利用時間を確認できます。時間制限を設けることも可能です。

※一般的なフィルタリングサービスについて紹介したものであり、各社提供のフィルタリングサービスによって詳細が異なる場合がございます。

A2. 1. 2. 資料B



お子さまのスマホ利用が 見える！ 守れる！

小学生
 中学生
 高校生

1. お子さまの成長に合わせて調整出来る

家庭のルールやお子さまの成長にあわせて、使える機能、使えるアプリを調整できます。フィルタリングサービスによっては、小学生、中学生、高校生、高校生プラスといったデフォルト設定もありますが、「SNSに慣れてきたから、このチャットアプリだけ許可しよう」といったカスタマイズも可能です。



2. 離れた場所からコントロール出来る！

スマホやアプリごとに何時間使ったか？といった利用時間の確認ができます。確認だけでなく、「いつまでもゲームをやめない」というお子さまには、離れた場所からでも保護者の端末でアプリの強制停止も可能です。また、アプリのインストールを、保護者の許可制にすることもできます。さらに、お子さまがどんな情報を見ていたのか、保護者が後からチェックできる機能もあります。



3. アダルトなどの違法・有害情報を遮断できる！

犯罪、薬物、詐欺、アダルト、海賊版といった違法・有害情報サイトへのアクセスやアプリの利用を遮断できます。お子さまが積極的に危険なサイトにアクセスすること等を防ぐだけでなく、うっかり違法・有害なコンテンツに触れてしまうことも防げます。

フィルタリング設定は簡単 4 ステップ

Step 1



保護者とお子さまの端末でアプリをダウンロードする

Step 2



初期設定をする

Step 3



モードを選んで
(小学生・中学生・高校生・高校生プラス)

Step 4



アプリ毎の利用制限や利用時間の制限をカスタマイズするだけ

※一般的なフィルタリングサービスについて紹介したものであり、各社提供のフィルタリングサービスによって詳細が異なる場合がございます。

A 2. 2. 追跡調査票

以下、資料 A を提供したグループへの調査票となる。ただし、各フィルタリングサービスについて例示している質問 (SQ1) は、実際に調査においてはフィルタリングサービスのアイコン画像を提示し、回答者が回答しやすい設計とした。

SQ1.

あなたの一番小さいお子様は、有害サイトへのアクセスを防止する、スマートフォンのフィルタリングサービスを利用していますか。

現在の状況について当てはまるものを1つお選びください。

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。

また、兄弟で共用のものを利用している、親のものを利用しているといった場合も、そのスマートフォンについてお答えください。

フィルタリングサービスとは、例えば以下のようなものを指します。

- スクリーンタイム (iOSのフィルタリング機能)
- スクリーンタイムのファミリー共有 (iOSのフィルタリング機能)
- Digital Wellbeing (AndroidOSのフィルタリング機能)
- ファミリーリンク (AndroidOSのフィルタリング機能)
- au、docomo、Softbankの提供するフィルタリングサービス「あんしんフィルター」
- その他のフィルタリングサービス (「i-フィルター」「スマモリ」等)

(ひとつだけ) 【必須】

- 利用している
- 利用していない

これからインターネットとフィルタリングサービスに関するリーフレットを見ていただきます。
よくお読みになってから、次の問いにお進みください。

誰にも言えない...

—保護者が気付かない、これだけのトラブル事例—

1. 画像をばらまくぞ！（自撮り画像で脅迫）

インターネットで知り合った相手に「体型の悩み」の相談をしていたところ、「裸の自撮り画像を交換しよう」と持ちかけられ…相手を信じて送信すると、「画像をばらまくぞ！」と態度が豹変。実は、相手は同性・同世代を装って近づいてきていたのです。このように、脅され、誰にも言えず苦しんでいる子どもがいます。

2. 突然請求された！（子どもを狙う架空請求）

スマホの画面に突然「お申込み完了」「今月は99,850円です」という表示が！慌てて連絡すると、「分割払いでもOK」「上司に頼んで値引きしてもらったよ」と親身に対応され、信用してお金を振り込んでしまいました。もちろん詐欺です。最近は成人だけではなく、未成年もネット詐欺のターゲットになっています。

3. アダルト動画を見たばかりに…！（有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染）

ネット上のアダルト動画には違法コンテンツが多く、知らぬ間に有料サイトや詐欺サイトに誘導されるケースもあります。画面を開いただけでウイルスに感染する悪質なサイトも。誰にも相談できず一人で悩んでいる子どもがいます。

フィルタリングサービスとは

有害・違法情報を遮断できる！
アプリの利用を把握できる！
利用時間を管理できる！

サービスの総称です。お子さまが安全にインターネットを使い、保護者が安心して見守るための機能となります。フィルタリングによる制限は、段階的に調整できるので、お子さまの成長に合わせた見守りが可能です。また、アプリ単位で閲覧や使用の可否を個別に設定（カスタマイズ）することができます。

※1 犯罪、暴力、詐欺、アダルト、差別といった違法・有害情報サイトへの接続や年齢に達しないアプリの利用を阻止できます。
※2 どんなアプリを使っているか確認できます。インストールも許可制にすることも可能です。
※3 アプリ毎の利用時間を確認できます。時間制限をかけることも可能です。

※一般的なフィルタリングサービスについて紹介したものであり、各社提供のフィルタリングサービスによって詳細が異なる場合がございます。

今お読みいただいたリーフレットについてお伺いします。

EQ1A.

書かれていた内容として当てはまるものを、次の中から3つお選びください。

(3つ選択) 【必須】

- ネットで知り合った人に裸の自撮り画像を送信し、「画像をばらまくぞ！」と脅されて苦しんでいる子供がいる
- ネット上には、子供を狙う架空請求がある
- ネット上のアダルト動画を見たせいで有料サイト・詐欺サイトや画面を開いただけでウイルスに感染する悪質なサイトに誘導され、誰にも相談できず一人で悩んでいる子供がいる
- ゲームでアイテムを大量購入してしまい、高い請求が来てしまって悩んでいる子供がいる
- ネットに依存して長時間スマートフォンを利用するようになり、学校をやめてしまう子供がいる

今お読みいただいたリーフレットについてお伺いします。

EQ2.

このリーフレットの内容を読んで、あなたの一番小さいお子様が利用しているスマートフォンについて、フィルタリングサービスを利用しようと思われましたか？

ただし、一番小さいお子様が複数のスマートフォンを利用している場合は、最も使っているものについてお答えください。
兄弟で共用のものを利用している、親のものを利用しているといった場合も、そのスマートフォンについてお答えください。

(ひとつだけ) **【必須】**

- 利用しようと思った
- 利用しようと思わなかった

EQ2でフィルタリングサービスを「利用しようと思った」と回答した方にお伺いします。

EQ3.

利用しようと思った理由は何ですか？当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) **【必須】**

- フィルタリングによって、子供の適切なインターネット利用を管理できると感じたため
- フィルタリングで使えないと思っていたサービスやアプリを、子供に使わせることができるようになったため
- 子供にとってフィルタリングが不便ではないと感じたため
- フィルタリング自体の設定(カスタマイズ設定を除く)が難しくないと感じたため
- フィルタリングのカスタマイズ設定が難しくないと感じたため
- フィルタリングの効果を理解できたため
- フィルタリングによって、子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理できると分かったため
- フィルタリングサービス自体を知ることができたため
- フィルタリングによって、アダルトなどの違法・有害サイトのアクセスを遮断できると分かったため
- インターネットに潜む危険性について理解することができたため
- 自撮り画像、架空請求、有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染などの問題が、自分の子供にも危険であると
感じたため
- その他
- 特に理由はない

EQ2でフィルタリングサービスを「利用しようと思わなかった」と回答した方にお伺いします。

EQ4.

利用しようと思わなかった理由は何ですか？当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) **【必須】**

- フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため
- そもそも子供の適切なインターネット利用を管理する必要を感じないため
- フィルタリングで使えないサービスやアプリを子供に使わせるため
- 未だ、子供にとってフィルタリングが不便と感じるため
- 未だ、フィルタリング自体の設定(カスタマイズ設定を除く)が難しいと感じるため
- 未だ、フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいと感じるため
- 未だ、フィルタリングの効果を理解できなかったため
- フィルタリングによって、子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理することを必要と感じないため
- フィルタリングによって、アダルトなどの違法・有害サイトのアクセスを遮断することを必要と感じないため
- インターネットに潜む危険性について理解することができなかったため
- 自撮り画像、架空請求、有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染などの問題が、自分の子供にも危険であると
感じなかったため
- その他
- 特に理由はない

EQ2でフィルタリングサービスを「利用しようと思わなかった」と回答した方にお伺いします。

EQ5.
 どのような情報が提供されると利用しようと思えますか？
 当てはまるものを全てお選びください。

(いくつでも) 【必須】

- フィルタリングを利用しない場合、子供のインターネット利用を管理しないリスクについて
- フィルタリングで使えないサービスやアプリを子供に使わせるための方法
- 子供にとってフィルタリングが不便と感じないフィルタリングの設定・使い方
- フィルタリング自体の設定(カスタマイズ設定を除く)を簡単にを行うための方法
- フィルタリングのカスタマイズ設定を簡単にを行うための方法
- フィルタリングの効果についての更に詳しい説明
- 子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理することの意義について
- アダルトなどの違法・有害サイトのアクセスを遮断することの意義について
- インターネットに潜む危険性についての更に詳しい説明
- 自撮り画像、架空請求、有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染などの問題が、自分の子供に危険かどうかの説明
- その他
- どのような情報が提供されても、利用しようと思わない

今お読みいただいたリーフレットについてお伺いします。

EQ6.
 リーフレットを読んで、あなたが一番小さいお子様のスマートフォンの使い方について、何か家庭でルールを決めようと思ったでしょうか。
 次の各ルールについて、「現在決めているルール」「リーフレットを読んで新しく決めようと思ったルール」「このルールは現在決めていないし、新しく決めようとも思わなかった」のいずれかをお選びください。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	現在決めているルール	新しく決めようと思ったルール	このルールは現在決めていないし、新しく決めようとも思わなかった
利用する時間	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
困ったときにはすぐに保護者に相談する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
利用するサイトやアプリの内容	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
利用する場所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
送信・投稿する内容	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
利用者情報が漏れないように注意すること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メールやメッセージを送る相手	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他(回答任意) <input type="text"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

EQ7.
あなたは、以下のインターネットに潜む危険性についてどの程度知っていますか。
それぞれ最も近いものを1つお選びください。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	非常によく知っている	知っている	やや知っている	あまり知らない	知らない	全く知らない
インターネット上のコミュニケーションに関する問題 (誹謗中傷、ネットいじめ等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題 (誘い出し、自撮り等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットの過度の利用に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プライバシー保護に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子商取引 (通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金) に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
セキュリティに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

EQ8.
あなたは、以下のインターネットに潜む危険性について、ご自身の一番小さいお子様に関してどれくらい危険と考えていますか。
この中から、あてはまるものを選んでください。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	危険だと考えている	やや危険だと考えている	どちらでもない	あまり危険だと考えていない	危険だと考えていない
インターネット上のコミュニケーションに関する問題 (誹謗中傷、ネットいじめ等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題 (誘い出し、自撮り等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットの過度の利用に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プライバシー保護に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子商取引 (通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金) に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
セキュリティに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

EQ9.
あなたは、スマートフォンのフィルタリングサービスについてどのように感じていますか。
この中から、あてはまるものを選んでください。



(横にそれぞれひとつずつ) 【必須】

	有効だと思 っている	やや有効 だと思っ ている	どちら でもない	あまり 有効だ と思っ ていな い	有効 だと思 って いな い
インターネット上のコミュニケーションに関する問題 (誹謗中傷、ネットいじめ等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
青少年にとって不適切なウェブサイト・アプリに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットを介した青少年の性的被害に関する問題 (誘い出し、自撮り等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネットの過度の利用に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
プライバシー保護に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上で思いがけず不快・グロテスクな画像を見ってしまう問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターネット上にある薬物や犯罪などの情報に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
電子商取引 (通販、個人間取引、フリマアプリ、オンライン課金) に関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
セキュリティに関する問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

EQ10.
フィルタリングサービスの機能として正しいものは、次のうちどれでしょうか。
文章をよく読み、正しいと思うものをこの中から5つお選びください。

(5つ選択) 【必須】

- フィルタリング専用ブラウザでインターネットにアクセスする際に違法・有害情報を遮断することができる
- スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる
- スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる
- 許可したアプリケーションからアクセスするインターネット上の違法・有害情報を遮断することができる
- 子供の居場所を確認することはできない
- フィルタリングで規制されたアプリケーションは、どんなものであっても、後から利用できるように変更することはできない
- フィルタリングの対象年齢の設定は子供の年齢に合わせて、複数のレベルで設定することができる
- フィルタリング設定は遠隔では変更できないので、子どものスマートフォンから直接変更する必要がある
- 有害サイトやアプリケーションの利用制限はできるが、使い過ぎを防ぐ利用時間の制限はできない
- 年齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる

EQ2でフィルタリングサービスを「利用しようと思った」と回答した方にお伺いします。

EQ11.
フィルタリングサービスを利用する際に、あなたはひと月あたりいくらまで支払っても良いと思いますか。
その支払ってよい最高額 (税込み)について、最も近いものを1つお選びください。

ただし、有料であれば利用しようと思わない場合は、「0円 (無料なら利用したいと思う)」をお選びください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 0円 (無料なら利用したいと思う)
- 100円程度
- 200円程度

- 300円程度
- 500円程度
- 700円程度
- 1000円程度
- 1000円より高い

EQ2でフィルタリングサービスを「利用しようと思わなかった」と回答した方にお伺いします。

EQ12.

フィルタリングサービスが無料だったとしたら、あなたは利用したいと思うでしょうか。
当てはまるものを1つお選びください。

(ひとつだけ) 【必須】

- 無料なら利用したい
- 無料でも利用したくない

A 3. 保護者インタビュー調査票

A および B からそれぞれ適した調査票を選択・肢実施している。

A:専用・共用の状況（専用、共用の2つから1つ選択）

【専用している場合】

項目	インタビュー文言
利用概況	
1 機器の種類・通信会社	「お子様はどのようなスマートフォンを使っていますか？」
2 購入時期・場所	「いつ頃購入されましたか？それはどこでしたか？」
3 主な用途	「お子様はスマートフォンでどのようなことをされていますか？」 「どのようなアプリやサービスをどのような目的で使っていますか？」
4 利用量	「また、1日にどれくらい使っていますか？（おおよそ）」 「3と合わせて、それぞれどれくらいの割合で使用していますか？（家族との連絡目的、勉強目的、娯楽目的、それぞれの割合など）」
ペアレンタルコントロール	
5 設定状況	「お子様専用にするにあたって、最初に約束したり決めたりしたことはどのようなものでしょうか？」 「現在の専用となる前にはお子様は親御さんのスマートフォンなどを利用していましたでしょうか？利用していた場合、その時にフィルタリング等、管理はされていなかったでしょうか？」 「時間管理機能、フィルタリングその他の管理用アプリの利用や家庭でのルール作りなど、具体的にどのようなことをしましたか？」
6 参考情報	「上記を約束したり決めたりするうえで、参考にした情報はどのようなものがありますか？その情報はどのように入手しましたか？」
7 理由・背景	「どのようなお考えでその設定にしましたか？」 「お子様のスマートフォン利用（インターネット環境）に関してどのような状況・環境（用途別に管理できる、お子様が本来自分で危機管理をできる年齢になってからスマートフォンを

	<p>所有する、普段は自由に使えるがリスクがある場合のみ親元 にアラートがくる、など) が理想的であると考えています か？」</p> <p>「子育てに関して、全体的にどのような方針がありますで しょうか」</p>
8 プロセス	<p>「現在の在り方をするにあたり、どのようにお子様や家族と 話し合い決めましたか？」</p> <p>「家族での意見の違いはありましたか？」</p> <p>「お子様の反応はどういったものでしたか？」</p> <p>「お子様から示された条件やお願いされたことはあります か？」</p> <p>「利用期間が長くなったり利用目的が増えたりするにつれ て、約束や管理のあり方について変更はありましたか？どの ような理由のもと、どのような変更を加えましたか？」</p>
9 管理方法	<p>「上記で決めたことをどのように管理・担保されています か？(特に家庭内ルール作りや、親がなるべく見れる状態なの か、子供の自主性に任せる形なのか)」</p> <p>「(管理できていない場合は、) 子供に任せるという方針なの か、やり方がわからなくてできていないのでしょうか？」</p>
10 課題	<p>「お子様のスマートフォン利用を管理するにあたって課題だ と思うことはありますか？(使いすぎてしまう、課金などのゲ ームに興味をもつ、など)」</p>
11 ニーズ	<p>「お子様がより良い状況・環境(前述された内容)でスマート フォン利用をするにあたって、親としてしたいこと、こうい う情報やサービスがあったらいい、というものはありますか？」</p>
インターネット接続への意識と課題、ニーズ	
12 全般的な意識	<p>「特にお子様のインターネット接続に関して、そのポジティ ブな側面とネガティブな側面についてどのように意識してい ますか？」</p>
13 有害情報等への意識	<p>「特に有害情報(不適切なウェブサイト)へのアクセスや SNS・オンラインゲームの利用などへの危機感や不安なこと はありますか？」</p>
14 エピソード	<p>「具体的に危機感を覚えたことや、不安になったエピソード はありますか？」</p> <p>「お子様自身ではなくても、身近な人の話や報道などを通じ て危機感を覚えたことはありますか？」</p>

15 対策	「そうしたネガティブな側面や不安な要素に対して、どのような対策をしていますか？また（取り組みに対して）不足していると感じることはありますか？」
16 ニーズ	「ネガティブな側面や不安・不足な要素に対して、欲しい情報や欲しいサービスはありますか？」

【共用している場合】

項目	インタビュー文言
利用概況	
1 機器の種類・通信会社	「どのようなスマートフォンを使っていますか？」
2 購入時期・前提	「いつ頃購入されましたか？それはどこでしたか？」 「購入されたときから共用することが前提でしたか？」
3 共用の形態・時期・きっかけ	「誰と共用していますか？」 「共用するようになったのはなぜですか？（きっかけ）またいつ頃（学齢）ですか？」
4 利用環境	「どのような形で共用にしていますか？（リビングで使うなど）」 「親御さんの目の届かないところでお子様一人で使うこともありますか？」
5 主な共用用途	「お子様がスマートフォンを使うときは主にどのようなことをされていますか？」 「どのようなアプリやサービスをどのような目的で使っていますか？」
6 利用量	「また、お子様は1日にどれくらい使っていますか？（おおよそ）」 「3と合わせて、それぞれどれくらいの割合で使用していますか？（家族との連絡目的、勉強目的、娯楽目的、それぞれの割合など）」
7 共用の期間	「いつ頃まで共用を予定していますか？」 「お子様専用のスマートフォンを購入するのはいつ頃を予定していますか？」 「共用から専用に変えるための条件は予定していますか？」
ペアレンタルコントロール	
8 設定状況	「お子様が利用にするにあたって、約束したり決めたりしたことはありますか？」 「時間管理機能、フィルタリングその他の管理用アプリの利

	用や家庭でのルール作りなど、具体的にどのようなことをしていますか？」
9 参考情報	「上記を約束したり決めたりするうえで、参考にした情報はどのようなものがありますか？その情報はどのように入手しましたか？」
10 理由・背景	「どのようなお考えでその設定にしましたか？」 「お子様のスマートフォン利用（インターネット環境）に関してどのような状況・環境（用途別に管理できる、お子様が本来自分で危機管理をできる年齢になってからスマートフォンを所有する、普段は自由に使えるがリスクがある場合のみ親元にアラートがくる、など）が理想的であると考えていますか？」 「子育てに関して、全体的にどのような方針がありますでしょうか？」
11 プロセス	「現在の在り方をするにあたり、どのようにお子様や家族と話し合い決めましたか？」 「家族での意見の違いはありましたか？」 「お子様の反応はどういったものでしたか？」 「お子様から示された条件やお願いされたことはありますか？」 「利用期間が長くなったり利用目的が増えたりするにつれて、約束や管理のあり方について変更はありましたか？どのような理由のもと、どのような変更を加えましたか？」
12 管理方法	「上記で決めたことをどのように管理されていますか？（特に家庭内ルール作りや、親がなるべく見られる状態なのか、子供の自主性に任せる形なのか）」 「（管理できていない場合は、）子供に任せるという方針なのか、やり方がわからなくてできていないのでしょうか？」
13 課題	「お子様のスマートフォン利用を管理するにあたって課題だと思えることはありますか？（使いすぎてしまう、課金などのゲームに興味をもつ、など）」
14 ニーズ	「お子様がより良い状況・環境（前述された内容）でスマートフォン利用をするにあたって、親としてしたいこと、こういう情報やサービスがあったらいい、というものはありますか？」
インターネット接続への意識と課題、ニーズ	
15 全般的な意識	「特にお子様のインターネット接続に関して、そのポジティ

	「ブな側面とネガティブな側面についてどのように意識していますか？」
16 有害情報等への意識	「特に有害情報（不適切なウェブサイト）へのアクセスやSNS・オンラインゲームの利用などへの危機感や不安なことはありますか？」
17 エピソード	「具体的に危機感を覚えたことや、不安になったエピソードはありますか？」 「お子様自身ではなくても、身近な人の話や報道などを通じて危機感を覚えたことはありますか？」
18 対策	「そうしたネガティブな側面や不安な要素に対して、どのような対策をしていますか？また（取り組みに対して）不足していると感じることはありますか？」
19 ニーズ	「ネガティブな側面や不安・不足な要素に対して、欲しい情報や欲しいサービスはありますか？」

B: フィルタリングの利用状況（未導入、解除、導入中の3つから一つ選択）**【フィルタリング未導入】**

フィルタリングへの意識と課題、ニーズ	
1 知識	「フィルタリングについて知っていましたか？知っている場合、どのような内容ですか？」 「また、それはどこで知りましたか？」 「身近にフィルタリングをはじめとして ICT に詳しい人はいますか（いましたか）？いた場合、どのようなことを教わりましたか？」 「身近に子供のインターネット利用の危険性について詳しい人はいますか（いましたか）？いた場合、どのようなことを教わりましたか？」
2 認識	（知っていた場合）「フィルタリングはどのようなものと認識していますか？現在認識されていることやイメージを教えてください」 イメージ選択肢案 ・スマートフォンの利用時間を管理するため（使いすぎを防ぐため） ・子供の位置確認をするため ・ゲームへの課金当等、金銭面トラブルを回避するため ・アダルトコンテンツやグロテスクな画像等、有害な情報へのアクセスを回避するため

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報漏洩や誘い出し、詐欺等、事件やトラブルを回避するため ・特定のアプリの利用を制限するため ・その他 など
3 未導入の理由（管理者：自分および配偶者の視点）	「なぜフィルタリングを利用しようと思わなかったのですか？」 「配偶者等、本人以外の家族の反応はどうでしたか？」
4 未導入の理由（利用者：子の視点）	「フィルタリングに対するお子様の反応はどうでしたか？」 「お子様はフィルタリングをどういうものか認識していましたか？」
5 課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	「どういう機能がなければ利用していましたか？」 「どのような説明、機能、サービス、コストであれば利用していると思いますか？」
6 課題とニーズ（利用者：子の視点）	「どういう機能がなければ利用していましたか？」 「どのような説明、機能、サービス、コストであれば利用していると思いますか？」
7 管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	「『親（自分）は導入したい、子供が導入したくない』といったニーズに差がありましたか？」 「どのような対話やすり合わせがありましたか？」

【フィルタリング解除】

フィルタリングへの意識と課題、ニーズ	
1 知識	「フィルタリングについてどこで知りましたか？」 「身近にフィルタリングをはじめとして ICT に詳しい人はいますか（いましたか）？いた場合、どのようなことを教わりましたか？」 「身近に子供のインターネット利用の危険性について詳しい人はいますか（いましたか）？いた場合、どのようなことを教わりましたか？」
2 種類・内容・時期	「利用していたフィルタリングはどのようなものでしたか？」 「いつどこでどうやって導入しましたか？」 「導入した主な目的はどういったものでしょうか？」 イメージ選択肢案 ・スマートフォンの利用時間を管理するため（使いすぎを防ぐため）

	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の位置確認をするため ・ゲームへの課金当等、金銭面トラブルを回避するため ・アダルトコンテンツやグロテスクな画像等、有害な情報へのアクセスを回避するため ・個人情報漏洩や誘い出し、詐欺等、事件やトラブルを回避するため ・特定のアプリの利用を制限するため ・その他 <p>など</p> <p>「フィルタリングの利用をどのように位置づけていたのでしょうか？（例：単に勧められたから導入していた、安心な利用を確保するために導入していた、家庭内の約束の履行を担保するために導入していた等）」</p> <p>「家庭内のルールとフィルタリングの利用に関係がありましたら、どのように関係していたのか教えてください」</p>
3 やめた時期	<p>「いつ頃やめましたか？」</p> <p>「解除を携帯電話事業者に申し出ましたか？それとも端末を購入（買い換える）タイミングで加入・設定をやめましたか？もしくは単にフィルタリングを設定するのをやめたただけですか？」</p>
4 やめた理由(管理者：自分および配偶者の視点)	<p>「なぜフィルタリングの利用をやめたのですか？」</p> <p>「利用前の認識はどのようなものでしたか？」</p> <p>「利用後の実感はどのようなものでしたか？」</p>
5 やめた理由(利用者：子の視点)	<p>「お子様はフィルタリングの目的や内容について認識していますか？」</p> <p>「フィルタリングに対するお子様の反応（利用前の認識、利用後の認識等）はどうでしたか？」</p> <p>「具体的なやり取りはどのようなものでしたか？（エピソード）」</p>
6 解除後の管理方法	<p>「フィルタリングをやめたあとは、どのようにお子様の利用を管理していますか？」</p>
7 課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	<p>「どういう機能がなければ利用を継続していましたか？」</p> <p>「どのような説明、機能、サービス、コストであれば利用を継続していると思いますか？」</p>
8 課題とニーズ（利用者：子の視点）	<p>「どういう機能がなければ利用を継続していたと思いますか？」</p> <p>「どのような説明、機能、サービス、コストであれば利用を継続していると思いますか？」</p>
9 管理者（親）と利用	<p>「『親（自分）は利用を継続したい、子供がやめたい』といった</p>

者(子)のすり合わせ	ニーズに差がありましたか?」「どのような対話やすり合わせがありましたか?」
------------	---------------------------------------

【フィルタリング導入中】

フィルタリングへの意識と課題、ニーズ	
1 知識	<p>「フィルタリングについてどこで知りましたか?」</p> <p>「身近にフィルタリングをはじめとして ICT に詳しい人はいますか(いましたか)?いた場合、どのようなことを教わりましたか?」</p> <p>「身近に子供のインターネット利用の危険性について詳しい人はいますか(いましたか)?いた場合、どのようなことを教わりましたか?」</p>
2 種類・内容・時期	<p>「利用しているフィルタリングはどのようなものでしたか?」</p> <p>「いつどこでどうやって導入しましたか?」</p> <p>「導入した主な目的はどういったものでしょうか?」</p> <p>イメージ選択肢案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの利用時間を管理するため(使いすぎを防ぐため) ・子供の位置確認をするため ・ゲームへの課金当等、金銭面トラブルを回避するため ・アダルトコンテンツやグロテスクな画像等、有害な情報へのアクセスを回避するため ・個人情報漏洩や誘い出し、詐欺等、事件やトラブルを回避するため ・特定のアプリの利用を制限するため ・その他 <p>など</p> <p>「フィルタリングの利用をどのように位置づけていますか?」 (例:単に勧められたから導入していた、安心な利用を確保するために導入していた、家庭内の約束の履行を担保するために導入していた等)」</p> <p>「家庭内のルールとフィルタリングの利用に関係がありましたら、どのように関係しているのか教えてください」</p>
3 利用の理由(管理者:自分および配偶者の視点)	<p>「なぜフィルタリングを利用していますか?最大の理由は何ですか?」</p> <p>「利用前の認識はどのようなものでしたか?」</p>

	「利用後の実感はどのようなものでしたか？」
4 利用の理由(利用者: 子の視点)	「お子様はフィルタリングの目的や内容について認識していますか？」 「フィルタリングに対するお子様の反応はどうでしたか？」 「具体的なやり取りはどのようなものでしたか？(エピソード)」
5 不満・不足(管理者: 自分および配偶者の 視点)	「利用していて、不満に感じる事、不足に感じる事はありますか？」
6 不満・不足(利用者: 子の視点)	「利用していて、不満に感じる事、不足に感じる事など、お子様はどのようにいっていますか？」
7 利用の意向	「今後も継続していきますか？いつ頃までを考えていますか？」 「やめることを検討または話し合っている場合、やめようと思っている理由及び継続している理由を教えてください。」 「どのような状況であればやめてもいいと思いますか？」
8 課題とニーズ(管理 者:自分および配偶者 の視点)	「より良いお子様のインターネット利用に対して、フィルタリングにどのようなことを求めますか？」 「どのような説明、機能、サービス、コストがあるといいと思いますか？」
9 課題とニーズ(利用 者:子の視点)	「お子様が望んでいるインターネット利用環境やフィルタリングはどのようなものでしょうか？」 「どのような説明、機能、サービス、コストがあるといいと思いますか？」
10 管理者(親)と利用 者(子)のすり合わせ	「『親(自分)は導入したい、子供が導入したくない』といったニーズに差がありましたか？」「どのような対話やすり合わせがありましたか？」

調査研究報告書執筆メンバー

- 山口 真一 国際大学 GLOCOM 准教授・主任研究員
- 青木 志保子 国際大学 GLOCOM 主任研究員
- 大島 英隆 国際大学 GLOCOM リサーチアシスタント
- 井上 絵理 国際大学 GLOCOM リサーチアシスタント

調査研究プロジェクトメンバー

- 山口 真一 国際大学 GLOCOM 准教授・主任研究員
- 青木 志保子 国際大学 GLOCOM 主任研究員
- 渡辺 智暁 国際大学 GLOCOM 教授・研究部長・主幹研究員
- 菊地 映輝 国際大学 GLOCOM 講師・研究員
- 大島 英隆 国際大学 GLOCOM リサーチアシスタント
- 井上 絵理 国際大学 GLOCOM リサーチアシスタント
- 谷原 吏 国際大学 GLOCOM リサーチアシスタント

有識者会議メンバー

<委員>

- 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
- 鈴木 朋子 ITライター・スマホ安全アドバイザー
- 曾我部 真裕 京都大学大学院法学研究科 教授
- 田中 辰雄 慶應義塾大学経済学部 教授
- 松岡 英治 一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会 部長
- 森 亮二 英知法律事務所 弁護士

<オブザーバー>

- 萩原 一博 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課 課長補佐
- 掛林 美智 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課
インターネット利用環境整備係長
- 田中 沙也加 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政第一課

フライヤー制作監修

- 小木曾 健 情報リテラシー専門家

総務省

「我が国における青少年のインターネット利用に係るフィルタリングに関する調査」

発行：2021年4月

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル 2F

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
Center for Global Communications, International University of Japan

〒106-0032 東京都港区六本木 6-15-21 ハークス六本木ビル2階
TEL: 03-5411-6677 FAX: 03-5412-7111

<https://www.glocom.ac.jp/>

GLOCOM
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター